門前地区体育施設災害復旧工事

設　計　図

図面リスト　建築主体工事

図面番号	図 面 名 称	図面番号	図 面 名 称
Ａ－０１	建築改修工事仕様書　その１	Ａ－３９	門前武道館　平面図（改修前）
Ａ－０２	建築改修工事仕様書　その２	Ａ－４２	門前武道館　立面図１（改修前）
Ａ－０３	建築改修工事仕様書　その３	Ａ－４３	門前武道館　立面図２（改修前）
Ａ－０４	建築改修工事仕様書　その４	Ａ－４４	門前武道館　平面図（解体図）
Ａ－０７	配置図（改修前/現況図）、付近見取り図	Ａ－４５	門前武道館　立面図１（解体図）
Ａ－０８	配置図（撤去キープラン）	Ａ－４６	門前武道館　立面図２（解体図）
Ａ－０９	配置図（改修キープラン）	Ａ－４７	門前武道館　平面図（改修図）
Ａ－１０	外構部分詳細図（1）	Ａ－４８	門前武道館　立面図１（改修図）
Ａ－１１	外構部分詳細図（2）	Ａ－４９	門前武道館　立面図２（改修図）
Ａ－１５	仮設参考図	Ａ－５０	門前武道館　部分詳細図（1）
Ａ－１６	多目的体育館　１階平面図（改修前）		
Ａ－１７	多目的体育館　高窓部分平面図（改修前）		
Ａ－１８	多目的体育館　基礎伏図（改修前）		
Ａ－１９	多目的体育館　立面図１（改修前）		
Ａ－２０	多目的体育館　立面図２（改修前）		
Ａ－２１	多目的体育館　断面図・展開図１（改修前）		
Ａ－２２	多目的体育館　断面図・展開図２（改修前）		
Ａ－２３	多目的体育館　１階平面図（解体図）		
Ａ－２４	多目的体育館　高窓部分平面図（解体図）		
Ａ－２５	多目的体育館　立面図１（解体図）		
Ａ－２６	多目的体育館　立面図２（解体図）		
Ａ－２７	多目的体育館　断面図・展開図１（解体図）		
Ａ－２８	多目的体育館　断面図・展開図２（解体図）		
Ａ－２９	多目的体育館　１階平面図（改修図）		
Ａ－３０	多目的体育館　高窓部分平面図（改修図）		
Ａ－３１	多目的体育館　立面図１（改修図）		
Ａ－３２	多目的体育館　立面図２（改修図）		
Ａ－３３	多目的体育館　断面図・展開図１（改修図）		
Ａ－３４	多目的体育館　断面図・展開図２（改修図）		
Ａ－３５	多目的体育館　建具表１（解体図）		
Ａ－３６	多目的体育館　建具表２（改修図）		
Ａ－３７	多目的体育館　部分詳細図（1）		
Ａ－３８	多目的体育館　部分詳細図（2）		

図面リスト　電気設備工事

図面番号	図 面 名 称
Ｅ－０１	工事仕様書(電気1)R7.4
Ｅ－０２	工事仕様書(電気2)R7.4
Ｅ－０３	工事仕様書(電気3)R7.4
Ｅ－０４	電灯設備（照明）多目的体育館　１階平面図（改修後）
Ｅ－０５	電灯設備（照明）多目的体育館　１階平面図（改修前）
Ｅ－０６	電灯設備（照明）門前町立武道館　平面図（改修後）
Ｅ－０７	電灯設備（照明）門前町立武道館　平面図（改修前）

図面リスト　機械設備工事

図面番号	図 面 名 称
Ｍ－０１	工事仕様書(機械1)R7.4.1
Ｍ－０２	工事仕様書(機械2)R5.4.1
Ｍ－０３	工事仕様書(機械3)R7.4.1
Ｍ－０４	配置図_既存図
Ｍ－０６	衛生器具表
Ｍ－１６	門前町立武道館_給排水衛生設備既存図
Ｍ－１７	門前町立武道館_給排水衛生詳細図
Ｍ－１８	門前町立武道館_換気設備詳細図
Ｍ－１９	門前町立武道館_給排水衛生設備改修図
Ｍ－２０	門前町立武道館_給排水衛生改修詳細図
Ｍ－２１	多目的体育館_給排水衛生設備既存図

※健民体育館関連図面は改修・撤去未定のため参考図とする

株式会社 MAC建築研究所
管理建築士／一級建築士登録 第334732号 中村　健

■製作年月日/DATE	■担当/CHECK	■製図/DRAWER	■特記事項	■工事名称/CONSTRUCTION-TITLE	■図面名称/DRAWING-TITLE	■縮尺/SCALE	■図番/No.
2025.09	D.SATO	D.SATO		門前地区体育施設災害復旧工事	表紙・図面リスト	N.S. (A1) N.S. (A3)	Ａ－００

最終改訂　令和７年４月１日

建築改修工事仕様書

Ⅰ　工事概要

1　工事名　門前地区体育施設災害復旧工事

2　工事場所　輪島市門前町清水地内

3　工事種目

1.	外構復旧工事・・・・・・・・・舗装他	
2.	屋外テニスコート復旧工事・・・テニスコート床他	
3.	門前野球場復旧工事・・・・・・擁壁、フェンス他	別途工事
4.	多目的体育館復旧工事・・・・・建具、床他	
5.	門前武道館復旧工事・・・・外壁、外構階段、電気設備、機械設備他	

4　完成期日　令和　　年　　月　　日　（概成工期　令和　　年　　月　　日）
（余裕期間制度試行工事適用の場合は、上記を完成日の期限とする。）

5　別契約関連工事
・屋外付帯工事　・植栽工事
・電気設備工事　・給排水衛生設備工事
・冷房設備工事　・冷房設備工事
・換気設備工事　・空調設備工事
・昇降機設備工事　・電話設備工事
・浄化槽設備工事　・

Ⅱ　建築工事仕様

1　共通仕様
1）図面及び特記仕様に記載されていない事項は、すべて国土交通省大臣官房官庁営繕部監修「公共建築改修工事標準仕様書（建築工事編）令和４年版」（以下「改修標仕」という。）、国土交通省大臣官房官庁営繕部監修建築物解体工事共通仕様書（令和４年版）」（以下「解体共仕」という。）及び国土交通省大臣官房官庁営繕部監修「公共建築工事標準仕様書（建築工事編）令和４年版」（以下「標仕」という。）による。
2）電気設備工事及び機械設備工事を本工事に含む場合は、電気設備工事及び機械設備工事はそれぞれの工事仕様書を適用する。なお、電気設備工事の工事仕様書は（　／　）図、機械設備工事の工事仕様書は（　／　）図による。

2　特記仕様
1）項目は、番号に◯印の付いたものを適用する。
2）特記事項は、⊙印の付いたものを適用する。
⊙印の付かない場合は、※印の付いたものを適用する。
⊙印と※印の付いた場合は、共に適用する。
3）特記事項に記載の（　.　.　）内表示番号は、「標仕」の該当項目、当該図又は当該表を示す。
4）（別図ー　.　.　）は、「標仕」の別図「各部配筋」の当該番号を示す。
5）特記事項に記載の［　.　.　］内表示番号は「改修標仕」の当該項目、当該図又は当該表を示す。
6）Ｇ 印は、「国等による環境物品等の調達の推進に関する法律」（グリーン購入法）の特定調達品目を示す。該当する項目については、環境負荷を低減できる材料を選定するように努める。
7）製造所名は、五十音順とし「株式会社」等の記載は省略する。また、（　）内は製品名を示す。
8）斜線で消去した章は適用しない。

1章　一般共通事項

項目	特記事項
① 適用基準等	設計図書の他に、下記の図書の該当事項を適用する。 ⊙建築工事標準詳細図（国土交通省大臣官房官庁営繕部監修　令和４年版） ⊙建築構造設計基準の資料（国土交通省大臣官房営繕部　令和３年通知）のうち第３章 ⊙営繕工事写真撮影要領（令和３年版）（国土交通省大臣官房官庁営繕部） ⊙営繕工事電子納品要領（国土交通省大臣官房官庁営繕部令和３年度版） ・公共建築木造工事標準仕様書（国土交通省大臣官房官庁営繕部監修　令和４年版） ・屋根瓦工事共通仕様書（石川県土木部営繕課監修　平成２９年版） ⊙鉄筋コンクリート構造配筋標準図（石川県土木部営繕課監修） ・壁式鉄筋コンクリート構造配筋標準図（石川県土木部営繕課監修） ⊙鉄骨構造標準図（石川県土木部営繕課監修） ・石川県バリアフリー社会の推進に関する条例（施設整備の手引き） ・石川県公共事業景観形成ガイドライン
② 工事実績情報の登録	※登録する（但し工事請負代金額500万円以上の工事。）　[1.1.4]
③ 発生材の処理	① 産業廃棄物は「廃棄物の処理及び清掃に関する法律」に基づく許可業者により運搬し、同法に基づく許可を得た処分場で処分する。 また、処分に際しては産業廃棄物管理票（マニフェスト）により適正に処理されていることを確認するとともに、マニフェスト一覧表を監督員に提出し、確認を受けなければならない。 2）発生材のうち引渡しを要するものは、指示された場所に整理のうえ調書を添えて監督員に引き渡す。　[1．3．12] イ）引渡しを要するもの及び引渡し場所　・引渡を要するもの　・引渡し場所 ロ）特別管理産業廃棄物の有無　・有　・無 ハ）特別管理産業廃棄物の処理方法　※図面　番　図参照 ③ 発生材のうち、現場で再利用を図るもの及び再資源化を図るものは下記による。 ⊙現場で再利用を図るもの ：砕石　・ ⊙再資源化を図るもの ：コンクリートガラ ・ 4）せっこうボードの処理（有害物質非含有のものに限る）　[1.3.12] ・最終処分　・再資源化 5）ＰＣＢ含有シーリング材　[1.3.12] 分析調査　・する　※しない ⑥ 建設リサイクル法第11条に基づく「通知書」及び同法18条に基づく「再資源化等報告書」の提出の有無 ・有　・無
④ 電気保安技術者	※　適用する　[1.3.3]
⑤ 施工条件	・　仮説住宅への影響を配慮すること　[1.3.5] ⊙　門前野球場は、利用しながらの工事に配慮すること
⑥ 施工調査	施工数量調査　[1.6.2] 調査範囲　⊙ 多目的体育館柱脚クラック 調査方法　⊙ 数量調査（長さ） 調査破壊部分の補修方法　・
⑦ 建築材料等	[1.4.2][1.4.4] ① 本工事に使用する建築材料等は、設計図書に規定する所要の品質及び性能を有するもの、又はこれらと同等のものとする。 ①「評価名簿による」と特記されたものについては、国土交通大臣官房官庁営繕部監修「建築材料等品質性能評価事業建築材料評価名簿（最新年版）」（（社）公共建築協会）によるほか、これらと同等のものとする。ただし、同等のものとする場合は、次の②に準じ監督員の承諾を受ける。また、同上評価事業の評価を受けたものを使用する場合は、評価書の写しを監督員に提出し、その確認をもって、品質・性能の確認があったものとみなす。 ②JIS又はJASマーク表示のない材料及びその製造所等は、次のイ）からヘ）の事項を満たすものとする。また、製造所名、製品名等が記載された材料は、当該製品又は同等以上を使用する場合は、監督員の承諾を受ける者とする。 イ）品質及び性能に関する試験データが整備されていること。 ロ）生産施設及び品質の管理が適切に行われていること。 ハ）安定的な供給が可能であること。 ニ）法令等で定める許可、認定、又は免許等を取得していること。 ホ）製造又は施工の実績があり、その信頼性があること。 ヘ）販売保守等の営業体制が整えられていること。 なお、これらの材料を使用する場合は、設計図書に定める品質及び性能を有することの証明となる資料又は外部機関が発行する資料等の写しを監督員に提出し承諾を受けるものとする。 ただし、あらかじめ監督員の承諾を受けた場合はこの限りではない。 2）請負契約約款第６条の２第７項に基づき調達する石川県産の工事材料については、「使用材料確認願」により監督員の確認を受け、工事完了後は地元産品について「使用材料報告書」を提出すること。 3）請負契約約款第13条第２項に定める監督員の検査を受けて使用すべき工事材料は次のものとする。 ※杭　・型枠類　・防水材料　・石材　・木材　但し、杭以外のJIS規格品は除く。 4）請負契約約款第14条第１項に定める監督員等の立会いのうえ調合等をし使用すべき工事材料は次のものとする。　※高強度コンクリート試し練り ⑤ 請負契約約款第14条第３項に定める見本は次のものとする。 ⊙金属製品　・合成樹脂製品　・木製建具　⊙塗装 ・家具及び家具の金物　・畳　・内外装材料　・屋根材料 なお、監督員が承諾した材料は、証明となる資料と使用箇所を付し、工事完成まで現場事務所に掲示する。ただし、掲示が困難な材料等はカタログ、その他に代えることができる。 ⑥ 本工事に使用する建築材料等は、アスベスト含有建材を使用しないこと。（「労働安全衛生法施行令の一部を改正する政令及び石綿障害予防規則等の一部を改正する省令の施行等について」（厚生労働省労働基準局長通達平成18年８月）参照）。安全データシート（SDS）等により確認を行った場合は、その写しを監督員に提出すること。
⑧ 特別な材料の工法	「標仕」に記載されていない特別な材料の工法は、当該製品の指定工法による。
⑨ 技能士等	※　技能士　[1.7.2] 適用工事種別 ／ 技能検定作業 仮設工事：⊙とび作業 鉄筋工事：・鉄筋組立て作業 コンクリート工事：・型枠作業　・コンクリート圧送工事作業 鉄骨工事：・構造物鉄工作業　・とび作業 ブロック・ALCパネル工事：・コンクリートブロック工事作業　・エーエルシーパネル工事作業 防水工事：・アスファルト防水工事作業　・塩化ビニル系シート防水工事作業 ・改質アスファルトシートトーチ工法防水工事作業 ・セメント系防水工事作業　・FRP防水工事作業 ・合成ゴム系シート防水工事作業　・ウレタンゴム塗膜防水工事作業 ・アクリルゴム系塗膜防水工事作業　・シーリング防水工事作業 石工事：・石材加工作業　・石張り作業　・石積み作業 タイル工事：・タイル張り作業 木工事：・大工工事作業 屋根及びとい工事：・内外装板金作業　・かわらぶき作業 金属工事：・鋼製下地工事作業　・内外装板金作業 左官工事：・左官作業 建具工事：⊙ビル用サッシ施工作業　・自動ドア施工作業　・ガラス工事作業 カーテンウォール工事：・金属製ｶｰﾃﾝｳｫｰﾙ工事作業　・ﾋﾞﾙ用ｻｯｼ施工作業　・ｶﾞﾗｽ工事作業 塗装工事：・建築塗装作業 内装工事：・プラスチック系床仕上げ工事作業 ・カーペット系床仕上げ工事作業　・木質系床仕上げ工事作業 ・ボード仕上げ工事作業　・壁装作業 排水工事：・建築配管作業 植栽工事：・造園工事作業 ・「石川の伝統的建造技術を伝える会」のうち、金沢城公園整備工事従事者の認定を受けた者。
⑩ 完成図等	※作成する　[1.9.1～3][表1.9.1] 工事完成図は、Ａ３版製本（※１部　・２部　・　　部）を提出する。 屋外付帯工事実測図　※提出しない　・提出する（１部） 保全に関する資料　※提出しない　・提出する（１部） 保全に関する資料のうち「建物等の利用に関する説明書」は、「管理者のための建築物保全の手引き(改訂版)」（(一財)建築保全センター）に建物の構造、機器、保安業務等の説明及び清掃の要点、使用材料の製造品名、連絡先等を記載したものに代えることができる。 なお別契約の設備工事等がある場合は、連携の上作成する。
⑪ 工事写真等の記録	① 工事記録写真等は、営繕工事写真撮影要領（令和３年版）(国土交通省大臣官房官庁営繕部）により整備し、下記により提出する。また、本仕様書の「第１章29電子納品」を行う場合は、更に当該特記事項に基づいて作成し提出する。 各区分の写真は、A4版スクラップブックに順序よく説明事項を記入の上、所定の部数を提出する。 区分 ／ 分類 ／ 大きさ ／ 撮影枚数 ／ 部数 着工前 ／ ※カラー・ ／ ※100×148程度・ ／ ※　景以上 ／ ※　１部 工事中 ／ ※カラー・ ／ ※85×115程度・ ／ 「営繕工事写真撮影要領」による ／ ※　１部 完成時 ／ ※カラー・ ／ ※100×148程度・ ／ ※　景以上 ／ ※　１部 ② 完成写真の撮影　⊙専門業者の撮影（撮影者を明記）　・専門業者以外の撮影 ③ 原版の使用権を次の者に移譲すること。　※発注者　・設計者 移譲を受けた者は、写真を撮影者の了解なしに撮影者名を表示しないで自由に使用できる。 撮影者が写真を使用する場合は、発注者・設計者の承諾を必要とする。 4）中間検査または、監督員の指示により手直しを命ぜられた工事は、手直し前、中、後が判断できる写真を撮影し、報告書に添え提出する。
⑫ 責任施工	特記事項中、責任施工の指示のあるものは、受注者及び下請負人の連帯責任とし、保証書を提出する。
⑬ 工事報告書	工事の進捗度表、作業員の出面報告、工事箇所図及び工事現況写真等を記載した工事報告書を毎月15日及び月末毎に提出する。
⑭ 設備工事との取合い	① 設備機器の位置、取合い等の検討できる施工図を提出して、監督員の承認を受ける。 2）設備工事の貫通孔、開口部の型枠、スリーブ等の補強筋は本工事に含むものとする。なお箇所等は、下記による。 位置／大きさ ／ 100mm ／ 125mm ／ 150mm ／ 175mm ／ 200mm 補強筋箇所数 梁 ／ 壁 ／ 床 鉄骨部のスリーブ及び補強は本工事に含むものとする。 軽鉄下地で天井、壁等の補強は本工事に含むものとする。なお箇所数は、下記による。 イ）天井部分　箇所　ロ）壁部分　箇所

他工事との取合い	建築工事	電気工事	機械工事	備考
機器の基礎、換気扇取付用枠			○	
梁、床、壁貫通部の補強	○			
梁、床、壁貫通部のスリーブ、型枠		○	○	
外気取付ガラリー、床下水槽マンホール蓋	○			ｶﾞﾗﾘｰは、立面図に図示
ステンレス流し台等	○			排水トラップ共
換気フード、レンジフードファン取付枠（鋼製）とも	○			建築図に図示 ダクト接続は設備工事
天井、壁、床、点検口、プロパンボンベ庫	○			
下流し、足洗場の給水、排水、玄関の排水			○	
小便器仕切板（陶器製）、タオル掛（下地共）			○	
洗面所、手洗所等の鏡	○		○	特殊なものは、建築工事
ボイラーの煙突	○		○	鋼板製は、機械設備工事
実験台に付属する設備機器	○			
実験台の配管等の接続		○	○	
埋込み分電盤、端子盤等の壁補強	○			
埋込み分電盤、端子盤等の型枠		○		
天井、壁ボード類の下地補強	○			墨出し、ﾎﾞｰﾄﾞ類切り込みは、設備工事
簡易間仕切り（内装パネル）内の位置ボックス及び配管の取付	○			
屋内・屋外に設置する発電機、配電盤、制御盤、受水槽、ポンプ等の基礎、防油堤	○			
屋上に設置するテレビアンテナ・避雷針等の設備基礎	○			屋根伏図に図示
配線ピット及び蓋	○			
照明器具幹線等の吊りボルト用インサート		○		
身体障害者用の手すり	○			
洗濯機用防水パン及びトラップ			○	
ＦＦ暖房機・クーラー等の配管用スリーブ	○			
電話・テレビ等の配線用スリーブ		○		
クーラー取付ボルト用インサート	○			建築図に図示
ユニットバス本体・付属品（シャワー金具・手すり・鏡・照明）	○			配管接続以降は設備工事
ユニットバス用換気扇			○	
消火器	○			公共住宅に適用
自動扉、電動Ｓ、電動ルーバー、防火設備の閉鎖制御機器、感知器 1次側配線		○		機器は建築工事
2次側配線	○			
地下タンク室	○			

⑮ 設計ＧＬ　※図示　・設計ＧＬ＝現状ＧＬ

⑯ 建築基準法に基づき指定する条件
・地区の区分に応じた風速（Ｖ（m/sec））　30（県内全域）
・地表面粗度区分　・Ⅰ　・Ⅱ　・Ⅲ　・Ⅳ
・多雪地域の指定　垂直積雪量

⑰ 工事現場の掲示板　工事現場には、下記掲示板を設置する。（記入例）

90cm

	工　事　名
	工期 自 年 月 日～至 年 月 日
	発注者　輪島市教育委員会生涯学習課
上段の地色は、白色	（監　修）
文字は、青色	設　計
下段の地色は、青色	監　理
文字は、白色	施工　建　築　（業者名を記入する）
	電　気　（業者名を記入する）
	給排水　（業者名を記入する）
	暖　房　（業者名を記入する）
	この工事は、週休２日に取り組んでいます

60cm（75cm）

（注意事項）
①（監　修）内は、監修を委託した場合。
②業者名が多くなった場合でも、縦75cm以内とする。
③工事名は、各工事とも共通な名称とし、各文字は、角ゴシック体とする。

⑱ 施工の検査等　監督員等の検査を受ける工種は次のものとする。　[1.7.5]
※根切り掘削完了時　※主要構造部の配筋　・型枠の組立て
その他監督員が指示するもの

⑲ 施工の立会い等　請負契約約款第14条第２項に定める監督員等の立会いのうえ施工するものは次のものとする。
※杭打ち　⊙コンクリートスランプ確認及び打込み　・屋外タイル圧着試験　[1.7.7]
その他監督員等の指示するもの

20 中間検査　中間検査の実施　※有　・無　[1.8.2]
実施時期　※躯体工事完了時　・

㉑ 公共事業労務調査等に対する協力　⊙受注者は、当該工事が発注者の実施する公共事業労務費調査の対象工事となった場合には、次の各号に掲げる協力をしなければならない。また、工期経過後においても同様とする。
1）調査票等に必要事項を正確に記入し、発注者に提出する等必要な協力をしなければならない。
2）調査票等を提出した事業所を発注者が、事後に訪問して行う調査・指導の対象になった場合には、その実施に協力しなければならない。
3）正確な調査票等の提出が行えるよう、労働基準法等に従い、就業規則を作成すると共に賃金台帳を調整・保存する等、日頃より使用している現場労働者の賃金時間管理を適切に行わなければならない。
4）対象工事の一部について下請け契約を締結する場合には、当該下請け工事の受注者（当該下請け工事の一部に係る二次以降の下請け人を含む。）が前号と同様の義務を負う旨を定めなければならない。
・本工事が「建設副産物実態調査」の対象である場合、工事完了後速やかに調査票を作成し、監督員に提出しなければならない。

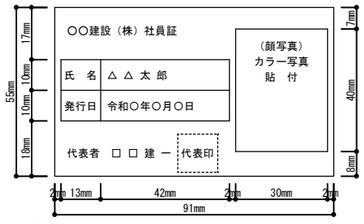
㉒ 保険　工事目的物、工事材料等に生ずる損害を填補する保険は、下記による。
※建設工事保険又は組立保険（工事対象物を全て解体する工事を除く）
加入期間　引渡しまで（引き渡しを要しない工事の場合は、工事完了まで）

23 室内空気汚染対策　室内空気の汚染対策の実施　※実施する　・実施しない　[1.7.9]
1）測定の有無等
測定する場合は、下記の通り揮発性有機化合物について室内濃度を測定し、厚生労働省の定める指針値以下であることを確認し、報告すること。
イ）測定の有無　※有　・無
ロ）測定対象室
測定は原則として、内装仕上げ材料の仕様が大きく異なる居室毎に行う。ただし、居室の規模が著しく異なる場合は、それぞれ実施する。
内装改修等を行った居室について測定を行う。
ハ）１室当たりの測定箇所数

室の床面積　Ａ（㎡）	Ａ≦50	50＜Ａ≦200	200＜Ａ≦500	500＜Ａ
測定個所数	1	2	3	4

全ての測定個所において、ニ）の測定対象化学物質全ての濃度を同時に測定する。
ニ）測定対象化学物質及び測定方法
測定対象化学物質は、ホルムアルデヒド、トルエン、キシレン、エチルベンゼン及びスチレンとし、同時に測定する。測定方法は、パッシブ型採取機器を用い、国土交通省大臣官房官庁営繕部整備課長通知（平成24年４月５日国営整第４号）「官庁営繕部におけるホルムアルデヒド等の室内空気中の化学物質の抑制に関する措置について」により行う。
ホ）測定時期
測定は下記の時期に行うものとする。
①測定対象化学物質が、関連工事による測定対象室への流入や急激な拡散がほぼなくなり、引き渡し後の室内空気環境と同程度になった時期。
②別途工事又は家具の設置等が行われる前。
③内装又は塗装等の施工が終了し、その後十分な換気が行われていること。
④中央式空気調和設備のように換気を行いながら空気調和を行う設備がある場合は、設備の試運転が終了していること。
ヘ）測定対象物質が指針値を超える濃度で検出された場合の措置
測定結果が厚労省の指針値を超えていた場合は、発散源を特定し、換気等の措置を講じた後、再度測定を行う。
ト）その他、採取、測定及び分析の方法は、上記ニ）の国土交通省通知によるほか、監督員の指示による。
2）施工中・施工後の通風、換気
接着剤、塗料等の塗布に当たっては、使用方法や塗布量を十分管理し、適切な乾燥時間をとるようにする。また、施工時、施工後の通風、換気を十分に行い、室内に放散した溶剤成分等の希釈を図るものとする。
3）引き渡し時
室内空気中に化学物質を発散するおそれのある建築材料等の使用状況の一覧表を提出する。
4）揮発性有機化合物を放散させる建築材料等本工事の建物内部に使用する材料等は、設計図書に規定する所要の品質及び性能を有するものとし、次のイ)から ホ)の事項を満たすものとする。
イ）合板、木質系フローリング、構造用パネル、集成材、単板積層材、ＭＤＦ、パーティクルボード、その他の木質建材、ユリア樹脂板及び仕上げ塗り材は、ホルムアルデヒドを放散させないか、放散が極めて少ないものとする。
ロ）保温材、緩衝材、断熱材はホルムアルデヒド及びスチレンを放散させないか、放散が極めて少ないものとする。
ハ）接着剤は、フタル酸ジ－ｎ－ブチル及びフタル酸ジ－２－エチルヘキシンを含有しない難揮発性の可塑剤を使用し、ホルムアルデヒド、アセトアルデヒド、トルエン、キシレン、エチルベンゼンを放散させないか、放散が極めて少ないものとする。
ニ）塗料はホルムアルデヒド、トルエン、キシレン、エチルベンゼンを放散させないか、放散が極めて少ないものとする。
ホ）上記のイ)、ハ)、ニ)の材料を使用して作られた家具、書架、実験台、その他の什器等は、ホルムアルデヒドを放散させないか、放散が極めて少ないものとする。
また、設計図書に規定する「ホルムアルデヒド放散量」は、次のとおりとする。
※「規制対象外」のもの
①JIS又はJASのＦ☆☆☆規格品
②建築基準法施行令第20条の７第４項による国土交通大臣認定品
③下記表示のあるJAS規格品
ア）非ホルムアルデヒド系接着剤使用
イ）接着剤等不使用
ウ）非ホルムアルデヒド系接着剤及びホルムアルデヒドを放散させない材料を使用
エ）ホルムアルデヒドを放散させない塗料等使用
オ）非ホルムアルデヒド系接着剤及びホルムアルデヒドを放散させない塗料使用
カ）非ホルムアルデヒド系接着剤及びホルムアルデヒドを放散させない塗料等使用
・「第三種」のもの
①JIS又はJASのＦ☆☆☆規格品
②建築基準法施行令第20条の７第３項による国土交通大臣認定品
③旧JISのＥ０規格品

㉔ 名札の着帯　現場代理人及び主任（監理）技術者は、工事期間中は次に定める様式例等による顔写真入り名札を着帯すること。（但し、請負額1,000万円以上の工事）



（注意事項）
①名札として使用する用紙（台紙）は白色、寸法は上図（名刺サイズ、縦5.5cm×横9.1cm）のとおりとする。
②顔写真（カラー写真）の寸法は縦4.0cm×横3.0cmとし、撮影する部分は胸から上の上半身とする。
③ケースの寸法は上記①の用紙（台紙）が入る大きさとする。

㉕ 施工体制台帳の作成等　当該台帳を現場に備え付け、施工体系図を工事関係者及び公衆が見やすい場所に掲げること。

設計	工事名	図面番号
株式会社 MAC建築研究所 管理建築士／一級建築士登録 第324732号 中村 健	門前地区体育施設災害復旧工事	
	図面名　建築改修工事仕様書　その１	A-01

㉖ 排出ガス対策型建設機械 G

次に掲げる指定建設機械は、排気ガス対策型とする。
1）バックホウ
2）トラクターショベル
3）発動発電機
4）空気圧縮機
5）ローラ類
6）ホイールクレーン

27 創意工夫等

工事施工において、自ら立案実施した創意工夫や工事特性に関する項目、または地域社会への貢献として評価できる項目に関する事項について、工事完了時までに所定の様式により提出することができる。

㉘ 保険の付与及び事故の補償

1）受注者は、雇用保険法、労働者災害補償保険法、健康保険法及び中小企業退職金共済法の規定により、雇用者等の雇用形態に応じ、雇用者等を被保険者とするこれらの保険に加入しなければならない。

2）受注者は、雇用者等の業務に関して生じた負傷、疾病、死亡及びその他の事故に対して責任をもって適正な補償をしなければならない。（法定外の労災保険を含む）

3）受注者は、建設業退職金共済制度の対象労働者数及び就労予定日数を的確に把握し、その掛金収納書の写しを工事請負契約締結１ヶ月以内及び工事完成時に、監督員を通じて発注者に提出しなければならない。

㉙ 電子納品

※行う（「電子納品仕様書」による。）　・行わない

電子納品仕様書

1　電子納品とは、出来形管理資料や工事写真等の工事完成図書を電子データで納品するものである。
ここでいう電子データとは、下表に示す各種電子納品要領等で定めるフォーマットに基づいて作成されたものを指す。

名　　称
営繕工事電子納品要領（令和３年版）
官庁営繕事業に係る電子納品運用ガイドライン【営繕工事編】（令和３年版

基準・要領類のダウンロード　http://www.mlit.go.jp/gobuild/gobuild_tk2_000017.html
2　工事関係書類の最終成果品を、従来の紙での納品と別にCD-R、DVD-R又はBR-Dで１部納品する。
3　工事着手時には、事前協議チェックシートを用いて事前協議を行うものとする。
工事関係書類の内、電子データで提出するものは、事前協議にて決定する。
4　発注者が行うCALS/EC電子納品に関する調査について協力を行うものとする。

㉚ 騒音振動の防止

低騒音（G）、低振動型建設機械を使用する。

31 隣接建物又は工作物の調査

※行う　・行わない

㉜ 敷地の状況確認

着工に先立ち地下に埋設されたガス管、電話ケーブル、給排水管及び架設物がないか関係機関の協力を得て確認し、報告するとともに事故を未然に防ぐよう留意する。

33 総合評価時における技術提案

「石川県建設工事総合評価方式試行要領」に基づく「技術提案」がある場合は、提案内容を本工事において確実に履行し、受注者は「技術提案履行状況報告書」を監督員に提出のうえ、履行状況の確認を受ける。なお、受注者の責任以外の理由等により、変更等の必要が生じた場合は、事前に監督員に協議する。

㉞ ダンプトラック等による過積載等の防止

1）積載重量制限を超えて土砂等を積み込まず、また積み込ませないこと。

2）さし枠装着車、不表示車等に土砂等を積み込まず、また積み込ませないこと。

3）過積載車両、さし枠装着車、不表示車等から土砂等の引き渡しを受けることを等、過積載を助長することのないようにすること。

4）取引関係のあるダンプカー事業者が過積載を行い、又はさし枠装着車、不表示車等を土砂等運搬に使用している場合は、早急に不正状態を解消する措置を講ずること。

5）建設発生土の処理及び資材の購入に当たって、下請事業者及び骨材納入業者の利益を不当に害することのないようにすること。

6）「土砂等を運搬する大型自動車による交通事故の防止等に関する特別措置法」（昭和42年８月２日法律第131号。）の目的に鑑み、法第１２条に規定する団体等の設立状況を踏まえ、同団体への加入者の使用を促進すること。

7）１から６につき、元請建設業者は下請建設業者を十分指導すること。

㉟ 景観への配慮

当該工事は、石川県公共事業景観形成ガイドラインに基づく重点事業であり、景観に配慮した工事施工に努めること。

２章　仮　設　工　事

項　目	特　記　事　項
① 工事用水	構内既存の施設　⊙利用できる（※有償　・無償）　※利用できない
② 工事用電力	構内既存の施設　⊙利用できる（※有償　・無償）　※利用できない
③ 工事用道路	工事用道路（敷地内外）は良好な維持管理を行い、使用後は請負者において速やかに原形に復旧すること。
④ 指定仮設	指定仮設の適用　・仮囲い　・敷鉄板（※図示）　⊙図示 仮囲いは、下記により強風に対して倒壊、飛散等しない堅固な構造とし、事前に施工図を提出して監督員の承諾を受けること。 イ）材料　・鋼板　・亜鉛波形鉄板　・単管バリケード ロ）高さ　・1.8m　・2.0m　・3.0m ハ）塗装　・する　・しない　・塗装品 ニ）延長　・　m その他の指定仮設　・ （種別、規格、仕様）
⑤ 足場その他	① 外部足場　[2.2.1] (1)足場の種類 ※枠組本足場（手すり先行足場） ・くさび緊結式足場（手すり先行足場） 足場を設ける場合は、「「手すり先行工法に関するガイドライン」について」(厚生労働省平成21年4月）の「働きやすい安心感のある足場に関する基準」に適合する手すり、中さん及び幅木の機能を有する足場とし、足場の組立て、解体又は変更の作業は「手すり先行工法による足場の組立て等に関する基準」の２の(2)手すり据置又は(3)手すり先行専用足場方式により行うこと。 (2)　建枠・布枠

建　枠	・1,200枠	・900枠	・600枠
布　枠	・500布枠×２枚	※500＋240布枠 ・500布枠×１枚	・500布枠×１枚

(3)　防護シート等による養生
※設置する　※ネット状養生シート又は養生シート
・防音パネル　なお、出入口等の上部は必要に応じて防護棚を設ける。
・設置しない

② 内部足場　[2.2.1]
種別　・　・　※きゃたつ、足場板等　⊙高所作業車

③ 材料、撤去材の運搬方法　[2.2.1][表2.2.1]
・Ａ種　※Ｂ種　・Ｃ種　・Ｄ種　・Ｅ種

項　目	特　記　事　項
⑥ 既存部分の養生	既存部分の養生方法　・　※ビニールシート等　[2.3.1] 既存家具等の養生　・　※ビニールシート等 既存ブラインド・カーテン等の養生方法、保管場所　・図示 固定された備品、机、ロッカー等の移動　・行う（図示）
7 仮設間仕切	1)　仮設間仕切り種別　[2.3.2][表2.3.1]

種　別	下　地	仕上げ材（厚さmm）	充填材(mm)	塗　装
・Ａ種	※軽量鉄骨	※せっこうボード（※9.5　・　）	厚さ（　）	※無し
・Ｂ種	・木造	合板（※９　・　）		・有り
※Ｃ種	単管	防炎シート		
仮設扉	※木製扉 ・	合板張り程度	・行う 厚さ（　）	※無し ・有り

8 監督員事務所	※設ける　・既存建物の一部を使用　・設けない　[2.4.1] 監督員事務所の規模（m^2）				

種　別	・１号	・２号	・３号	・４号	・５号
面　積	10程度	20程度	35程度	65程度	100程度

監督職員事務所に設ける備品等
※保護帽　※墜落防止用器具　※長靴　※合羽　※原図大及びＡ３縮小の設計図面製本各２部
※机　※椅子　※懐中電灯　・書棚　・黒板　・寒暖計　・

⑨ 快適トイレ（快適トイレ実施要領に基づく）

・ 快適トイレを設置すること
※ 監督員へ提案･協議し、快適トイレを設置することができる
快適トイレを設置した場合は設計変更の対象とし、「快適トイレ実施要領」により費用を計上する。

⑩ 危険物貯蔵所　シンナー等有機溶剤を使用する場合は、特に火災及び盗難について管理を徹底する。　[2.4.2]

11 仮設物撤去他　原形復旧の方法・内容　・　[2.5.1]

⑫ 公衆災害防止等　建設工事公衆災害防止対策要綱（建築工事編）及び建設副産物適正処理推進要綱等関係規定を順守して災害の防止に努めることとする。

３章 防 水 改 修 工 事

項　目	特　記　事　項
① 一般事項	降雨等に対する養生　・　[3.1.3] 改修工法の種類　・　[表3.1.1]
2 アスファルト防水	1）防水改修工法の種類　[3.3.3]

	防水改修工法の種類	施　工　箇　所	新規防水工法の種別
保護防水	・Ｐ１Ｂ ・Ｐ１ＢＩ　・Ｔ１ＢＩ ・Ｐ２Ａ Ｉ ・Ｐ２Ａ		・Ｂ－１　※Ｂ－２ ・ＢＩ－１　※ＢＩ－２ ・ＡＩ－１　※ＡＩ－２　・ＡＩ－３ ・Ａ－１　※Ａ－２　・Ａ－３
露出防水	・Ｍ４Ｃ ・Ｐ０Ｄ ・Ｐ０ＤＩ　・Ｍ４ＤＩ		・Ｃ－１ ※Ｃ－２ ・Ｃ－３ ・Ｃ－４ ・Ｄ－１ ※Ｄ－２ ・ＤＩ－１ ※ＤＩ－２
屋内防水	・Ｐ１Ｅ　・Ｐ２Ｅ		・Ｅ－１　※Ｅ－２

2）アスファルトの種類　※３種　・４種　[3.2.2][3.3.2]
3）二重ドレン　・設ける（・ＰＯＤ工法　・ＰＯＤＩ工法）　[3.2.5]
4）既存露出防水層表面の仕上げ塗装の除去（Ｍ４Ｃ工法、Ｍ４ＤＩ工法）・行う　[3.2.6]
5）断熱工法の断熱材の厚さ(mm)　※25　・　[3.3.2]
断熱材はグリーン購入法における特定調達品目を使用すること
6）立上り部防水層保護　[3.3.2]
・市販品のれんが、又はれんが形コンクリートブロック（見え隠れ部分）
・乾式保護材
7）仕上げ塗料塗り（Ｃ－１、Ｃ－３、Ｄ－１、Ｄ－３、ＤＩ－１、ＤＩ－２）
※有り（・シルバー　・カラー ）　使用量は製造所標準仕様
8）屋上排水溝　・図示（水勾配は1/200以上とする）

3 改質アスファルトシート防水　1）防水改修工法の種類　[3.4.3][表3.4.1～3]

	防水改修工法の種類	施　工　箇　所	新規防水工法の種別
密着工法	・Ｍ４ＡＳ		・ＡＳ－Ｔ１ ・ＡＳ－Ｔ２ ・ＡＳ－Ｊ２
絶縁工法	・Ｍ３ＡＳ ・ＰＯＡＳ		・ＡＳ－Ｔ３ ・ＡＳ－Ｔ４ ・ＡＳ－Ｊ１ ・ＡＳ－Ｊ３
断熱工法	・Ｍ３ＡＳＩ ・Ｍ４ＡＳＩ ・ＰＯＡＳＩ		・ＡＳＩ－Ｔ１ ・ＡＳＩ－Ｊ１

2）二重ドレン　[3.2.5]
・設ける（・ＰＯＡＳ工法　・ＰＯＡＳＩ工法）
3）既存露出防水層表面の仕上げ塗装の除去（Ｍ４ＡＳ工法、Ｍ４ＡＳＩ工法）　[3.2.6]
・行う
4）断熱工法の断熱材の厚さ(mm)　[3.4.2]
※25　・
5）下地に部分的に密着又は接着を行う工法　[3.4.4]
※製造所の標準仕様

4 合成高分子系ﾙｰﾌｨﾝｸﾞｼｰﾄ防水　1）防水改修工法の種類　[3.5.3]

	防水改修工法の種類	施　工　箇　所	新規防水工法の種別
接着工法	・ＰＯＳ ・Ｓ４Ｓ ・Ｓ３Ｓ ・Ｍ４Ｓ ・Ｐ１Ｓ		・Ｓ－Ｆ１ ・Ｓ－Ｆ２ ・Ｓ－Ｃ１
機械的固定方法	・ＰＯＳ ・Ｓ４Ｓ ・Ｓ３Ｓ ・Ｍ４Ｓ		・Ｓ－Ｍ１ ・Ｓ－Ｍ２ ・Ｓ－Ｍ３
断熱工法	・ＰＯＳＩ ・Ｓ４ＳＩ ・Ｓ３ＳＩ ・Ｍ４ＳＩ		・ＳＩ－Ｆ１ ・ＳＩ－Ｆ２ ・ＳＩ－Ｍ１ ・ＳＩ－Ｍ２

2）仕上げ塗料塗り（Ｓ－Ｆ１、ＳＩ－Ｆ１、Ｓ－Ｍ１、ＳＩ－Ｍ１の場合）
・シルバー　・カラー
3）新規防水層の仕様分類
・非歩行　・軽歩行
4）断熱材はグリーン購入法における特定調達品目を使用すること。G　[3.5.2]
・架橋形発泡ポリエチレンフォーム　厚さ(　)mm
・押出法ポリエチレンフォーム３種Ｂ　厚さ(　)mm
5）PCｺﾝｸﾘｰﾄ部材下地　[3.5.4]
目地処理（接着工法）　※図示
入隅部の増張り(種別Ｓ－Ｆ１の場合)　・行う（幅　mm程度）
6）二重ドレイン（ＰＯＳ、ＰＯＳＩ）　※設ける

5 ウレタン系塗膜防水　1）防水改修工法の種類　[3.1.4][表3.1.1][3.6.3][表3.6.1]

防水改修工法の種類	施　工　箇　所	新規防水層の種別	仕上げ塗料塗り
・ＰＯＸ		※Ｘ－１　・Ｘ－２	・シルバー
・Ｌ４Ｘ		・Ｘ－１　※Ｘ－２	・カラー

2）二重ドレン（・ＰＯＸ工法の場合）・設ける　[3.2.5]
3）既存露出防水層表面の仕上げ塗装の除去（Ｌ４Ｘ工法の場合）　・行う　[3.2.6]

⑥ シーリング　① 改修方法の種類　[3.1.4][表3.1.2][3.7.4～7]

改修方法の種類	施　工　箇　所
⊙シーリング充填工法	外壁・サッシ廻り
・シーリング再充填工法	
・拡幅シーリング再充填工法	
・ブリッジ工法	

2）ボンドブレーカー張り及びエッジング材張り（ブリッジ工法の場合）　[3.7.7]
3）シーリング材の種類及び施工箇所　[3.7.2][表3.7.1]
下表以外は、改修標仕表３．７．１を標準とする

施　工　箇　所	シーリング材の種類（記号）
外壁・サッシ廻り	変成シリコン

4）接着性試験　※簡易接着性試験（対象部位　）　[3.7.8]
⑤ 撤去既存ｼｰﾘﾝｸﾞの処理
事前調査等
現場においてサンプルを採取し、専門分析機関で分析を行う。
採取箇所　※外壁目地　・建具周囲目地　・図示
採取箇所数　・部位が異なる毎に１箇所　・図示
分析によりＰＣＢの含有が確認された場合は施工調査等を行い、適切に処理を行う。
施工調査等
調査範囲　※今回改修工事範囲全て　・図示
調査内容　シーリング使用部位及び長さの確認
施工範囲と工事管理区分の確認
仮設計画
廃棄物等の搬出方法

7 防水工事の保証　防水工事は責任施工とし、下記による保証書を提出する。

施工箇所	種　別	年　限	施工箇所	種　別	年　限
屋　根		１０年			
洗面、浴室、便所		５年			

⑧ とい　① 材種　[3.8.2][表3.8.1]
※配管用鋼管　⊙硬質塩化ビニル管（⊙VP　・ＲＦ－ＶＰ ）　G
2）鋼管製といの防露巻き　[3.8.3][表3.8.3～4]
※「改修標仕」表3.8.4による
3）防露材のホルムアルデヒド放散量
※規制対象外　・第三種　・次の箇所は行わない（　）
④ たてとい受け金物の取付け　[3.8.3]
※図示　・「標仕」13.5.2(2)及び13.5.3(4)(ｲ)による

9 アルミニウム製笠木　1）オーブン形式アルミニウム製笠木の種類　[3.9.2～3][表3.9.1]

種　類	板厚(mm)	表面処理及び色合い	固定間隔	下地補修
・100型	・1.5以上	※A-1又はB-1種(無着色)	建築基準法に基づき指定する条件により施工計画書に定める	※行う（図示）
・250型	・1.6以上	B-2種		・行わない
・300型	・1.8以上	・ブラウン系		
・350型	・2.0以上	・ブラック		
		・ステンカラー		

2）既存笠木等の撤去　・行う（範囲　※図示　・　）
3）板材折曲げ形アルミニウム製笠木の取付方法
固定金具は「改修標仕」3.9.3(2)(ｱ)とし、それ以外の取付方法は図示による。

４章－１　外　壁　改　修　工　事　共　通　事　項

項　目	特　記　事　項
1 調査	調査範囲　※外壁全面　・図示の範囲　[1.6.2] ・既存外壁仕上げ材等撤去後の躯体面（仕上げ材等撤去範囲） 調査内容 ひび割れの幅及び長さを壁面に表示する。また、ひび割れ部の挙動の有無、漏水の有無及び錆汁の流出の有無を調査する。 コンクリート、モルタル及びタイル等のはがれ及びはく落部を壁面に表示する。 また、欠損部の寸法形状等を調査する。 モルタル及びタイルの浮き部分を壁面に表示する。 仕上げ塗材等の劣化部分、はく落部分等を壁面に表示する。 また、既存塗膜と新規上塗り材との適合性を確認する。 調査報告書の部数　※２部
2 改修使用材料	可とう性エポキシ樹脂　[4.2.4][4.3.5][4.4.5]

項目	引張り強さ(N/mm^2)	伸び（%）	引張り接着性 最大引張り応力(N/mm^2)	破断時の伸び(%)
常温特性	1.0以上	30.0以上	1.0以上	10.0以上
低温性	1.0以上	30.0以上		
加熱変化	1.0以上	30.0以上		
比　重	表示値：±0.10			
押出し性	60秒　以下			
スランプ	3.0mm　以下			
加熱減重	5.0%　以下			

その他　1）均質で有害と認められる異物の混入がないこと。
2）対象とする被着体を浸さず、かつ、周囲を汚損しないこと。
3）常温常湿（温度5℃～35℃、湿度45～85%）において製造所の指定する期間又は製造後６か月間保存した後にあっても、品質・性能の各項目に適合していること。

ポリマーセメントモルタル　[4.2.4][4.3.5][4.4.5]

項　目	接着強さ(N/mm^2)			圧縮強さ(N/mm^2)	曲げ強さ(N/mm^2)
	標準時	湿潤時	低温時		
性　能	8.0以上			20.0以上	10.0以上
表面状態	だれの下がり量は5mm以内かつ、ひび割れの発生がないこと。				
透水性	裏面の濡れ、水滴の付着がないこと。				
その他	ﾎﾟﾘﾏｰｾﾒﾝﾄﾓﾙﾀﾙに用いる高分子ｴﾏﾙｼｮﾝは、常温常湿において製造後６ヶ月保存しても変質しないこと。				

パテ状エポキシ樹脂　[4.2.4][4.3.5][4.4.5]

項　目	初期硬化性(N/mm^2)	接着強さ(N/mm^2)	圧縮強さ(N/mm^2)	曲げ強さ(N/mm^2)	硬化収縮率(%)
品　質	標準：2.0以上	標準：6.0以上	50.0以上	30.0以上	3.0以下

その他　1）均質で有害と認められる異物の混入がないこと。
2）対象とする被着体を浸さず、かつ、周囲を汚損しないこと。
3）常温常湿（温度5℃～35℃、湿度15%～85%）において製造所の指定する期間又は製造後６か月間保存した後にあっても、品質・性能の各項目に適合していること。
4）　試験方法はJIS A6024（建築補修用注入ｴﾎﾟｷｼ樹脂）に準ずる。

エポキシ樹脂モルタル　[4.2.4][4.3.5][4.4.5]

項　目	接着強さ(N/mm^2)			圧縮強さ(N/mm^2)	曲げ強さ(N/mm^2)
	標準時	湿潤時	低温時		
品　質	1.0以上			20.0以上	10.0以上

その他　1）こて塗りが容易で、かつ、硬化後の仕上がりが良好であること。
2）形状に異常がなく、だれが生じない。
3）均質で有害と認められる異物の混入がないこと。
4）「労働安全衛生法」に基づく「有機溶剤中毒予防規則」に規定された第一種有機溶剤を使用しないこと。
5）常温常湿（温度20±1.5℃、湿度65±20%）において製造所の指定する期間又は製造後６か月間保存した後にあっても、品質・性能の各項目に適合していること。

ポリマーセメントスラリー　[4.2.4][4.3.5][4.4.5]

項目	注入性 広がり速度(cm/s)	注入性 粘調整(粘調係数)	保水性(保水保持)	長　さ 変化率(収縮)(%)	引張り接着性(28日材齢)(N/mm^2)	曲げ性能(28日材齢)(N/mm^2)	吸水性(72時間)(%)	耐久性(劣化曲げ強さ)(N/mm^2)
品質	3以上	0.05～1.00	0.35～0.55	3以下	0.5以上	5.0以上	15以下	5.0以上

吸水調整材　[4.2.4][4.3.5][4.4.5]

項　目	全固形分（%）	吸水量（g）	接着強度(N/mm^2)	界面破断率（%）
品質・性能	表示値±1%以内	30分間で1g以下	0.98以上	50以下

均質で有害と認められる異物の混入がないこと。

既製調合モルタル　[4.2.4][4.3.5][4.4.5]

項　目	保水率(%)	単位容積質量(kg／ｌ)	接着強さ(N/mm^2) 標準時	温冷繰返し後	長さ変化率(%)	曲げ強さ(N/mm^2)
品質・性能	70.0以上	1.8以上	0.6以上	0.4以上	0.2以下	4.0以上

４章－２　コ　ン　ク　リ　ー　ト　打　放　し　仕　上　げ　外　壁　改　修　工　事

項　目	特　記　事　項
1 ひび割れ部改修工法	※樹脂注入工法　[4.1.4][4.2.5]

注入工法の種類	ひび割れ幅（mm）	注入口間隔（mm）	注入量（ml/m）
※自動式低圧エポキシ樹脂注入工法	0.2以上～1.0以下	※200～300	※
		・	・
・手動式エポキシ樹脂注入工法	0.2以上～0.3以下	※50～100	※40
	0.3超え～0.5以下	※100～200	※70
・機械式エポキシ樹脂注入工法	0.5超え～1.0以下	※150～250	※130
		・	・

注入材料　[4.2.4]
※建築補修用注入エポキシ樹脂（JIS A6024低粘度形又は中粘度形）
検査（コア抜取り）　[4.2.5]
※行わない
・行う　抜取り部の補修方法
※充填工法（・ｴﾎﾟｷｼ樹脂ﾓﾙﾀﾙ　・ﾎﾟﾘﾏｰｾﾒﾝﾄﾓﾙﾀﾙ）　[4.2.8]
・Ｕカットシール材充填工法　[4.1.4][4.2.6][4.3.5][4.3.7]

充填材料	種　別	備　考
・シーリング材	※１成分形又は２成分形 ポリウレタン系シーリング材 ・	ポリマーセメントモルタルの充填 ※行わない　・行う
・可とう性エポキシ樹脂	4.3.5項改修使用材料による。	

・シール工法　[4.1.4][4.2.7][4.3.5][4.3.8]
シール材料
・パテ状エポキシ樹脂　(4.3.5による)
・可とう性エポキシ樹脂（4.3.5による）

2 欠損部改修工法　※充填工法　[4.1.4][4.2.4][4.2.8]
充填材料
・エポキシ樹脂モルタル　(4.2.4による)
・ポリマーセメントモルタル（4.2.4による）

４章－３　モ　ル　タ　ル　塗　り　仕　上　げ　外　壁　改　修　工　事

項　目	特　記　事　項
1 既存モルタル塗りの撤去	・行う（※全面　・図示の範囲） ・既存モルタル撤去工法（範囲は図示　撤去部分の補修は、３．欠損部改修工法による）
2 ひび割れ部改修工法	※樹脂注入工法　[4.1.4][4.3.2][4.3.6]

注入工法の種類	ひび割れ幅（mm）	注入口間隔（mm）	注入量（ml/m）
※自動式低圧エポキシ樹脂注入工法	0.2以上～1.0以下	※200～300	※
		・	・
・手動式エポキシ樹脂注入工法	0.2以上～0.3以下	※50～100	※40
	0.3超え～0.5以下	※100～200	※70
・機械式エポキシ樹脂注入工法	0.5超え～1.0以下	※150～250	※130
		・	・

注入材料　[4.3.5]
※建築補修用注入エポキシ樹脂（JIS A6024低粘度形又は中粘度形）
検査（コア抜取り）　[4.2.5]
※行わない
・行う　抜取り部の補修方法
※充填工法（・ｴﾎﾟｷｼ樹脂ﾓﾙﾀﾙ　・ﾎﾟﾘﾏｰｾﾒﾝﾄﾓﾙﾀﾙ）　[4.2.8]
・Ｕカットシール材充填工法　[4.1.4][4.2.6][4.3.5][4.3.7]

充填材料	種　別	備　考
・シーリング材	※１成分形又は２成分形 ポリウレタン系シーリング材 ・	ポリマーセメントモルタルの充填 ※行わない　・行う
・可とう性エポキシ樹脂	4.3.5項改修使用材料による。	

・シール工法　[4.1.4][4.2.7][4.3.5][4.3.8]
シール材料
・パテ状エポキシ樹脂　(4.3.5による)
・可とう性エポキシ樹脂（4.3.5による）

③ 欠損部改修工法　⊙充填工法　多目的体育館腰壁、縁石　[4.1.4][4.2.8][4.3.5][4.3.9]
充填材料　※　ポリマーセメントモルタル（4.3.5による）　⊙無収縮モルタル
⊙モルタル塗替え工法　[4.1.4][4.2.8][4.3.5][4.3.10]
塗替え材料　※　「改修標仕」4.3.5（5）による
仕上げ厚又は全塗厚が25mmを超える場合の処置
※適用する（範囲は図示）
※ステンレス製アンカーピンを縦横200mm程度の間隔に打ち込み、ステンレスラス等を張る。
⊙図示　無収縮モルタル
既製目地材　・適用する　（形状　※図示　・　）　[4.3.5]

設　計	工事名	門前地区体育施設災害復旧工事
株式会社 MAC建築研究所 管理建築士／一級建築士登録 第324732号 中村 健	図面名	建築改修工事仕様書　その２
	図面番号	A-02

4	浮き部改修工法	モルタルを撤去しない場合 [4.1.4][4.3.5][4.3.11～16][表4.3.5～6]

改修工法の種類	アンカーピンの本数（本/m2） 一般部	指定部	注入口の箇所数（箇所/m2） 一般部	指定部	充填量又は注入量（ml/箇所）
・アンカーピンニング部分エポキシ樹脂注入工法	※16 ・	※25 ・			※25 ・
・アンカーピンニング全面エポキシ樹脂注入工法	※13 ・	※20 ・	※12 ・	※20 ・	※25 ・
・アンカーピンニング全面ポリマーセメントスラリー注入工法	※13 ・	※20 ・	※12 ・	※20 ・	※50 ・
・注入口付アンカーピンニング部分エポキシ樹脂注入工法	※9 ・	※16 ・			※25 ・
・注入口付アンカーピンニング全面エポキシ樹脂注入工法	※9 ・	※16 ・	※9 ・	※16 ・	※25 ・
・注入口付アンカーピンニング全面ポリマーセメントスラリー注入工法	※9 ・	※16 ・	※9 ・	※16 ・	※50 ・

アンカーピン
材質 ※ステンレスSUS304、呼び径４mmの丸棒で全ネジ切り加工したもの [4.3.5]
注入口付アンカーピン
材質 ※ステンレスSUS304、呼び径外径６mm [4.3.5]

４章－４ タイル張り仕上げ外壁改修工事

項目		特記事項
1	既存タイル張りの撤去	・外壁タイル張り全面 ・図示の範囲 撤去範囲 ※下地モルタルまで ・張付けモルタルまで
2	ひび割れ部改修工法	改修箇所 ※既存タイル張り面 ・既存タイル撤去面（・コンクリート面 ・モルタル面） ※樹脂注入工法 [4.1.4][4.2.5][4.4.5～6]

注入工法の種類	ひび割れ幅（mm）	注入口間隔（mm）	注入量（ml/m）
※自動式低圧エポキシ樹脂注入工法	0.2以上～1.0以下	※200～300 ・	※ ・
・手動式エポキシ樹脂注入工法	0.2以上～0.3以下	※50～100	※40
	0.3超え～0.5以下	※100～200	※70
・機械式エポキシ樹脂注入工法	0.5超え～1.0以下	※150～250 ・	※130 ・

注入材料 [4.4.5]
※建築補修用注入エポキシ樹脂（JIS A6024低粘度形又は中粘度形）
検査（コア抜取り） ※行わない [4.2.5]
・行う（抜取り部の補修方法： ）
・Uカットシール材充填工法（既存タイル張り撤去面） [4.1.4][4.2.4][4.2.6]

充填材料	種別	備考
・シーリング材	※１成分形又は２成分形 ポリウレタン系シーリング材 ・	ポリマーセメントモルタルの充填 ※行わない ・行う
・可とう性エポキシ樹脂	4.2.4による	

3	欠損部改修工法	・タイル部分張替え工法 張付け材料 ※ポリマーセメントモルタル ・接着剤（JIS A 5557に基づく一液反応硬化形の変成シリコーン樹脂系） ・タイル張替え工法 張付け材料 ・張付けモルタル（・現場調合 ・既調合） ・接着剤（JIS A 5557に基づく一液反応硬化形の変成シリコーン樹脂系）
4	浮き部改修工法	タイルを撤去しない場合 [4.1.4][4.4.5][4.4.9～15][表4.3.5～6]

改修工法の種類	アンカーピンの本数（本/m2） 一般部	指定部	注入口の箇所数（箇所/m2） 一般部	指定部	充填量又は注入量（ml/箇所）
・アンカーピンニング部分エポキシ樹脂注入工法	※16 ・	※25 ・			※25 ・
・アンカーピンニング全面エポキシ樹脂注入工法	※13 ・	※20 ・	※12 ・	※20 ・	※25 ・
・アンカーピンニング全面ポリマーセメントスラリー注入工法	※13 ・	※20 ・	※12 ・	※20 ・	※50 ・
・注入口付アンカーピンニング部分エポキシ樹脂注入工法	※9 ・	※16 ・			※25 ・
・注入口付アンカーピンニング全面エポキシ樹脂注入工法	※9 ・	※16 ・	※9 ・	※16 ・	※25 ・
・注入口付アンカーピンニング全面ポリマーセメントスラリー注入工法	※9 ・	※16 ・	※9 ・	※16 ・	※50 ・
・注入口付アンカーピンニングエポキシ樹脂注入タイル固定工法	・	・	・	・	・

アンカーピン
材質 ※ステンレスSUS304、呼び径４mmの丸棒で全ネジ切り加工したもの [4.3.5]
注入口付アンカーピン
材質 ※ステンレスSUS304、呼び径外径６mm [4.3.5]

４章－５ 仕上塗材仕上げ外壁改修工事

項目		特記事項
1	既存塗膜等の除去及び下地処理	既存塗膜の劣化部の除去及び下地処理の工法 [4.5.4][4.5.4～7]

工法	処理範囲	ひび割れ部等の補修
※サンダー工法	※既存仕上げ面全体 ・	・ひび割れ部改修工法
・高圧水洗工法	※既存仕上げ面全体 ・	・浮き部改修工法
・塗膜はく離剤工法	※既存仕上げ面全体 ・	・欠損部改修工法
・水洗い工法	※上記処理範囲以外の既存仕上げ面全体 ・	

2	下地調整材	※下地調整塗材 ・ポリマーセメントモルタル [4.5.4]
3	マスチック塗材塗り	種別及び凸面処理仕上げ [4.6.2][表4.6.1]

種別	仕上げ	仕上材塗り
・A種	・凸面処理仕上げ	・アクリル樹脂エナメル
・B種	・	・つや有合成樹脂エマルションペイント

５章 建具改修工事

項目		特記事項
①	一般事項	①改修工法 ・かぶせ工法 ⊙撤去工法 [5.1.3] 新規建具周囲の補修工法及び範囲 ・ ②防犯建物部品 ※建具表による [5.1.7] ③防火戸 [5.1.4] 防火性能 ・防火設備 （建具番号 ） ・特定防火設備 （建具番号 ） 防火戸の閉鎖機構 ・自動閉鎖機構 （建具番号 ） ・ヒューズ装置と連動 （建具番号 ） ・熱感知器と連動 （建具番号 ） ・煙感知器と連動 （建具番号 ） ④見本の製作等 [5.1.5] ・建具見本の製作 （建具番号 ） ・特殊な建具の仮組 （建具番号 ） ⑤建具回り等の充填モルタル 防水剤（モルタルに混入する防水剤の品質） [6.15.3]

項目	混合割合	凝結及び安定性（JIS R 5201） 凝結時間	安定性	曲げ及び圧縮強度比（%）	吸水比（%）	透水比（%）
品質	セメント質量の５%以下	始発1時間以上 終結10時間以内	収縮性、膨張性のひび割れそりがないこと	70以上	95以下	80以下

⑤取付け調整等 [5.1.6]
・ブラインド ：
・カーテンボックス ：

②	アルミニウム製建具	外部に面する建具の性能等級 [5.2.2][5.2.4][表5.2.1]

種別	耐風圧性	気密性	水密性	枠見込み（mm）	施工箇所
⊙A種	S－4	※A－3	※W－4	※70（(注)共）	
・B種	S－5	・	・	・	
・C種	S－6	A－4	W－5	100	

防音ドアセット ※適用は建具表による
断熱ドアセット ※適用は建具表による
耐震ドアセット ※適用は建具表による
表面処理 [5.2.4][表5.2.2]

施工箇所	種別	色合い等
外部建具	※BB－1種	無着色
	・BB－2種	※標準色（・ブラウン系 ・ブラック ・ステンカラー）
	・	・
内部建具	※AC-1種又はBB-1種	無着色
	・AC-2種又はBB-2種	※標準色（・ブラウン系 ・ブラック ・ステンカラー）

③	網戸	防虫網 [5.2.3～4] 網の種別 ・合成樹脂製 ※ガラス繊維入り合成樹脂製 ・ステンレス製（SUS316） 形式 ※外部可動式 ・固定式
4	樹脂製建具	1）外部に面する建具の性能値等 [5.3.2][5.3.4][表5.3.1]

種別	耐風圧性	気密性	水密性	枠見込み（mm）	施工箇所
・A種	S－4	A－4	※W－4	・60 ・80	
・B種	S－5		W－5	・100	
・C種	S－6			・125	

2）表面色 ※白色 ・（ ） [5.3.4]
3）ガラス ※複層ガラス ・単層ガラス ・三重ガラス [5.3.3]

⑤	鋼製建具	1）簡易気密扉の簡易気密型ドアセット性能値 [5.4.2][表5.4.1] ※適用する（適用箇所は建具表による） 2）外部に面する建具の耐風圧性 [5.4.2][表5.2.1] ・S－4 ・S－5 ・S－6 3）材料 ※JIS G3302(溶融亜鉛めっき鋼板及び鋼帯) ・ 4）鋼板類の厚さ（１枚の戸の有効開口幅 950mm、又は有効高さ 2,400mmを越える場合） ※下表以外は表５．４．２による [5.4.4][表5.4.2]

区分		使用箇所	厚さ（mm）
窓	枠類	外部の下枠、水切り板	2.3
出入口	枠類	外部に面するスイングドアの建具	2.3
	戸	中骨	2.3

⊙ 図示

6	標準型鋼製建具	簡易気密型ドアセットの性能値の適用は建具表による [5.4.2][5.4.6] ・適用する（適用箇所は建具表による） [表5.4.1] 外部に面する建具の耐風圧性 [5.4.2][5.4.6][表5.2.1]

耐風圧性	施工箇所
・S－4	
・S－5	
・S－6	

7	鋼製軽量建具	簡易気密型ドアセットの性能値の適用は建具表による [5.5.2]
8	標準型鋼製軽量建具	簡易気密型ドアセットの性能値の適用は建具表による [5.5.2][5.5.6]
9	ステンレス製建具	簡易気密型ドアセットの性能値の適用は建具表による [5.4.2][5.6.2] 外部に面する建具の耐風圧性 [表5.4.1][表5.2.1]

耐風圧性	施工箇所
・S－4	
・S－5	
・S－6	

10	木製建具	建物内部の木製建具に使用する表面材及び接着剤のホルムアルデヒドの放散量 [5.7.2] ※規制対象外 ・第三種 フラッシュ戸の表面材の種類 ※天然木化粧合板 かまち戸の樹種 かまち（ ） 鏡板（ ） [16.7.2] ふすまの上張り ※新鳥の子又はビニル紙程度 ・ 鳥の子 [表5.7.3] 枠及び靴ずりの材料 [5.7.2] 枠 ※ 木製枠 ・ 鋼製枠 靴ずり ・ 木製 ・ ステンレス製
⑪	建具金物	⊙ 図示 1）材質、形状及び寸法 [5.8.2][表5.8.1] シリンダーサイド 外側 ・ ※シリンダー 内側 ・ ※サムターン 軸吊りヒンジの自閉装置機能 ・適用する ・適用しない ドアクローザーのディレードアクション ・適用する ・適用しない 戸当りのあおり止め付き ・適用する ・適用しない レバーハンドルのバックセット ・ ※64mm 2）鍵 [5.8.4] マスターキー ・製作する ※製作しない（但し既設マスターキーに合わせる） 3）鍵箱 ・適用する
12	自動ドア開閉装置	自動ドアの開閉機構 [5.9.2][表5.9.4]

開閉方法	検出装置の種類
※スライディングドア ・スイングドア	※光線（反射）センサー ・電波センサー ・タッチスイッチ ・熱線センサー ・音波センサー ・押しボタンスイッチ ・多機能トイレスイッチ ・光電センサー

凍結防止措置 ・行う（ ） ・行わない [5.9.2]

13	重量シャッター	1）形式及び機構 [5.11.2][表5.11.1]

種類	開閉機構	危害防止機構	シャッターケース
・管理用シャッター ・外壁用防火シャッター ・屋内用防火シャッター ・防煙シャッター	※上部電動式 （手動併用） ・上部手動式	※障害物感知装置 （自動閉鎖型） ・	※設ける ・設けない

外部に面するシャッターの耐風圧強度 ・耐風圧性能 N/m²

14	軽量シャッター	開閉形式 ※手動式 ・上部電動式（手動併用） [5.12.2][表5.12.1] 外部に面するシャッターの耐風圧強度 耐風圧性能（ ）N/m2 [5.12.2] スラット 厚さ（mm） ※0.5 ・0.8 [5.12.3][表5.12.2] 材質 ※ JISG3312（塗装溶融亜鉛めっき鋼板又は鋼帯） ・ JISG3322（塗装溶融55%アルミニウム-亜鉛合金めっき鋼板及び鋼帯） 形状 ※ インターロッキング形 ・ オーバーラッピング形 [5.12.4] ガイドレール等 ※鋼板製 ・ステンレス製SUS304（厚さ1.5mm） [表5.12.2]
⑮	オーバーヘッドドア	形式及び機構 [5.13.2～3][表5.13.1]

セクション材料	開閉方式	収納形式	ガイドレールの材料
※スチールタイプ ・アルミニウムタイプ ・ファイバーグラスタイプ	※バランス式 ・チェーン式 ・電動式	・スタンダード形 ・ローヘッド形 ⊙ハイリフト形 ・バーチカル形	・溶融亜鉛めっき鋼板 ※ステンレス鋼板 （SUS304）

耐風圧性能（ ）N/m2

⑯	ガラス	⊙ 図示 [5.13.2] ガラスの厚さ・構成等については建具表により、その他ガラス性能等は下記による。 ・合わせガラス 特性による種類 ※Ⅱ－１類 ・ （JIS R 3205） ・強化ガラス

材料板ガラスによる種類	衝撃特性による種類（JIS R 3206）
※フロート強化ガラス ・型板強化ガラス	Ⅲ類（曲面はⅠ類）

・熱線吸収板ガラス

板ガラスによる種類	日射熱取得率	色調
※熱線吸収フロート板ガラス	２種	・ブルー ・グレー ・ブロンズ ・グリーン

・複層ガラス

種類	断熱性、日射遮へい性による区分
・断熱複層ガラス	※U３－１ ・U３－２ ・U１ ・U２
・日射熱遮へい複層ガラス	・E４ ・E５

・熱線反射板ガラス

品種	反射皮膜面	材料板ガラスの種類	色調	映像調整
※熱線反射ガラス	※内面 ・外面	・フロート板ガラス	・ブルー	※行わない
・高性能熱線反射ガラス	内面	・熱線吸収フロート板ガラス ・強化ガラス ・倍強度ガラス	・グレー ・ブロンズ ・シルバー	・行う

・倍強度ガラス

材料板ガラスによる種類の名称	色調
※ フロート倍強度ガラス	――――――
・熱線吸収倍強度ガラス	・グレー ・ブルー ・ブロンズ

⑰	ガラス留め材	[5.13.2][表3.7.1]

建具の種類	種類
アルミニウム製	※シーリング材 ・ガスケット（FIX部はシーリング材）
鋼製及び軽量鋼製	※シーリング材
ステンレス製	※シーリング材

⑱	ガラス溝	板ガラスをはめ込む溝の大きさ [5.14.3] ※「改修標仕」図5.14.1による。ただし、強化ガラス及び倍強度ガラスを使用する場合は性能値等が確認できる資料を監督職員に提出し、承諾を受ける。
19	ガラスブロック積み	ガラスブロック [5.14.5]

寸法（mm） 呼び寸法	厚さ	表面形状 色調	パターン	性能等 防火性能	耐火性能
		※クリア	・	※無し ・	※無し ・

壁用金属枠及び補強材 [5.14.5]

壁用金属枠の種類	規格及び補強材等
※アルミニウム製	※ 改修共仕5.2.3のアルミニウム製建具の材料による
・	・

化粧目地モルタルの色 ※モルタル色 [5.14.5]

シーリング材料 [5.14.5][3.7.2][表3.7.1]
下表以外は改修標仕表3.7.1による

被着体の組合せ		シーリング材の種別 記号	主成分による区分	耐久性による区分

ただし、防火区画等に用いる場合は建築基準法に基づく規定に定められたもの、または認定を受けた条件による。

20	ガラス用フィルム	

名称	記号	張り面
・衝撃破壊対応ガラス飛散防止フィルム	GI	※内張り ・外張り
・層間変位破壊対応ガラス飛散防止フィルム	GD	
・		

品質 JIS A 5759による

６章 内装改修工事

項目		特記事項
1	床改修一般事項	1）工法 [6.2.2] (1)ビニル床シート等の除去 ※仕上げ材のみ（接着剤とも） ・下地モルタルとも（※図示の範囲 ・除去範囲全て） 合成樹脂塗り床材の除去工法 ・機械的除去工法 ・目荒工法 (2)改修後の床清掃範囲 ※改修箇所の室内 ・
2	壁改修一般事項	1）工法 [6.1.3][6.3.2] (1)既存壁撤去に伴う当該壁の取り合う天井、壁、床の改修範囲 ※壁厚程度とし、既存仕上げに準じた仕上げを行う ・図示の範囲 (2)天井内の既存壁の撤去に伴う当該壁の取り合う天井の改修範囲 ※壁面より両側600mm程度とし、既存仕上げに準じた仕上げを行う ・図示の範囲 (3)間仕切壁撤去に伴う他の構造体の補修 ※図示 ・モルタル塗り 仕上げ厚又は全塗厚が25mmを超える場合の処置 ・適用する（範囲は図示） ※ステンレス製アンカーピンを縦横200mm程度の間隔に打ち込み、ステンレス等を張る ・図示 2）新設壁下地 ・木製壁下地 ・軽量鉄骨壁下地
3	天井改修一般事項	1）工法 [6.1.3][6.4.2] (1)天井の撤去に伴う取り合い部の壁面の改修 ※既存のまま ・図示の範囲 2）新設天井下地 ・木製天井下地 ・軽量鉄骨天井下地
4	ビニル床シート張り G	材料 [6.8.2]

種類	JISの記号	色柄	厚さ・高さ（mm）
※発泡層のないもの	※FS ・	※無地 ・マーブル柄	※2.0 ・2.5
・発泡層のあるもの	・HS	※柄物 ・無地	・
・	・		・
・	・		・
・ビニル幅木			※60 ・

工法 ※熱溶接工法 ・突付け（施工箇所： ） [6.8.3]

5	ビニル床タイル張り G	材料 [6.8.2] ビニル床タイル

種類	JISの記号	厚さ・高さ（mm）
※コンポジションビニル床タイル（半硬質）	KT	※2 ・
・複層ビニル床タイル	FT	・
・ビニル幅木		※60 ・

視覚障がい者用床タイル
※塩化ビニル系 ※300×300 ブロックパターンは
・磁器又はせっ器タイル ・ JIS T 9251による
帯電防止床タイル

種類	厚さ	性能
・コンポジションビニル床タイル	※2.0	体積抵抗値（JIS K 6911による） 1.0×10⁹Ω以下、または、 漏えい抵抗値（JIS A 1454による） 1.0×10¹⁰Ω未満
・ホモジニアスビニル床タイル	※4.0又は4.5	
・		

6	接着剤	[6.5.3～4][6.8.2][6.9.3] 木工事に使用する接着剤に含まれる可塑剤は、難揮発性とする。 壁紙施工用でん粉系接着剤、ユリア樹脂等を用いた接着剤のホルムアルデヒドの放散量 ※規制対象外 ・第三種 [6.11.4～5][6.13.2][6.14.2][6.16.4]
7	床板張り用合板等 G	ホルムアルデヒドの放散量 [6.5.2] ※規制対象外 ・第三種 下張り用床板及び畳下床板の材料 [6.5.2][表6.5.8]

使用区分	材料	厚さ（mm）
下張り用床板の材料	※合板 G	※12
畳下床板	・パーティクルボード G	・
	・繊維板（MDF） G	・

8	合成樹脂塗り床	[6.10.3][表6.10.4～8]

	種別	仕上げの種類
厚膜型	・弾性ウレタン樹脂系塗床材	※平滑仕上げ ・防滑仕上げ ・つや消し仕上げ
	・エポキシ樹脂系塗床材	※薄膜流し展べ工法（※平滑 ・防滑） ・厚膜流し展べ工法（※平滑 ・防滑） ・樹脂モルタル工法（※平滑 ・防滑）
薄膜型	・エポキシ樹脂系塗床材	※平滑仕上げ ・

9	フローリング張り G	材料、工法 [6.11.2～6][表6.11.1～6]

品名	樹種	工法	厚さ(mm)	大きさ寸法（mm）	種別
・フローリングボード	・なら ・ひのき ・ぶな	・釘留め工法（根太張） ・釘留め工法（直張り） ・接着工法	・15 ・12以上 ・8以上	・巾75 長さ400以上 ・	
・フローリングブロック	・能登ひば	緩衝材裏打	・	・	
・複合フローリング	・		・A種 ・B種 ・C種		

10	畳敷き	材料 [6.12.2][表6.5.8][表6.12.1]

下地の種類	畳の種別
「改修標仕」表6.5.8による床組	・A種 ・B種 ・C種 ・D種（畳床・ ）
ポリスチレンフォーム床下地	※C種 ・D種（畳床・ ）

11	カーペット敷き G	材料 [6.9.2～3] 防炎性能は、消防法で定める防炎性能を有し、登録されたものとする。 ・織じゅうたん [6.9.3][表6.9.1]

織り方	種別	パイル形状	色柄	帯電圧
・ウィルトンカーペット ・ダブルフェースカーペット ・アキスミンスターカーペット	・A種 ・B種 ・C種	・カットパイル ・ループパイル ・カット、ループ併用	※単一色（無地） ・柄物（標準色） ・	人体帯電圧 ※3kV以下 ・

・タフテッドカーペット [6.9.3][表6.9.2]

パイル形状	パイル長（mm）	工法	帯電圧
・カットパイル	※5～7 ・	※全面接着工法 ・グリッパー工法	人体帯電圧 ※3kV以下 ・
・ループパイル	※4～6 ・		
・レベルループパイル	※4 ・		
・カット、ループ併用	・		

・タイルカーペット [6.9.3][表6.9.2]

種別	パイル形状	寸法（mm）	総厚さ（mm）	帯電圧
※第一種 ・第二種	※ループパイル ・カットパイル ・カット/ループパイル	※500×500 ・	※6.5 ・	人体帯電圧 ※3kV以下 ・

12	木下地等 G	1）県産材の使用 [6.5.2] 能登ヒバ、杉は、県産材とし、代用樹種は認めない 2）木材の品質 ※「改修標仕」6.5.2による ・市販品 [6.5.2] 保存処理木材の適用箇所は「改修標仕」6.5.6(1)(ｲ)による [表6.5.2] 樹種

	土台、水掛り枠類	見え掛り部分	見え隠れ部分	備考
下地材（柱等を含む）	・檜・能登ヒバ・草槇	・松 ・檜 ・杉	・松 ・杉	
造作材	・檜・能登ヒバ・草槇	・松 ・檜 ・杉 ・能登ヒバ ・ラワン無節		・ラワン材 防虫処理
板材	・	・	・	

3）集成材 [6.5.2][表6.5.1]
造作用集成材

品名	見付け材面の品質	樹種名
	※１等 ・２等	※たも ・なら ・しおじ ・

化粧ばり造作用集成材

品名	見付け材面の品質	化粧薄板樹種名	化粧薄板の厚さ(mm)
	※１等 ・２等		

造作用単板積層材

品名	表面の品質	防虫処理
	・天然化木化粧 ・塗装加工あり ・化粧加工なし（ 等）	・する ・しない

設計	工事名	門前地区体育施設災害復旧工事		
株式会社 MAC建築研究所 管理建築士／一級建築士登録 第334732号 中村 健	図面名	建築改修工事仕様書 その３	図面番号	A-03

4）防腐・防蟻処理 [6.5.5]

防腐処理　・薬剤加圧注入　・薬剤塗布（適用範囲　　）

防蟻処理　・薬剤加圧注入　・薬剤塗布（適用範囲　　）

防腐・防蟻剤は、クロルピリホス等含まない非有機リン系の表面処理用木材保存剤とし、種類及び品質等が確認できる資料を監督職員に提出し承諾を受ける。

防腐・防蟻処理の方法

現場における加工が生じた場合には、加工した箇所に対し、現場にて表面処理用木材保存剤を塗布することとする。

5）防虫処理 [6.5.5]

ラワン材を使用する場合は、「製材の日本農林規格」による保存処理の性能区分Ｋ１の防虫処理を行う。

6）県産材使用証明 G [6.5.2]

木材及び合板等は、品質や出荷量等を記録した出荷証明書を提出する。

また、設計図書において、県産材の使用が明記されている場合は、工事受注者（資材の発注者）は、合法木材供給事業者の認定を受けた納品者が発行する「県産材産地及び合法木材証明書」及び「納品書」（合法木材団体認定番号及び産地名が（石川県産）と明記されたもの）を監督員に提出するものとする。

13　軽量鉄骨天井下地

1）形式及び寸法　ダブル野縁　・　mm [6.6.3]

ただし、建築基準法に基づき指定する条件により、定まる風圧力に対応した工法を1.2.2［施工計画書］による品質計画で定める。 [6.6.4]

2）工法 [6.6.4]

引抜き試験　・適用する　・適用しない

屋外の場合の試験

荷重　・400N

箇所数　・当該階において３箇所程度　・図示 [6.6.4]

天井下地材における耐震性を考慮した補強　・行う　補強箇所　※　図示　・

補強方法　※　図示　・

14　軽量鉄骨壁下地

1）形式及び寸法 [6.7.3][表6.7.1]

スタッド、ランナーの種類　・50形　・65形　・90形　・100形

※スタッドの高さによる区分に応じた種類

15　せっこうﾎﾞｰﾄﾞ、その他ﾎﾞｰﾄﾞ及び合板張り

[6.13.2][表6.13.1]

種　類		JISの記号	厚さ（mm）、規格等
・硬質木毛セメント板	G	HW	・15　・20　・25
・普通木毛セメント板	G	NW	・15　・20　・25
・ﾐﾃﾞｨｱﾑﾃﾞﾝｼﾃｨﾌｧｲﾊﾞｰﾎﾞｰﾄﾞ	G	MDF	・
・パーティクルボード	G	・	
・けい酸カルシウム板		0.8FK	タイプ２（無石綿）
・ロックウール化粧吸音板		DR	※フラットタイプ（※9　・12　・　　） ・凹凸タイプ（※12　・15　・19　・　）
・ロックウール化粧吸音板（軒天井用）			※フラットタイプ 9（（個）不燃） ・凹凸タイプ　（※12 ・15）（（個）不燃）
・せっこうボード		GB-R	12.5（不燃） （テーパーエッジボード施工箇所は図示）
・不燃積層せっこうボード		GB-NC	9.5（不燃）化粧無（下地張り用） 化粧有（トラバーチン模様）
・シージングせっこうボード		GB-S	12.5（（個）不燃）
・強化せっこうボード		GB-F	※12.5（不燃）・15.0（不燃）
・せっこうラスボード		GB-L	9.5
・化粧せっこうボード（木目）		GB-D	12.5（不燃）幅440mm程度 模様（※柾目　・板目）　凹用下地材付き
・メラミン樹脂化粧板			JIS K6903による　厚さ1.2
・難燃合板	G		

軽量鉄骨下地ボード遮音壁の遮音シール材 [6.13.2][表3.7.1]

※適用する　・適用しない

16　壁紙張り

施　工 [6.14.3]

素地ごしらえ [表7.3.4][表7.3.7]

下地の種類	素地ごしらえの種別
モルタル及びプラスター面	・A種　※B種
せっこうボード面	・A種　※B種

17　モルタル塗り

既製目地材　※適用しない　・適用する [6.15.3]

７章　塗　装　改　修　工　事

項　目	特　記　事　項
1　材料	屋内の壁・天井仕上げ材は、防火材料とする。
②　下地調整	既存塗膜の除去範囲（塗替えで「改修標仕」表7.2.1～表7.2.7のＲＢ種の場合）[7.2.1] ・　※劣化部分

下地調整 [表7.2.1～7]

下 地 の 種 類	種　別	施工箇所
木部	・RA種　※RB種　・RC種	
鉄鋼面	・RA種　※RB種　・RC種	
亜鉛めっき鋼面	・RA種　※RB種　・RC種	
モルタル及びプラスター面	・RA種　※RB種　・RC種	
コンクリート面等	・RA種　※RB種　・RC種	
せっこうﾎﾞｰﾄﾞ及びその他のﾎﾞｰﾄﾞ面	・RA種　※RB種　・RC種	

既存モルタル下地等のひび割れ部の補修

・行う（補修範囲及び補修方法は図示）　※行わない

③　素地ごしらえ

素地ごしらえ [表7.3.1～7]

下 地 の 種 類	種　別	施工箇所
木部	・A種　・B種	
鉄鋼面	・A種　・B種　※C種	
亜鉛めっき鋼面	・A種　・B種	
モルタル及びプラスター面	・A種　※B種	
コンクリート面等	・A種　※B種	
せっこうﾎﾞｰﾄﾞ及びその他のﾎﾞｰﾄﾞ面	・A種　⊙B種	

4　錆止め塗料塗り

ＳＯＰまたはＥＰ－Ｇの場合 [7.4.3][表7.4.3][表7.4.5]

下地の種類	塗替えの種別	新規塗りの種別	
鉄鋼面	・A種　・B種　※C種	見え掛り	※A種　・B種
		見え隠れ	・A種　※B種
亜鉛めっき面	・A種　・B種　※C種	鋼製建具等	※A種　・B種
		その他	・A種　※B種

ＤＰの場合 [7.4.3][表7.4.4][表7.4.6]

下地の種類	塗替えの種別	新規塗りの種別
鉄鋼面	・A種　・B種　・C種	※A種　・B種　・C種
亜鉛めっき面	・A種　・B種　※C種	表7.4.6による

⑤　合成樹脂調合ペイント塗り（ＳＯＰ）

[7.5.3～5][表7.5.1～3]

下地の種類	塗替えの種別			新規塗りの種別		
木部	・A種	※B種	・C種	※A種	・B種	下地調整は各表の注意書きによる
鉄鋼面	・A種	※B種	・C種	・A種	※B種	
亜鉛めっき面	鋼製建具等	※A種	・B種　・C種	※A種	・B種	
	その他	・A種	※B種　・C種			

6　ｸﾘｱﾗｯｶｰ塗り（ＣＬ）

塗替えの種別　・Ａ種　※Ｂ種 [7.6.2][表7.6.1]

新規塗りの種別　・Ａ種　※Ｂ種

7　アクリル樹脂系非水分散形塗料（ＮＡＤ）

[7.7.2][表7.7.1]

下地の種類	工程等	塗替えの種別			新規塗りの場合	
コンクリート、モルタル面等	下地調整	・RA種	※RB種	・RC種	「塗料その他」の欄による	
	塗り種別	・A種	※B種		・A種	※B種

8　耐候性塗料塗り（ＤＰ）

[表７．８．１～３]

下地の種類	塗替えの種別			新規塗りの場合		
・鉄鋼面	表7.8.1による					
・亜鉛めっき鋼面	表7.8.2による					
・コンクリート面 押出成形セメント板面	・A-1種	・A-2種		・A-1種	・B-1種	・C-1種
	・B-1種	・B-2種				
	・C-1種	・C-2種				

上塗り塗料　・１級　・２級　・３級

9　つや有合成樹脂ｴﾏﾙｼｮﾝﾍﾟｲﾝﾄ塗り（ＥＰ－Ｇ）

[7.9.2～5][表7.9.1～4]

下地の種類	塗替えの種別			新規塗りの場合	
・ｺﾝｸﾘｰﾄ面、ﾓﾙﾀﾙ面等	・A種	※B種	・C種	・A種	※B種
・木部	・A種	※B種	・C種	※A種	・B種
・鉄鋼面	・A種	※B種	・C種	※A種	
・亜鉛めっき鋼面	※A種	・B種		※A種	

10　合成樹脂ｴﾏﾙｼｮﾝﾍﾟｲﾝﾄ塗り（ＥＰ）

塗替えの種別　・A種　※B種　・C種 [7.10.2][表7.10.1]

新規塗りの種別　・A種　※B種

11　ｵｲﾙｽﾃｲﾝ塗り（ＯＳ）

[7.12.2]

適　用　箇　所	塗　料
・	・油性　・水性
・	・油性　・水性

12　ｳﾚﾀﾝ樹脂ﾜﾆｽ塗り（ＵＣ）

塗替えの種別　・A種　※B種 [7.11.2][表7.11.1]

新規塗りの種別　・A種　※B種

12　木材保護塗料塗り（ＷＰ）

種別　・A種　※B種 [7.13.2][表7.13.1]

８章　環境配慮改修工事

項　目	特　記　事　項
①　石綿含有建材の処理	1）事前調査 [1.5.1] あらかじめ関係法令等に基づき、石綿含有建材の事前調査を行う。 目視及び貸与する設計図書等により石綿含有建材の有無について調査する。 調査範囲　・　⊙図示 貸与資料　・

2）分析による石綿含有建材の調査　・行う　⊙行わない

分析方法

材　料　名	定性分析方法	定量分析方法
	・JIS A 1481-1 ・JIS A 1481-2	・JIS A 1481-3 ・JIS A 1481-4
	・　箇所	・　箇所
	・　箇所	・　箇所
	・　箇所	・　箇所

3）石綿粉じん濃度測定 [9.1.1]

・行う（下表による）　・行わない

測定室（　　）

適用	測定名称	測定時期	測定場所	測定点（各施工箇所ごと）
・	測定１	処理作業前	処理作業室内	・各２点　・各３点　（注１）
・	測定２		施工区画周辺又は敷地境界	・各２点（大気）
・	測定３	処理作業中	処理作業室内	・各２点
※	測定４		セキュリティーゾーン入口	・各１点
※	測定５		負圧・除じん装置の排出口（処理作業室外の場合）	出口吹出し風速1m/sec以下の位置　・各１点
・	測定６		施工区画周辺又は敷地境界	・４方向各１点
※	測定７	処理作業後（隔離シート撤去前）	処理作業室内	・各２点
・	測定８		施工区画周辺又は敷地境界	・４方向各１点（大気）

（注１）各施工箇所ごとの室面積が50㎡以下までは2点、300㎡以下までは3点とする。

300㎡を超えるものは、監督職員と協議する。

測定方法

・自動測定機による測定

測定名称	測　定　方　法
・測定４ ・測定５	粉じん相対湿度計（デジタル粉じん計）、パーティクルカウンター、繊維状粒子自動測定器（リアルタイムファイバーモニター）等の粉じんを迅速に測定できる機器を用いた測定

・JIS K 3850-1に基づいた測定

測定名称	ﾒﾝﾌﾞﾚﾝﾌｨﾙﾀ直径（mm）	試料の吸引流量（L/min）	試料の吸引時間（min）
・測定４ ・測定５ ・	25	5	・30 ・120
・測定 ・	45	10	・120
・測定 ・	45	10	・240
・測定 ・			

2　石綿含有吹付け材の除去

除去工法 [9.1.3]

・　※改修標仕9.1.3（2）(7)による工法

3　石綿含有保温材等の除去

除去工法 [9.1.4]

※手ばらし　・切断又は破砕

④　石綿含有成形板等の除去

養生　・不要　⊙要（方法：ビニールシート養生　） [9.1.5]

⑤　石綿含有仕上塗材の除去

除去工法 [9.1.6]

・高圧水洗工法（　　）

・剥離剤を用いる工法（　　）

⊙電気グラインダー等を用いる工法（ビニールシート養生、飛散抑制剤による湿潤処理）

・その他（　　）

⑥　石綿含有建材の処分

⊙安定型 [9.1.3～6]

種　類	受入施設の名称等	所在地
⊙石綿含有成形板等		金沢市

（注）施設の名称については、受注者が別に選定することを妨げるものではない。

・管理型 [9.1.3～6]

種　類	受入施設の名称等	所在地
・石綿含有吹付け材等		

（注）施設の名称については、受注者が別に選定することを妨げるものではない。

９章　リ　サ　イ　ク　ル　製　品

項　目	特　記　事　項
①　リサイクル製品の使用	1）リサイクル製品を使用するものは「石川県エコ・リサイクル認定製品」を優先的に使用すること。 石川県エコ・リサイクル認定製品　・使用する

使用箇所	製品	備考
路盤	リサイクル砕石	RC-40

「石川県エコ・リサイクル認定製品」は、石川県のホームページを参照する。

http://www.pref.ishikawa.jp/（石川県　生活環境部　資源循環推進課）

2）その他、リサイクル製品の使用に努めるものとする。

3）建設副産物リサイクル製品を使用した場合、下記掲示板を設置する。（但し、工事請負代金が1,000万円以上のもの）

看板の寸法は９０ｃｍ×６０ｃｍ程度とする。

この建築工事ではリサイクル製品として
○○○○○○○○、○○○○○○○○○
を使用しています。

R
建設副産物リサイクル
シンボルマーク

石 川 県 土 木 部 営 繕 課

（注）建設副産物シンボルマークのデザインは監督員に確認すること

10章　そ　の　他

項　目	特　記　事　項
①　いしかわ週休２日工事	工事現場において週休２日に取り組む「いしかわ週休２日工事」（以下、「週休２日工事」という。）の適用については、次のとおりとする。 なお、週休２日工事の定義(様式)等については、石川県土木部監理課技術管理室ＨＰの「いしかわ週休２日工事　実施要領」を参照すること。 （１）当初設計において、週単位の週休２日にかかる補正係数を乗じている。 （２）受注者は、工事現場に週休２日に取り組むことを記載した工事看板を設置すること。 （３）受注者は、現場着手前に休日取得［計画］表を作成し、監督員に提出・共有すること。 （４）受注者は、工程に大幅な変更が生じた場合は休日取得［計画］表を修正し、監督員に提出・共有すること。 （５）受注者は、工期最終日までに、休日取得［実績］表を記入し、監督員に提出すること。 （６）分離発注工事の場合に、各発注工事単位で、現場事務所での作業を含めて１日を通して現場作業が無い状態も「現場閉所」とみなす。 （７）発注者は、現場閉所の達成状況を確認し、週単位の週休２日に満たない場合は、月単位の週休２日（４週８休相当）の補正に減額するものとし、月単位の週休２日（４週８休相当）に満たない場合は、補正分を減額するものとする。 なお、週休２日の確保が確認できなかった場合であっても、工事成績評定で減点評価は行わない。
②　余裕期間制度試行工事	1）余裕期間制度対象工事の内容 （１）本工事は、円滑な工事施工体制の確保を図るため、全体工期の範囲内で受注者が工事の着手及び完成日を設定することができる工事であり、建設工事に係る余裕期間制度（フレックス方式）試行要領に基づき実施するものとする。 （２）受注者は、契約締結日から着工日の期限までの間で、休日を除く任意の日を着工日として設定することができる。 （３）受注者は、完成日の期限までの間で、休日を除く任意の日を完成日として設定することができる。 （４）工期は受注者が任意で設定した着工及び完成日を記載する。 （５）受注者は、契約時に現場代理人及び主任技術者選任届を発注者に提出しなければならない。 （６）受注者は、着工日までの余裕期間内に工事（工場製作、測量、資材の搬入、仮設物や現場事務所の設置等の準備工を含む。）に着手してはならない。ただし、現場に搬入しない資機材の準備及び労働者の手配は、この限りでない。 （７）受注者は、余裕期間の間は、現場代理人及び主任（監理）技術者の配置を要しない。 （８）受注者は、着工日までに施工計画書を提出するものとする。 （９）余裕期間制度の適用により増加する費用は、受注者の負担とする。 （10）その他、この特記仕様書に定めのないことについては、建設工事に係る余裕期間制度（フレックス方式）試行要領によるものとする。 （着工日の期限）　契約締結日から起算して○ヶ月以内

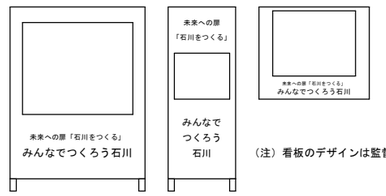
3　イメージアップ看板

・設置する

・設置しない（別途工事で設置等）

※監督員へ提案・協議し、設置することができる（設置費は受注者負担とする）

【参考図】



（注）看板のデザインは監督員に確認すること

4　情報共有システム

石川県建設工事情報共有システム実施要領（営繕工事編）に基づく。

https://www.pref.ishikawa.lg.jp/eizen/kijun/kijun.html

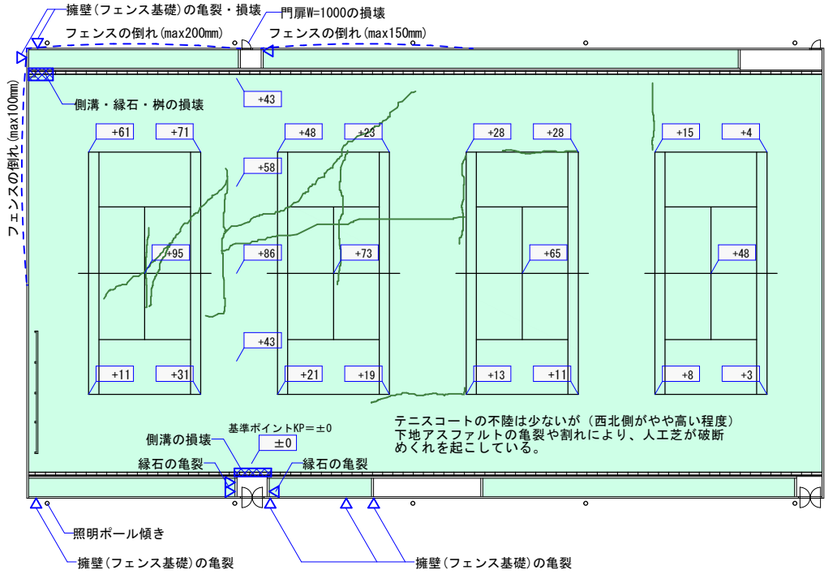
・利用する（発注者指定型）

※現場着手前に発注者と協議し、利用することができる（施工者希望型）

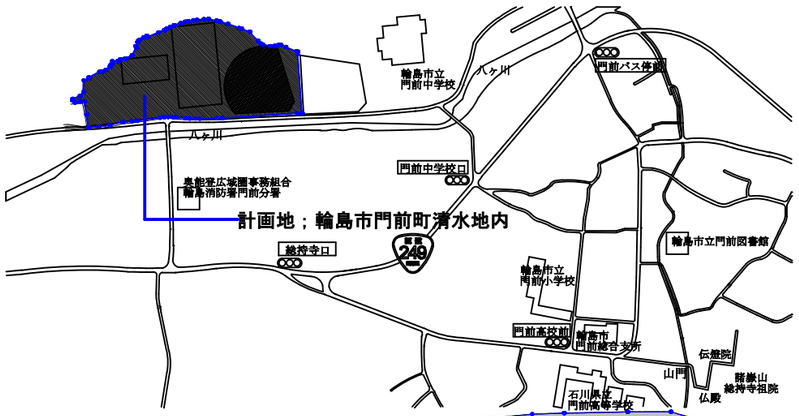
改訂履歴

平成14年４月１日
平成15年７月１日
平成15年10月１日
平成16年４月１日
平成17年４月１日
平成17年６月１日
平成18年４月12日
平成18年７月３日
平成19年10月１日
平成20年４月１日
平成21年４月１日
平成21年８月１日
平成22年４月６日
平成23年４月１日
平成24年４月１日
平成25年４月１日
平成26年４月１日
平成27年４月１日
平成28年４月１日
平成29年４月１日
平成29年７月１日
平成30年４月１日
令和２年４月１日
令和３年４月１日
令和３年５月１日
令和４年４月１日
令和５年４月１日
令和６年７月１日
令和６年10月１日
令和７年４月１日

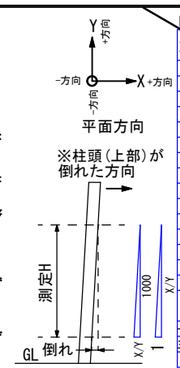
設　計	工事名	門前地区体育施設災害復旧工事
株式会社 MAC建築研究所 管理建築士／一級建築士登録 第324732号 中村 健	図面名	建築改修工事仕様書　その４
	図面番号	A-04



↑門前テニスコート平面図　S=1/300(A1),1/600(A3)



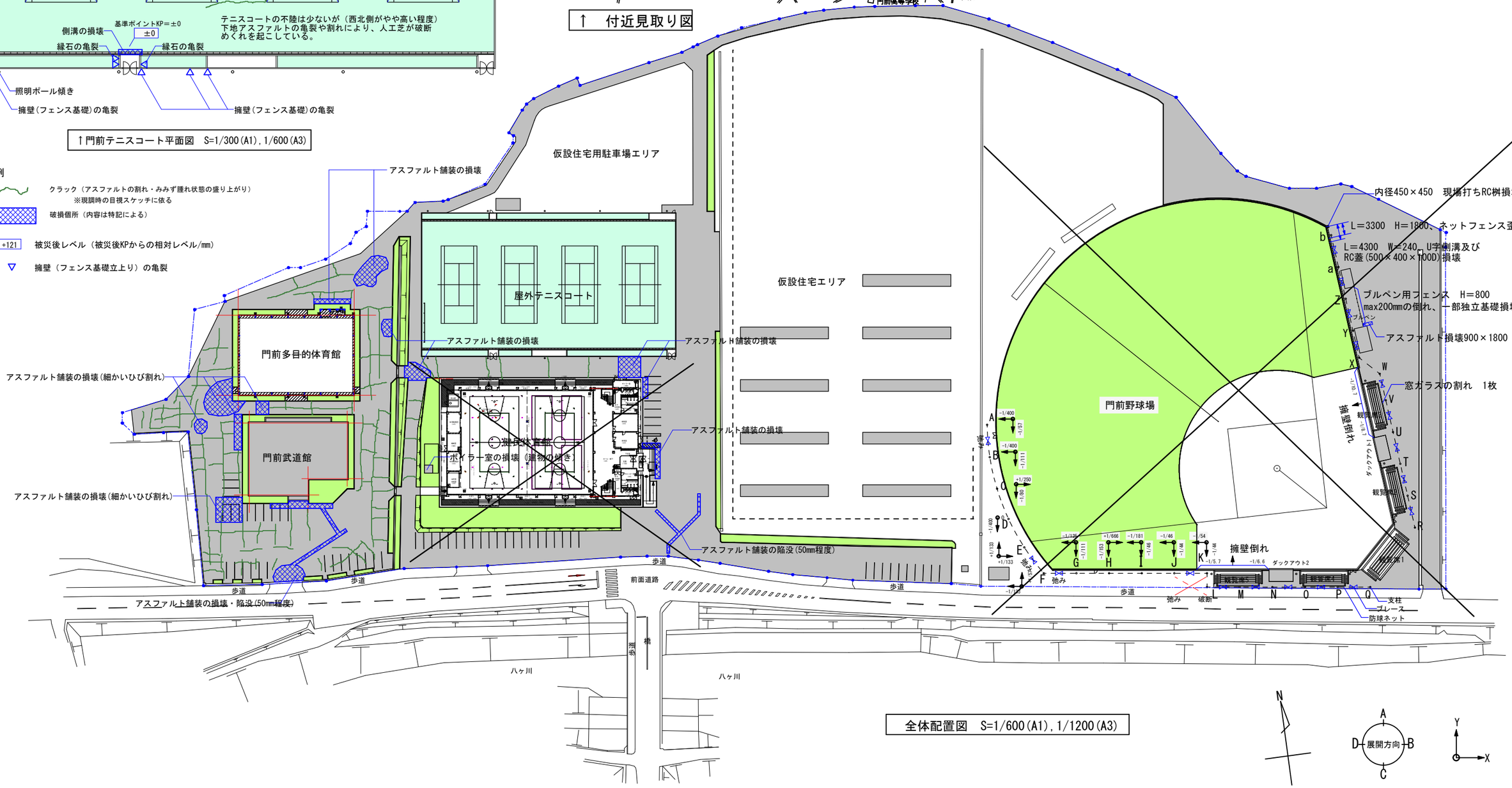
↑　付近見取り図



防球フェンス・ラバー付き擁壁+フェンス　倒れ測定表

支柱記号	測定H (mm)	X方向 倒れmm	X方向 X/1000	X方向 1/X	Y方向 倒れmm	Y方向 Y/1000	Y方向 1/Y	ブレース	防球ネット
A	2000	−5	−2.5/1000	1/−400	−35	−17.5/1000	1/ −57	タスキ掛け双方弛み	
B	2000	−5	−2.5/1000	1/−400	−18	−9.0/1000	1/ −111		
C	2000	+8	+4.0/1000	1/+250	−25	−12.5/1000	1/ −80		外れ・たわみ有り
D	2000	0	0/1000	0/1000	−5	−2.5/1000	1/−400		
E	2000	+15	+7.5/1000	1/+133	+15	+7.5/1000	1/+133	タスキ掛け双方弛み	
F	2000	−15	−7.5/1000	1/−133	+35	+17.5/1000	1/ +57	タスキ掛け双方弛み	
G	2000	−16	−8.0/1000	1/−125	−18	−9.0/1000	1/ −111		外れ無し
H	2000	+3	+1.5/1000	1/+666	−13	−6.5/1000	1/ −153		外れ無し
I	2000	−11	−5.5/1000	1/−181	−43	21.5/1000	1/ −46		外れ無し
J	2000	−43	−21.5/1000	1/ −46	−45	−22.5/1000	1/ −44	タスキ掛け片方弛み	外れ無し
K	2000	−37	−18.5/1000	1/ −54	−45	−22.5/1000	1/ −44	タスキ掛け片方破断	外れ無し
L～Q	目視で健全（補修済に思われる）							タスキ掛け弛み無し	外れ無し
R～W	目視で健全（補修済に思われる）							タスキ掛け弛み無し	外れ無し
X～b	目視で健全（補修済に思われる）							タスキ掛け弛み無し	外れ無し

	測定H (mm)	バックネット側 倒れmm	X/1000	1/X	外野側 倒れmm	Y/1000	1/Y	備考
一塁側擁壁	800	92	115/1000	1/ 8.7	75	93/1000	1/10.7	倒れ幅＝22200mm
三塁側擁壁	800	120	150/1000	1/ 6.6	140	175/1000	1/ 5.7	倒れ幅＝22200mm



全体配置図　S=1/600(A1),1/1200(A3)

株式会社 MAC建築研究所 管理建築士／一級建築士登録 第334732号 中村　健	■製作年月日/DATE 2025.09	■担当/CHECK D.SATO	■製図/DRAWER D.SATO	■特記事項 輪島市より受領した配置図は、敷地形状・建物配置共に、現状とかなりの相違があるため、航空写真を基に再作成している。	■工事名称/CONSTRUCTION-TITLE 門前地区体育施設災害復旧工事	■図面名称/DRAWING-TITLE 配置図（改修前/現況図）、付近見取り図	■縮尺/SCALE 1/600 (A1) 1/1200 (A3)	■図番/No. A－07

門前多目的体育館・門前武道館廻り外構撤去リスト

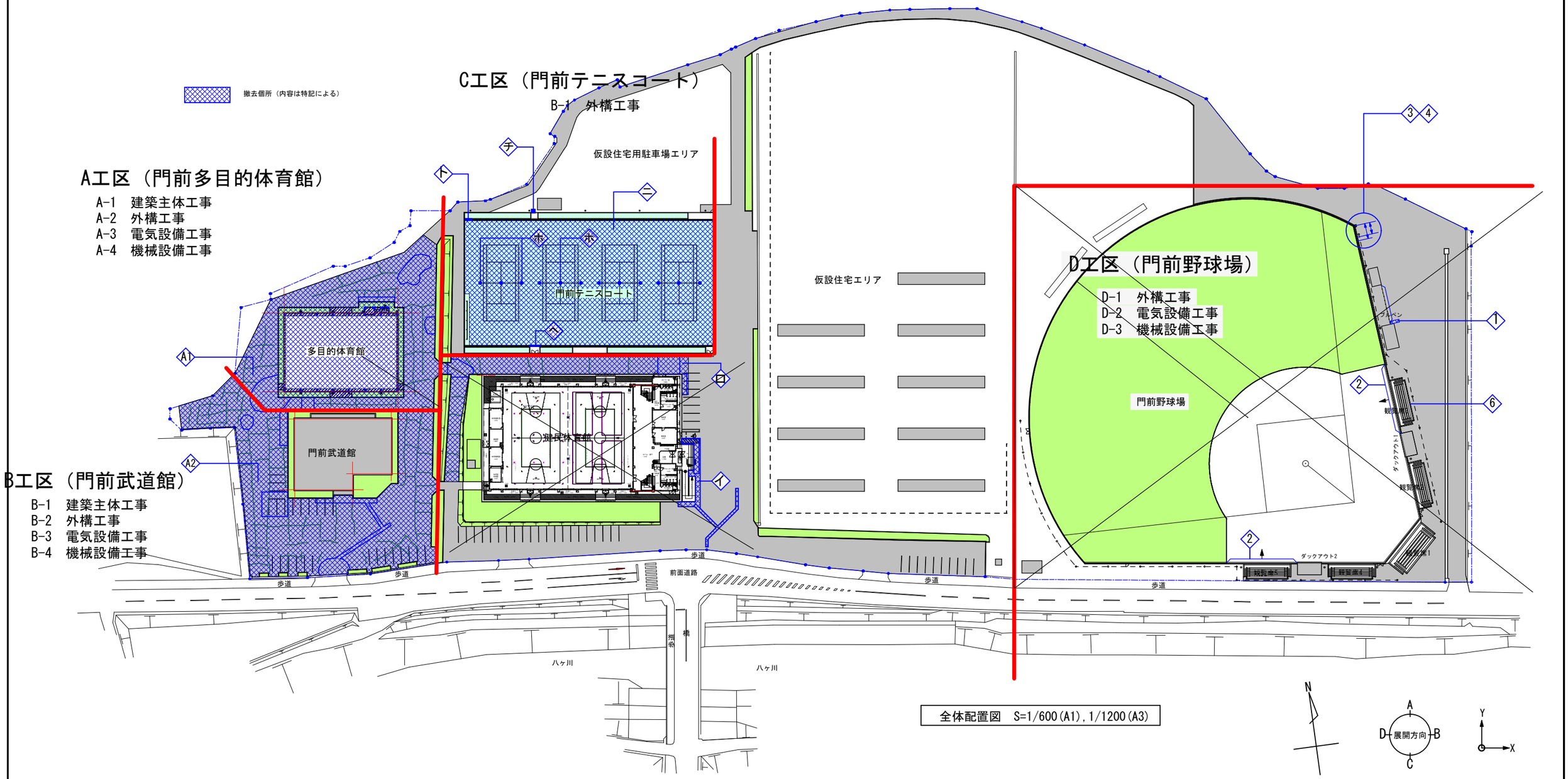
記号	名称	内容	（参考数量）	備考・詳細図記号
A1	アスファルト舗装撤去	アスファルト舗装t=50、撤去・処分 端部カッター入れ	1340.0m2 5.10m	
A2	アスファルト舗装撤去	アスファルト舗装t=50、撤去・処分	2278.6m2	

健民体育館・門前テニスコート廻り外構撤去リスト

記号	名称	内容	（参考数量）	備考・詳細図記号
イ	アスファルト舗装撤去	アスファルト舗装t=50、撤去・処分 端部カッター入れ	80.3m2 98.10m	
ロ	アスファルト舗装撤去	アスファルト舗装t=50、撤去・処分 端部カッター入れ	643.4m2 23.50m	
ニ	アスファルト舗装撤去 砂入り人工芝撤去	既設砂入り人工芝+密粒度アスコンt=50、撤去・処分 端部カッター入れ（壁打ち板廻り）	2995m2 17.50m	詳細図 ニ
ホ	テニスネットポスト及び センター金具基礎撤去	テニスネットポスト金具基礎、撤去・処分 センター金具基礎、撤去・処分	4組（8箇所） 4組（4箇所）	詳細図 ホ
ヘ	U字溝撤去	U240コンクリート蓋共、撤去・処分	3.6m	詳細図 ヘ
ト	U字溝及び 現場打ちRC雨水桝撤去	U240コンクリート蓋共、撤去・処分 内径450×450グレーチング蓋共、撤去・処分	1.5m 1箇所	詳細図 ト
チ	スチール門扉撤去	W1000×H1200支柱共、撤去・処分	1箇所	詳細図 チ

門前野球場廻り外構撤去リスト

記号	名称	内容	（参考数量）	備考・詳細図記号
1	アスファルト舗装撤去	アスファルト舗装t=50、撤去・処分 端部カッター入れ	1.52m2 5.4m	
2	内野フェンス・擁壁撤去 （観覧席3・5部分）	T型コンクリート擁壁・フェンス・U240・クッションウォール撤去・処分 仮囲い共	22.2m×2	詳細図 2
3	雨水桝・U字溝撤去	現場打ちRC雨水桝（内径450×450）、撤去・処分 U字溝（U240）及びRC蓋（500×400×100d）撤去・処分 アスファルト舗装t=50、撤去・処分　2.40m2　端部カッター入れ	1箇所 4.80m	詳細図 3
4	スチールネットフェンス 撤去	スチールネットフェンス（H=2000）及び独立基礎、撤去・処分	3.3m	詳細図 4
6	窓ガラス撤去	型板ガラスt=4（800×450）、撤去・処分	0.36m2	



全体配置図　S=1/600(A1),1/1200(A3)

株式会社 MAC建築研究所 管理建築士／一級建築士登録 第334732号 中村　健	■製作年月日/DATE 2025.09	■担当/CHECK D.SATO	■製図/DRAWER D.SATO	■特記事項	■工事名称/CONSTRUCTION-TITLE 門前地区体育施設災害復旧工事	■図面名称/DRAWING-TITLE 配置図（撤去キープラン）	■縮尺/SCALE 1/600 (A1) 1/1200 (A3)	■図番/No. A－08

門前多目的体育館・門前武道館廻り外構改修リスト

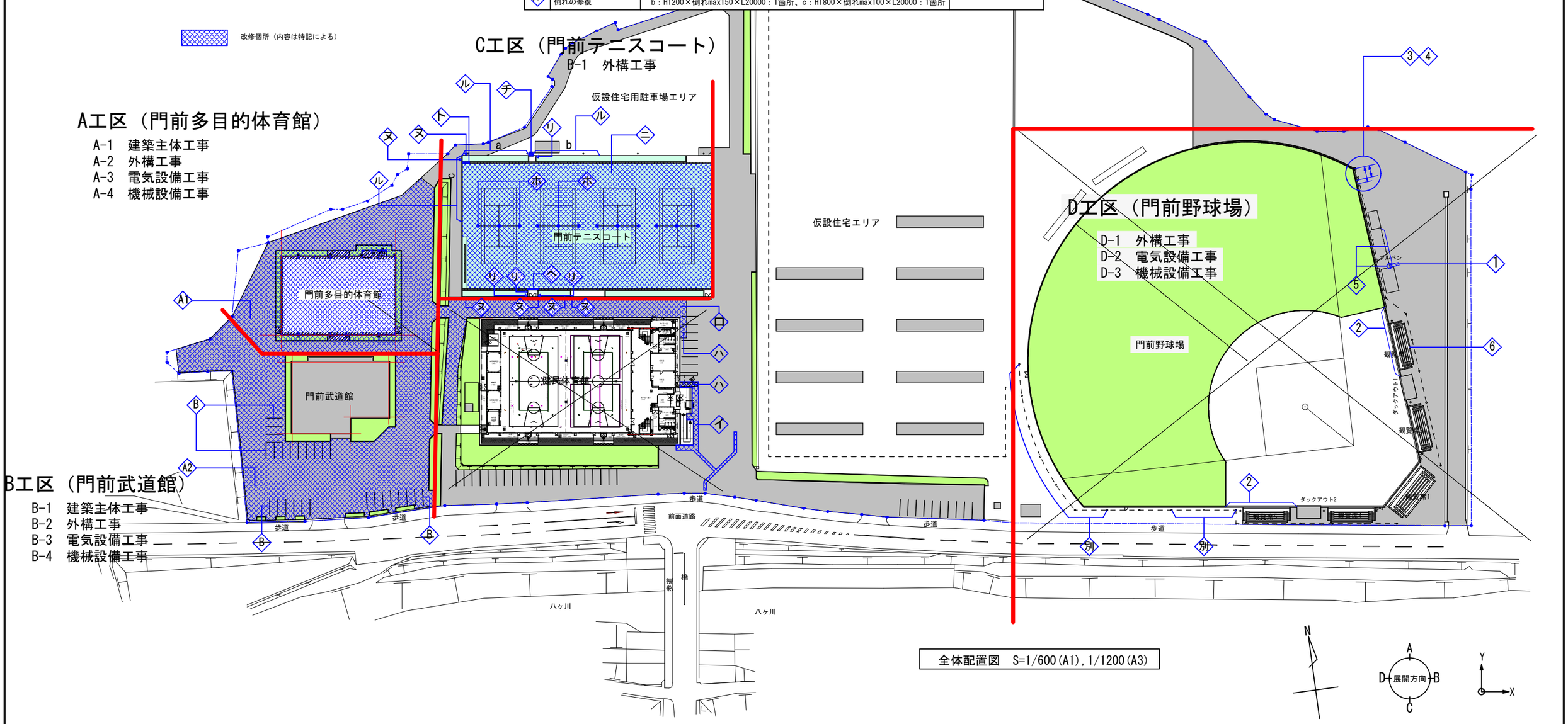
記号	名称	内容	（参考数量）	備考・詳細図記号
A1	アスファルト舗装 既設路盤再転圧	アスファルト舗装（密粒度アスコン）t=50 リサイクル砕石追加 13.40m3 既設路盤再転圧	1340.0m2 1340.0m2	追加砕石 10mm(平均)
A2	アスファルト舗装 既設路盤再転圧	アスファルト舗装（密粒度アスコン）t=50 リサイクル砕石追加 26.88m3 既設路盤再転圧	2278.6m2 2278.6m2	追加砕石 陥没部＝50mm その他＝10mm(平均)
B	白線引き	トラフィックペイント（白）W=120×L5000×27本	135.0m	

健民体育館・門前テニスコート廻り外構改修リスト

記号	名称	内容	（参考数量）	備考・詳細図記号
イ	アスファルト舗装 既設路盤再転圧	アスファルト舗装（密粒度アスコン）t=50 リサイクル砕石追加 4.02m3 既設路盤再転圧	80.3m2 80.3m2	追加砕石 陥没部＝50mm その他＝10mm(平均)
ロ	アスファルト舗装 既設路盤再転圧	アスファルト舗装（密粒度アスコン）t=50 リサイクル砕石追加 6.43m3 既設路盤再転圧	643.4m2 643.4m2	追加砕石 陥没部＝50mm その他＝10mm(平均)
ハ	白線引き	トラフィックペイント（白）W=120	27.7m	
ニ	テニスコート路盤及び 人工芝再構築	砂入り人工芝+密粒度アスコンt=50、 路盤工：レベル調整の上、粒調砕石t=30再転圧 ライン工：テニスコート4面共	2995m2	詳細図 ニ
ホ	テニスネットポスト及び センター金具再構築	テニスネットポスト金具基礎設置 センター金具基礎設置	4組 （8箇所） 4組 （4箇所）	詳細図 ホ
ヘ	U字溝再構築	U240コンクリート蓋共	3.6m	詳細図 ヘ
ト	U字溝及び 現場打ちRC雨水桝再構築	U240コンクリート蓋共 内径450×450グレーチング蓋共	1.5m 1箇所	詳細図 ト
チ	スチール門扉再構築	W1000×H1200支柱共	1箇所	詳細図 チ
リ	縁石亀裂部修復	縁石（W150×H200程度）亀裂欠け部分除去の上、 無収縮モルタル充填コテ押え	4箇所	詳細図 リ
ヌ	フェンス基礎 亀裂部分修復	亀裂欠け・浮き部分コンクリート除去の上、 15mmふかし型枠設置、無収縮モルタル充填コテ押え	6箇所	詳細図 ヌ
ル	スチールネットフェンス 倒れの修復	人力てこ起こし a：H1200×倒れmax200×L20000：1箇所 b：H1200×倒れmax150×L20000：1箇所、c：H1800×倒れmax100×L20000：1箇所		

門前野球場廻り外構改修リスト

記号	名称	内容	（参考数量）	備考・詳細図記号
1	アスファルト舗装 既設路盤再転圧	アスファルト舗装（密粒度アスコン）t=50 リサイクル砕石追加 0.076m3 既設路盤再転圧	1.52m2 1.52m2	追加砕石 陥没部＝50mm その他＝10mm(平均)
2	内野フェンス・擁壁の 再構築	T型コンクリート擁壁・フェンス・U240・クッションウォール再構築 仮囲い共、U字溝安全蓋は再利用	22.2m×2	詳細図 2
3	雨水桝・U字溝再構築	現場打ちRC雨水桝（内径450×450）再構築 U字溝（300B）及びRC蓋（500×400×100d）再構築	1箇所 4.3m	詳細図 3
4	スチールネットフェンス 再構築	スチールネットフェンス（H=2000）及び独立基礎共	3.3m	詳細図 4
5	スチールネットフェンス 歪み直し、基礎再構築	スチールネットフェンス（H=800）の歪み直し※最大倒れ200mm 独立基礎再構築（現場打ち200×200×350）	12.0m 1箇所	詳細図 5
6	窓ガラス交換	型板ガラスt=4（800×450）、四周シーリング（変性シリコン両面）共	0.36m2	
別	防球フェンスの復旧	支柱・ネット・ワイヤーブレースの張り替え		別途工事（先行発注）

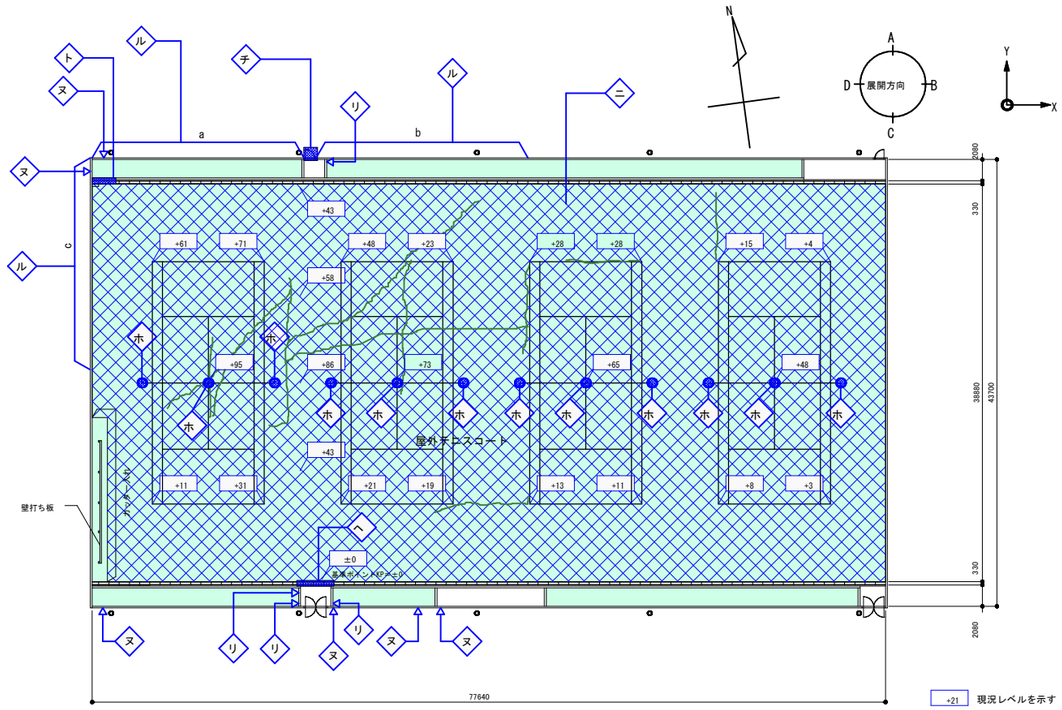


全体配置図 S=1/600(A1),1/1200(A3)

株式会社 MAC建築研究所 管理建築士／一級建築士登録 第334732号 中村 健	■製作年月日/DATE 2025.09	■担当/CHECK D.SATO	■製図/DRAWER D.SATO	■特記事項	■工事名称/CONSTRUCTION-TITLE 門前地区体育施設災害復旧工事	■図面名称/DRAWING-TITLE 配置図（改修キープラン）	■縮尺/SCALE 1/600 (A1) 1/1200 (A3)	■図番/No. A－09

ニ ～ ル　キープラン

1/300 (A1)
1/600 (A3)

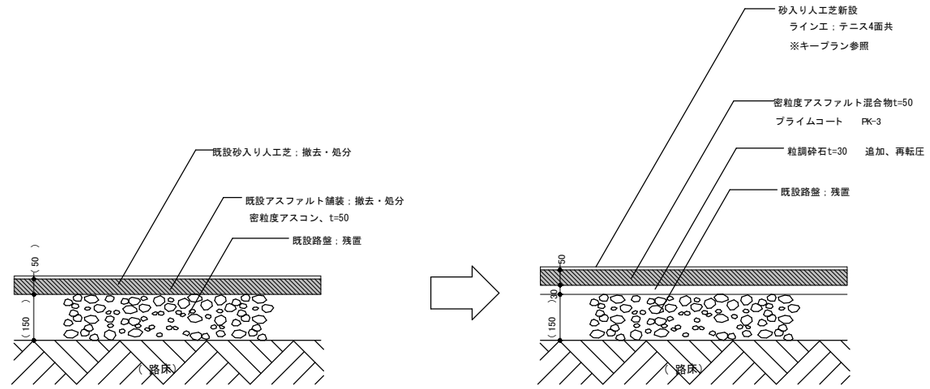


※屋外テニスコート改修レベルは、現況レベル（南北側溝レベル）にあわせ
中央を水上として、水勾配を確保すること。（但し不陸は調整のこと）

ニ　テニスコート路盤及び人工芝撤去・再構築　詳細図

1/10 (A1)
1/20 (A3)

※(　) 寸法表記は、推定値とする



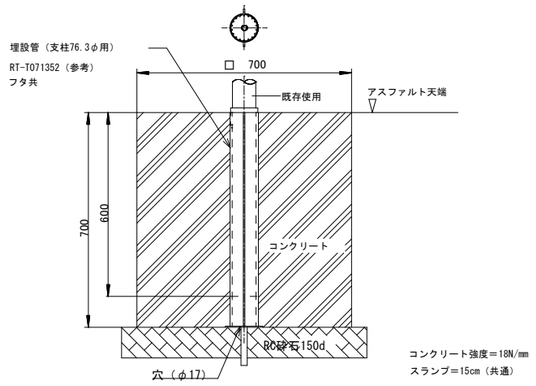
※1　人工芝は直近5年（2020-2025）国体会場使用施設のうち2大会会場以上を施工しているメーカーの製品を使用すること

※2　本工事で使用する砂入り人工芝は日本テニス協会（JTA）コートの公認・推薦メーカーの製品であること

※3　（財）日本ソフトテニス連盟（JSTA）公認の砂入り人工品芝製造事業の製品であること

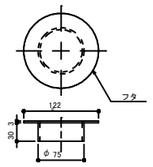
ホ　テニスネットポスト及びセンター金具撤去・再構築　詳細図

1/5、1/10 (A1)
1/10、1/20 (A3)

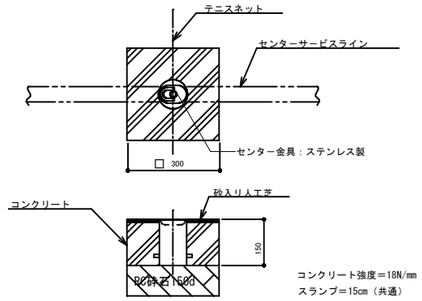


コンクリート強度＝18N/mm
スランプ＝15cm（共通）

テニス支柱基礎　埋設管及び基礎の再構築　1/10 (A1)

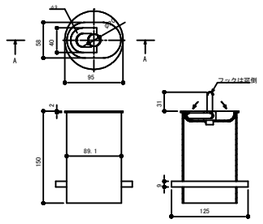


フタ参考図　1/5 (A1)



コンクリート強度＝18N/mm
スランプ＝15cm（共通）

センターガードの再構築　1/10 (A1)



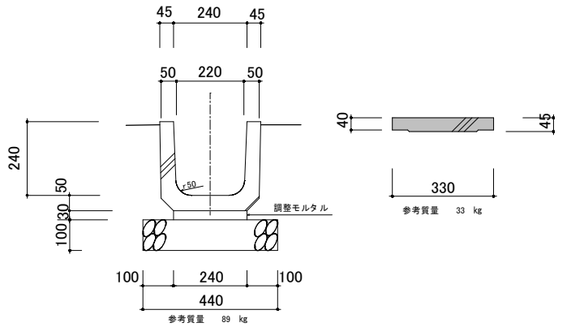
センター金具　1/5 (A1)

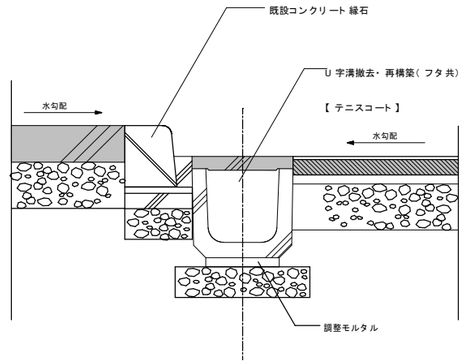
ヘ　U字溝撤去・再構築　詳細図

1/10 (A1)
1/20 (A3)

U-240　　蓋付
製品長　L=1.00m

U-240×L＝600/1000コンクリート二次製品
コンクリート蓋：t=45、L＝600/1000





断面図

10.0m　　当たり材料表

項　目	単位	数量
本　体	個	10.0
コンクリート 蓋	枚	10.0
基礎砕石	m^2	4.4
モルタル	m^3	0.07

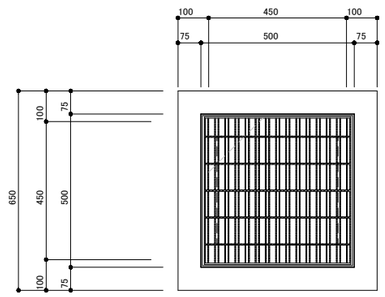
株式会社　MAC　建築研究所
管理建築士／一級建築士登録 第334732号 中村　健

■製作年月日/DATE	■担当/CHECK	■製図/DRAWER	■特記事項	■工事名称/CONSTRUCTION-TITLE	■図面名称/DRAWING-TITLE	■縮尺/SCALE	■図番/No.
2025.09	D.SATO	D.SATO		輪島市門前総合運動公園災害復旧工事（門前テニスコート）	外構部分詳細図（1）	1/5 他（A1） 1/10 他（A3）	A ―10

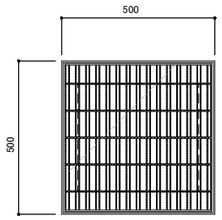
ト　U字溝及び現場打RC雨水桝撤去・再構築　詳細図

1/10 (A1)
1/20 (A3)

U字溝部分は　詳細図　へ　を参照のこと



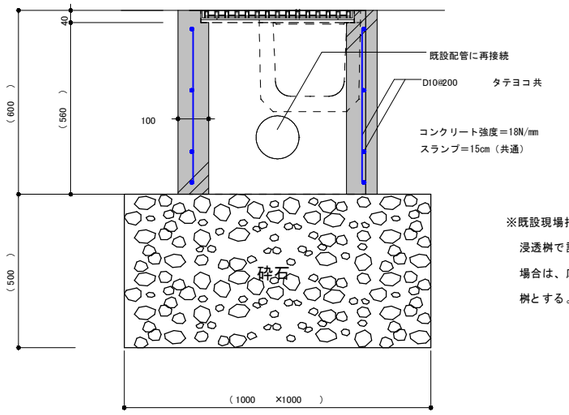
平面図



細目 T-2

（グレーチング蓋）

※(　) 寸法表記は、推定値とする



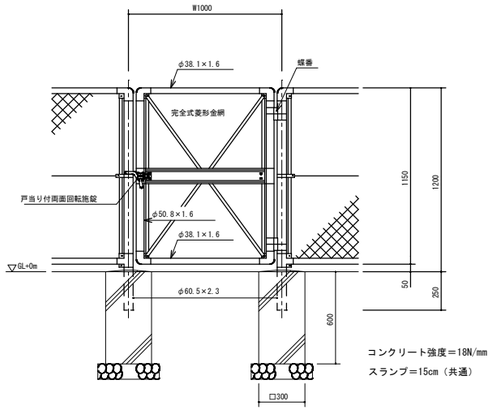
側面図

※既設現場打コンクリート 桝の図面がないため
浸透桝で設計しているが、既設桝が溜めますの
場合は、底盤を撤去し既設砕石を利用し、浸透
桝とする。

チ　スチール門扉撤去・再構築　詳細図

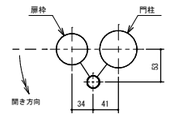
1/20 (A1)
1/40 (A3)

ＰＣ片開き門扉
Ｈ１２００×Ｗ１０００
（昭和５７年改正の建築基準法・同施行令に基づく風圧力 ＧＬ＋０ｍ に依る）



コンクリート強度＝18N/mm
スランプ＝15cm（共通）

門柱・扉枠位置関係図

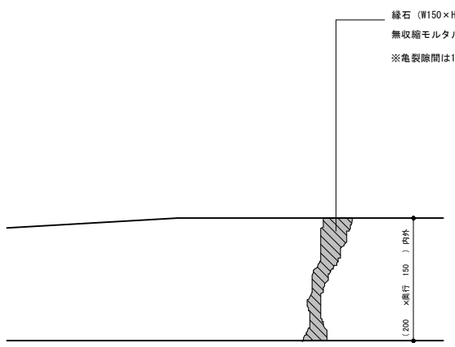


設計条件
設計荷重・・・昭和５７年改正の建築基準法・同施行令に基づく
風圧力に依る。
基礎条件・・・長期許容地耐力　９８ｋＮ／ｍ²（１０ｔ／ｍ²）

備考
1.　外装は金網類を除く他は溶融亜鉛めっきとする。
2.　本図門扉は片側１８０°開きとする。

リ　縁石亀裂部修復　詳細図

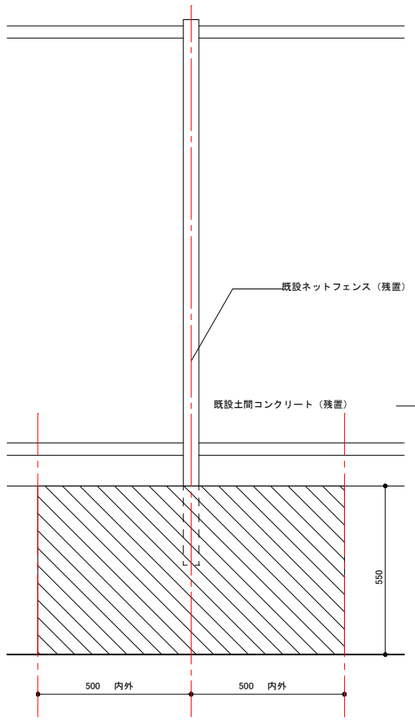
1/5 (A1)
1/10 (A3)



被災状況

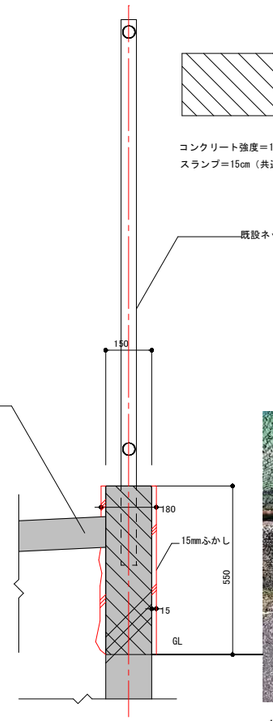
ヌ　フェンス基礎亀裂部修復　詳細図

1/10 (A1)
1/20 (A3)



部分を斫り取り（鉄筋・フェンスは残置）
型枠設置の上、コンクリート打ち直し（15mmふかし）
※打継部分は目粗しのこと

コンクリート強度＝18N/mm
スランプ＝15cm（共通）



被災状況

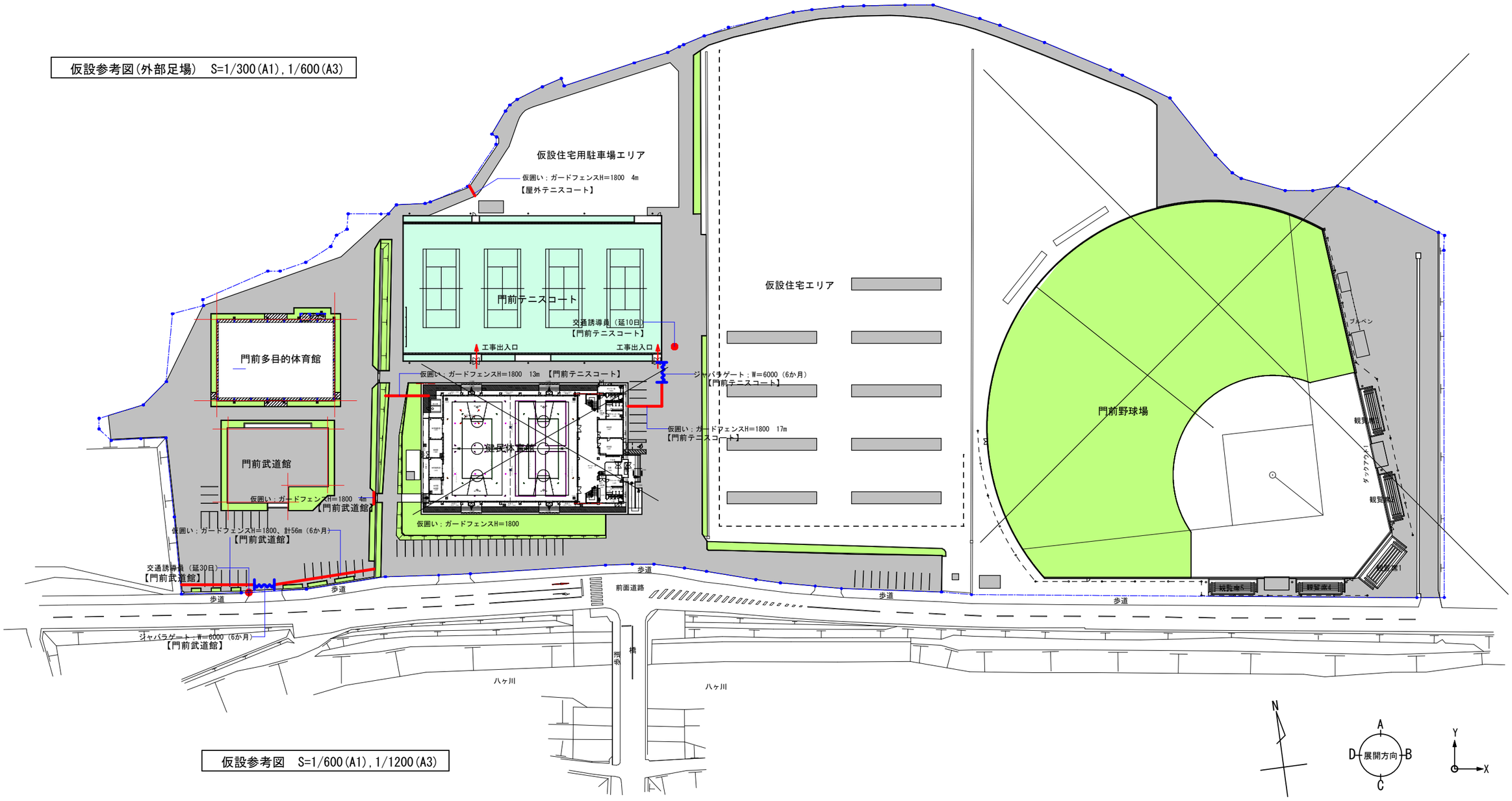
株式会社　MAC　建築研究所
管理建築士／一級建築士登録 第334732号 中村　健

■製作年月日/DATE	■担当/CHECK	■製図/DRAWER	■特記事項	■工事名称/CONSTRUCTION-TITLE	■図面名称/DRAWING-TITLE	■縮尺/SCALE	■図番/No.
2025.09	D.SATO	D.SATO		輪島市門前総合運動公園災害復旧工事（門前テニスコート）	外構部分詳細図（2）	1/10　他（A1） 1/20　他（A3）	A　―１１

凡例

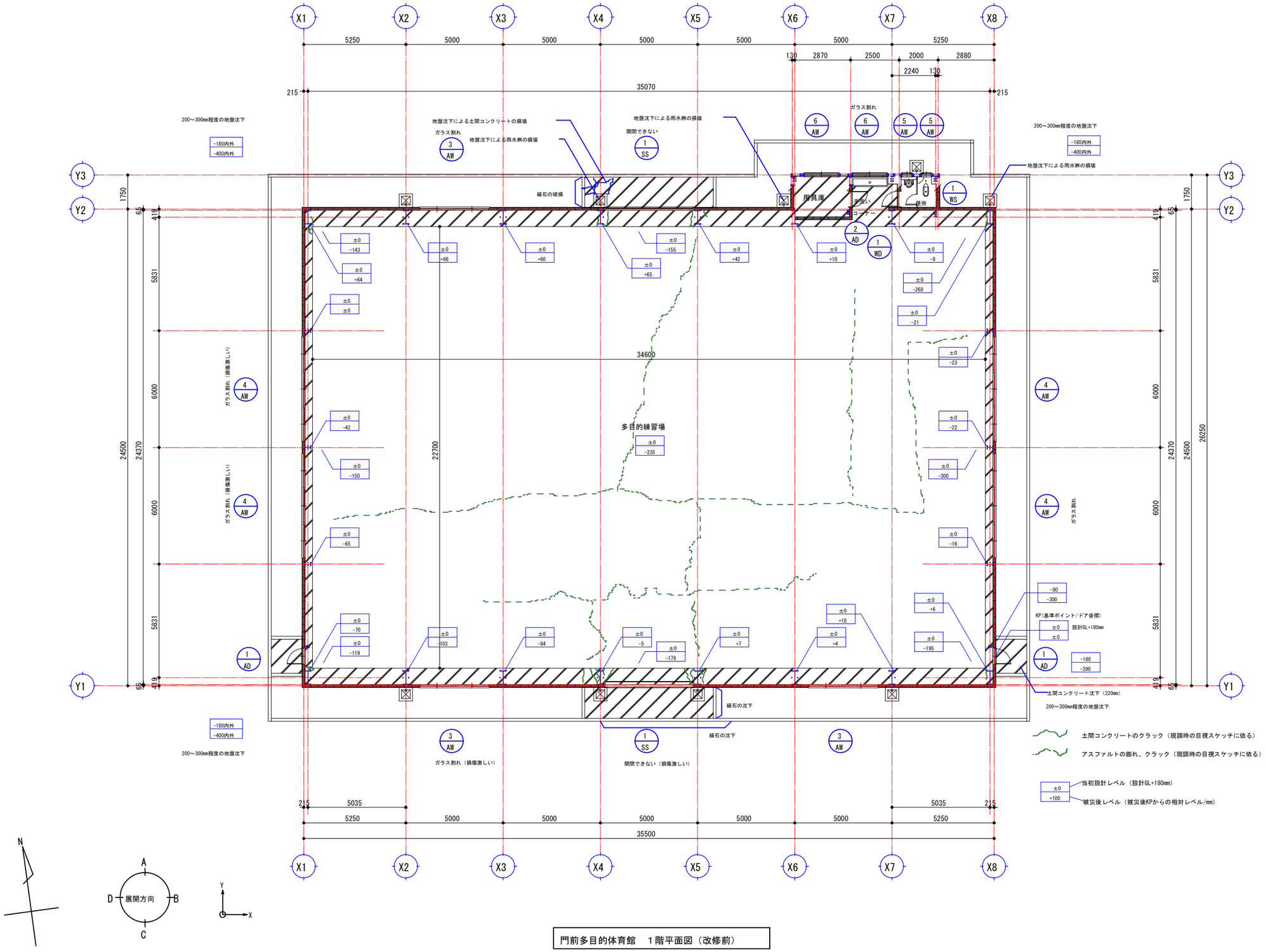
- 足場（参考図）
- 足場及びアスベスト飛散防止養生範囲（参考図）
- アスベスト飛散防止養生範囲（参考図）

仮設参考図(外部足場)　S=1/300(A1),1/600(A3)



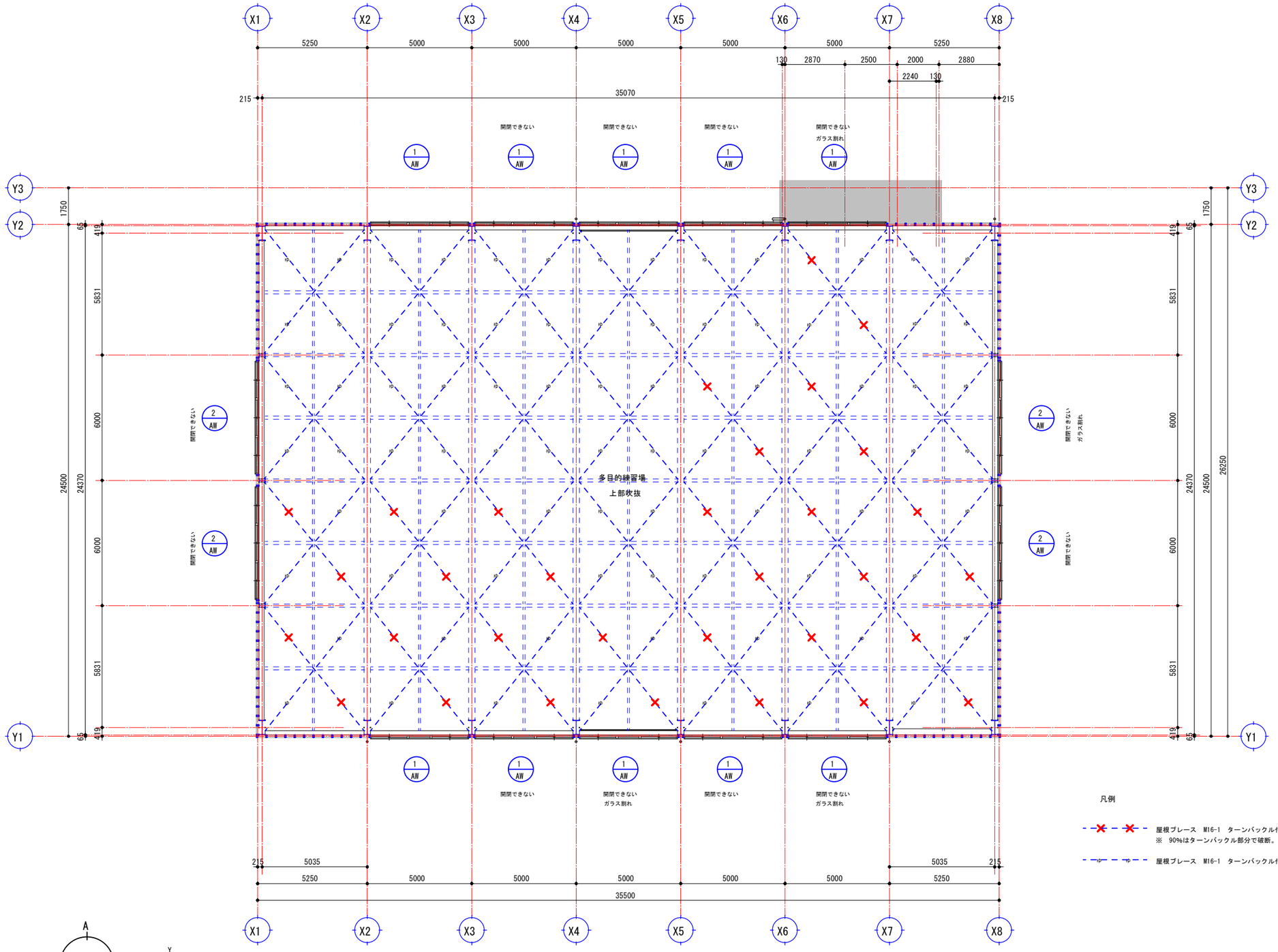
仮設参考図　S=1/600(A1),1/1200(A3)

株式会社 MAC建築研究所 管理建築士／一級建築士登録 第334732号 中村 健	■製作年月日/DATE 2025.09	■担当/CHECK D.SATO	■製図/DRAWER D.SATO	■特記事項 輪島市より受領した配置図は、敷地形状・建物配置共に、現状とかなりの相違があるため、航空写真を基に再作成している。	■工事名称/CONSTRUCTION-TITLE 門前地区体育施設災害復旧工事	■図面名称/DRAWING-TITLE 配置図（仮設参考図）	■縮尺/SCALE 1/600（A1） 1/1200（A3）	■図番/No. A－15



門前多目的体育館　１階平面図（改修前）

株式会社 MAC 建築研究所 管理建築士／一級建築士登録 第334732号 中村 健	■製作年月日/DATE 2025.09	■担当/CHECK D.SATO	■製図/DRAWER D.SATO	■特記事項	■工事名称/CONSTRUCTION-TITLE 輪島市門前総合運動公園災害復旧工事（門前多目的体育館）	■図面名称/DRAWING-TITLE 多目的体育館　１階平面図（改修前）	■縮尺/SCALE １/１００（A1） １/２００（A3）	■図番/No. A －１６



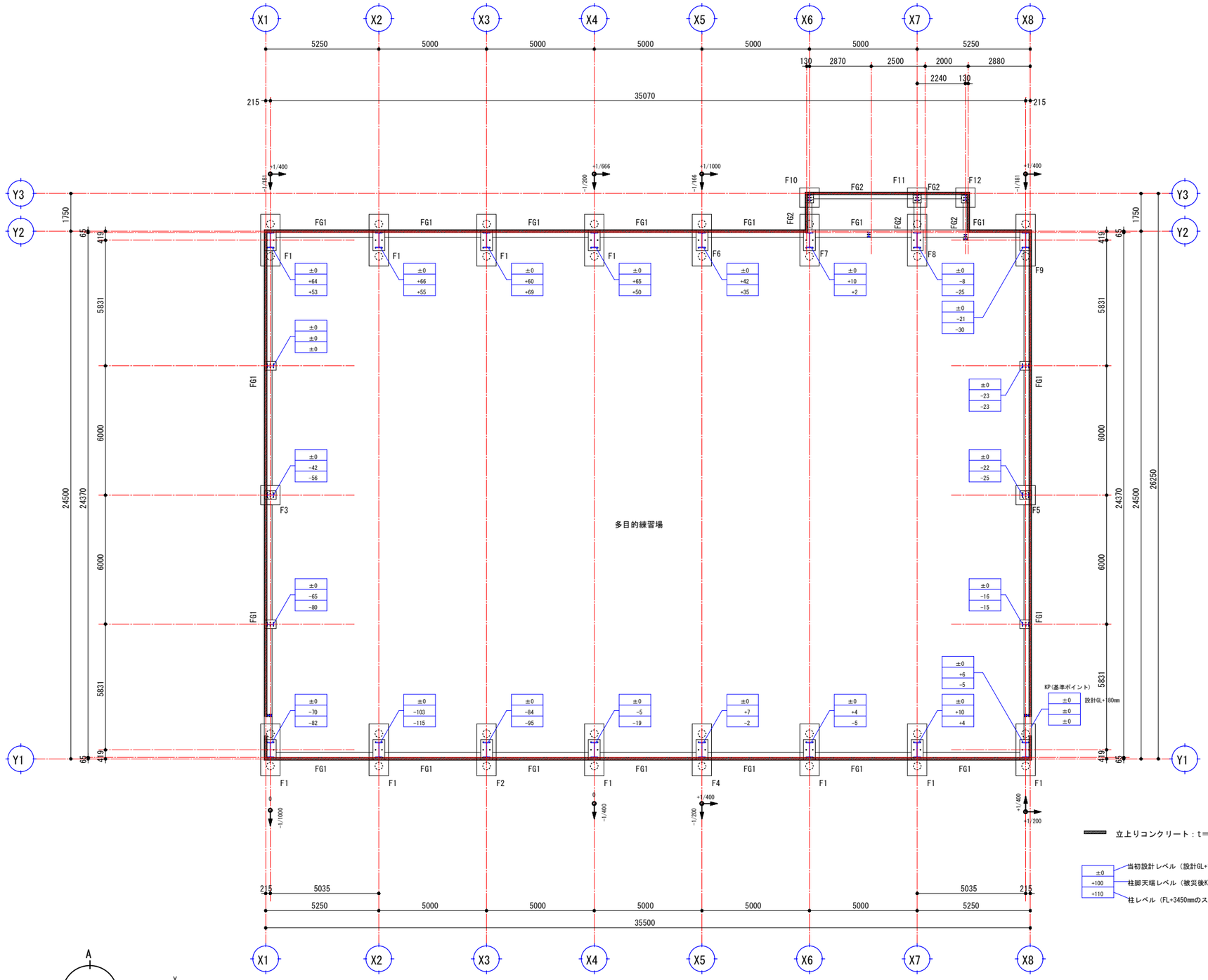
凡例

屋根ブレース　M16-1　ターンバックル付　破断→（交換）
※　90%はターンバックル部分で破断。10%はM16部分で破断

屋根ブレース　M16-1　ターンバックル付　ゆるみ（たわみ）→（交換）

門前多目的体育館　高窓部分平面図（改修前）

株式会社 MAC 建築研究所 管理建築士／一級建築士登録 第334732号 中村 健	■製作年月日/DATE 2025.09	■担当/CHECK D.SATO	■製図/DRAWER D.SATO	■特記事項	■工事名称/CONSTRUCTION-TITLE 輪島市門前総合運動公園災害復旧工事（門前多目的体育館）	■図面名称/DRAWING-TITLE 多目的体育館　高窓部分平面図（改修前）	■縮尺/SCALE 1/100 (A1) 1/200 (A3)	■図番/No. A －17



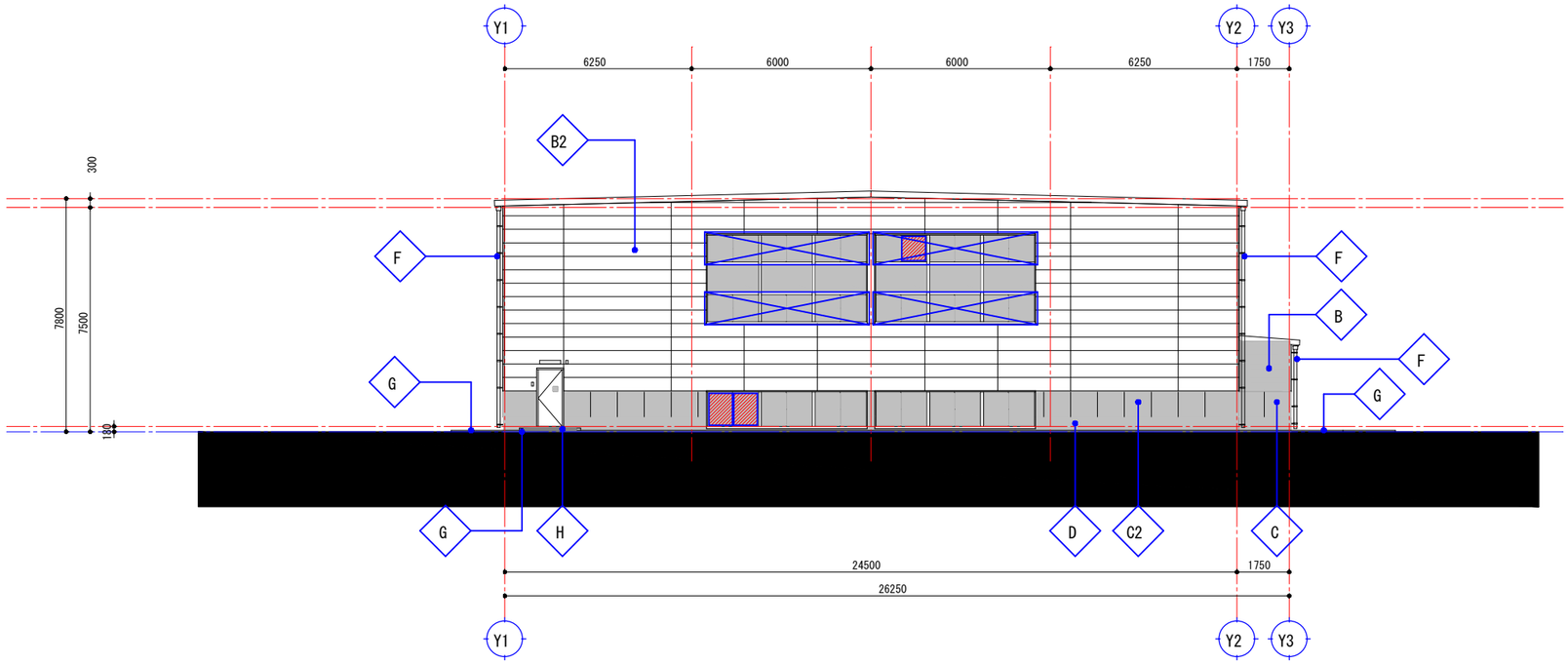
柱・基礎　調査

柱記号	柱脚基礎状況（○は正常） 柱脚レベル	X方向 倒れ/測定H	X方向 X/1000	X方向 1/X	Y方向 倒れ/測定H	Y方向 Y/1000	Y方向 1/Y
X1-Y1	クラックあり -70mm	0 mm / 2000mm	0 / 1000	0	-2 mm / 2000mm	-1 / 1000	-1 / 1000
X2-Y1	○ -103mm						
X3-Y1	○ -84mm						
X4-Y1	クラックあり -5mm	0 mm / 2000mm	0 / 1000	0	-5 mm / 2000mm	-2.5 / 1000	-1 / 400
X5-Y1	クラックあり +7mm	+5 mm / 2000mm	+2.5 / 1000	+1 / 400	-10 mm / 2000mm	-5 / 1000	-1 / 200
X6-Y1	○ +4mm						
X7-Y1	○ +10mm						
X8-Y1	○ +6mm	+10 mm / 2000mm	+5 / 1000	+1 / 200	+5 mm / 2000mm	+2.5 / 1000	+1 / 400
X1-Y2	クラックあり +64mm	+5 mm / 2000mm	+2.5 / 1000	+1 / 400	-11 mm / 2000mm	-5.5 / 1000	-1 / 181
X2-Y2	○ +66mm						
X3-Y2	○ +60mm						
X4-Y2	クラックあり +65mm	+3 mm / 2000mm	+1.5 / 1000	+1 / 666	-10 mm / 2000mm	-5 / 1000	-1 / 200
X5-Y2	クラックあり +42mm	+2 mm / 2000mm	+1 / 1000	+1 / 1000	-12 mm / 2000mm	-6 / 1000	-1 / 166
X6-Y2	○ +10mm						
X7-Y2	○ -8mm						
X8-Y2	クラックあり -21mm	+5 mm / 2000mm	+2.5 / 1000	+1 / 400	-11 mm / 2000mm	-5.5 / 1000	-1 / 181

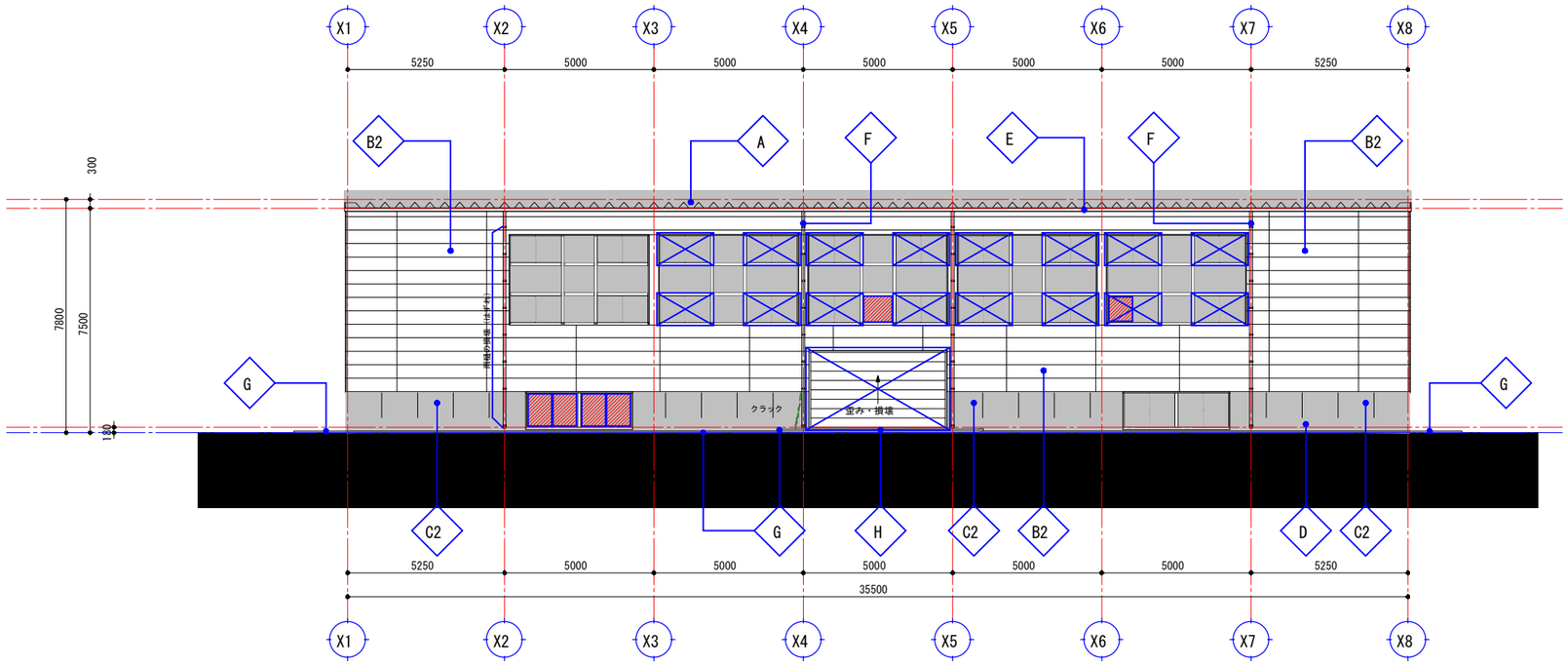
備考
※1　柱梁部材及び結合部やボルト接合部（パネルゾーン）はすべて健全
※2　柱脚レベルは、X8-Y1のAD-1沓摺（設計GL+180）を基準にした相対レベルの変位を示す。柱脚側近の土間コンクリートレベルを測定
※3　柱レベルは、FL+3450（設計GL+3630）のスチフナレベルも測定したが柱脚レベルと、ほぼパラレルの相対変位を示している（平面図参照）

門前多目的体育館　基礎伏図（改修前）

株式会社 MAC 建築研究所 管理建築士／一級建築士登録 第334732号 中村 健	■製作年月日/DATE 2025.09	■担当/CHECK D.SATO	■製図/DRAWER D.SATO	■特記事項	■工事名称/CONSTRUCTION-TITLE 輪島市門前総合運動公園災害復旧工事（門前多目的体育館）	■図面名称/DRAWING-TITLE 多目的体育館　基礎伏図（改修前）	■縮尺/SCALE 1/100 (A1) 1/200 (A3)	■図番/No. A －18



門前多目的体育館　東側立面図（改修前）



門前多目的体育館　南側立面図（改修前）

クラック（現調時の目視スケッチに依る）

開閉が出来ない建具（建物の歪み等による損壊が原因）

ガラスに割れ・ひびのある窓（一部ベニア板による応急措置）

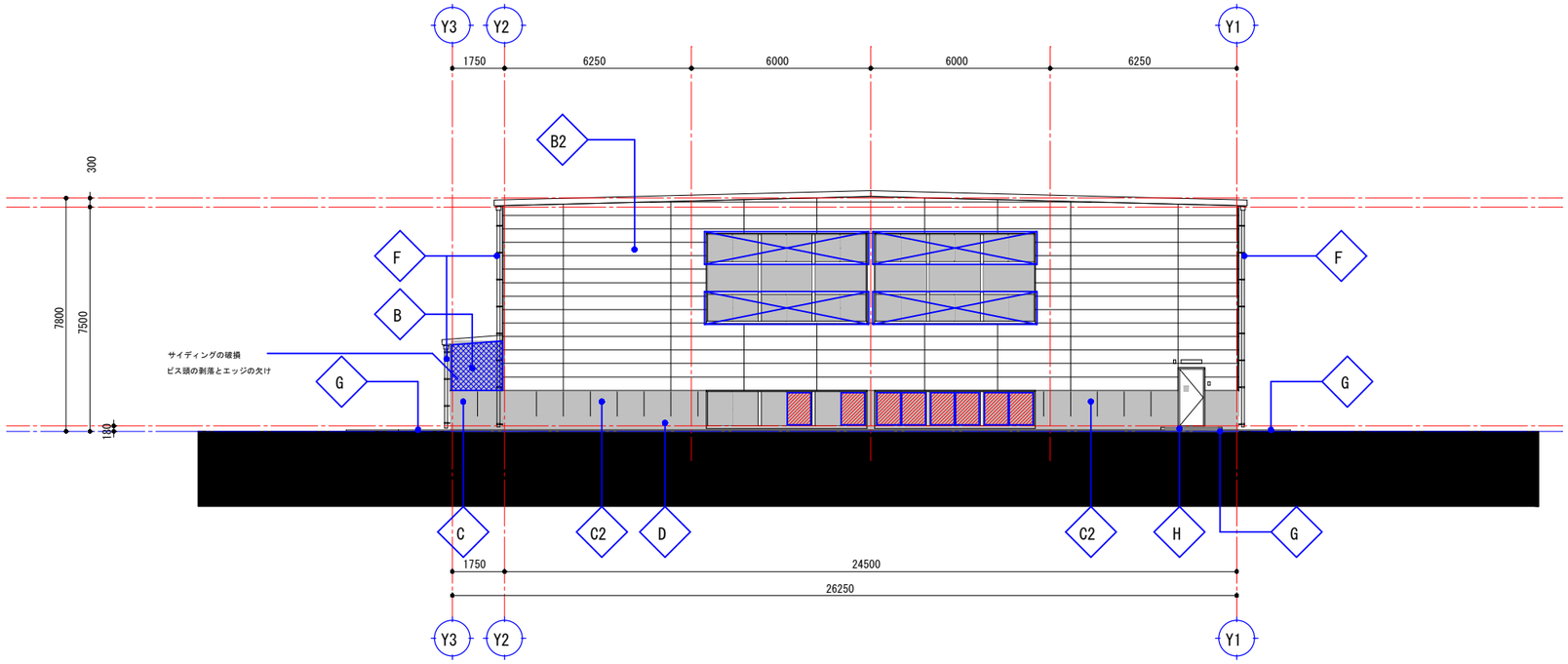
破損個所（内容は特記による）

仕上凡例

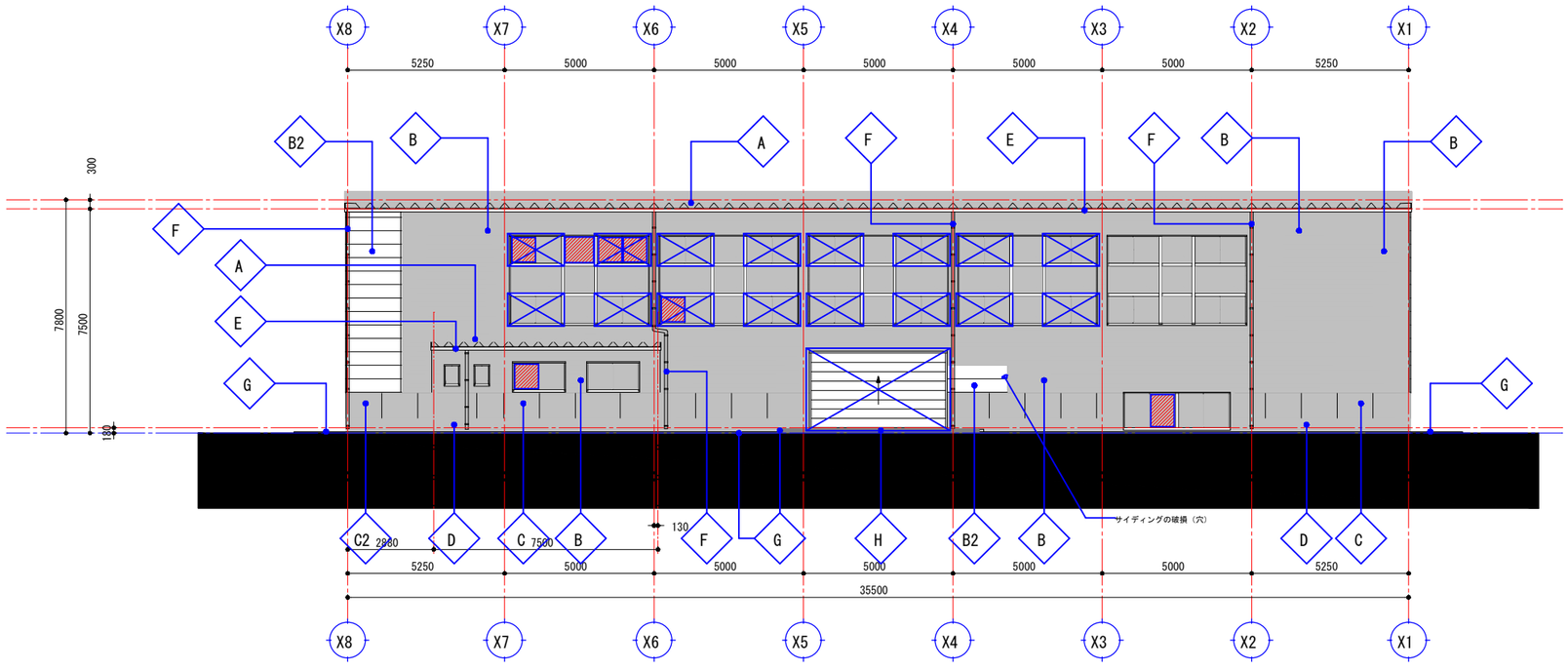
A	屋根：溶融アルミメッキ鋼板t=0.8、丸馳折板Ⅱ型
B	外壁：成形ケイ酸カルシウム板t=11、シーラー処理、EP
B2	改修外壁：サイディングH=450程度（塗装品）
C	腰：CB t=120積、モルタル塗り、リシン吹付
C2	改修腰：既設腰壁の上、リシン吹付
D	巾木：コンクリート打放仕上
E	軒樋：塩ビ製、150×120
F	竪樋：塩ビパイプφ100
G	縁石：縁石ブロックA型
H	スロープ：土間コンクリート金鏝押え

株式会社 MAC 建築研究所
管理建築士／一級建築士登録 第334732号 中村 健

■製作年月日/DATE	■担当/CHECK	■製図/DRAWER	■特記事項	■工事名称/CONSTRUCTION-TITLE	■図面名称/DRAWING-TITLE	■縮尺/SCALE	■図番/No.
2025.09	D.SATO	D.SATO		輪島市門前総合運動公園災害復旧工事（門前多目的体育館）	多目的体育館　立面図１（改修前）	１/１００（A1） １/２００（A3）	A ―１９



門前多目的体育館　西側立面図（改修前）



門前多目的体育館　北側立面図（改修前）

クラック（現調時の目視スケッチに依る）

開閉が出来ない建具（建物の歪み等による損壊が原因）

ガラスに割れ・ひびのある窓（一部ベニア板による応急措置）

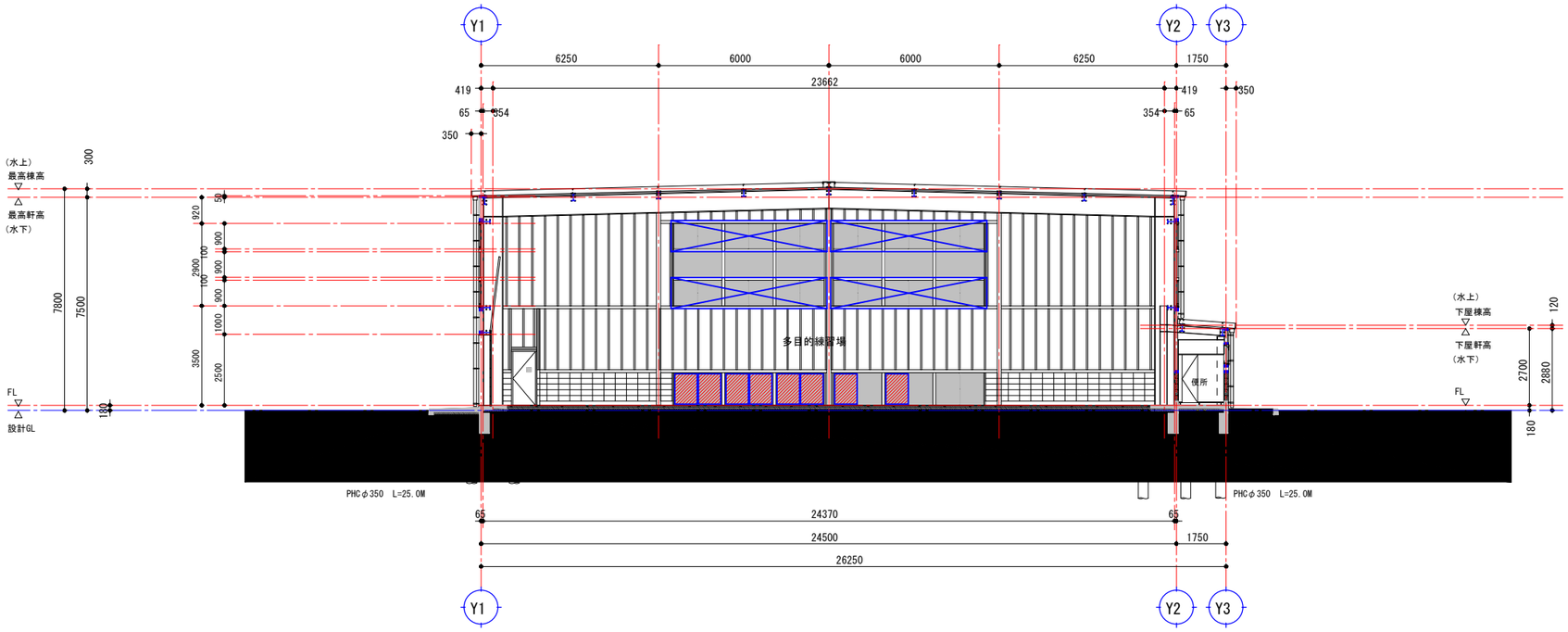
破損個所（内容は特記による）

仕上凡例

A	屋根：溶融アルミメッキ鋼板t=0.8、丸馳折板Ⅱ型
B	外壁：成形ケイ酸カルシウム板t=11、シーラー処理、EP
B2	改修外壁：サイディングH=450程度（塗装品）
C	腰：CB t=120積、モルタル塗り、リシン吹付
C2	改修腰：既設腰壁の上、リシン吹付
D	巾木：コンクリート打放仕上
E	軒樋：塩ビ製、150×120
F	竪樋：塩ビパイプφ100
G	縁石：縁石ブロックA型
H	スロープ：土間コンクリート金鏝押え

株式会社 MAC 建築研究所
管理建築士／一級建築士登録 第334732号 中村 健

■製作年月日/DATE	■担当/CHECK	■製図/DRAWER	■特記事項	■工事名称/CONSTRUCTION-TITLE	■図面名称/DRAWING-TITLE	■縮尺/SCALE	■図番/No.
2025.09	D.SATO	D.SATO		輪島市門前総合運動公園災害復旧工事（門前多目的体育館）	多目的体育館　立面図２（改修前）	１/１００（A1） １/２００（A3）	Ａ ―２０

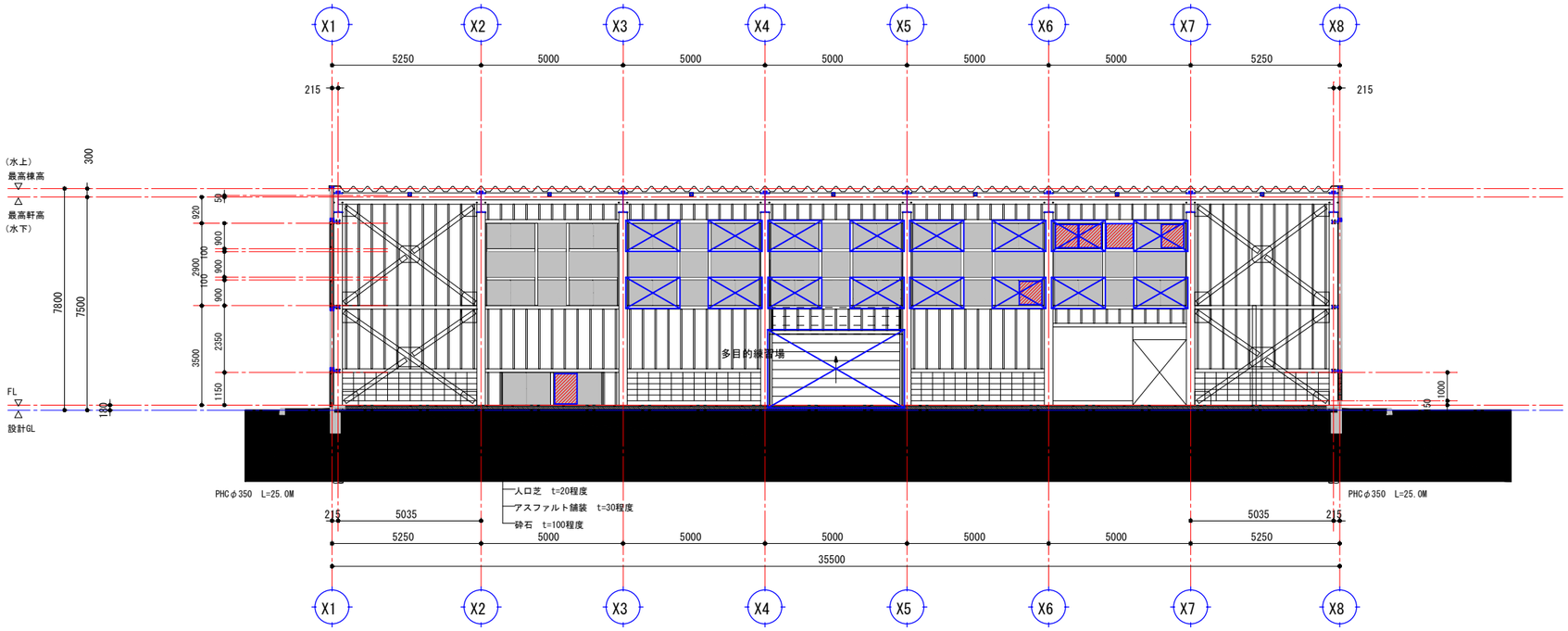


開閉が出来ない建具（建物の歪み等による損壊が原因）

ガラスに割れ・ひびのある窓（一部ベニア板による応急措置）

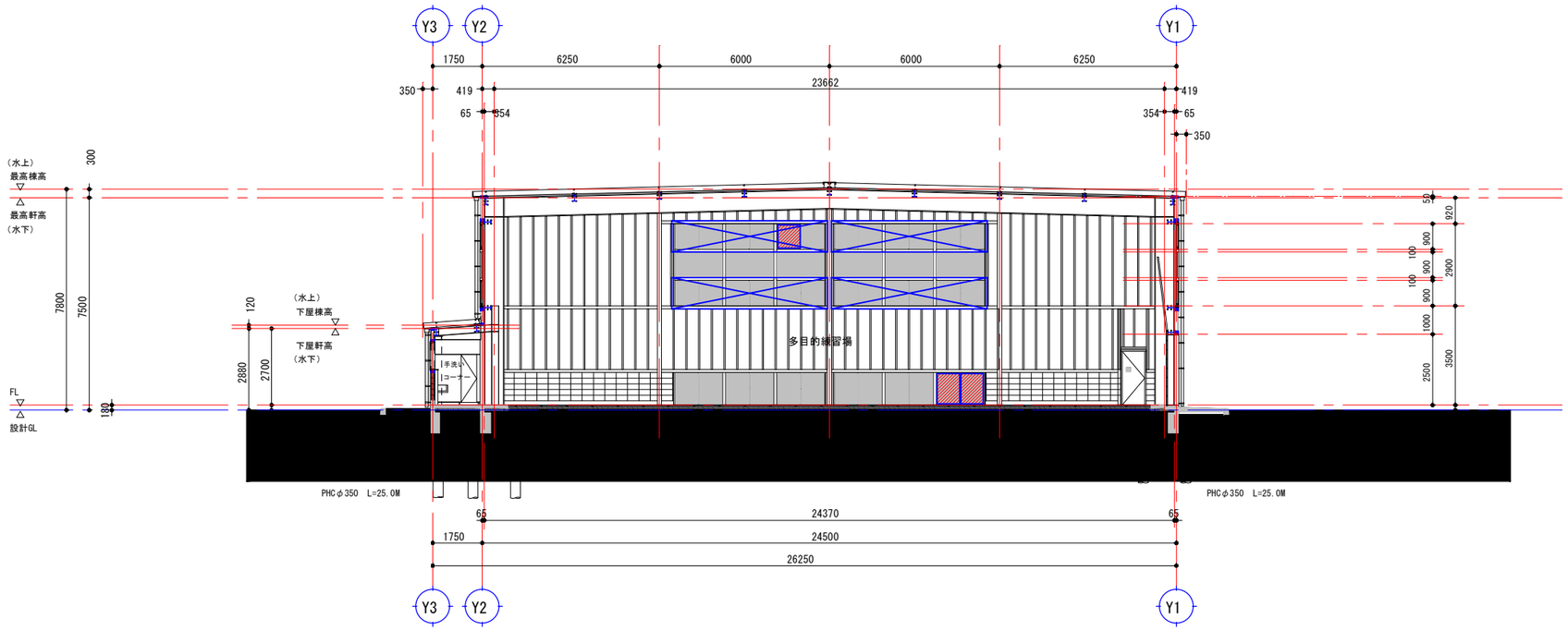
破損個所（内容は特記による）

門前多目的体育館　南北断面図・D方向展開図（改修前）

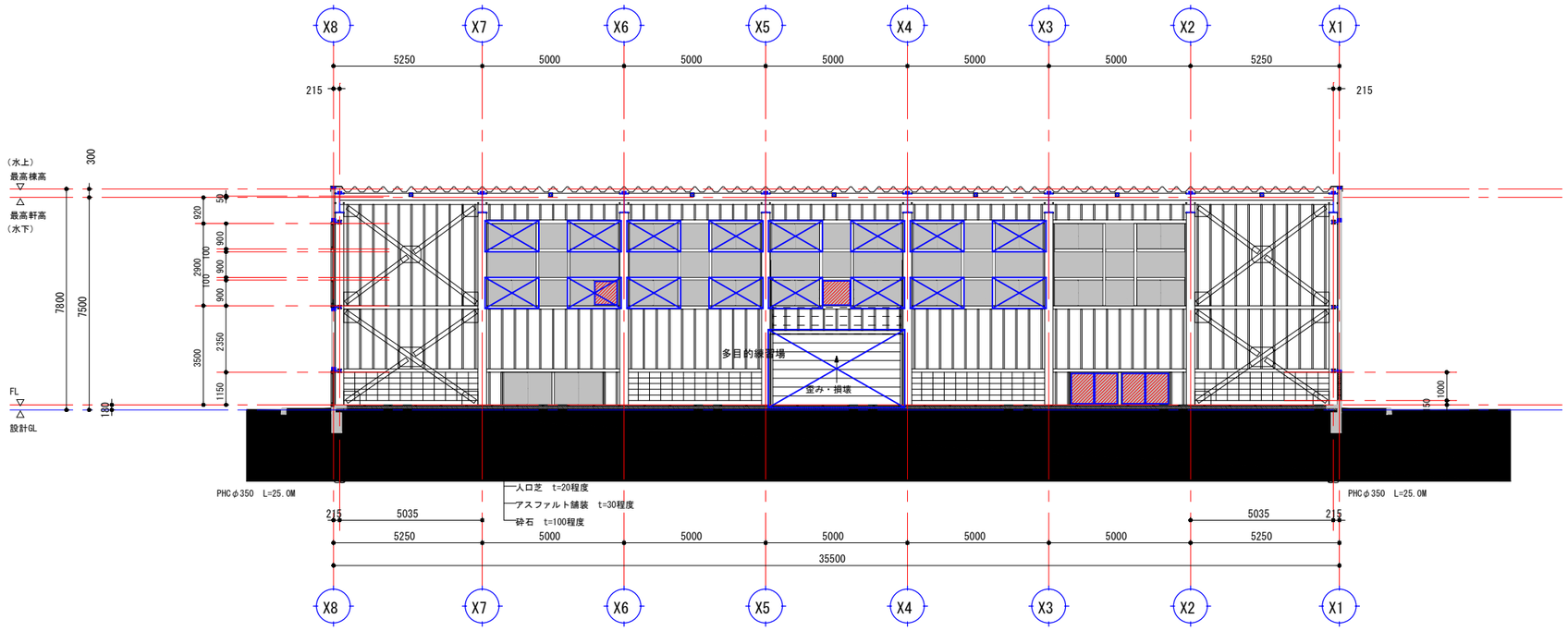


門前多目的体育館　東西断面図・A方向展開図（改修前）

株式会社 MAC 建築研究所 管理建築士／一級建築士登録 第334732号 中村 健	■製作年月日/DATE 2025.09	■担当/CHECK D.SATO	■製図/DRAWER D.SATO	■特記事項	■工事名称/CONSTRUCTION-TITLE 輪島市門前総合運動公園災害復旧工事（門前多目的体育館）	■図面名称/DRAWING-TITLE 多目的体育館　断面図・展開図１（改修前）	■縮尺/SCALE １/１００（A1） １/２００（A3）	■図番/No. Ａ －２１



門前多目的体育館　南北断面図・B方向展開図（改修前）



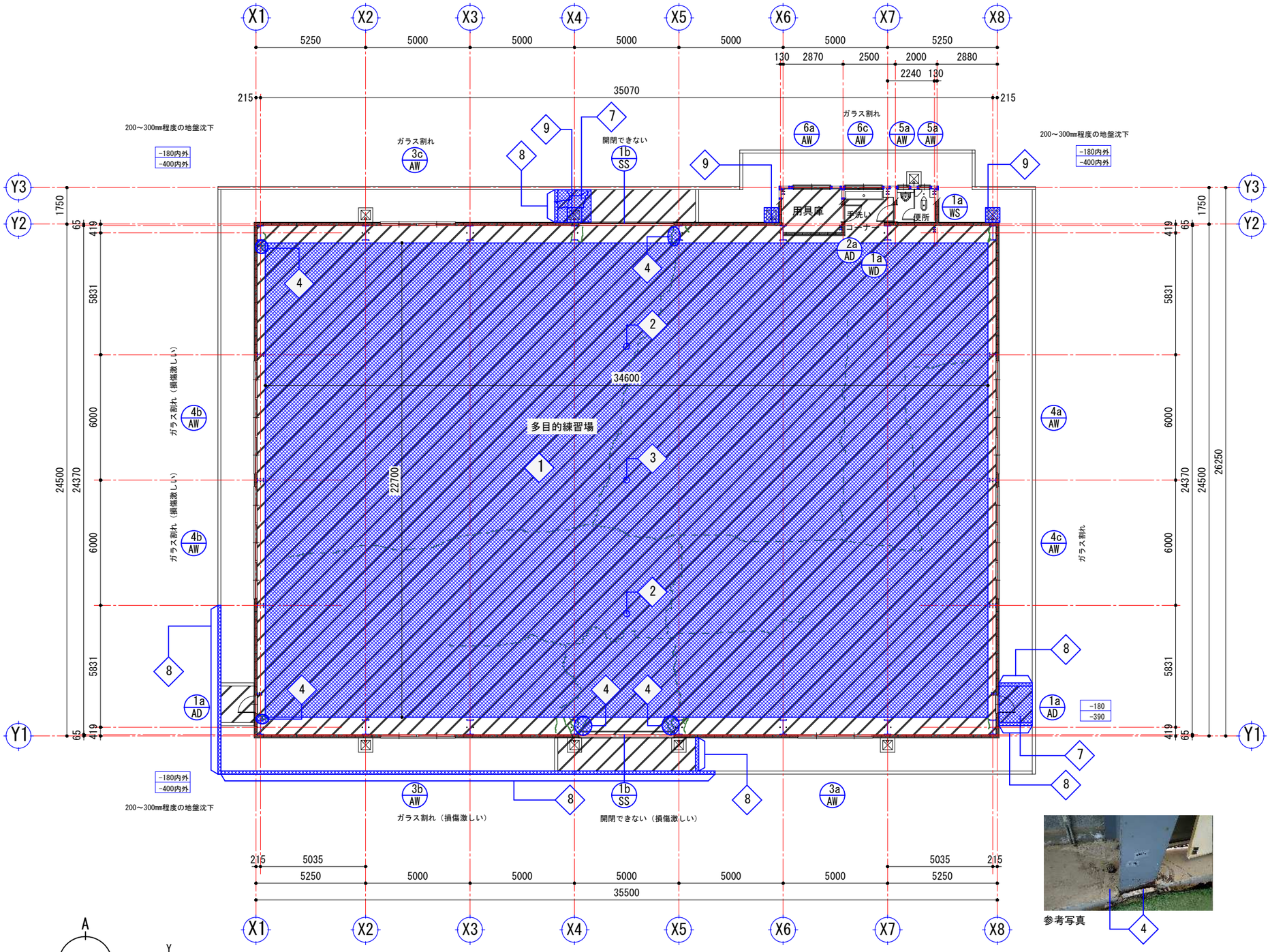
門前多目的体育館　東西断面図・C方向展開図（改修前）

開閉が出来ない建具（建物の歪み等による損壊が原因）

ガラスに割れ・ひびのある窓（一部ベニア板による応急措置）

破損個所（内容は特記による）

株式会社 MAC 建築研究所 管理建築士／一級建築士登録 第334732号 中村 健	■製作年月日/DATE 2025.09	■担当/CHECK D.SATO	■製図/DRAWER D.SATO	■特記事項	■工事名称/CONSTRUCTION-TITLE 輪島市門前総合運動公園災害復旧工事（門前多目的体育館）	■図面名称/DRAWING-TITLE 多目的体育館　断面図・展開図２（改修前）	■縮尺/SCALE １/１００（A1） １/２００（A3）	■図番/No. Ａ －２２

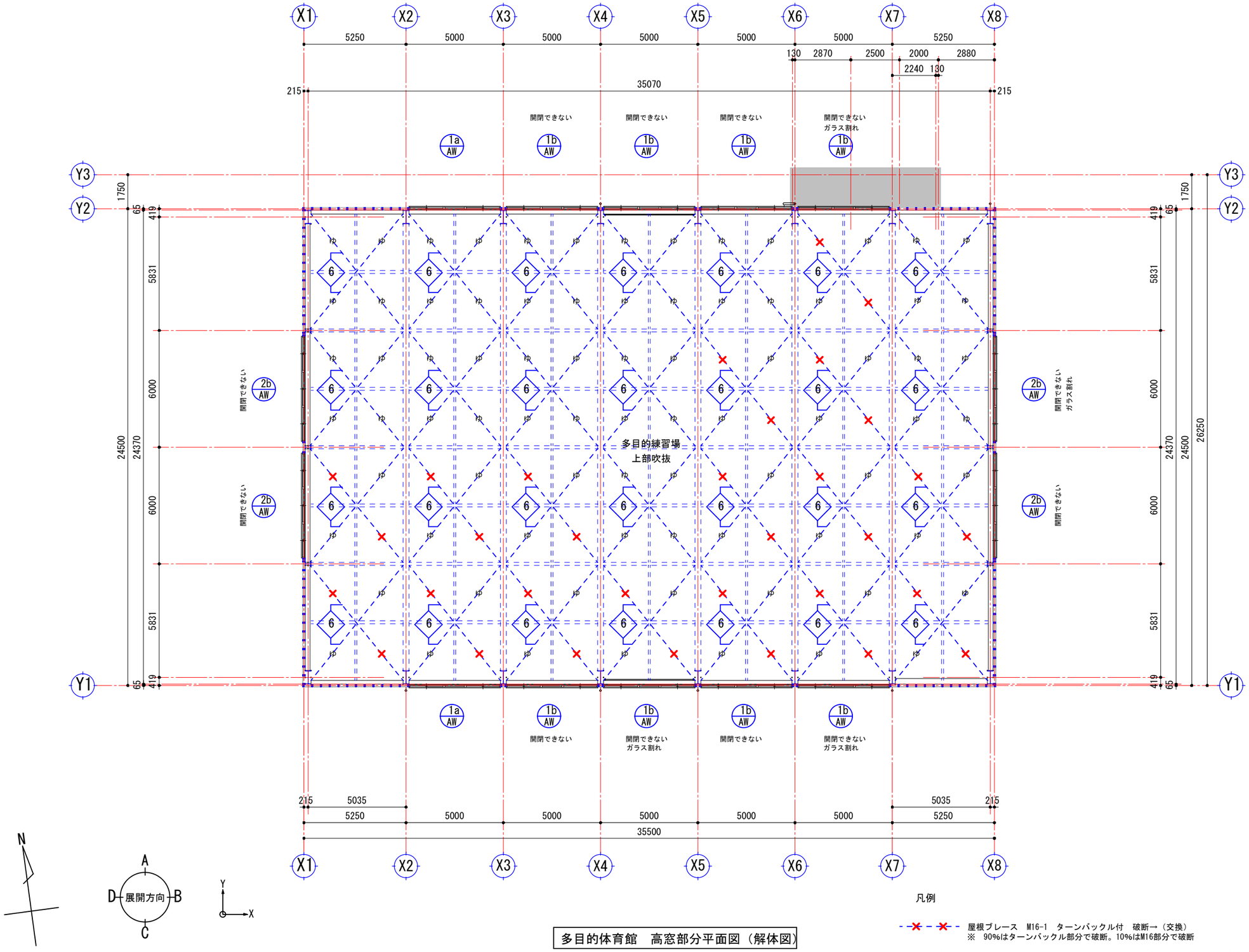


多目的体育館　１階平面図（解体図）

解体項目リスト

記号	内容	参考数量
1	既設砂入り人工芝+密粒度アスコンt=30、撤去・処分	785.42 m2
2	既設テニス支柱基礎、撤去・処分	2 箇所
3	既設テニスセンターガイド基礎、撤去・処分	1 箇所
4	既設土間コン浮き部分斫り取り、撤去・処分	5 箇所
6	既設屋根ブレース、撤去・処分（全箇所）GPLは残置 M16-1、ターンバックル付き各2箇所、L＝7.55m×56本 ※作業に支障のある既設天井防球ネットの取外し復旧 ※高所作業車×2台	L＝7.55m×56 箇所
7	既設土間コンクリートの撤去・処分 t=100、D10@250タテヨコ共（想定） カッター入れ	4.76 m2 1.56 m
8	既設コンクリート縁石ブロックの撤去・処分 150×180×L600	38.04 m
9	既設現場打コンクリート製雨水桝の撤去・処分 700×700（内径450×450）グレーチング共	3 箇所
11	成形ケイ酸カルシウム板t=11の撤去・処分	2.70 m2
12	サイディングH=450の撤去・処分 ※窯業系サイディング H=450(目地@150)×t=11貼りと推測される	0.91 m2

株式会社 MAC建築研究所 管理建築士／一級建築士登録 第334732号 中村　健	■製作年月日/DATE 2025.09	■担当/CHECK D.SATO	■製図/DRAWER D.SATO	■特記事項	■工事名称/CONSTRUCTION-TITLE 輪島市門前総合運動公園災害復旧工事（門前多目的体育館）	■図面名称/DRAWING-TITLE 多目的体育館　１階平面図（解体図）	■縮尺/SCALE 1/100 (A1) 1/200 (A3)	■図番/No. A－23

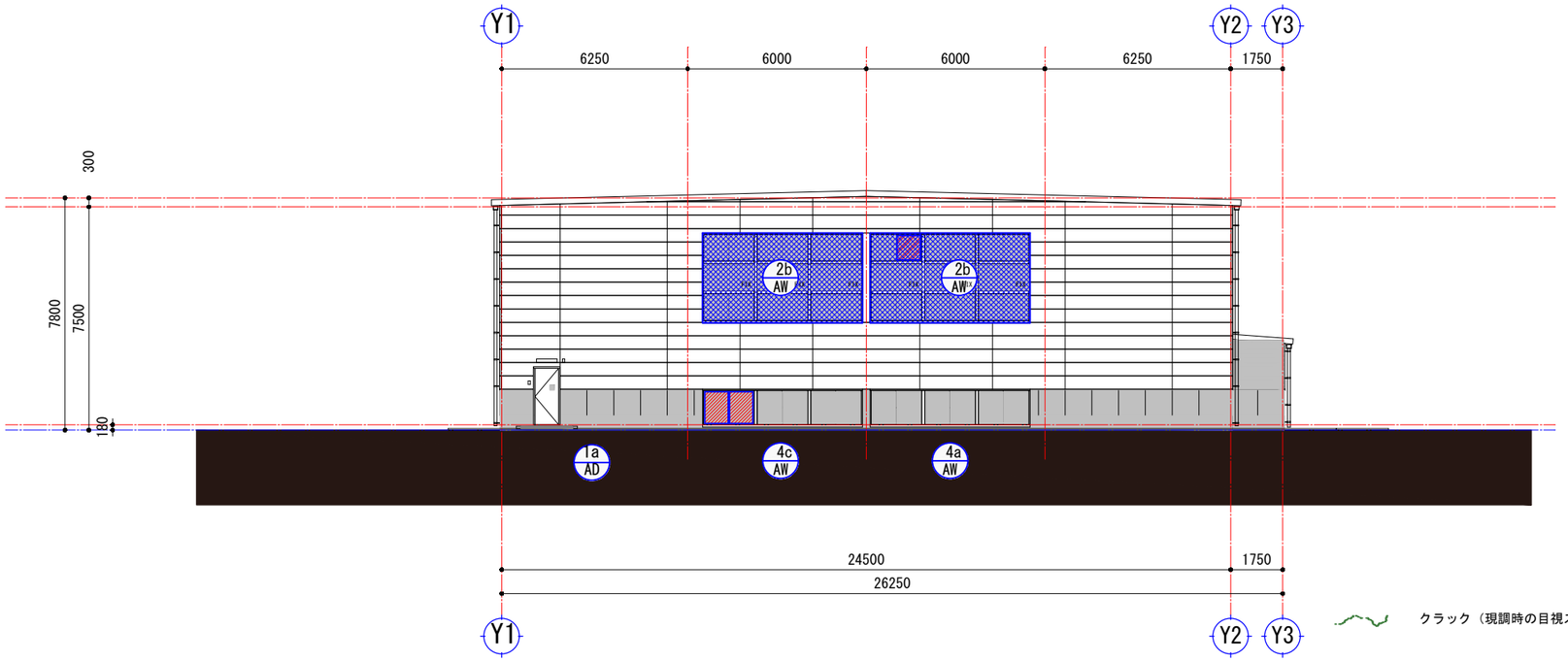


多目的体育館　高窓部分平面図（解体図）

解体項目リスト

記号	内容	参考数量
1	既設砂入り人工芝+密粒度アスコンt=30、撤去・処分	785.42 m2
2	既設テニス支柱基礎、撤去・処分	2 箇所
3	既設テニスセンターガイド基礎、撤去・処分	1 箇所
4	既設土間コン浮き部分斫り取り、撤去・処分	5 箇所
6	既設屋根ブレース、撤去・処分（全箇所）GPLは残置 M16-1、ターンバックル付き各2箇所、L＝7.55m×56本 ※作業に支障のある既設天井防球ネットの取外し復旧 ※高所作業車×2台	L＝7.55m×56 箇所
7	既設土間コンクリートの撤去・処分 t=100、D10@250タテヨコ共（想定） カッター入れ	4.76 m2 1.56 m
8	既設コンクリート縁石ブロックの撤去・処分 150×180×L600	38.04 m
9	既設現場打コンクリート製雨水桝の撤去・処分 700×700（内径450×450）グレーチング共	3 箇所
11	成形ケイ酸カルシウム板t=11の撤去・処分	2.70 m2
12	サイディングH＝450の撤去・処分 ※窯業系サイディング H＝450(目地@150)×t=11貼りと推測される	0.91 m2

株式会社 MAC建築研究所 管理建築士／一級建築士登録 第334732号 中村 健	■製作年月日/DATE	■担当/CHECK	■製図/DRAWER	■特記事項	■工事名称/CONSTRUCTION-TITLE	■図面名称/DRAWING-TITLE	■縮尺/SCALE	■図番/No.
	2025.09	D.SATO	D.SATO		輪島市門前総合運動公園災害復旧工事（門前多目的体育館）	多目的体育館　高窓部分平面図（解体図）	1／100（A1） 1／200（A3）	A－24

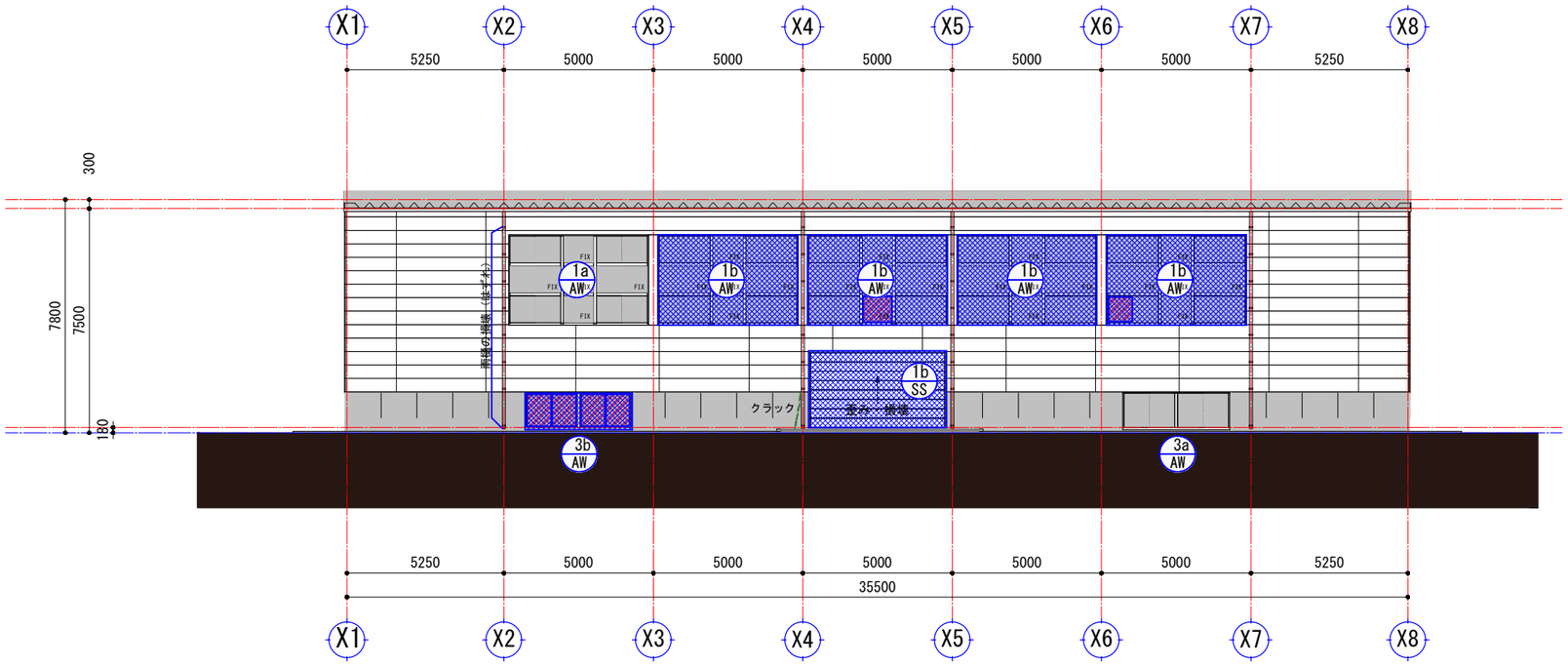


クラック（現調時の目視スケッチに依る）

ガラスに撤去窓（一部ベニア板による応急措置）

撤去個所（内容は特記による）

門前多目的体育館　東側立面図（解体図）

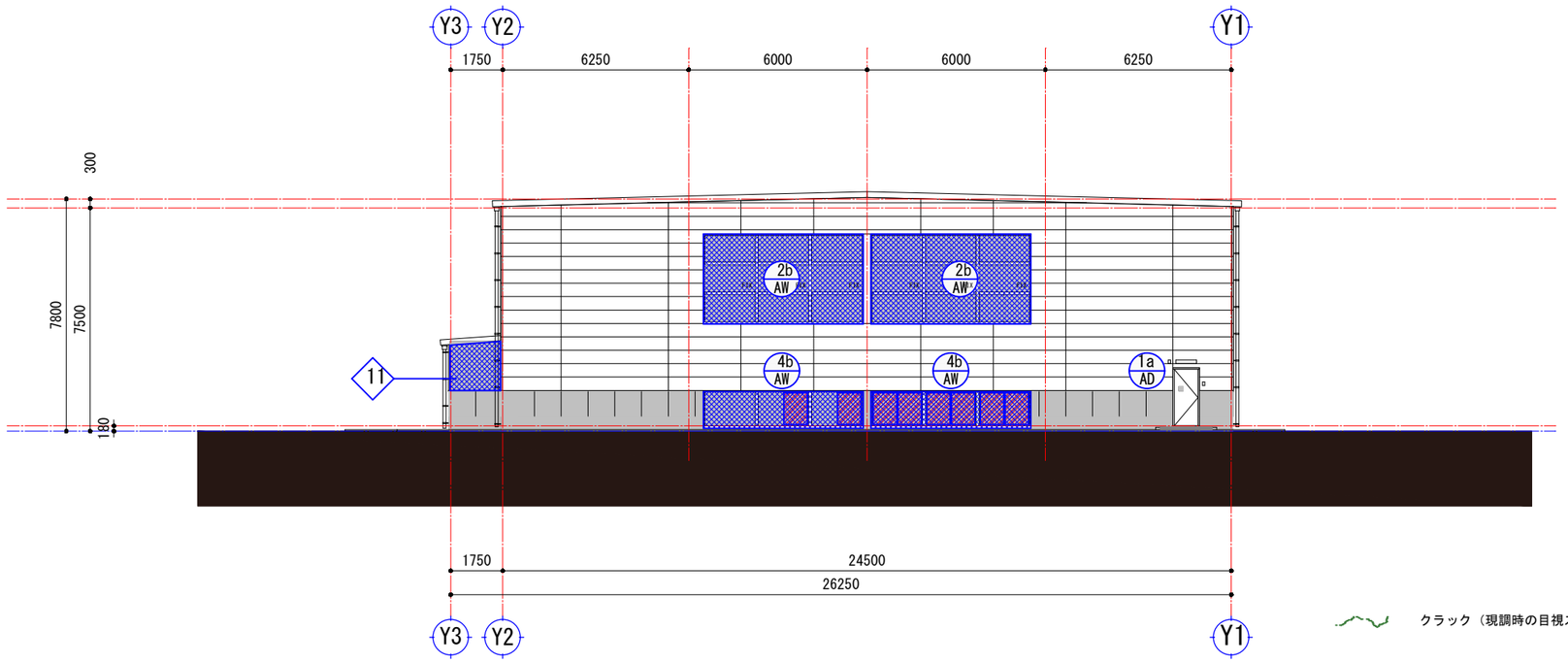


門前多目的体育館　南側立面図（解体図）

解体項目リスト

記号	内容	参考数量
1	既設砂入り人工芝+密粒度アスコンt=30、撤去・処分	785.42 m2
2	既設テニス支柱基礎、撤去・処分	2 箇所
3	既設テニスセンターガイド基礎、撤去・処分	1 箇所
4	既設土間コン浮き部分斫り取り、撤去・処分	5 箇所
6	既設屋根ブレース、撤去・処分（全箇所）GPLは残置 M16-1、ターンバックル付き各2箇所、L=7.55m×56本 ※作業に支障のある既設天井防球ネットの取外し復旧 ※高所作業車×2台	L=7.55m×56 箇所
7	既設土間コンクリートの撤去・処分 t=100、D10@250タテヨコ共（想定） カッター入れ	4.76 m2 1.56 m
8	既設コンクリート縁石ブロックの撤去・処分 150×180×L600	38.04 m
9	既設現場打コンクリート製雨水桝の撤去・処分 700×700（内径450×450）グレーチング共	3 箇所
11	成形ケイ酸カルシウム板t=11の撤去・処分	2.70 m2
12	サイディングH=450の撤去・処分 ※窯業系サイディング H=450(目地@150)×t=11貼りと推測される	0.91 m2

株式会社 MAC建築研究所 管理建築士／一級建築士登録 第334732号 中村 健	■製作年月日/DATE 2025.09	■担当/CHECK D.SATO	■製図/DRAWER D.SATO	■特記事項	■工事名称/CONSTRUCTION-TITLE 輪島市門前総合運動公園災害復旧工事（門前多目的体育館）	■図面名称/DRAWING-TITLE 多目的体育館　立面図１（解体図）	■縮尺/SCALE １／１００（A1） １／２００（A3）	■図番/No. Ａ－２５

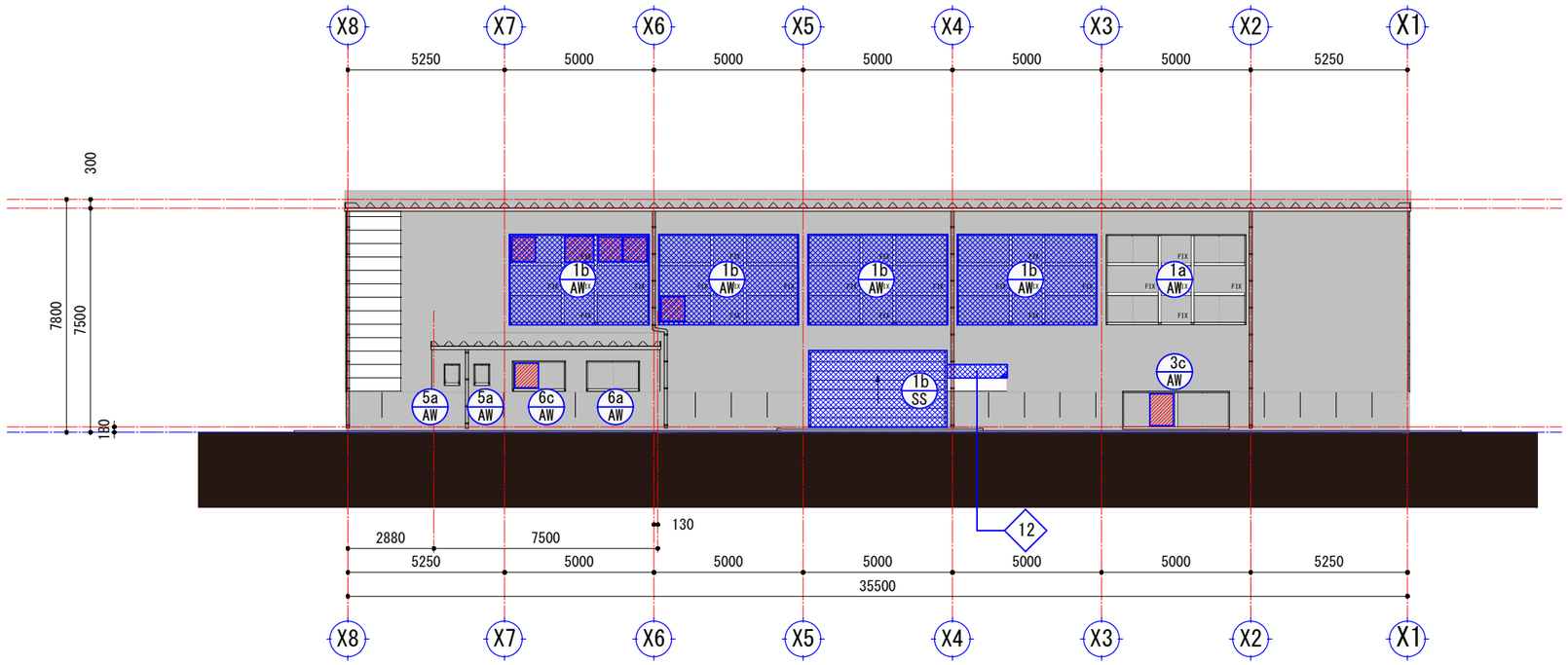


門前多目的体育館　西側立面図（解体図）

クラック（現調時の目視スケッチに依る）

ガラスに撤去窓（一部ベニア板による応急措置）

撤去個所（内容は特記による）

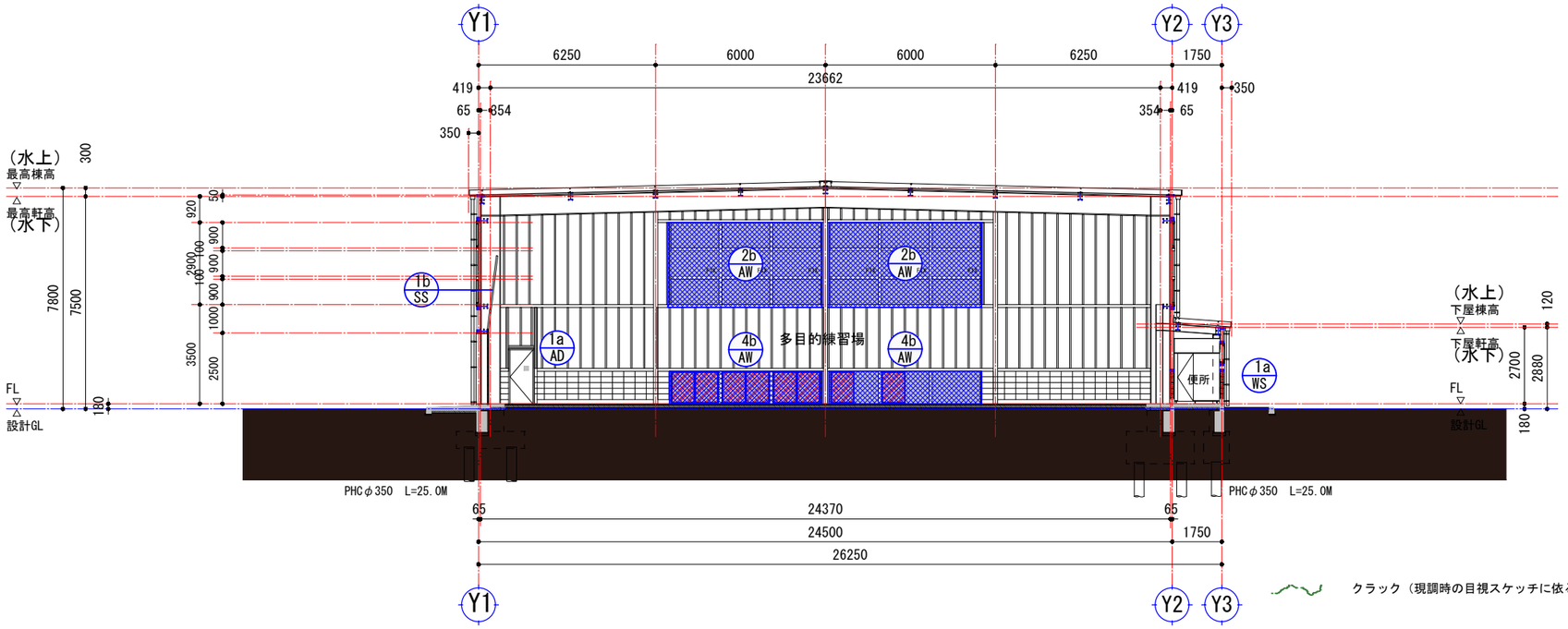


門前多目的体育館　北側立面図（解体図）

解体項目リスト

記号	内容	参考数量
1	既設砂入り人工芝+密粒度アスコンt=30、撤去・処分	785.42 m2
2	既設テニス支柱基礎、撤去・処分	2 箇所
3	既設テニスセンターガイド基礎、撤去・処分	1 箇所
4	既設土間コン浮き部分斫り取り、撤去・処分	5 箇所
6	既設屋根ブレース、撤去・処分（全箇所）GPLは残置 M16-1、ターンバックル付き各2箇所、L＝7.55m×56本 ※作業に支障のある既設天井防球ネットの取外し復旧 ※高所作業車×2台	L＝7.55m×56 箇所
7	既設土間コンクリートの撤去・処分 t=100、D10@250タテヨコ共（想定） カッター入れ	4.76 m2 1.56 m
8	既設コンクリート縁石ブロックの撤去・処分 150×180×L600	38.04 m
9	既設現場打コンクリート製雨水桝の撤去・処分 700×700（内径450×450）グレーチング共	3 箇所
11	成形ケイ酸カルシウム板t=11の撤去・処分	2.70 m2
12	サイディングH＝450の撤去・処分 ※窯業系サイディング H＝450(目地@150)×t=11貼りと推測される	0.91 m2

株式会社 MAC建築研究所 管理建築士／一級建築士登録 第334732号 中村 健	■製作年月日/DATE 2025.09	■担当/CHECK D.SATO	■製図/DRAWER D.SATO	■特記事項	■工事名称/CONSTRUCTION-TITLE 輪島市門前総合運動公園災害復旧工事（門前多目的体育館）	■図面名称/DRAWING-TITLE 多目的体育館　立面図２（解体図）	■縮尺/SCALE 1/100（A1） 1/200（A3）	■図番/No. A－２６

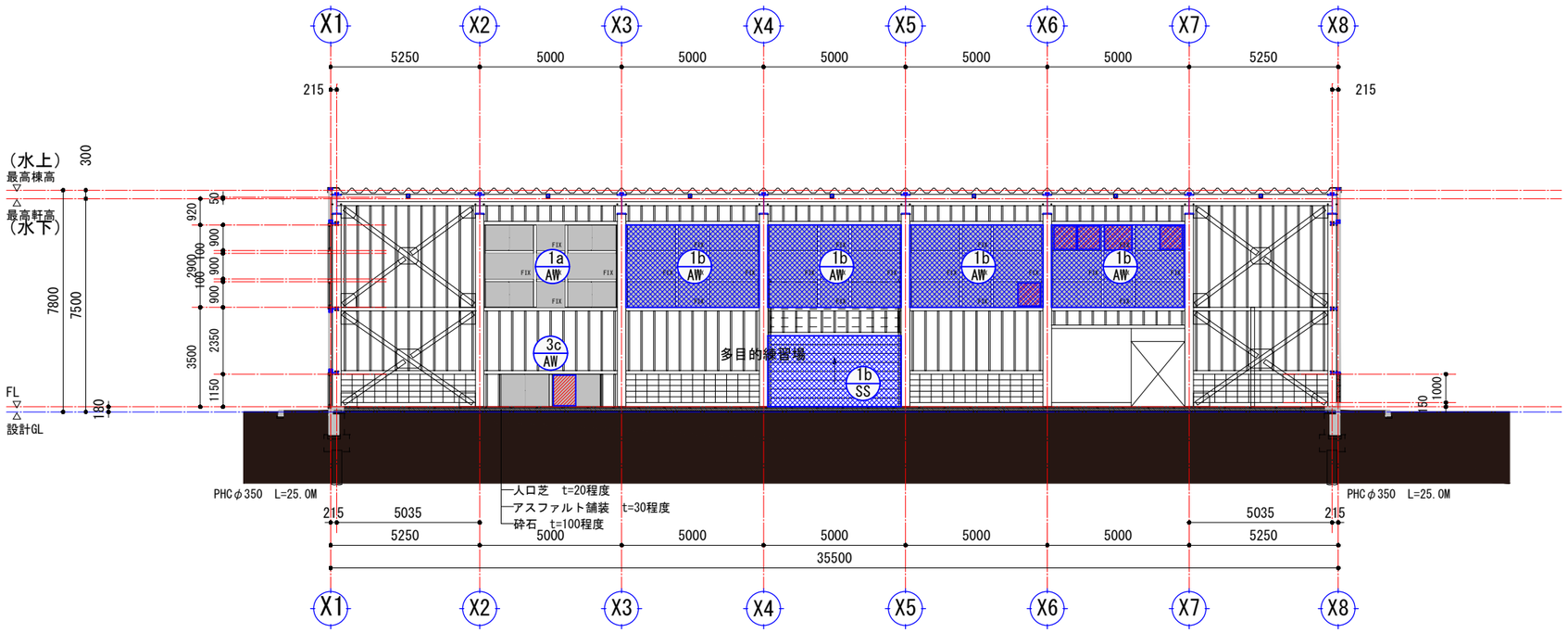


門前多目的体育館　南北断面図・D方向展開図（解体図）

クラック（現調時の目視スケッチに依る）

ガラスに撤去窓（一部ベニア板による応急措置）

撤去個所（内容は特記による）

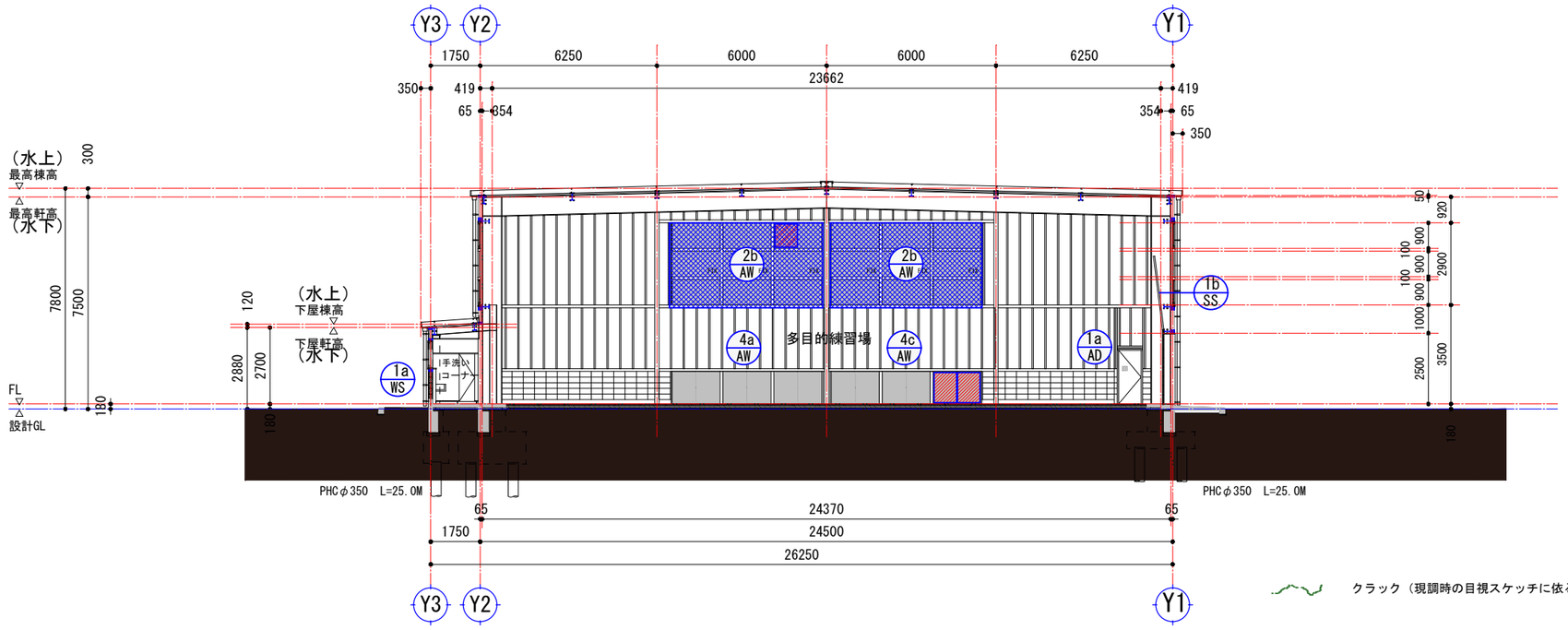


門前多目的体育館　東西断面図・A方向展開図（解体図）

解体項目リスト

記号	内容	参考数量
1	既設砂入り人工芝+密粒度アスコンt=30、撤去・処分	785.42 m2
2	既設テニス支柱基礎、撤去・処分	2 箇所
3	既設テニスセンターガイド基礎、撤去・処分	1 箇所
4	既設土間コン浮き部分斫り取り、撤去・処分	5 箇所
6	既設屋根ブレース、撤去・処分（全箇所）GPLは残置 M16-1、ターンバックル付き各2箇所、L＝7.55m×56本 ※作業に支障のある既設天井防球ネットの取外し復旧 ※高所作業車×2台	L＝7.55m×56 箇所
7	既設土間コンクリートの撤去・処分 t=100、D10@250タテヨコ共（想定） カッター入れ	4.76 m2 1.56 m
8	既設コンクリート縁石ブロックの撤去・処分 150×180×L600	38.04 m
9	既設現場打コンクリート製雨水桝の撤去・処分 700×700（内径450×450）グレーチング共	3 箇所
11	成形ケイ酸カルシウム板t=11の撤去・処分	2.70 m2
12	サイディングH＝450の撤去・処分 ※窯業系サイディング H＝450(目地@150)×t=11貼りと推測される	0.91 m2

株式会社 MAC建築研究所 管理建築士／一級建築士登録 第334732号 中村 健	■製作年月日/DATE 2025.09	■担当/CHECK D.SATO	■製図/DRAWER D.SATO	■特記事項	■工事名称/CONSTRUCTION-TITLE 輪島市門前総合運動公園災害復旧工事（門前多目的体育館）	■図面名称/DRAWING-TITLE 多目的体育館　断面図・展開図１（解体図）	■縮尺/SCALE １/１００（A1） １/２００（A3）	■図番/No. Ａ－２７

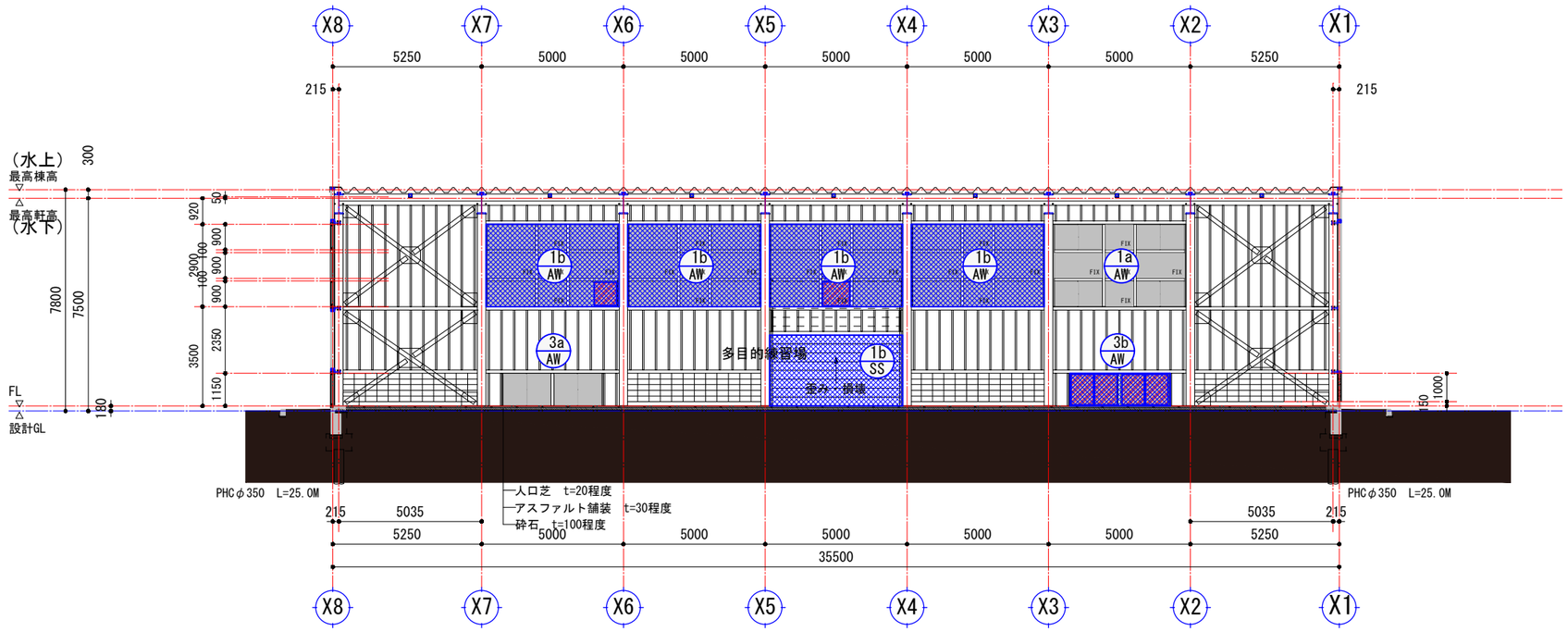


クラック（現調時の目視スケッチに依る）

ガラスに撤去窓（一部ベニア板による応急措置）

撤去個所（内容は特記による）

門前多目的体育館　南北断面図・B方向展開図（解体図）

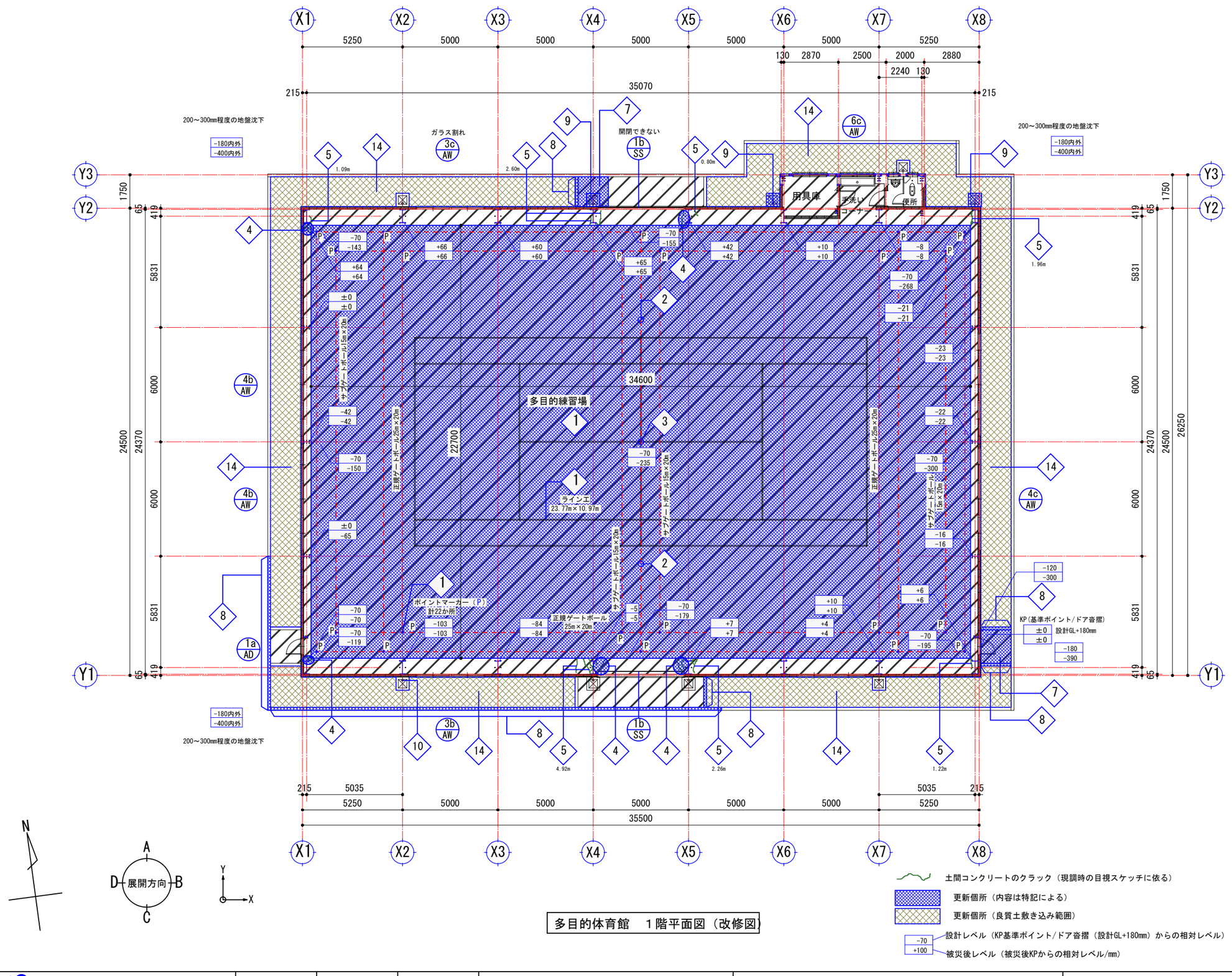


門前多目的体育館　東西断面図・C方向展開図（解体図）

解体項目リスト

記号	内容	参考数量
1	既設砂入り人工芝+密粒度アスコンt=30、撤去・処分	785.42 m2
2	既設テニス支柱基礎、撤去・処分	2 箇所
3	既設テニスセンターガイド基礎、撤去・処分	1 箇所
4	既設土間コン浮き部分斫り取り、撤去・処分	5 箇所
6	既設屋根ブレース、撤去・処分（全箇所）GPLは残置 M16-1、ターンバックル付き各2箇所、L=7.55m×56本 ※作業に支障のある既設天井防球ネットの取外し復旧 ※高所作業車×2台	L=7.55m×56 箇所
7	既設土間コンクリートの撤去・処分 t=100、D10@250タテヨコ共（想定） カッター入れ	4.76 m2 1.56 m
8	既設コンクリート縁石ブロックの撤去・処分 150×180×L600	38.04 m
9	既設現場打コンクリート製雨水桝の撤去・処分 700×700（内径450×450）グレーチング共	3 箇所
11	成形ケイ酸カルシウム板t=11の撤去・処分	2.70 m2
12	サイディングH=450の撤去・処分 ※窯業系サイディング H=450(目地@150)×t=11貼りと推測される	0.91 m2

株式会社 MAC建築研究所 管理建築士／一級建築士登録 第334732号 中村 健	■製作年月日/DATE 2025.09	■担当/CHECK D.SATO	■製図/DRAWER D.SATO	■特記事項	■工事名称/CONSTRUCTION-TITLE 輪島市門前総合運動公園災害復旧工事（門前多目的体育館）	■図面名称/DRAWING-TITLE 多目的体育館　断面図・展開図２（解体図）	■縮尺/SCALE １/１００（A1） １/２００（A3）	■図番/No. A－２８

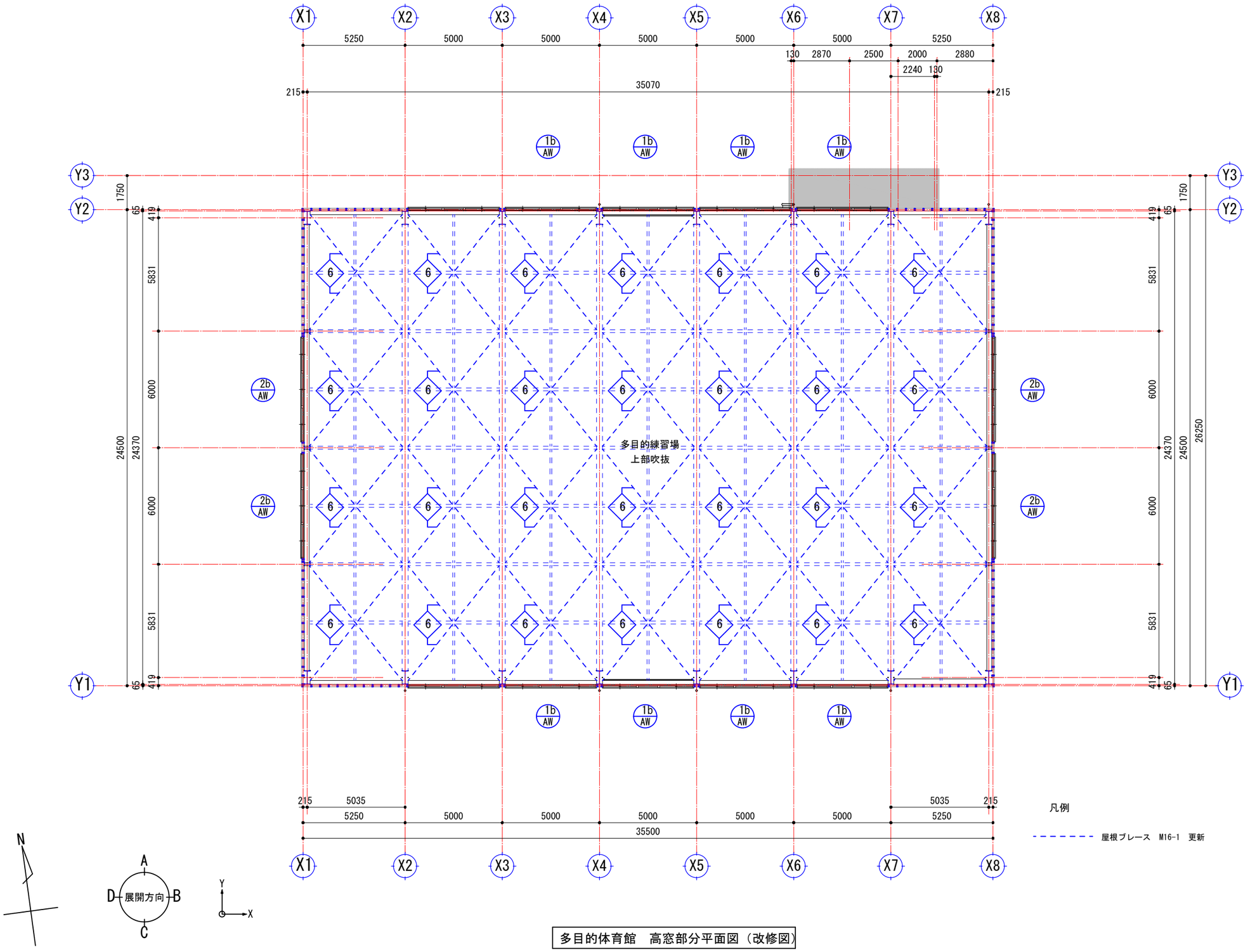


多目的体育館　１階平面図（改修図）

改修項目リスト

記号	内容	参考数量
1	砂入り人工芝+密粒度アスコンt=50 リサイクル砕石(RC-40)追加【平均t=110】再転圧 ポイントマーカー×22箇所（正規ゲートポール×1、サブゲートポール×2）ライン工（テニスコート×12	785.42 m2 86.40 m3
2	テニス支柱基礎、更新	2 箇所
3	テニスセンターガイド基礎、更新	1 箇所
4	既設土間コン浮き部分斫り取り撤去部分に 無収縮モルタル充填、金鏝押え	5 箇所
5	自動式低圧（エポキシ）樹脂注入工法 ※クラック幅は平均1mm内外	14.85 m
6	屋根ブレース更新（全箇所）GPLは残置 M16-1、ターンバックル付き各2箇所、L=7.55m×56本 ※作業に支障のある既設天井防球ネットの取外し復旧 ※高所作業車×2台	L=7.55m×56 箇所
7	土間コンクリートの再構築 t=100、D10@250タテヨコ共、差し筋D10@250	4.76 m2
8	コンクリート縁石ブロックの再構築 150×180×L600	38.04 m
9	既設現場打コンクリート製雨水桝の再構築 700×700（内径450×450）グレーチング共 既設VP150に再接続	3 箇所
10	竪樋の再構築 塩ビパイプ100φ、支持金物再取付共	1 箇所 7.25 m
12	サイディングH=450更新（塗装品） コーナー役物、シーリング、 アスファルトフェルト20kg貼り直し共 ※既存サイディング（B2）同等品	3.61 m2
13	壁クラック補修 クラック幅1～20mm 無収縮モルタル充填の上シリコン系シーリング	1.60 m
14	良質土敷き込み t=0～200mm	175.39 m2

株式会社 MAC建築研究所 管理建築士／一級建築士登録 第334732号 中村 健	■製作年月日/DATE 2025.09	■担当/CHECK D.SATO	■製図/DRAWER D.SATO	■特記事項	■工事名称/CONSTRUCTION-TITLE 輪島市門前総合運動公園災害復旧工事（門前多目的体育館）	■図面名称/DRAWING-TITLE 門前多目的体育館　１階平面図（改修図）	■縮尺/SCALE １/１００（A1） １/２００（A3）	■図番/No. Ａ－２９

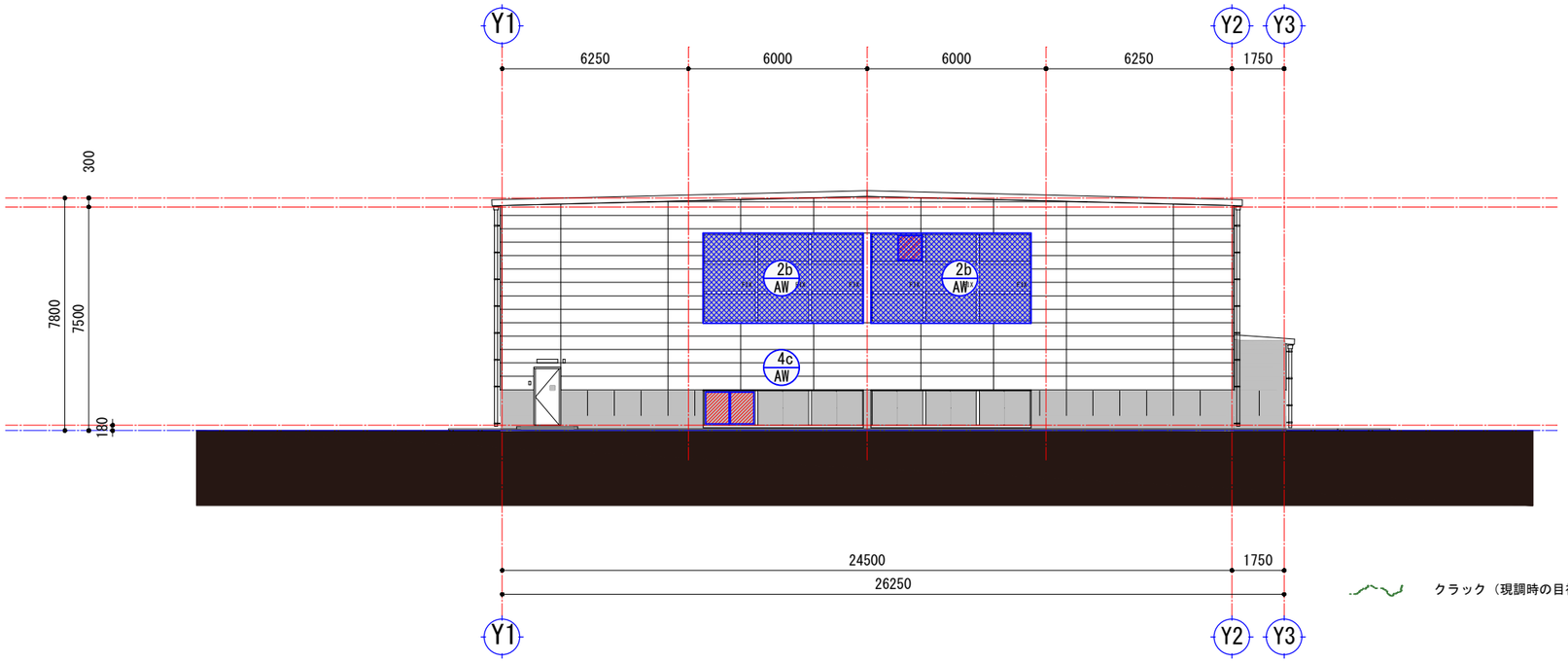


多目的体育館　高窓部分平面図（改修図）

改修項目リスト

記号	内容	参考数量
1	砂入り人工芝+密粒度アスコンt=50 リサイクル砕石(RC-40)追加【平均t=110】再転圧 ポイントマーカー×22箇所（正規ゲートポール×1、サブゲートポール×2）ライン工（テニスコート×12	785.42 m2 86.40 m3
2	テニス支柱基礎、更新	2 箇所
3	テニスセンターガイド基礎、更新	1 箇所
4	既設土間コン浮き部分斫り取り撤去部分に 無収縮モルタル充填、金鏝押え	5 箇所
5	自動式低圧（エポキシ）樹脂注入工法 ※クラック幅は平均1mm内外	14.85 m
6	屋根ブレース更新（全箇所）GPLは残置 M16-1、ターンバックル付き各2箇所、L=7.55m×56本 ※作業に支障のある既設天井防球ネットの取外し復旧 ※高所作業車×2台	L=7.55m×56 箇所
7	土間コンクリートの再構築 t=100、D10@250タテヨコ共、差し筋D10@250	4.76 m2
8	コンクリート縁石ブロックの再構築 150×180×L600	38.04 m
9	既設現場打コンクリート製雨水桝の再構築 700×700（内径450×450）グレーチング共 既設VP150に再接続	3 箇所
10	竪樋の再構築 塩ビパイプ100φ、支持金物再取付共	1 箇所 7.25 m
12	サイディングH=450更新（塗装品） コーナー役物、シーリング、 アスファルトフェルト20kg貼り直し共 ※既存サイディング（B2）同等品	3.61 m2
13	壁クラック補修 クラック幅1～20mm 無収縮モルタル充填の上シリコン系シーリング	1.60 m
14	良質土敷き込み t=0～200mm	175.39 m2

株式会社 MAC建築研究所 管理建築士／一級建築士登録 第334732号 中村　健	■製作年月日/DATE 2025.09	■担当/CHECK D.SATO	■製図/DRAWER D.SATO	■特記事項	■工事名称/CONSTRUCTION-TITLE 輪島市門前総合運動公園災害復旧工事（門前多目的体育館）	■図面名称/DRAWING-TITLE 門前多目的体育館　高窓部分平面図（改修図）	■縮尺/SCALE 1/100（A1） 1/200（A3）	■図番/No. A－30

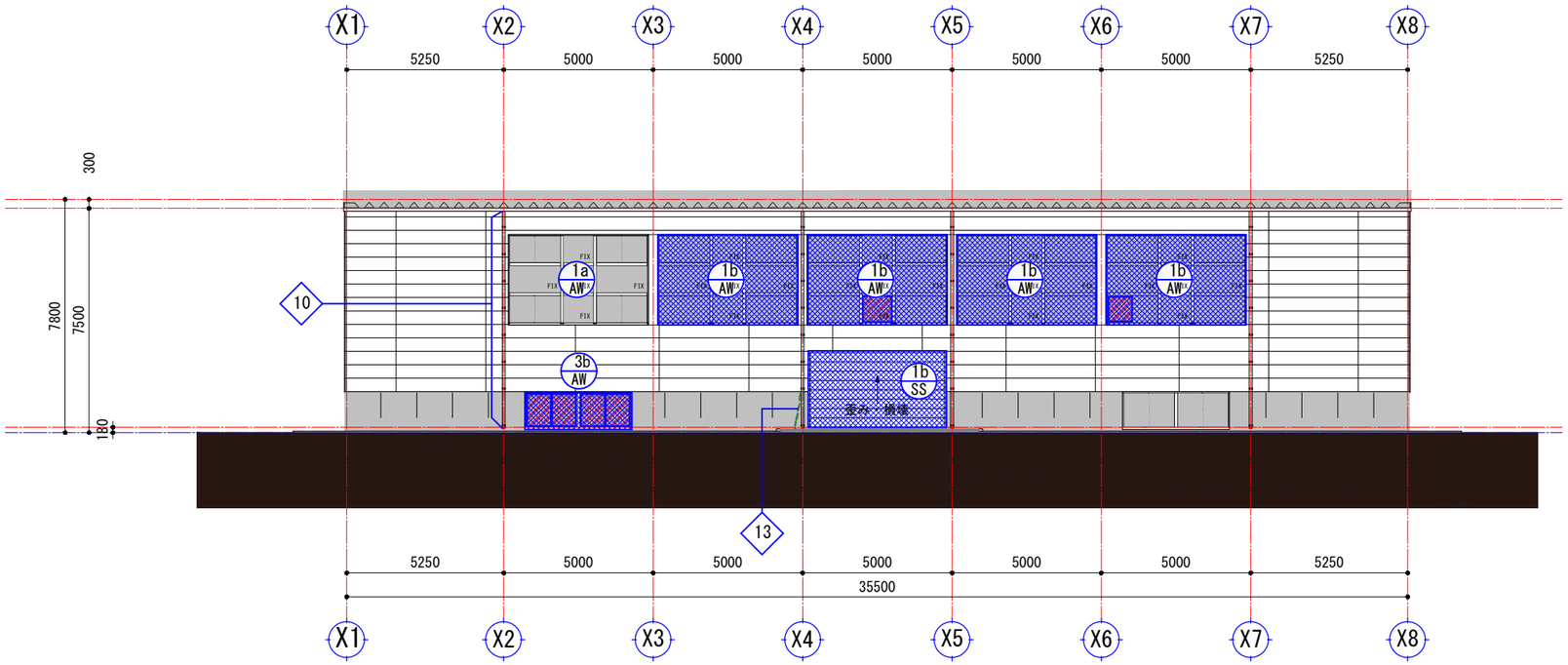


クラック（現調時の目視スケッチに依る）

ガラス更新箇所

更新個所（内容は特記による）

門前多目的体育館　東側立面図（改修図）



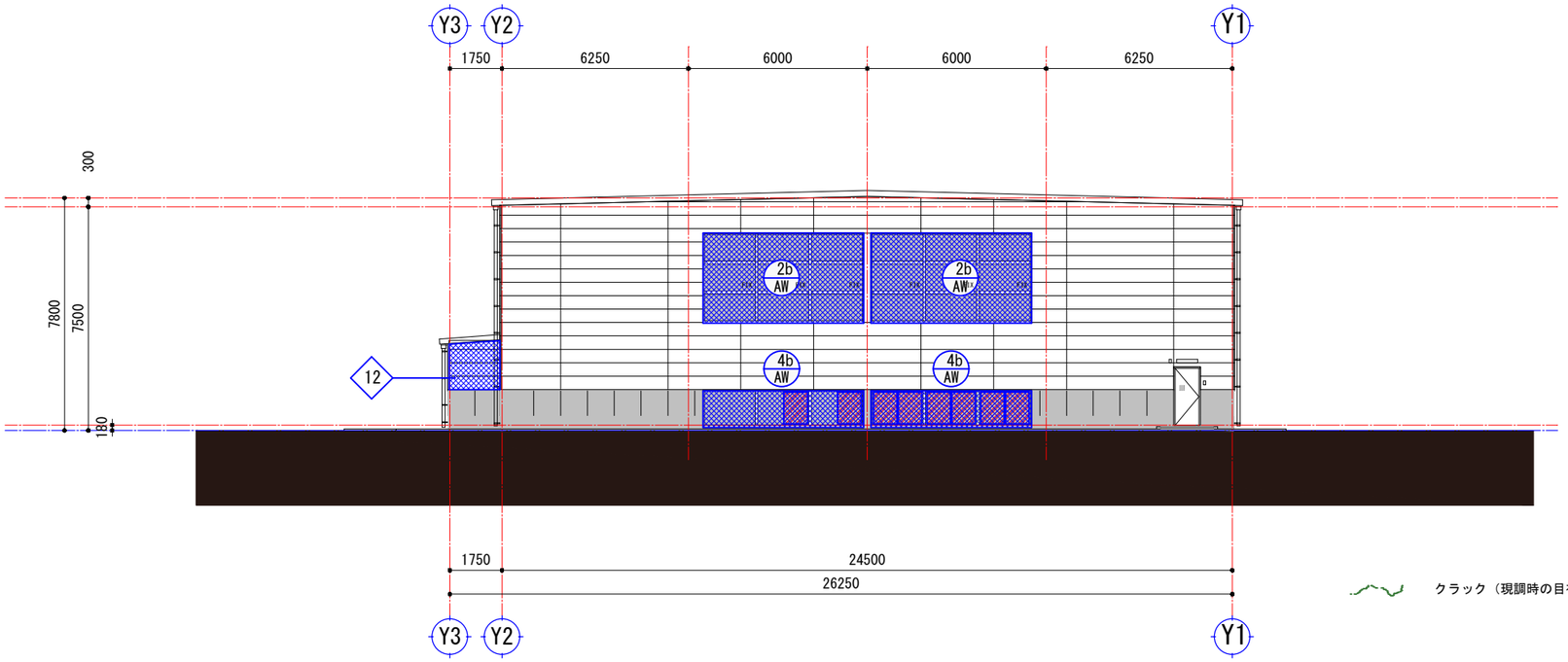
門前多目的体育館　南側立面図（改修図）

改修項目リスト

記号	内容	参考数量
1	砂入り人工芝+密粒度アスコンt=50 リサイクル砕石(RC-40)追加【平均t=110】再転圧 ポイントマーカー×22箇所（正規ゲートポール×1、 サブゲートポール×2）ラインエ（テニスコート×12	785.42 m2 86.40 m3
2	テニス支柱基礎、更新	2 箇所
3	テニスセンターガイド基礎、更新	1 箇所
4	既設土間コン浮き部分斫り取り撤去部分に 無収縮モルタル充填、金鏡押え	5 箇所
5	自動式低圧（エポキシ）樹脂注入工法 ※クラック幅は平均1mm内外	14.85 m
6	屋根ブレース更新（全箇所）GPLは残置 M16-1、ターンバックル付き各2箇所、L=7.55m×56本 ※作業に支障のある既設天井防球ネットの取外し復旧 ※高所作業車×2台	L=7.55m×56 箇所
7	土間コンクリートの再構築 t=100、D10@250タテヨコ共、差し筋D10@250	4.76 m2
8	コンクリート縁石ブロックの再構築 150×180×L600	38.04 m
9	既設現場打コンクリート製雨水桝の再構築 700×700（内径450×450）グレーチング共 既設VP150に再接続	3 箇所
10	竪樋の再構築 塩ビパイプ100φ、支持金物再取付共	1 箇所 7.25 m
12	サイディングH=450更新（塗装品） コーナー役物、シーリング、 アスファルトフェルト20kg貼り直し共 ※既存サイディング（B2）同等品	3.61 m2
13	壁クラック補修 クラック幅1~20mm 無収縮モルタル充填の上シリコン系シーリング	1.60 m
14	良質土敷き込み t=0~200mm	175.39 m2

株式会社 MAC建築研究所
管理建築士／一級建築士登録 第334732号 中村　健

■製作年月日/DATE	■担当/CHECK	■製図/DRAWER	■特記事項	■工事名称/CONSTRUCTION-TITLE	■図面名称/DRAWING-TITLE	■縮尺/SCALE	■図番/No.
2025.09	D.SATO	D.SATO		輪島市門前総合運動公園災害復旧工事（門前多目的体育館）	門前多目的体育館　立面図１（改修図）	１/１００（A1） １/２００（A3）	A－３１

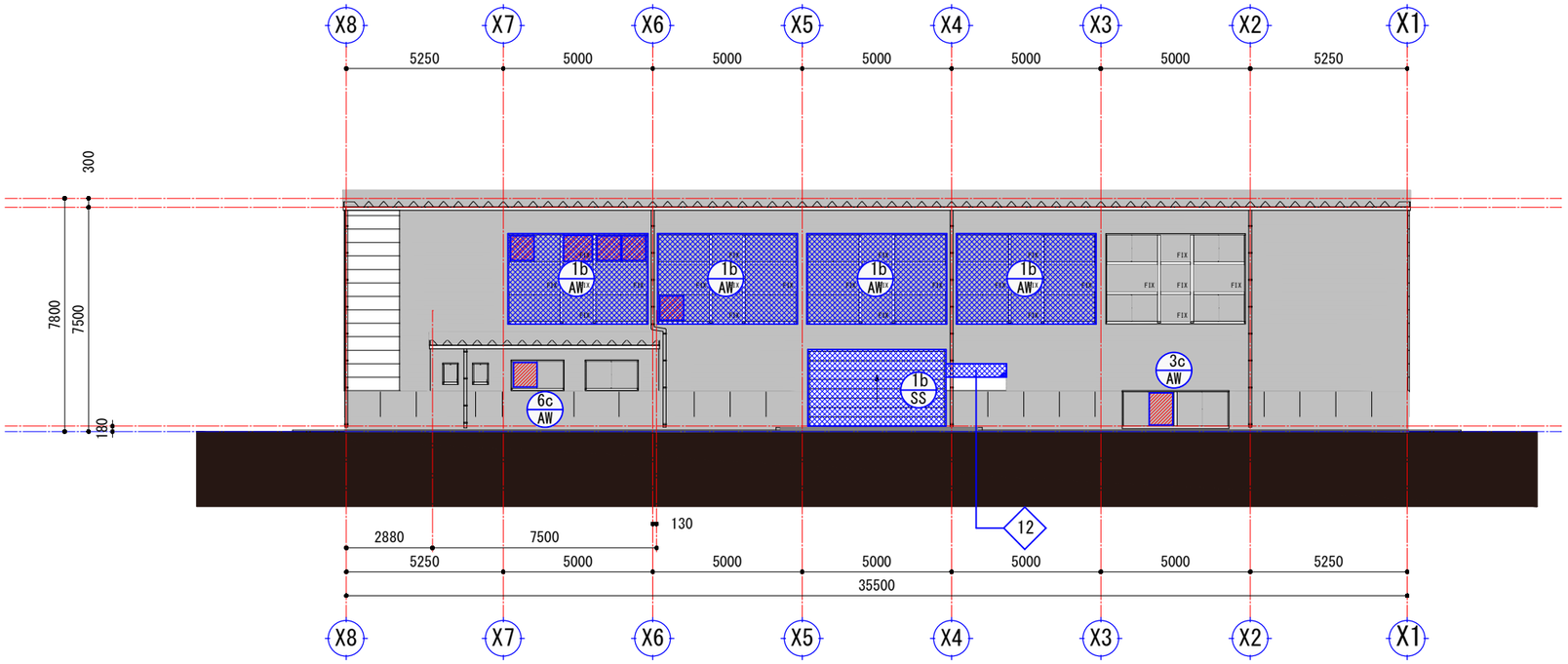


門前多目的体育館　西側立面図（改修図）

クラック（現調時の目視スケッチに依る）

ガラス更新箇所

更新個所（内容は特記による）



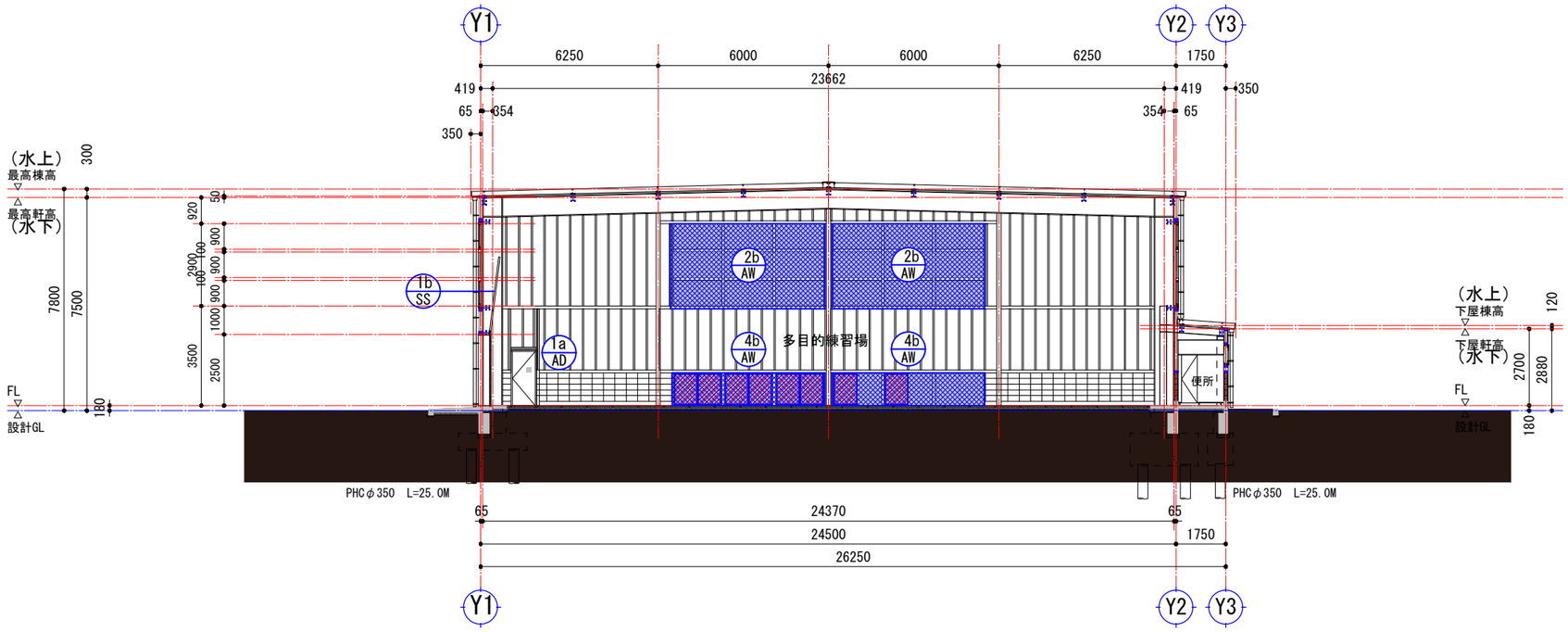
門前多目的体育館　北側立面図（改修図）

改修項目リスト

記号	内容	参考数量
1	砂入り人工芝+密粒度アスコンt=50 リサイクル砕石(RC-40)追加【平均t=110】再転圧 ポイントマーカー×22箇所（正規ゲートポール×1、サブゲートポール×2）ライン工（テニスコート×12	785.42 m2 86.40 m3
2	テニス支柱基礎、更新	2 箇所
3	テニスセンターガイド基礎、更新	1 箇所
4	既設土間コン浮き部分斫り取り撤去部分に 無収縮モルタル充填、金鏝押え	5 箇所
5	自動式低圧（エポキシ）樹脂注入工法 ※クラック幅は平均1mm内外	14.85 m
6	屋根ブレース更新（全箇所）GPLは残置 M16-1、ターンバックル付き各2箇所、L=7.55m×56本 ※作業に支障のある既設天井防球ネットの取外し復旧 ※高所作業車×2台	L=7.55m×56 箇所
7	土間コンクリートの再構築 t=100、D10@250タテヨコ共、差し筋D10@250	4.76 m2
8	コンクリート縁石ブロックの再構築 150×180×L600	38.04 m
9	既設現場打コンクリート製雨水桝の再構築 700×700（内径450×450）グレーチング共 既設VP150に再接続	3 箇所
10	竪樋の再構築 塩ビパイプ100φ、支持金物再取付共	1 箇所 7.25 m
12	サイディングH=450更新（塗装品） コーナー役物、シーリング、 アスファルトフェルト20kg貼り直し共 ※既存サイディング（B2）同等品	3.61 m2
13	壁クラック補修 クラック幅1～20mm 無収縮モルタル充填の上シリコン系シーリング	1.60 m
14	良質土敷き込み t=0～200mm	175.39 m2

株式会社 MAC建築研究所
管理建築士／一級建築士登録 第334732号 中村　健

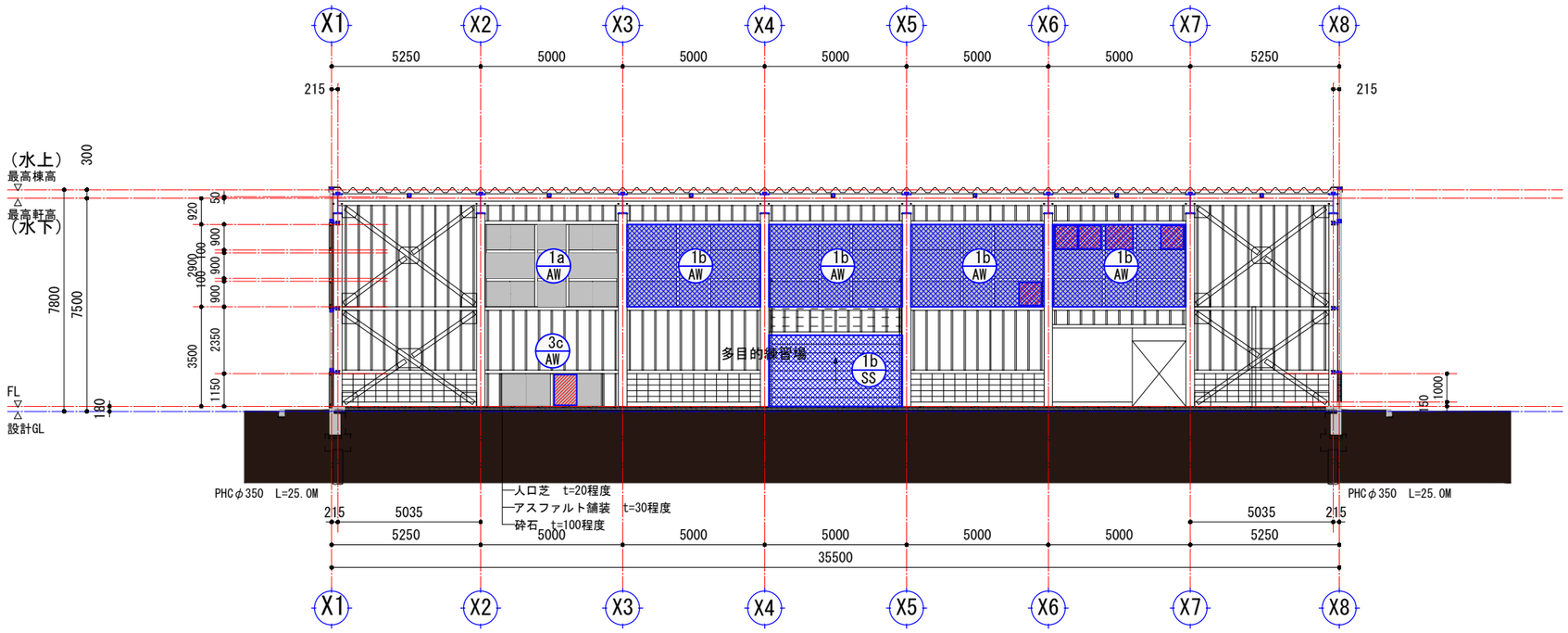
■製作年月日/DATE	■担当/CHECK	■製図/DRAWER	■特記事項	■工事名称/CONSTRUCTION-TITLE	■図面名称/DRAWING-TITLE	■縮尺/SCALE	■図番/No.
2025.09	D.SATO	D.SATO		輪島市門前総合運動公園災害復旧工事（門前多目的体育館）	門前多目的体育館　立面図２（改修図）	1/100 (A1) 1/200 (A3)	A－32



門前多目的体育館　南北断面図・D方向展開図（改修前）

ガラス更新箇所

更新個所（内容は特記による）



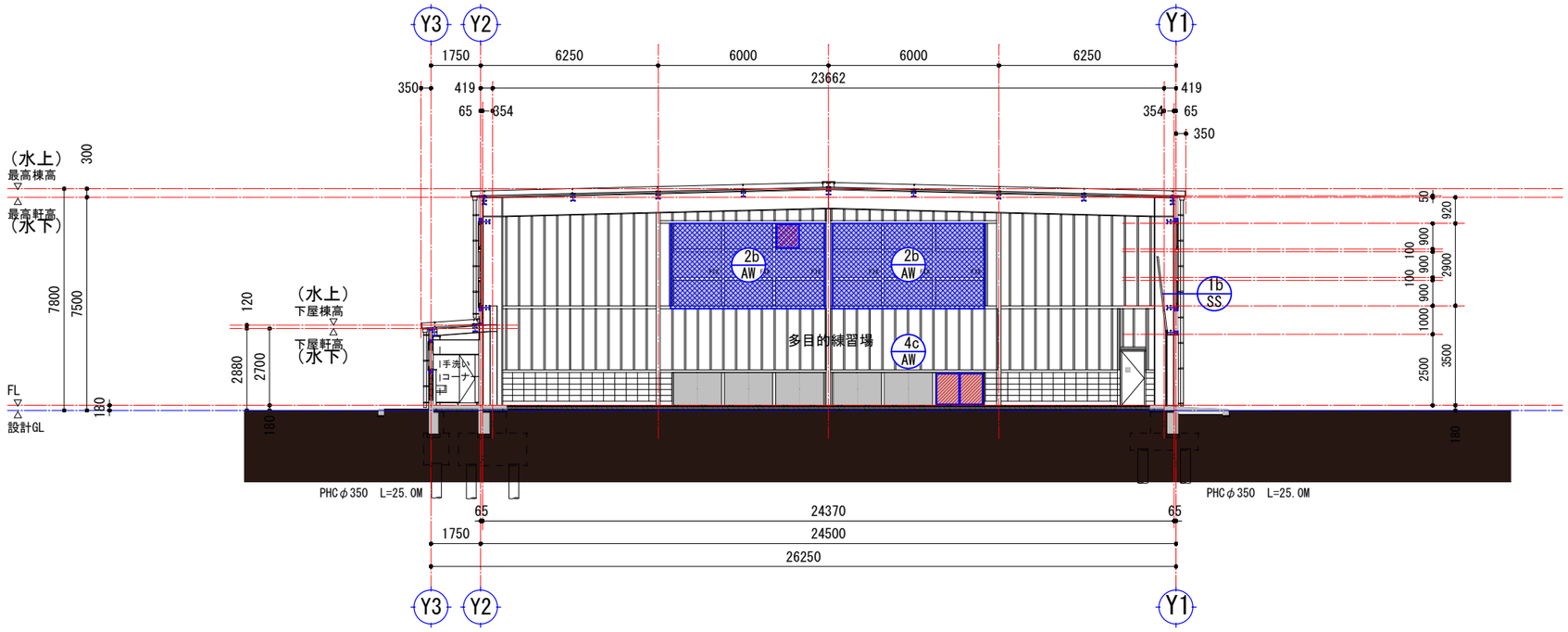
門前多目的体育館　東西断面図・A方向展開図（改修前）

改修項目リスト

記号	内容	参考数量
1	砂入り人工芝+密粒度アスコンt=50 リサイクル砕石(RC-40)追加【平均t=110】再転圧 ポイントマーカー×22箇所（正規ゲートポール×1、 サブゲートポール×2）ライン工（テニスコート×12	785.42 m2 86.40 m3
2	テニス支柱基礎、更新	2 箇所
3	テニスセンターガイド基礎、更新	1 箇所
4	既設土間コン浮き部分斫り取り撤去部分に 無収縮モルタル充填、金鏝押え	5 箇所
5	自動式低圧（エポキシ）樹脂注入工法 ※クラック幅は平均1mm内外	14.85 m
6	屋根ブレース更新（全箇所）GPLは残置 M16-1、ターンバックル付き各2箇所、L=7.55m×56本 ※作業に支障のある既設天井防球ネットの取外し復旧 ※高所作業車×2台	L=7.55m×56 箇所
7	土間コンクリートの再構築 t=100、D10@250タテヨコ共、差し筋D10@250	4.76 m2
8	コンクリート縁石ブロックの再構築 150×180×L600	38.04 m
9	既設現場打コンクリート製雨水桝の再構築 700×700（内径450×450）グレーチング共 既設VP150に再接続	3 箇所
10	竪樋の再構築 塩ビパイプ100φ、支持金物再取付共	1 箇所 7.25 m
12	サイディングH=450更新（塗装品） コーナー役物、シーリング、 アスファルトフェルト20kg貼り直し共 ※既存サイディング（B2）同等品	3.61 m2
13	壁クラック補修 クラック幅1～20mm 無収縮モルタル充填の上シリコン系シーリング	1.60 m
14	良質土敷き込み t=0～200mm	175.39 m2

株式会社 MAC建築研究所
管理建築士／一級建築士登録 第334732号 中村 健

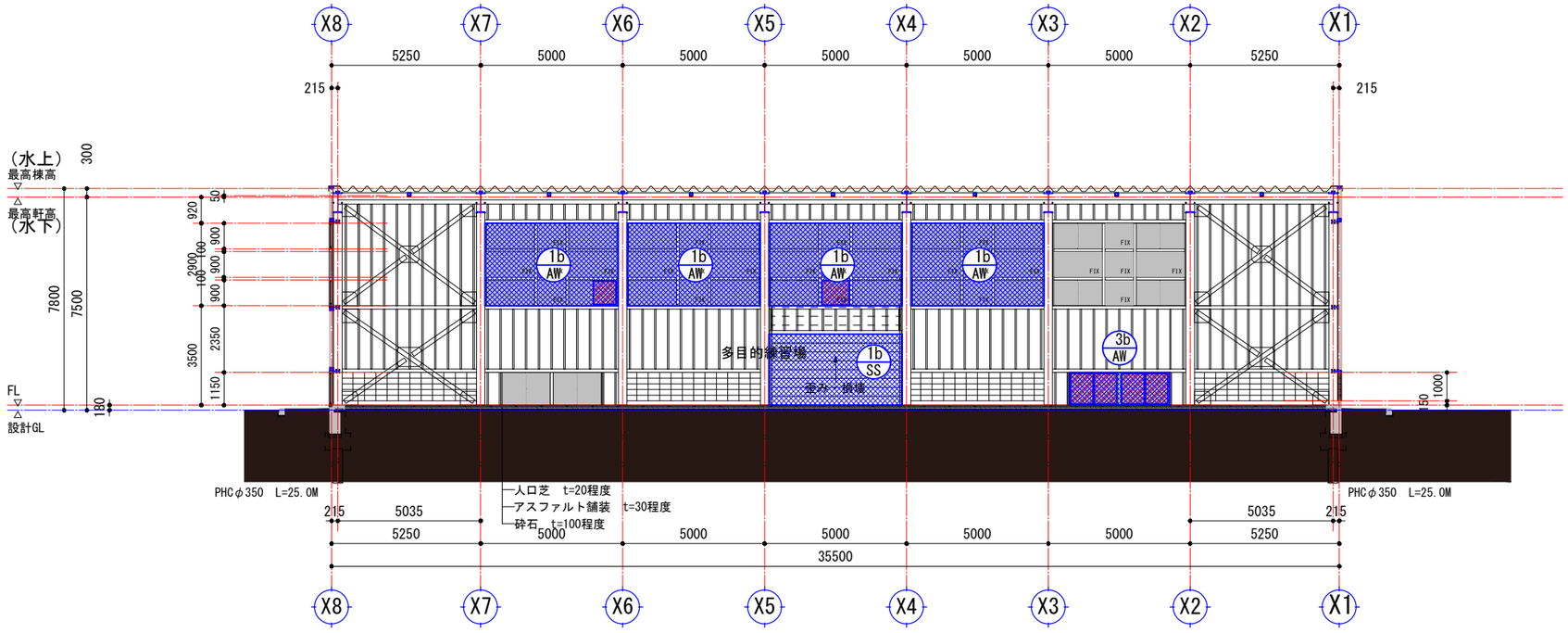
■製作年月日/DATE	■担当/CHECK	■製図/DRAWER	■特記事項	■工事名称/CONSTRUCTION-TITLE	■図面名称/DRAWING-TITLE	■縮尺/SCALE	■図番/No.
2025.09	D.SATO	D.SATO		輪島市門前総合運動公園災害復旧工事（門前多目的体育館）	門前多目的体育館　断面図・展開図１（改修図）	１/１００（A1） １/２００（A3）	A－３３



門前多目的体育館　南北断面図・B方向展開図（改修前）

ガラス更新箇所

更新個所（内容は特記による）



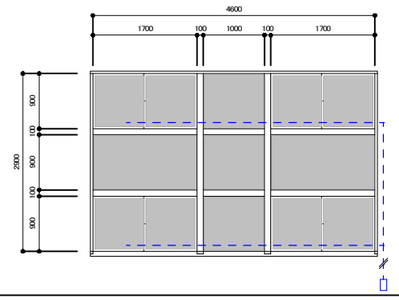
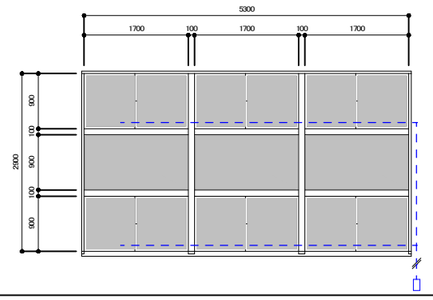
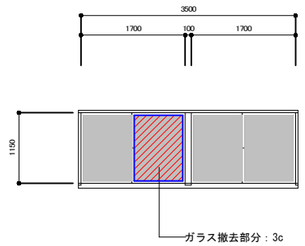
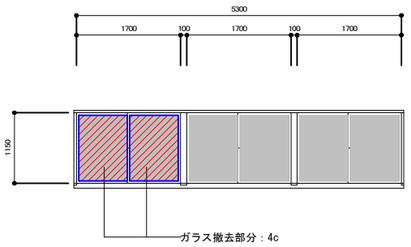
門前多目的体育館　東西断面図・C方向展開図（改修前）

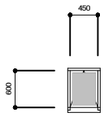
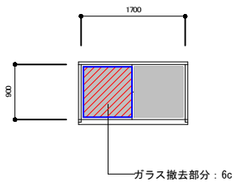
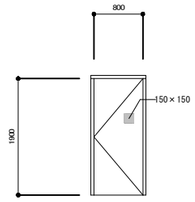
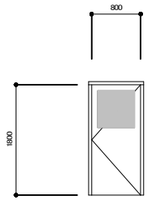
改修項目リスト

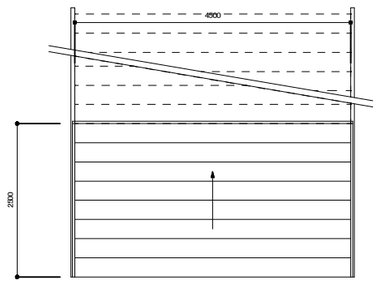
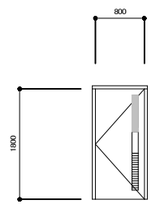
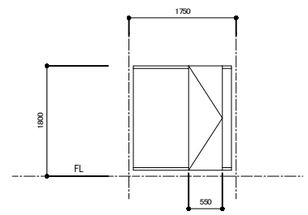
記号	内容	参考数量
1	砂入り人工芝+密粒度アスコンt=50 リサイクル砕石(RC-40)追加【平均t=110】再転圧 ポイントマーカー×22箇所（正規ゲートボール×1、サブゲートボール×2）ライン工（テニスコート×12	785.42 m2 86.40 m3
2	テニス支柱基礎、更新	2 箇所
3	テニスセンターガイド基礎、更新	1 箇所
4	既設土間コン浮き部分斫り取り撤去部分に 無収縮モルタル充填、金鏝押え	5 箇所
5	自動式低圧（エポキシ）樹脂注入工法 ※クラック幅は平均1mm内外	14.85 m
6	屋根ブレース更新（全箇所）GPLは残置 M16-1、ターンバックル付き各2箇所、L=7.55m×56本 ※作業に支障のある既設天井防球ネットの取外し復旧 ※高所作業車×2台	L=7.55m×56 箇所
7	土間コンクリートの再構築 t=100、D10@250タテヨコ共、差し筋D10@250	4.76 m2
8	コンクリート縁石ブロックの再構築 150×180×L600	38.04 m
9	既設現場打コンクリート製雨水桝の再構築 700×700（内径450×450）グレーチング共 既設VP150に再接続	3 箇所
10	竪樋の再構築 塩ビパイプ100φ、支持金物再取付共	1 箇所 7.25 m
12	サイディングH=450更新（塗装品） コーナー役物、シーリング、 アスファルトフェルト20kg貼り直し共 ※既存サイディング（B2）同等品	3.61 m2
13	壁クラック補修 クラック幅1～20mm 無収縮モルタル充填の上シリコン系シーリング	1.60 m
14	良質土敷き込み t=0～200mm	175.39 m2

株式会社 MAC建築研究所
管理建築士／一級建築士登録 第334732号 中村 健

■製作年月日/DATE	■担当/CHECK	■製図/DRAWER	■特記事項	■工事名称/CONSTRUCTION-TITLE	■図面名称/DRAWING-TITLE	■縮尺/SCALE	■図番/No.
2025.09	D.SATO	D.SATO		輪島市門前総合運動公園災害復旧工事（門前多目的体育館）	門前多目的体育館　断面図・展開図２（改修図）	1/100（A1） 1/200（A3）	A－34

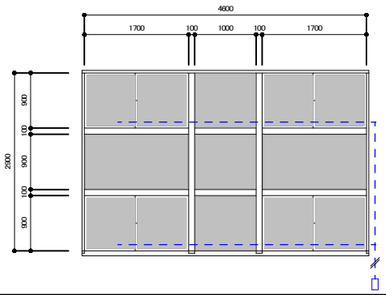
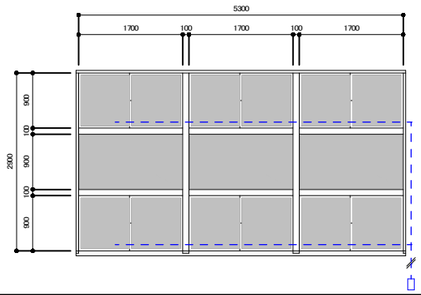
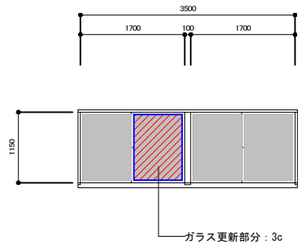
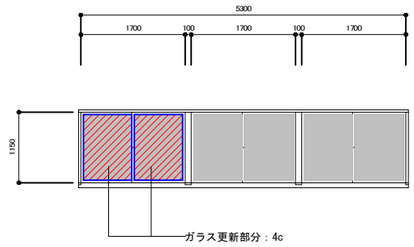
記号 / 設置個所 / 数量	1a/b AW 多目的練習場上部	2a/b AW 多目的練習場上部	3a~c AW 多目的練習場	4a~c AW 多目的練習場
	残置：1a 2 カ所 撤去：1b 8 カ所	残置：2a 0 カ所 撤去：2b 4 カ所	残置 ：3a カ所 撤去 ：3b カ所 ｶﾞﾗｽのみ撤去：3c カ所	残置 ：4a カ所 撤去 ：4b 2 カ所 ｶﾞﾗｽのみ撤去：4c カ所
姿図				
様式	嵌め殺し窓付き3連3段引き違い窓	嵌め殺し窓付き3連3段引き違い窓	2連引き違い窓	3連引き違い窓
材質 見込み	アルミ 70 mm	アルミ 70 mm	アルミ 70 mm	アルミ 70 mm
ガラス	型ガラス 4 mm	型ガラス 4 mm	網入り型ガラス 6.8 mm	網入り型ガラス 6.8 mm
金物	付属金物一式、排煙オペレーター付き（引き違い用）	付属金物一式、排煙オペレーター付き（引き違い用）	付属金物一式・内側防球フェンス（アルミ製）	付属金物一式・内側防球フェンス（アルミ製）
備考	水切り共撤去	水切り共撤去	水切り共撤去・内側防球フェンス（アルミ製縦格子手摺）は再利用	水切り共撤去・内側防球フェンス（アルミ製縦格子手摺）は再利用

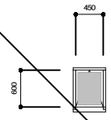
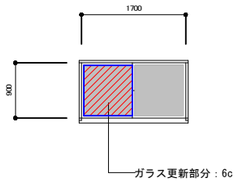
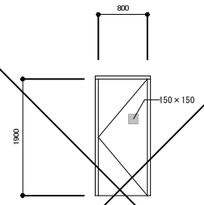
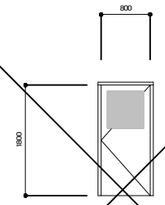
記号 / 設置個所 / 数量	5a AW 便所	6a/c AW 用具庫・手洗いコーナー	1a/b AD 多目的練習場	2a/b AD 用具庫
	残置：1a 2 カ所 撤去：1b 0 カ所	残置 ：6a 1 カ所 撤去 ：6b 0 カ所 ｶﾞﾗｽのみ撤去：6c 1 カ所	残置：1a 2 カ所 撤去：1b 0 カ所	残置：2a 1 カ所 撤去：2b 0 カ所
姿図				
様式	押し出し窓	引き違い窓	片開きアルミフラッシュ戸	片開きアルミフラッシュ戸
材質 見込み	アルミ 70 mm	アルミ 70 mm	アルミフラッシュ 70 mm	アルミフラッシュ 70 mm
ガラス	型ガラス 4 mm	型ガラス 4 mm	網入り型ガラス 6.8 mm	型ガラス 4 mm
金物	付属金物一式	クレセント錠、付属金物一式	握り玉・DC・丁番・ススステンレス沓摺・シリンダー錠（内部サムターン）	握り玉・DC・丁番・ススステンレス沓摺
備考				

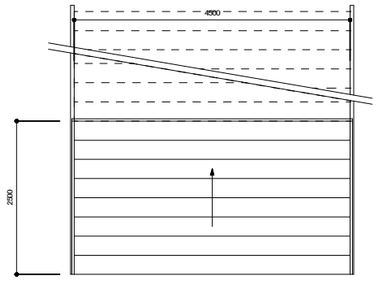
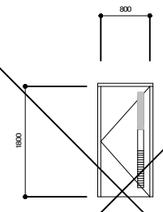
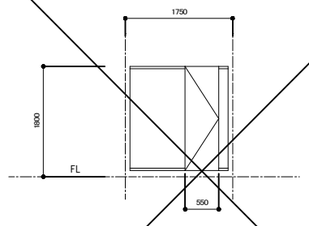
記号 / 設置個所 / 数量	1a/b SS 多目的練習場	1a WD 便所	1a WS 便所	
	残置：1a 0 カ所 撤去：1b 2 カ所	残置：1a 1 カ所 撤去：1b 0 カ所	残置：1a 1 カ所 撤去：1b 0 カ所	
姿図				
様式	オーバースライダー	片開き戸	便所スクリーン	
材質 見込み	アルミ製	ポリ合板フラッシュ 40 mm	ポリ合板フラッシュ 40 mm	
ガラス		型ガラス 4 mm		
金物	ガイドレール、錠付き	丁番、表示錠、ガラリ	ヒンジ、戸当り、表示錠、ステンレス頭つなぎ	
備考	ガイドレール、三方枠共撤去			

株式会社 MAC建築研究所
管理建築士／一級建築士登録 第334732号 中村 健

■製作年月日/DATE	■担当/CHECK	■製図/DRAWER	■特記事項	■工事名称/CONSTRUCTION-TITLE	■図面名称/DRAWING-TITLE	■縮尺/SCALE	■図番/No.
2025.09	D.SATO	D.SATO		輪島市門前総合運動公園災害復旧工事（門前多目的体育館）	門前多目的体育館 建具表１（解体図）	1/50 (A1) 1/100 (A3)	A－３５

記号 / 設置個所 / 数量	1b AW 多目的練習場上部	2b AW 多目的練習場上部	3b.c AW 多目的練習場	4b.c AW 多目的練習場
	残置：1a ~~2~~ カ所 更新：1b 8 カ所	残置：2a ~~0~~ カ所 撤去：2b 4 カ所	残置：3a ~~1~~ カ所 更新：3b 1 カ所 ｶﾞﾗｽのみ更新：3c 1 カ所	残置：4a ~~1~~ カ所 更新：4b 2 カ所 ｶﾞﾗｽのみ更新：4c 1 カ所
姿図				
様式	嵌め殺し窓付き3連3段引き違い窓	嵌め殺し窓付き3連3段引き違い窓	2連引き違い窓	3連引き違い窓
材質 見込み	アルミ 70 mm	アルミ 70 mm	アルミ 70 mm	アルミ 70 mm
ガラス	型ガラス 4 mm	型ガラス 4 mm	網入り型ガラス 6.8 mm	網入り型ガラス 6.8 mm
金物	付属金物一式、排煙オペレーター付き（引き違い用）	付属金物一式、排煙オペレーター付き（引き違い用）	付属金物一式・内側防球フェンス（アルミ製）	付属金物一式・内側防球フェンス（アルミ製）
備考	水切り共改修 建物に歪みがあるため、現地にて寸法測定を行ない製作すること	水切り共改修 建物に歪みがあるため、現地にて寸法測定を行ない製作すること	水切り共改修・内側防球フェンス（アルミ製縦格子手摺）は再利用 建物に歪みがあるため、現地にて寸法測定を行ない製作すること ガラスのみ更新部分は四周両面シール共	水切り共改修・内側防球フェンス（アルミ製縦格子手摺）は再利用 建物に歪みがあるため、現地にて寸法測定を行ない製作すること ガラスのみ更新部分は四周両面シール共

記号 / 設置個所 / 数量	5a AW 便所	6c AW 用具庫・手洗いコーナー	1a/b AD 多目的練習場	2a/b AD 用具庫
	残置：1a 2 カ所 撤去：1b 0 カ所	残置：6a ~~1~~ カ所 撤去：6b ~~0~~ カ所 ｶﾞﾗｽのみ更新：6c 1 カ所	残置：1a 2 カ所 撤去：1b 0 カ所	残置：2a 1 カ所 撤去：2b 0 カ所
姿図				
様式	押し出し窓	引き違い窓	片開きアルミフラッシュ戸	片開きアルミフラッシュ戸
材質 見込み	アルミ 70 mm	アルミ 70 mm	アルミフラッシュ 70 mm	アルミフラッシュ 70 mm
ガラス	型ガラス 4 mm	型ガラス 4 mm	網入り型ガラス 6.8 mm	型ガラス 4 mm
金物	付属金物一式	クレセント錠、付属金物一式	握り玉・DC・丁番・ススステンレス沓摺・シリンダー錠（内部サムターン）	握り玉・DC・丁番・ススステンレス沓摺
備考		四周両面シール共		

記号 / 設置個所 / 数量	1b SS 多目的練習場	1a WO 便所	1a WS 便所
	残置：1a ~~0~~ カ所 更新：1b 2 カ所	残置：1a 1 カ所 撤去：1b 0 カ所	残置：1a 1 カ所 撤去：1b 0 カ所
姿図			
様式	オーバースライダー	片開き戸	便所スクリーン
材質 見込み	アルミ製	ポリ合板フラッシュ 40 mm	ポリ合板フラッシュ 40 mm
ガラス		型ガラス 4 mm	
金物	ガイドレール、錠付き	丁番、表示錠、ガラリ	ヒンジ、戸当り、表示錠、ステンレス頭つなぎ
備考	ガイドレール、三方枠共改修 建物に歪みがあるため、現地にて寸法測定を行ない製作すること		

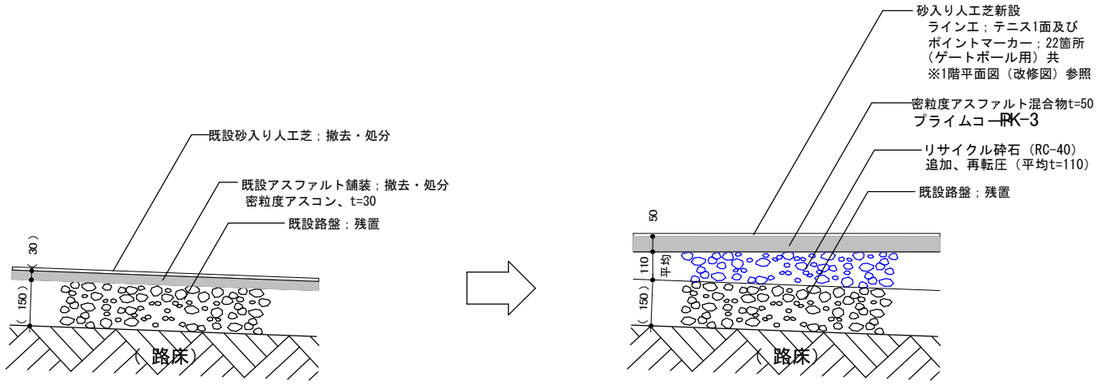
株式会社 MAC建築研究所
管理建築士／一級建築士登録 第334732号 中村 健

■製作年月日/DATE	■担当/CHECK	■製図/DRAWER	■特記事項	■工事名称/CONSTRUCTION-TITLE	■図面名称/DRAWING-TITLE	■縮尺/SCALE	■図番/No.
2025.09	D.SATO	D.SATO		輪島市門前総合運動公園災害復旧工事（門前多目的体育館）	門前多目的体育館 建具表２（改修図）	1/50 (A1) 1/100 (A3)	A－３６

1 多目的練習場床・再構築　詳細図

1/10 (A1)
1/20 (A3)

※(　) 寸法表記は、推定値とする



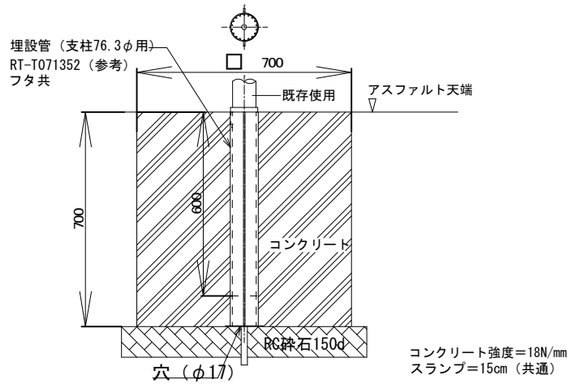
※1　人工芝は直近5年 (2020-2025) 国体会場使用施設のうち2大会会場以上を施工しているメーカーの製品を使用すること

※2　本工事で使用する砂入り人工芝は日本テニス協会 (JTA) コートの公認・推薦メーカーの製品であること

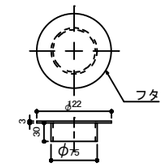
※3　(財) 日本ソフトテニス連盟 (JSTA) 公認の砂入り人工品芝製造事業の製品であること

2 3 テニス支柱基礎・再構築　詳細図 / センターガイド・再構築　詳細図

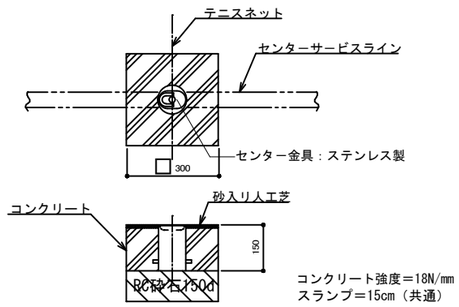
1/5、1/10 (A1)
1/10、1/20 (A3)



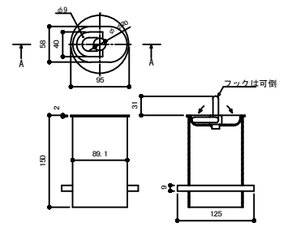
テニス支柱基礎　埋設管及び基礎の再構築　1/10 (A1)



フタ参考図　1/5 (A1)



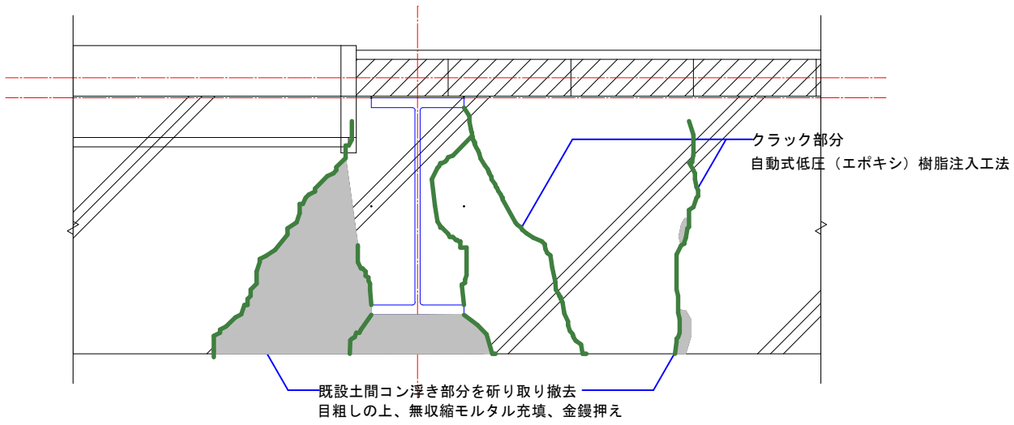
センターガードの再構築　1/10 (A1)



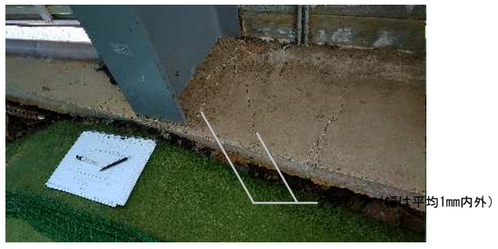
センター金具　1/5 (A1)

4 5 柱脚部土間補修等　詳細図

1/10 (A1)
1/20 (A3)



被災状況（参考写真）

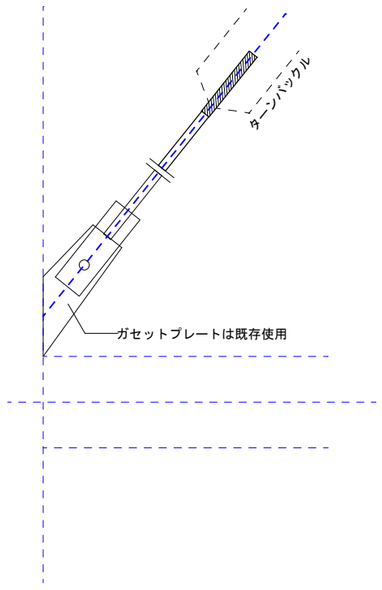


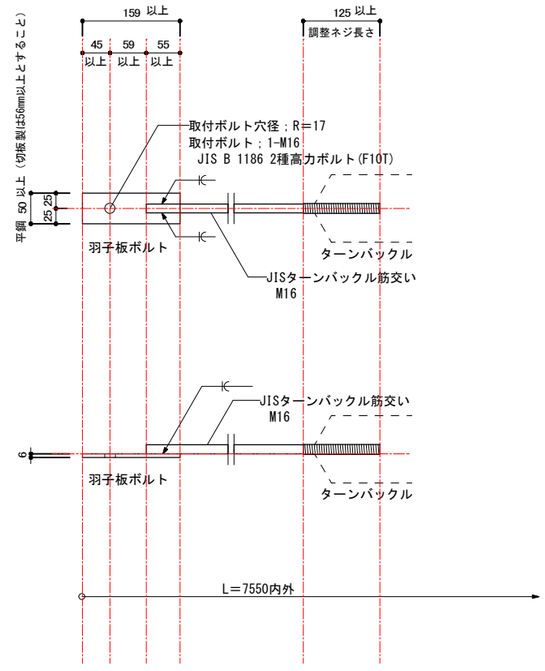
被災状況（参考写真）

6 屋根ブレース更新　詳細図

1/5 (A1)
1/10 (A3)

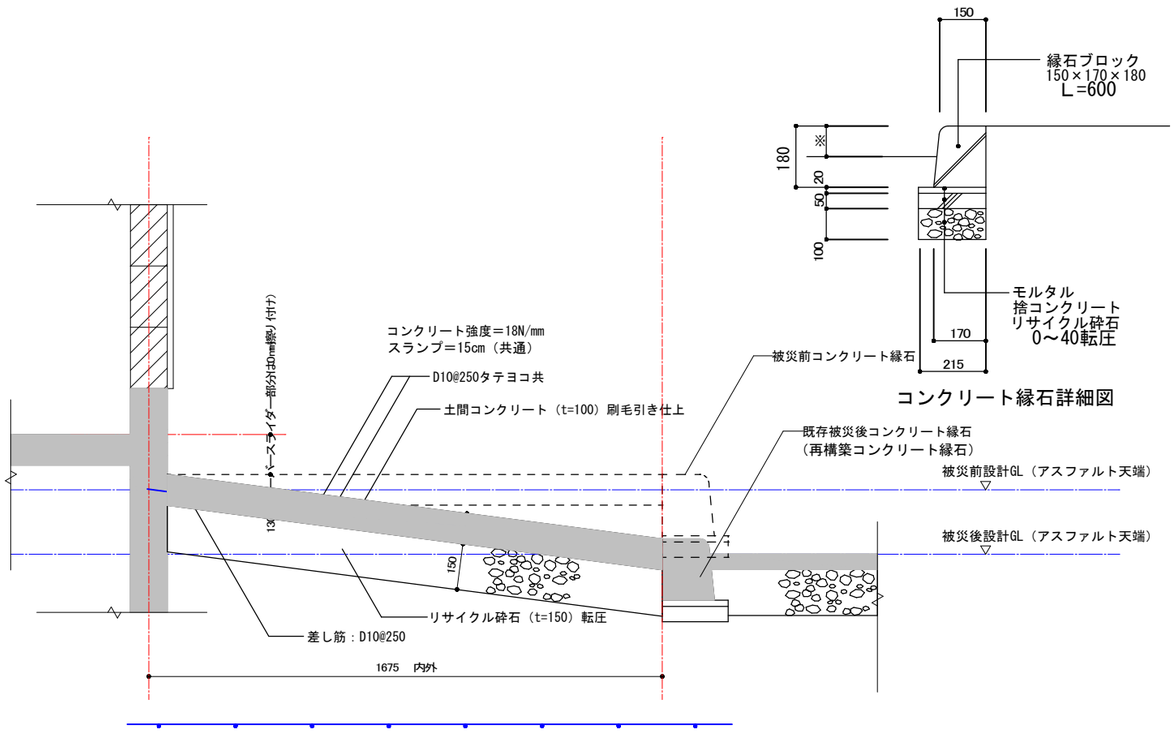
※使用部材はJISターンバックル筋交いとする





7 8 土間コンクリート撤去・再構築　詳細図
コンクリート縁石ブロック撤去・再構築　詳細図

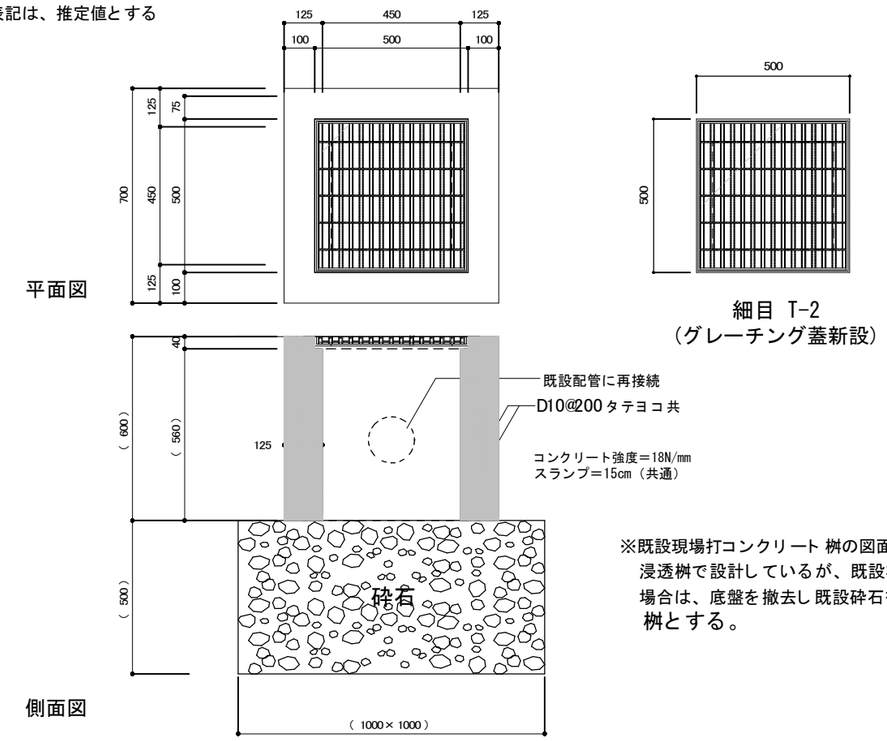
1/10 (A1)
1/20 (A3)



9 雨水桝撤去・再構築　詳細図

1/10 (A1)
1/20 (A3)

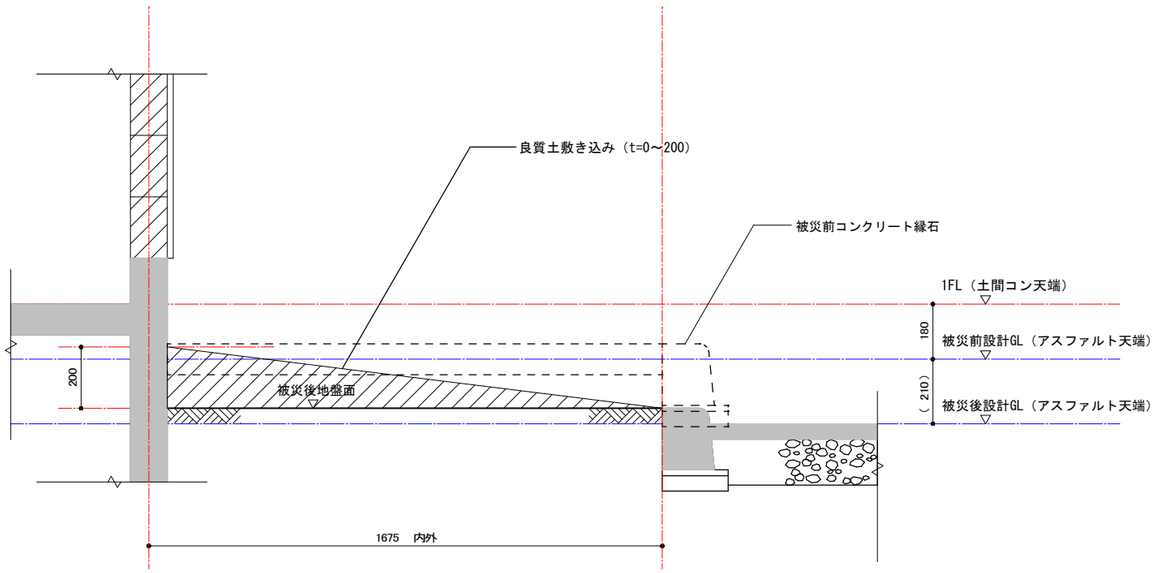
※(　) 寸法表記は、推定値とする



※既設現場打コンクリート 桝の図面がないため
浸透桝で設計しているが、既設桝が溜めますの
場合は、底盤を撤去し既設砕石を利用し、浸透
桝とする。

14 良質土敷込み　詳細図

1/10 (A1)
1/20 (A3)

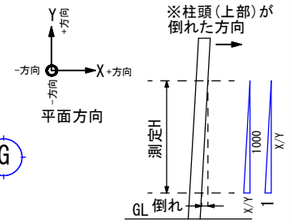


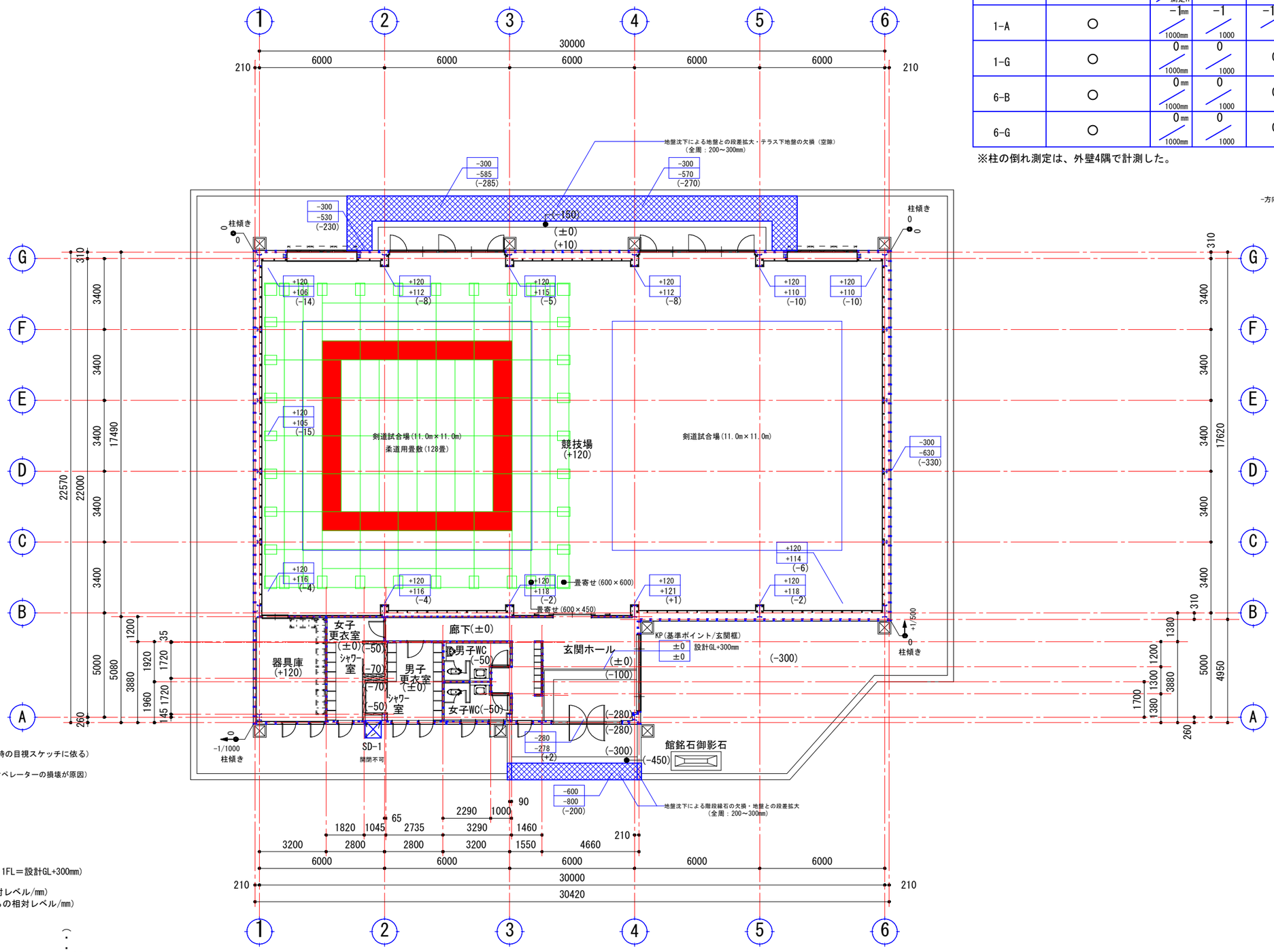
株式会社 MAC建築研究所 管理建築士／一級建築士登録 第334732号 中村　健	■製作年月日/DATE 2025.09	■担当/CHECK D.SATO	■製図/DRAWER D.SATO	■特記事項	■工事名称/CONSTRUCTION-TITLE 輪島市門前総合運動公園災害復旧工事（門前多目的体育館）	■図面名称/DRAWING-TITLE 門前多目的体育館　部分詳細図（2）	■縮尺/SCALE 1/10　他（A1） 1/20　他（A3）	■図番/No. A－３８

門前町立武道館　1階　柱調査

柱記号	柱状況（○は正常）	X方向 倒れ/測定H	X方向 X/1000	X方向 1/X	Y方向 倒れ/測定H	Y方向 Y/1000	Y方向 1/Y
1-A	○	−1mm/1000mm	−1/1000	−1/1000	0mm/1000mm	0/1000	0
1-G	○	0mm/1000mm	0/1000	0	0mm/1000mm	0/1000	0
6-B	○	0mm/1000mm	0/1000	0	+2mm/1000mm	+2/1000	+1/500
6-G	○	0mm/1000mm	0/1000	0	0mm/1000mm	0/1000	0

※柱の倒れ測定は、外壁4隅で計測した。





凡例

クラック　欠け・剥落（現調時の目視スケッチに依る）

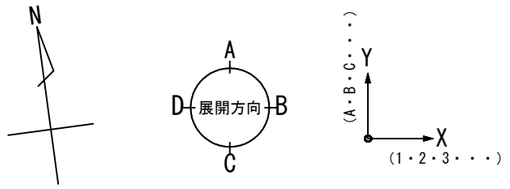
開閉が出来ない建具（歪みもしくはオペレーターの損壊が原因）

破損箇所

+120 当初設計レベル（1FL：玄関を±0、1FL＝設計GL+300mm）

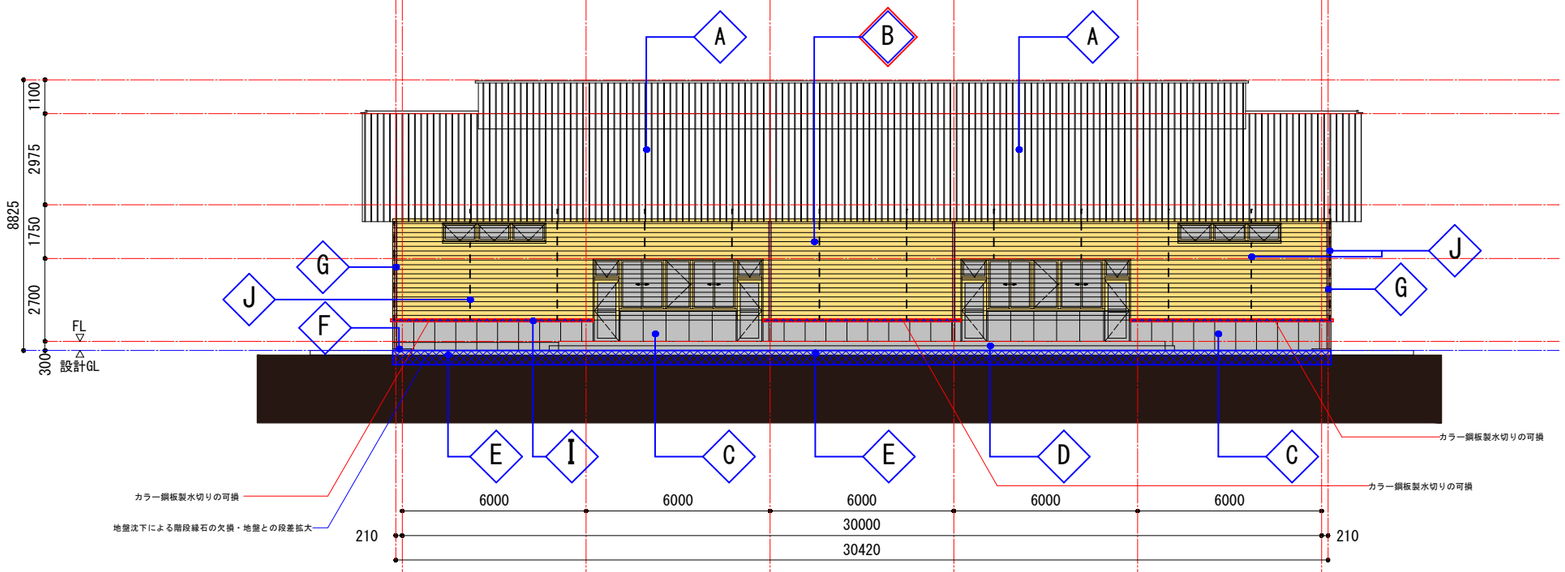
+121 被災後レベル（被災後KPからの相対レベル/mm）

(+1) 被災前後のレベル差（被災後KPからの相対レベル/mm）

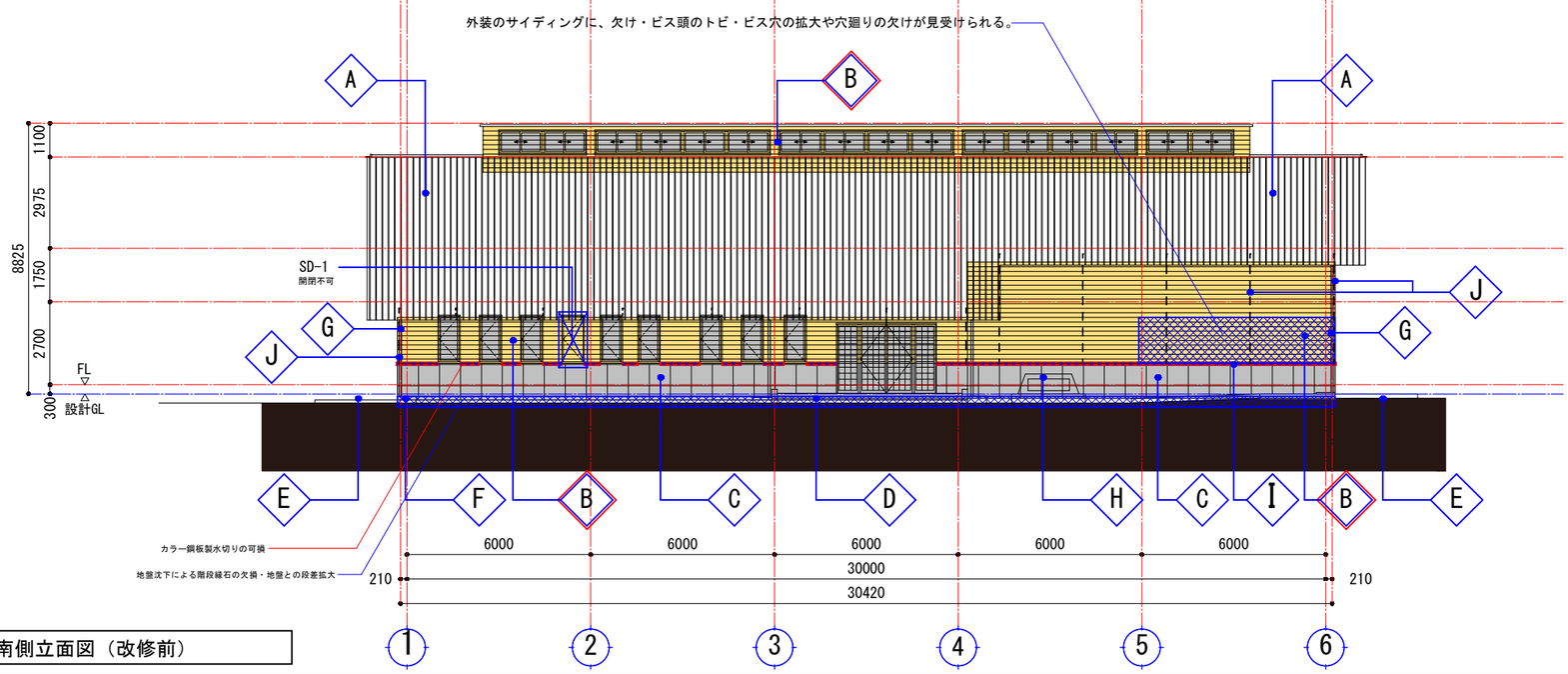


門前武道館　平面図（改修前）

株式会社MAC建築研究所 管理建築士／一級建築士登録 第334732号 中村　健	■製作年月日/DATE	■担当/CHECK	■製図/DRAWER	■特記事項	■工事名称/CONSTRUCTION-TITLE	■図面名称/DRAWING-TITLE	■縮尺/SCALE	■図番/No.
	2025.09	D.SATO	D.SATO		輪島市門前総合運動公園災害復旧工事（門前武道館）	門前武道館　平面図（改修前）	1/100 (A1) 1/200 (A3)	A−39



門前武道館　北側立面図（改修前）



門前武道館　南側立面図（改修前）

凡例

クラック　欠け・剥落（現調時の目視スケッチに依る）

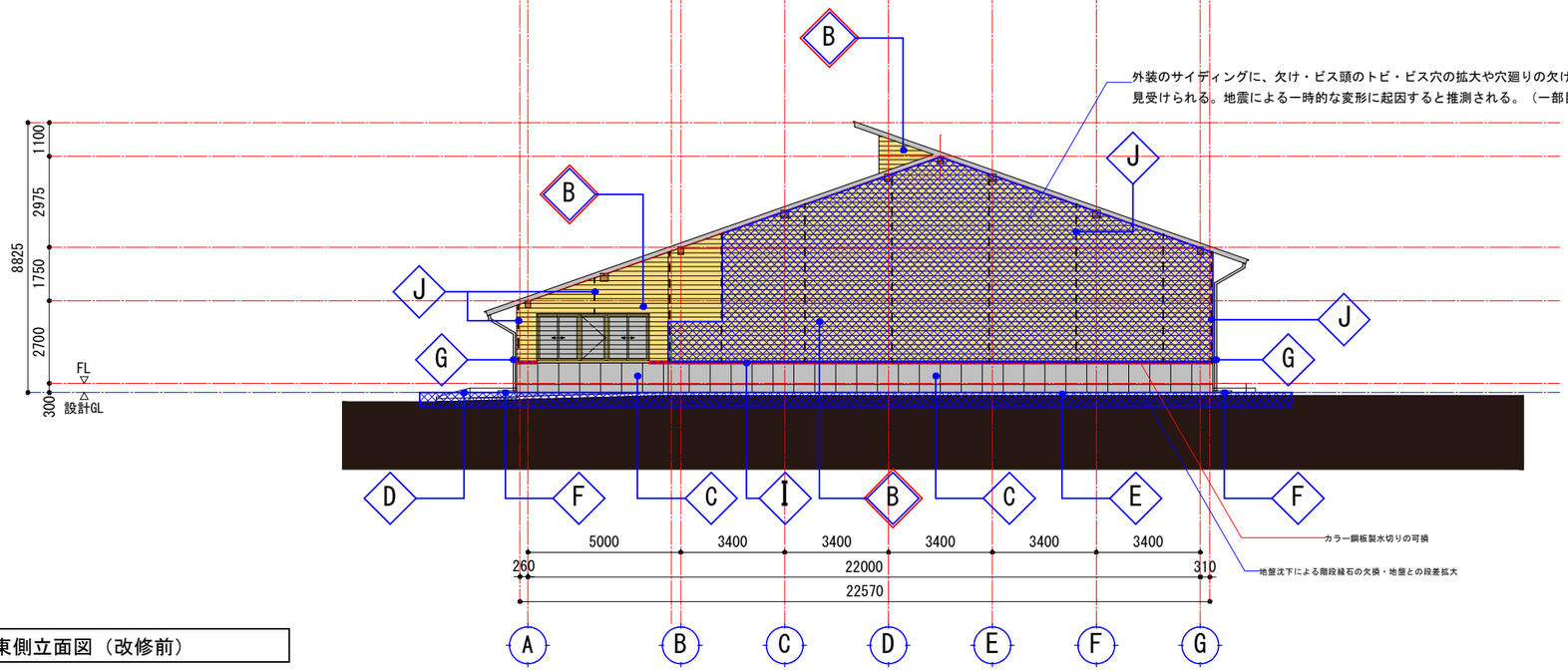
開閉が出来ない建具（歪みもしくはオペレーターの損壊が原因）

破損箇所

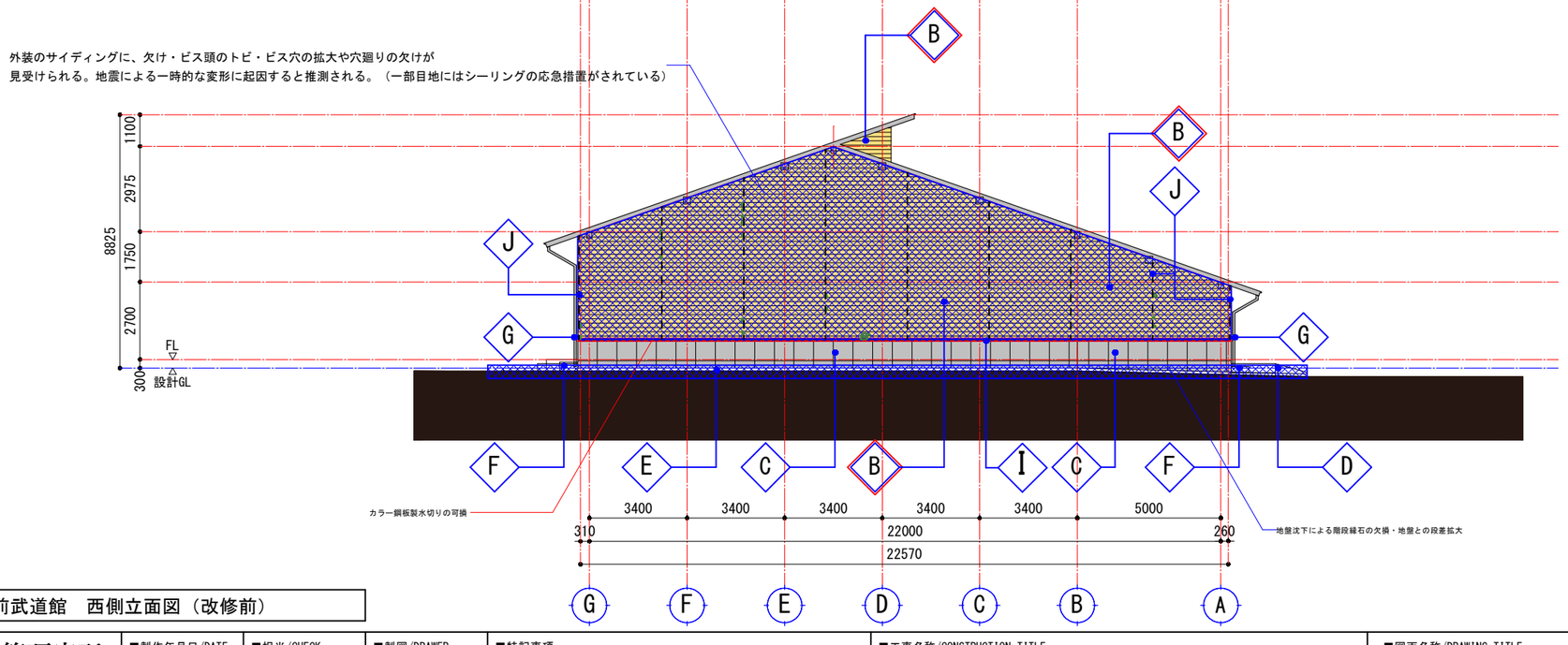
凡例

A	屋根：瓦葺 和型桟瓦53型
B	外壁：成形ケイ酸カルシウム板t=11、シーラー処理、EP ※窯業系サイディングH＝450(目地@150)×t=11貼りと推測される 成形ケイ酸カルシウム板：アスベスト含有レベル3
C	腰　：コンクリート打放し、御影石状吹付材吹付 目地：縦目地巾20@700
D	玄関ポーチ：モルタル、150角タイル貼り 立上り：コンクリート打放し、御影石状吹付材吹付
E	縁石：コンクリート2次製品
F	集水桝：コンクリート金ゴテ押え
G	竪樋：塩ビパイプφ75
H	館名石：御影石本磨き
I	水切り
J	目地（シーリング）

株式会社 MAC建築研究所 管理建築士／一級建築士登録 第334732号 中村 健	■製作年月日/DATE 2025.09	■担当/CHECK D.SATO	■製図/DRAWER D.SATO	■特記事項	■工事名称/CONSTRUCTION-TITLE 輪島市門前総合運動公園災害復旧工事（門前武道館）	■図面名称/DRAWING-TITLE 門前武道館　立面図１（改修前）	■縮尺/SCALE 1/100 (A1) 1/200 (A3)	■図番/No. A－42



門前武道館　東側立面図（改修前）



門前武道館　西側立面図（改修前）

凡例

クラック　欠け・剥落（現調時の目視スケッチに依る）

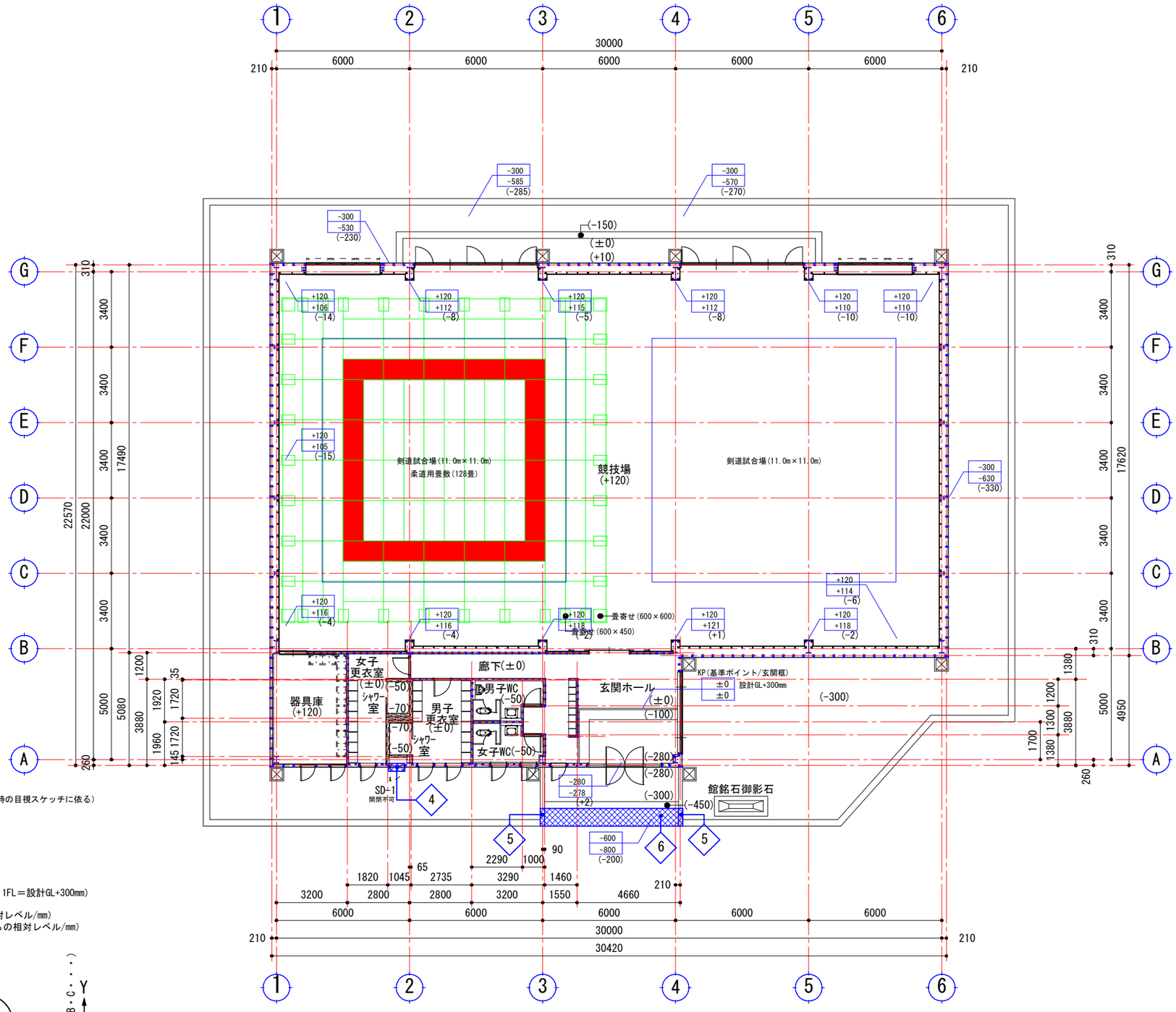
開閉が出来ない建具（歪みもしくはオペレーターの損壊が原因）

破損箇所

凡例

A	屋根：瓦葺 和型桟瓦53型
B	外壁：成形ケイ酸カルシウム板t=11、シーラー処理、EP ※窯業系サイディングH=450(目地@150)×t=11貼りと推測される 成形ケイ酸カルシウム板：アスベスト含有レベル3
C	腰　：コンクリート打放し、御影石状吹付材吹付 目地：縦目地巾20@700
D	玄関ポーチ：モルタル、150角タイル貼り 立上り：コンクリート打放し、御影石状吹付材吹付
E	縁石：コンクリート2次製品
F	集水桝：コンクリート金ゴテ押え
G	竪樋：塩ビパイプφ75
H	館名石：御影石本磨き
I	水切り
J	目地（シーリング）

株式会社 MAC建築研究所 管理建築士／一級建築士登録 第334732号 中村 健	■製作年月日/DATE 2025.09	■担当/CHECK D.SATO	■製図/DRAWER D.SATO	■特記事項	■工事名称/CONSTRUCTION-TITLE 輪島市門前総合運動公園災害復旧工事（門前武道館）	■図面名称/DRAWING-TITLE 門前武道館　立面図２（改修前）	■縮尺/SCALE １／１００（A1） １／２００（A3）	■図番/No. Ａ－４３



凡例

クラック　欠け・剥落（現調時の目視スケッチに依る）

撤去箇所

+120 当初設計レベル（1FL：玄関を±0、1FL＝設計GL+300mm）

+121 被災後レベル（被災後KPからの相対レベル/mm）

(+1) 被災前後のレベル差（被災後KPからの相対レベル/mm）

N

A B C D 展開方向

(A・B・C・・・) Y　X (1・2・3・・・)

門前武道館　平面図（解体図）

解体項目リスト

記号	内容	参考数量
1	外壁：成形ケイ酸カルシウム板t=11、 シーラー処理、EP　の撤去・処分（目地シール共） ※窯業系サイディングH=450 （目地@150）×t=11貼りと推測される 成形ケイ酸カルシウム板：アスベスト含有レベル3	51.07 m2 目地シール 25.54 m
1a	外壁：成形ケイ酸カルシウム板t=11、 シーラー処理、EP　の撤去・処分（目地シール共） ※窯業系サイディングH=450 （目地@150）×t=11貼りと推測される 成形ケイ酸カルシウム板：アスベスト含有レベル3	15.00 m2 目地シール 17.55 m
2	既設成形ケイ酸カルシウム板t=11（窯業系 サイディング H=450）縦目地シール材の撤去 成形ケイ酸カルシウム板：アスベスト含有レベル3	目地シール 62.69 m
3a	既設水切り（カラー鋼板曲げ加工品）、撤去・処分	82.20 m
4	既設鋼製建具SD-1、撤去・処分（枠共）	1 箇所
5	既設現場打階段縁石コンクリートの撤去・処分 （基礎部分共） 見え掛り小口カッター入れ	2 箇所
6	既設アスファルトの撤去・処分 ※外構工事に含まれる	0.00 m2

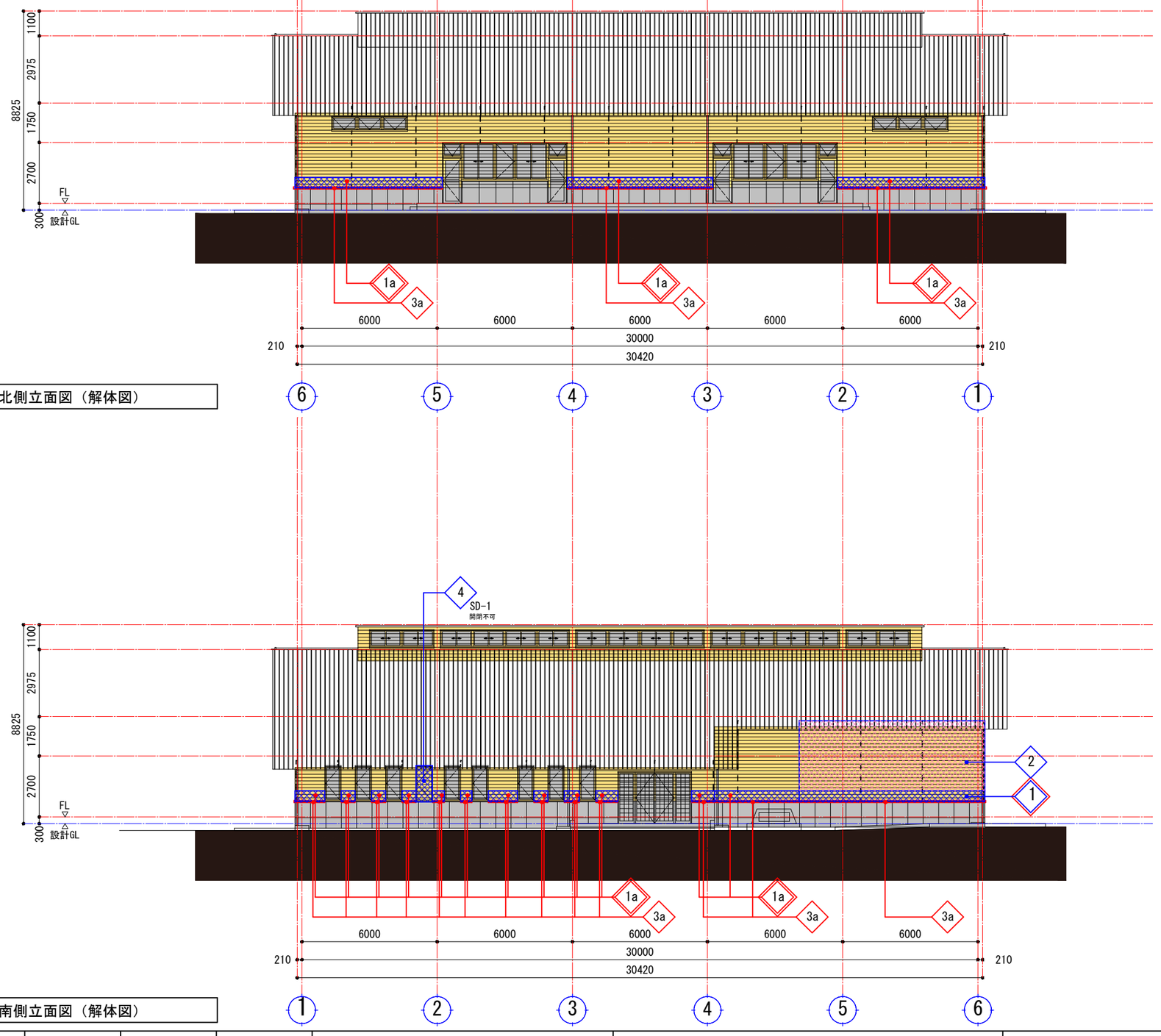
株式会社 MAC建築研究所
管理建築士／一級建築士登録 第334732号 中村　健

■製作年月日/DATE	■担当/CHECK	■製図/DRAWER	■特記事項	■工事名称/CONSTRUCTION-TITLE	■図面名称/DRAWING-TITLE	■縮尺/SCALE	■図番/No.
2025.09	D.SATO	D.SATO		輪島市門前総合運動公園災害復旧工事（門前武道館）	門前武道館　平面図（解体図）	1/100 (A1) 1/200 (A3)	A－44

凡例

クラック　欠け・剥落　（現調時の目視スケッチに依る）

撤去箇所



門前武道館　北側立面図（解体図）

門前武道館　南側立面図（解体図）

解体項目リスト

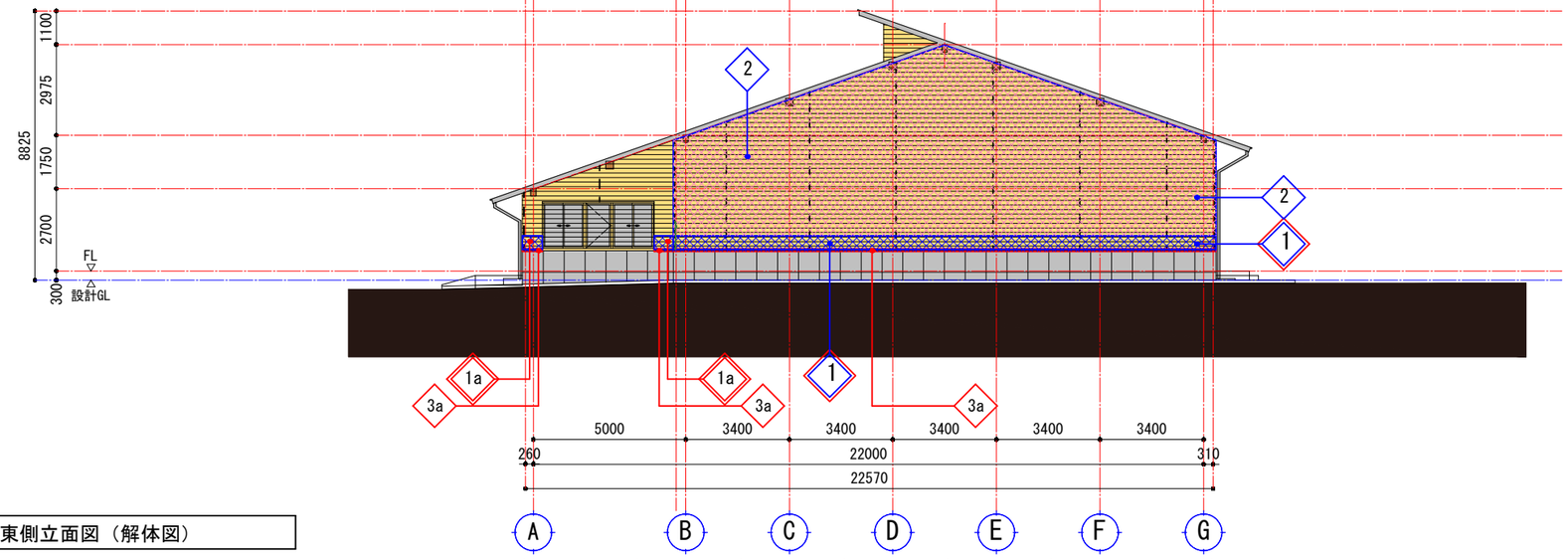
記号	内容	参考数量
1	外壁：成形ケイ酸カルシウム板t=11、 シーラー処理、EP　の撤去・処分（目地シール共） ※窯業系サイディングH=450 （目地@150）×t=11貼りと推測される 成形ケイ酸カルシウム板：アスベスト含有レベル3	51.07　m2 目地シール 25.54　m
1a	外壁：成形ケイ酸カルシウム板t=11、 シーラー処理、EP　の撤去・処分（目地シール共） ※窯業系サイディングH=450 （目地@150）×t=11貼りと推測される 成形ケイ酸カルシウム板：アスベスト含有レベル3	15.00　m2 目地シール 17.55　m
2	既設成形ケイ酸カルシウム板t=11（窯業系 サイディングH=450）縦目地シール材の撤去 成形ケイ酸カルシウム板：アスベスト含有レベル3	目地シール 62.69　m
3a	既設水切り（カラー鋼板曲げ加工品）、撤去・処分	82.20　m
4	既設鋼製建具SD-1、撤去・処分（枠共）	1 箇所
5	既設現場打階段縁石コンクリートの撤去・処分 （基礎部分共） 見え掛り小口カッター入れ	2 箇所
6	既設アスファルトの撤去・処分 ※外構工事に含まれる	0.00　m2

株式会社 MAC建築研究所 管理建築士／一級建築士登録 第334732号 中村　健	■製作年月日/DATE 2025.09	■担当/CHECK D.SATO	■製図/DRAWER D.SATO	■特記事項	■工事名称/CONSTRUCTION-TITLE 輪島市門前総合運動公園災害復旧工事（門前武道館）	■図面名称/DRAWING-TITLE 門前武道館　立面図１（解体図）	■縮尺/SCALE １/１００（A1） １/２００（A3）	■図番/No. Ａ－４５

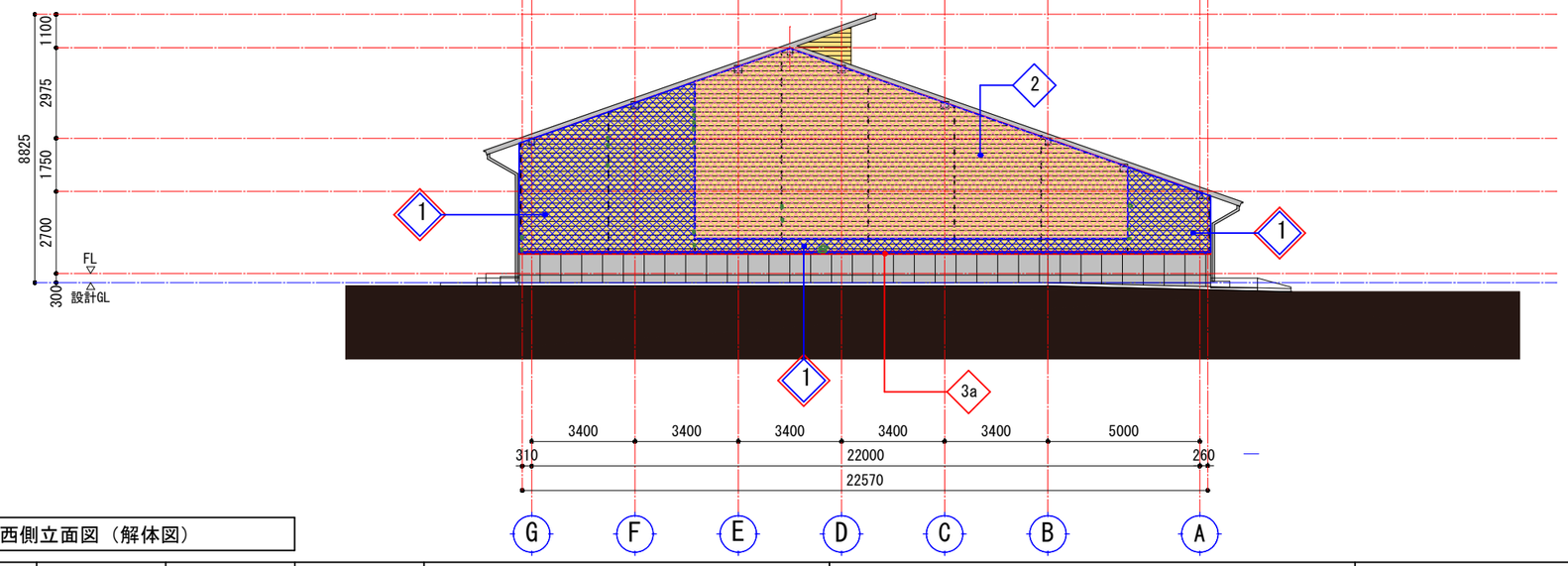
凡例

クラック　欠け・剥落（現調時の目視スケッチに依る）

撤去箇所



門前武道館　東側立面図（解体図）



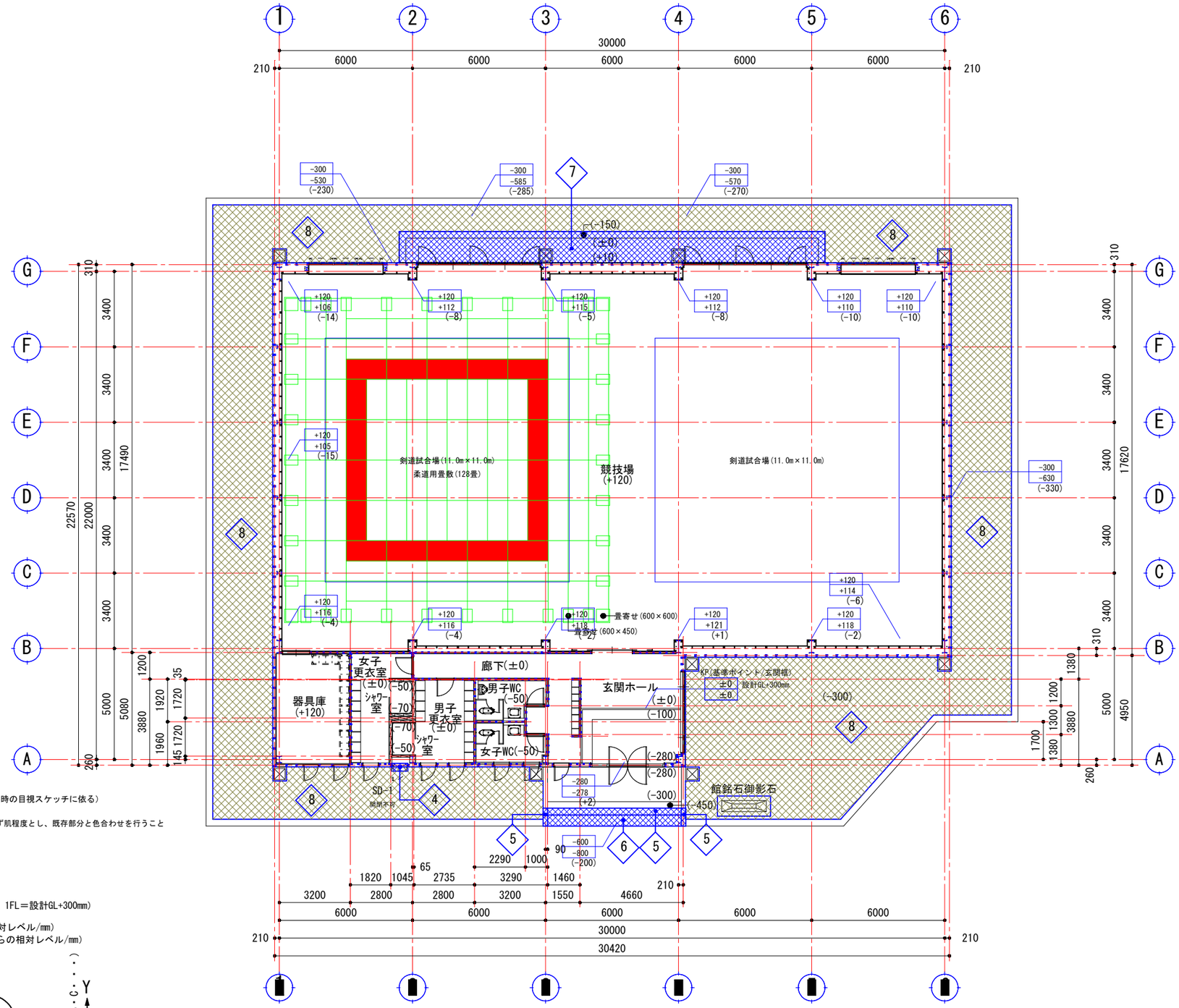
門前武道館　西側立面図（解体図）

解体項目リスト

記号	内容	参考数量
1	外壁：成形ケイ酸カルシウム板t=11、 シーラー処理、EP　の撤去・処分（目地シール共） ※窯業系サイディングH=450 （目地@150）×t=11貼りと推測される 成形ケイ酸カルシウム板：アスベスト含有レベル3	51.07　m2 目地シール 25.54　m
1a	外壁：成形ケイ酸カルシウム板t=11、 シーラー処理、EP　の撤去・処分（目地シール共） ※窯業系サイディングH=450 （目地@150）×t=11貼りと推測される 成形ケイ酸カルシウム板：アスベスト含有レベル3	15.00　m2 目地シール 17.55　m
2	既設成形ケイ酸カルシウム板t=11（窯業系 サイディン H=450）縦目地シール材の撤去 成形ケイ酸カルシウム板：アスベスト含有レベル3	目地シール 62.69　m
3a	既設水切り（カラー鋼板曲げ加工品）、撤去・処分	82.20　m
4	既設鋼製建具SD-1、撤去・処分（枠共）	1 箇所
5	既設現場打階段縁石コンクリートの撤去・処分 （基礎部分共） 見え掛り小口カッター入れ	2 箇所
6	既設アスファルトの撤去・処分 ※外構工事に含まれる	0.00　m2

株式会社 MAC建築研究所
管理建築士／一級建築士登録 第334732号 中村　健

■製作年月日/DATE	■担当/CHECK	■製図/DRAWER	■特記事項	■工事名称/CONSTRUCTION-TITLE	■図面名称/DRAWING-TITLE	■縮尺/SCALE	■図番/No.
2025.09	D.SATO	D.SATO		輪島市門前総合運動公園災害復旧工事（門前武道館）	門前武道館　立面図２（解体図）	１/１００（A1） １/２００（A3）	A－４６



凡例

クラック　欠け・剥落　（現調時の目視スケッチに依る）

改修箇所　※外装用複合塗材Eはゆず肌程度とし、既存部分と色合わせを行うこと

改修箇所（良質土敷き込み範囲）

+120 当初設計レベル（1FL：玄関を±0、1FL＝設計GL+300mm）

+121 被災後レベル（被災後KPからの相対レベル/mm）

(+1) 被災前後のレベル差（被災後KPからの相対レベル/mm）

N

A B C D 展開方向

Y (A・B・C・・・)

X (1・2・3・・・)

門前武道館　平面図（改修図）

改修項目リスト

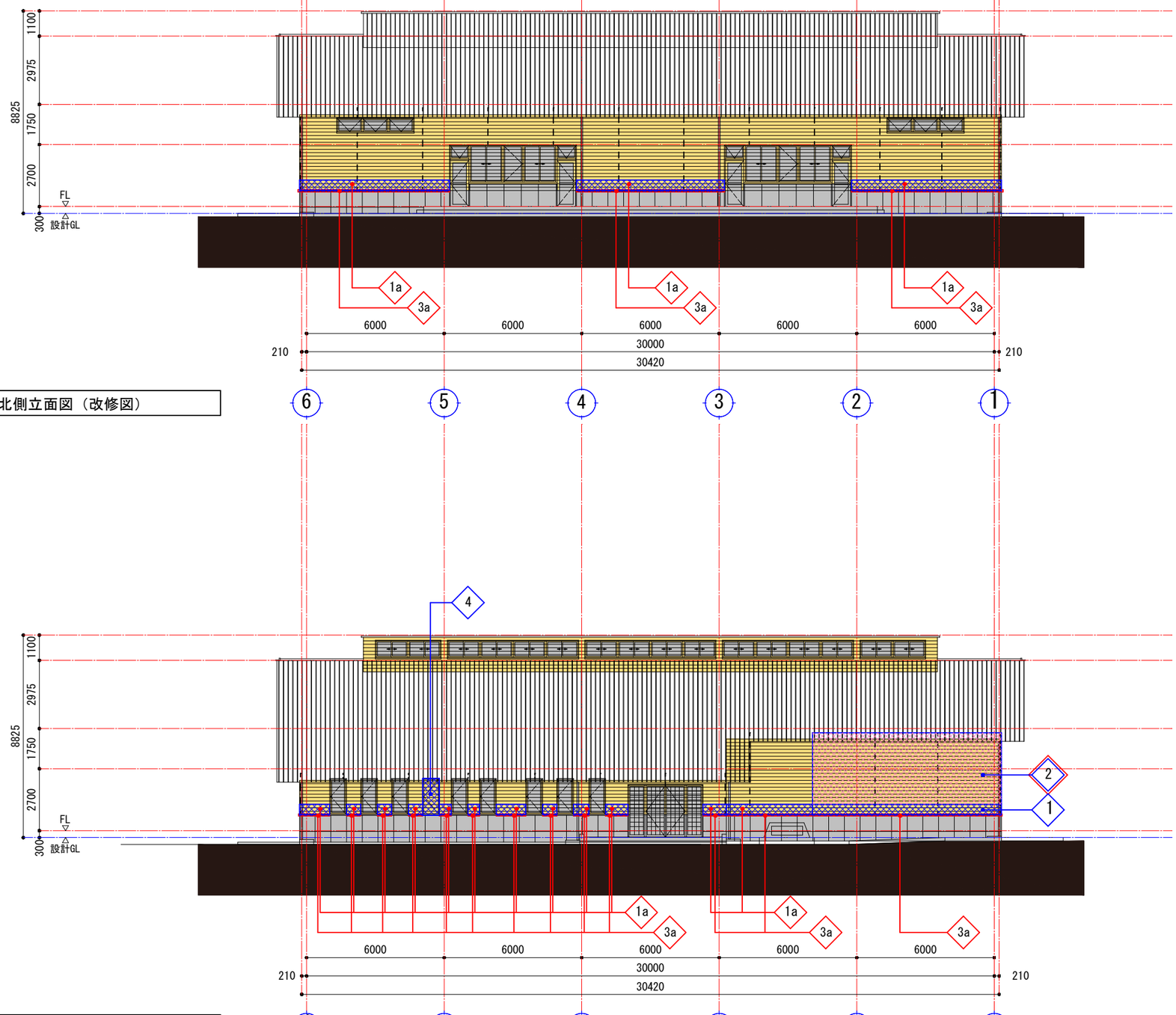
記号	内容	参考数量
1	外壁：成形ケイ酸カルシウム板t=11（下地防水紙共） シーラー処理、外装用複合塗材Eの再構築（目地シール共） 既存サイディングとの取り合いはシール打ち(変性シリコン) ※窯業系サイディングH=450 （目地#150）×t=11：既存と同等品とする	51.07 m2 目地シール 74.92 m
1a	外壁：成形ケイ酸カルシウム板t=11(下地防水紙共)、 シーラー処理、外装用複合塗材Eの再構築（目地シール共） 既存サイディングとの取り合いはシール打ち(変性シリコン) ※窯業系サイディングH=450 （目地#150）×t=11：既存と同等品とする	15.00 m2 目地シール 50.89 m
2	既設成形ケイ酸カルシウム板t=11（　窯業系 サイディング H＝450 ）縦目地シール材の打替え及び 浮き部ビスの再打ち込み（直近：20本/m2程度） ケレン・ハテ・シーラー処理の上、外装用複合塗材E再塗装 成形ケイ酸カルシウム板：アスベスト含有レベル3	目地シール 62.69 m 174.87 m2
3a	既設水切り（ガルバリウム鋼板t=0.4曲げ加工品） 再構築	82.20 m
4	既設鋼製建具SD-1、再構築（枠・4周シール共）	1 箇所
5	既設現場打階段縁石コンクリートの再構築 及び階段1段増設	1 式
6	既設アスファルトの再構築 ※外構工事に含まれる	0.00 m2
7	既設スラブ下空隙へコンクリートの充填 平均t=230（想定）18N/mm、スランプ18cm 打込用コア抜き150φ×3箇所、 タイル補修150角×12枚、周辺吹き出し型枠共	27.17 m2
8	良質土敷き込み t=0～250mm	287.85 m2

株式会社 MAC建築研究所 管理建築士／一級建築士登録 第334732号 中村 健	■製作年月日/DATE 2025.09	■担当/CHECK D.SATO	■製図/DRAWER D.SATO	■特記事項	■工事名称/CONSTRUCTION-TITLE 輪島市門前総合運動公園災害復旧工事（門前武道館）	■図面名称/DRAWING-TITLE 門前武道館　平面図（改修図）	■縮尺/SCALE 1/100 (A1) 1/200 (A3)	■図番/No. A－47

凡例

クラック　欠け・剥落（現調時の目視スケッチに依る）

改修箇所　※外装用複合塗材Eはゆず肌程度とし、既存部分と色合わせを行うこと



門前武道館　北側立面図（改修図）

門前武道館　南側立面図（改修図）

改修項目リスト

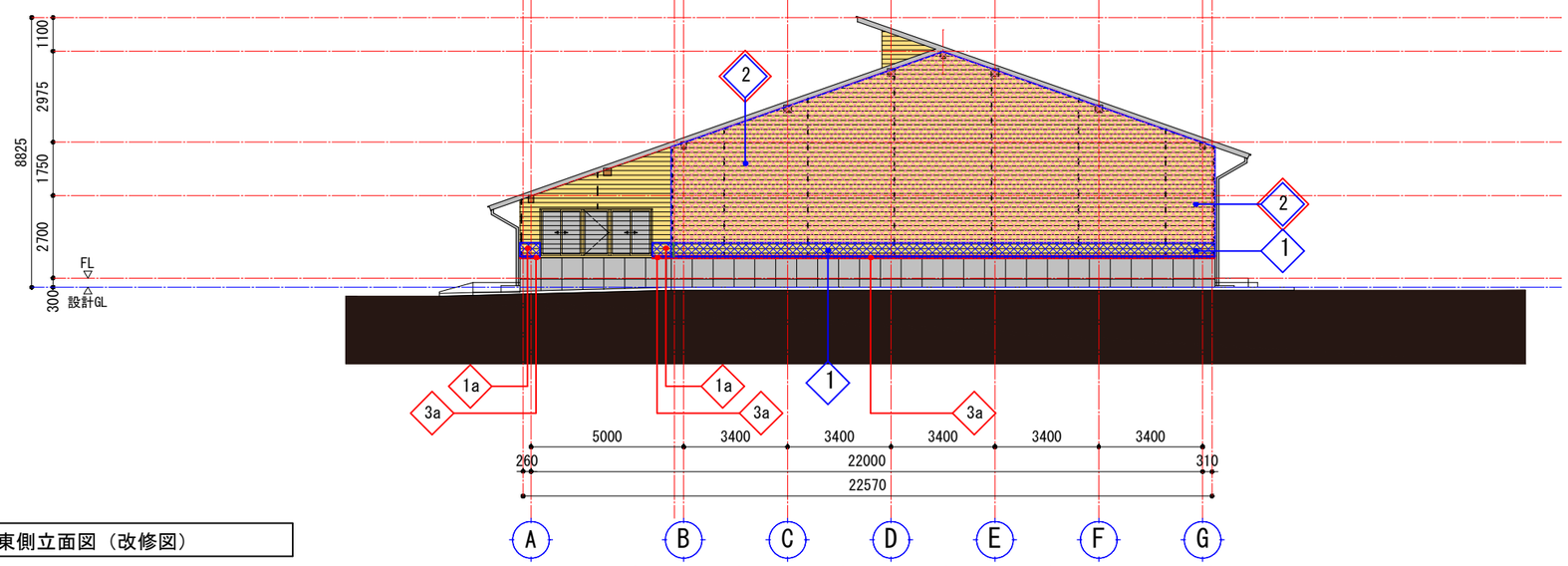
記号	内容	参考数量
1	外壁：成形ケイ酸カルシウム板t=11（下地防水紙共）、 シーラー処理、外装用複合塗材Eの再構築（目地シール共） 既存サイディングとの取り合いはシール打ち(変性シリコン) ※窯業系サイディングH=450 （目地#150）×t=11：既存と同等品とする	51.07 m2 目地シール 74.92 m
1a	外壁：成形ケイ酸カルシウム板t=11(下地防水紙共)、 シーラー処理、外装用複合塗材Eの再構築（目地シール共） 既存サイディングとの取り合いはシール打ち(変性シリコン) ※窯業系サイディングH=450 （目地#150）×t=11：既存と同等品とする	15.00 m2 目地シール 50.89 m
2	既設成形ケイ酸カルシウム板t=11（　窯業系 サイディング H＝450 ）縦目地シール材の打替え及び 浮き部ビスの再打ち込み（直近・20本/m2程度） ケレン・パテ・シーラー処理の上、外装用複合塗材E再塗装 成形ケイ酸カルシウム板 アスベスト含有レベル3	目地シール 62.69 m 174.87 m2
3a	既設水切り（ガルバリウム鋼板t=0.4曲げ加工品） 再構築	82.20 m
4	既設鋼製建具SD-1、再構築（枠・4周シール共）	1 箇所
5	既設現場打階段縁石コンクリートの再構築 及び階段1段増設	1 式
6	既設アスファルトの再構築 ※外構工事に含まれる	0.00 m2
7	既設スラブ下空隙へコンクリートの充填 平均t=230（想定）18N/mm、スランプ18cm 打込用コア抜き150φ×3箇所、 タイル補修150角×12枚、周辺吹き出し型枠共	27.17 m2
8	良質土敷き込み t=0～250mm	287.85 m2

株式会社 MAC建築研究所 管理建築士／一級建築士登録 第334732号 中村 健	■製作年月日/DATE	■担当/CHECK	■製図/DRAWER	■特記事項	■工事名称/CONSTRUCTION-TITLE	■図面名称/DRAWING-TITLE	■縮尺/SCALE	■図番/No.
	2025.09	D.SATO	D.SATO		輪島市門前総合運動公園災害復旧工事（門前武道館）	門前武道館　立面図１（改修図）	１／１００（A1） １／２００（A3）	A－４８

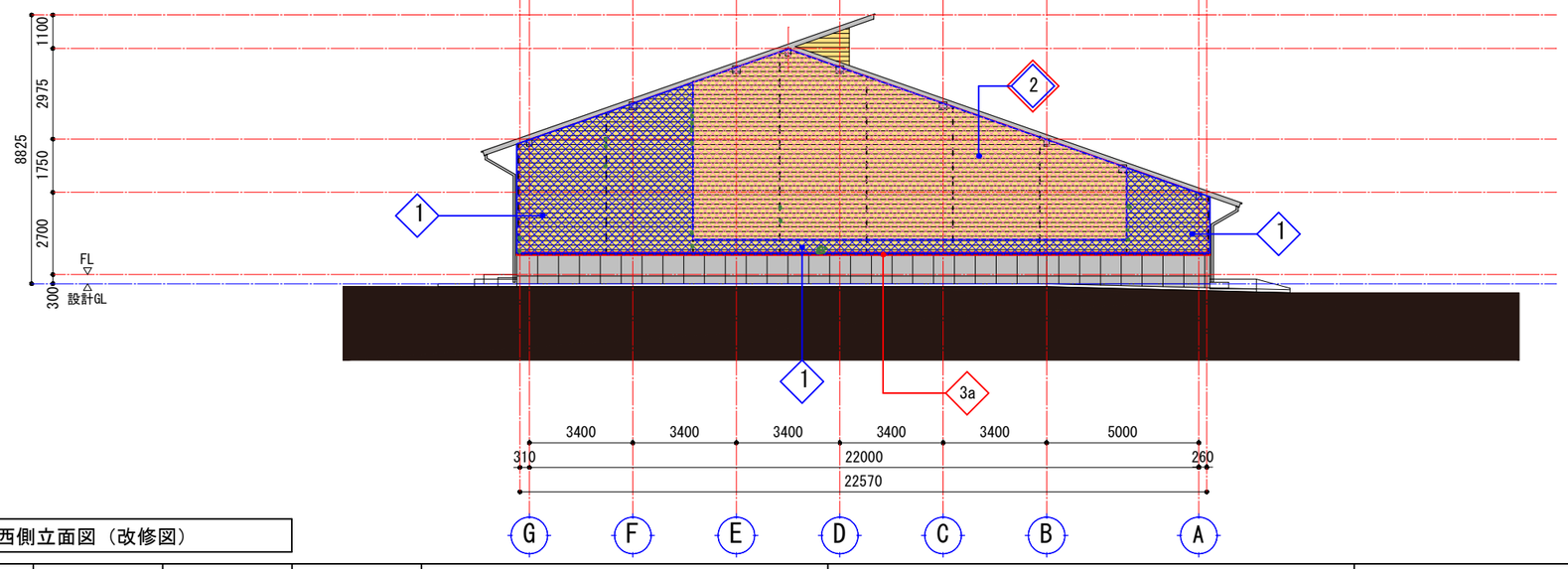
凡例

クラック　欠け・剥落　（現調時の目視スケッチに依る）

改修箇所　※外装用複合塗材Eはゆず肌程度とし、既存部分と色合わせを行うこと



門前武道館　東側立面図（改修図）



門前武道館　西側立面図（改修図）

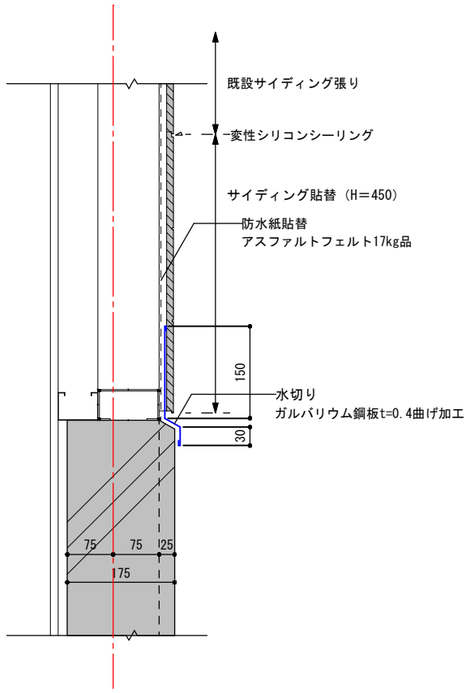
改修項目リスト

記号	内容	参考数量
1	外壁：成形ケイ酸カルシウム板t=11（下地防水紙共）、 シーラー処理、外装用複合塗材Eの再構築（目地シール共） 既存サイディングとの取り合いはシール打ち(変性シリコン) ※窯業系サイディングH＝450 （目地#150）×t=11；既存と同等品とする	51.07 m2 目地シール 74.92 m
1a	外壁：成形ケイ酸カルシウム板t=11(下地防水紙共)、 シーラー処理、外装用複合塗材Eの再構築（目地シール共） 既存サイディングとの取り合いはシール打ち(変性シリコン) ※窯業系サイディングH＝450 （目地#150）×t=11；既存と同等品とする	15.00 m2 目地シール 50.89 m
2	既設成形ケイ酸カルシウム板t=11（　窯業系 サイディング H＝450 ）縦目地シール材の打替え及び 浮き部ビスの再打ち込み（直近・20本/m2程度） ケレン・パテ・シーラー処理の上、外装用複合塗材E再塗装 成形ケイ酸カルシウム板　アスベスト含有レベル3	目地シール 62.69 m 174.87 m2
3a	既設水切り（ガルバリウム鋼板t=0.4曲げ加工品） 再構築	82.20 m
4	既設鋼製建具SD-1、再構築（枠・4周シール共）	1 箇所
5	既設現場打階段縁石コンクリートの再構築 及び階段1段増設	1 式
6	既設アスファルトの再構築 ※外構工事に含まれる	0.00 m2
7	既設スラブ下空隙へコンクリートの充填 平均t=230（想定）18N/mm、スランプ18cm 打込用コア抜き150φ×3箇所、 タイル補修150角×12枚、周辺吹き出し型枠共	27.17 m2
8	良質土敷き込み t=0～250mm	287.85 m2

株式会社 MAC建築研究所 管理建築士／一級建築士登録 第334732号 中村 健	■製作年月日/DATE 2025.09	■担当/CHECK D.SATO	■製図/DRAWER D.SATO	■特記事項	■工事名称/CONSTRUCTION-TITLE 輪島市門前総合運動公園災害復旧工事（門前武道館）	■図面名称/DRAWING-TITLE 門前武道館　立面図２（改修図）	■縮尺/SCALE １/１００（A1） １/２００（A3）	■図番/No. Ａ－４９

3a 既設水切り（ガルバリウム鋼板t=0.4曲げ加工品）撤去・処分及び再構築

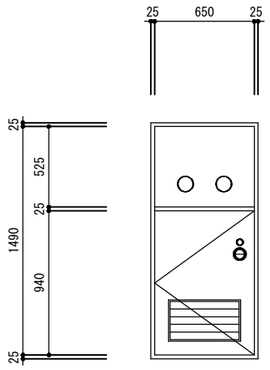
1/5（A1）
1/10（A3）



4 既設鋼製建具SD-1、撤去・処分及び再構築（枠・4周シール共）

1/20（A1）
1/40（A3）

姿図



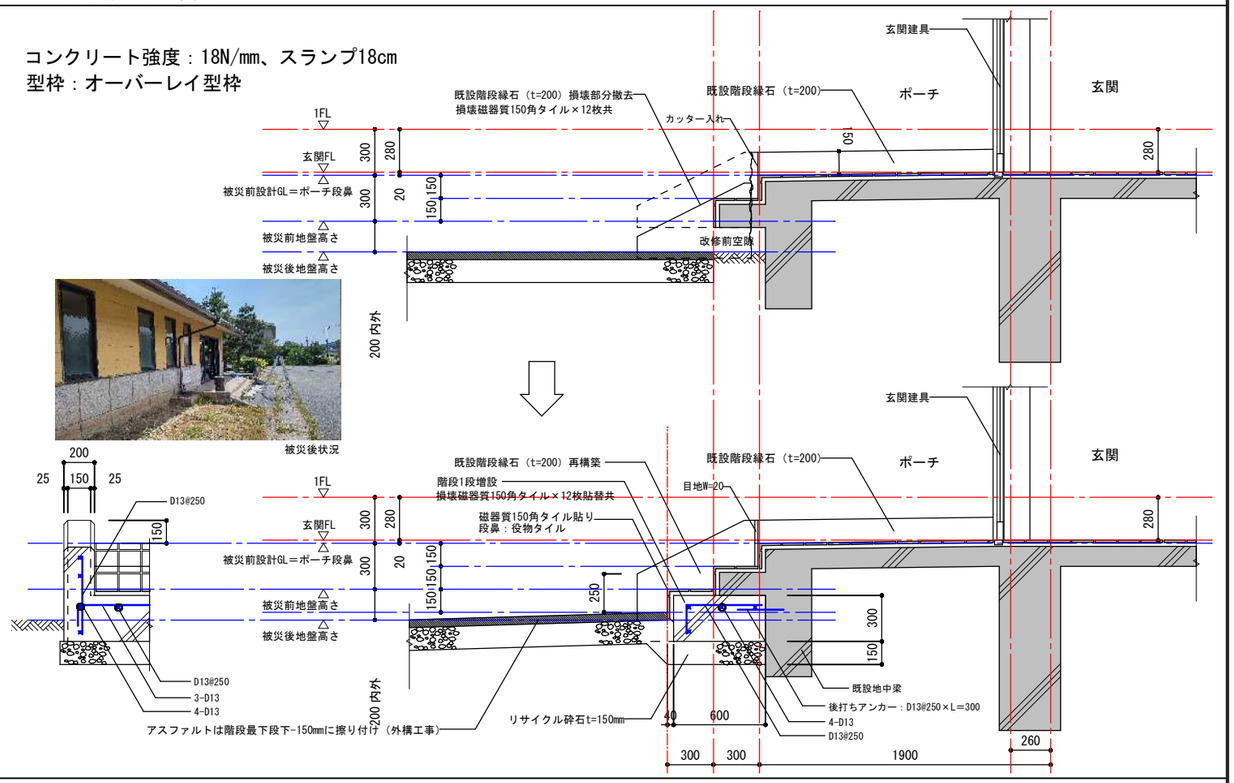
様式	上部パネル付き片開きアングル戸
材質	スチールPL-1.6mm、枠：スチールPL-2.3mm　OP塗装
見込み	扉：25mm、枠：100mm
金物	シリンダー本締錠、水切り、丁番、ケースハンドル、ガラリ
備考	ボイラー吸排気用穴あけ加工（100φ×2、設備と打合せのこと） シリンダー錠は、既設のマスターキーに合わせること ガラリは防虫金網付きとする

5 既設現場打階段縁石コンクリートの再構築及び階段1段増設

1/5、1/10（A1）
1/10、1/20（A3）

コンクリート強度：18N/mm、スランプ18cm
型枠：オーバーレイ型枠

被災後状況

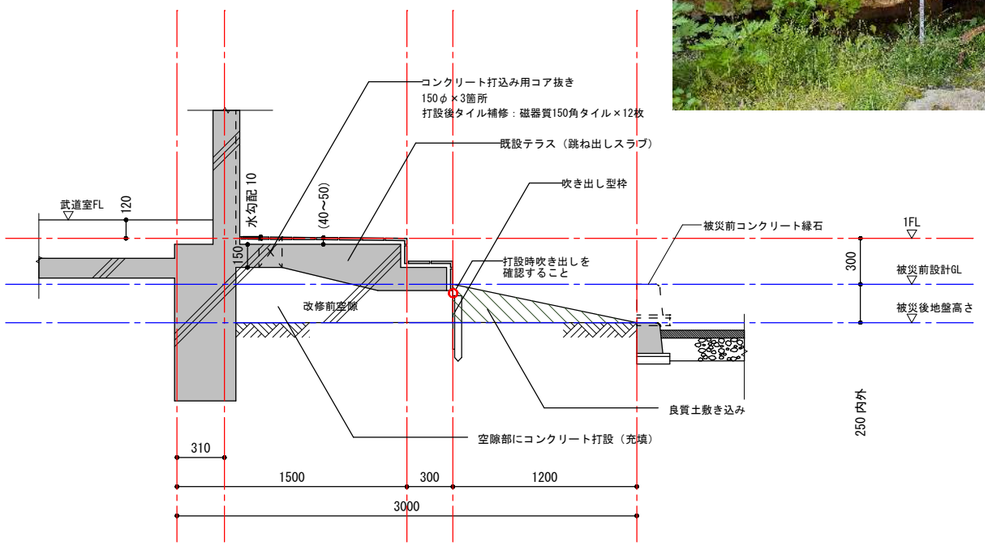


7 既設スラブ下空隙へコンクリートの充填

1/20（A1）
1/40（A3）

平均t=230（想定）18N/mm、スランプ18cm
打込用コア抜き150φ×3箇所、
タイル補修150角×12枚、周辺吹き出し型枠共

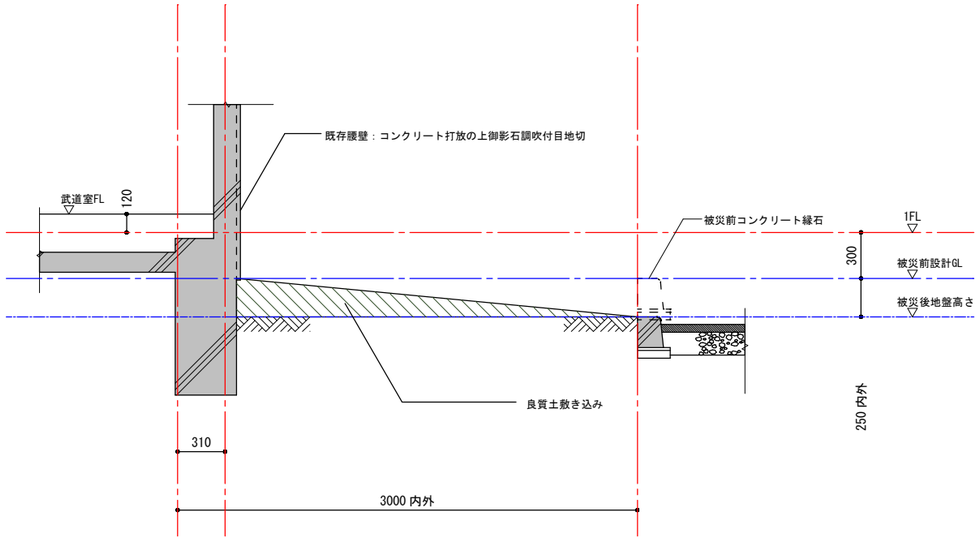
被災後状況



8 良質土敷き込み

1/20（A1）
1/40（A3）

t=0～250mm



工　事　仕　様　書　（電気設備）

Ⅰ．工 事 概 要

1. 工 事 名 称　門前地区体育施設災害復旧工事

2. 工 事 場 所　輪島市門前町清水地内

3. 完 成 期 日　令和　　年　　月　　日　（余裕期間制度試行工事適用の場合は、左記を完成日の期限とする。）
指定部分　・無　・有（指定期日：令和　　年　　月　　日）　対象部分（　　）
概成工期　・無　・有（令和　　年　　月　　日）　(1.2.1(6))

4. 建 物 概 要

建物名称	構造	階数	延面積（㎡）	消防令別表第一	備考
多目的体育館	Ｓ造	階建(地階　１階.塔屋　階)	約900	１５項	
門前武道館	Ｓ造	階建(地階　１階.塔屋　階)	約650	１５項	
門前テニスコート照明塔			約3,700		
門前野球場照明塔			約12,000		別途工事
健民体育館					別途工事

5. 別契約の関連工事
・建築工事　・電気設備工事　・給排水衛生設備工事　・空気調和設備工事　・構内交換設備工事
・昇降機設備工事　・自家発電設備工事　・厨房機器設備工事　・屋外付帯工事　・植栽工事
・　・　・

6. 工 事 内 容

Ⅱ．工 事 仕 様

1. 一 般 仕 様
1) 図面及び特記仕様に記載されていない事項は、すべて国土交通省大臣官房官庁営繕部監修の「公共建築工事標準仕様書（電気設備工事編）令和４年版」（以下、「標準仕様書」という。）及び「公共建築設備工事標準図（電気設備工事編）令和４年版」（以下、「標準図」という。）及び「公共建築改修工事標準仕様書（電気設備工事編）令和４年版」（以下「改修標準仕様書」という。）による。
2) 機械設備工事及び建築工事を本工事に含む場合は、機械設備工事及び建築工事はそれぞれの標準仕様書・改修標準仕様書を適用する。

2. 特 記 仕 様
章は●印のものを、特記事項で選択する項目は・印に○印の付いたものを適用する。
⊙印の付かない場合は、※印の付いたものを適用する。
⊙印と※印の付いた場合は、共に適用する。

章	項目	特記事項
● 一般共通事項	① 工事実績情報	請負金額５，０００千円以上の工事は工事実績情報登録を行う。 (1.1.4)
	② 施工体制台帳の作成等	下請負に付する場合は、施工体制台帳を作成し、現場に備え付ける。また、施工体系図を工事関係者及び公衆が見やすい場所に掲げる。 (1.1.5(3))
	３ 他工事との取り合い	スリーブ、箱入れなど他工事との取り合いは、別表－１によるものとし、施工に支障をきたさない時期までに、必要な位置、大きさ等を明示し、監督員と打ち合せる。 (1.1.7)
	④ 工事の記録等	工事総合進捗表、工事日誌、工事出面報告書、打合せ記録、工事箇所図及び現況写真等を記載した工事報告書を毎月１５日及び月末ごとに提出する。 (1.2.4)
	⑤ 施工条件	・新築工事　⊙改修工事（・執務並行改修　⊙全館無人改修） (1.3.3) ・工事用車両の駐車場所等は図示による。 (改1.3.3) ・ ・
	⑥ 発生材の処理等	・引渡しを要するもの（・　　） (1.3.9(2)) ・特別管理産業廃棄物（⊙ＰＣＢ使用機器　・廃石綿　・　　） ・現場で再利用を図るもの（・　　） ・再資源化を図るもの（⊙蛍光ランプ　・コンクリート　・アスファルト　・木材　・　　）
	⑦ 再使用機材	⊙取外し後再使用するものは図示による。 (改1.4.3)

章	項目	特記事項
● 一般共通事項	８ 事前調査	ＰＣＢ含有分析調査を　・行う（図示　箇所）　・行わない (改1.5.2) 石綿含有分析調査を　・行う（図示　箇所）　・行わない
	９ 養生	1) 既存部分の養生範囲は、図示による。 (改1.7.1) 2) 養生の方法及び固定された備品・ロッカー等の移動は、図示による。 (改1.7.2)
	10 撤去等	1) 回収を要する機器及び配管の内容物　・燃料　・ (改1.8.1) 2) 機器の撤去跡の壁面等の補修は、図示による。 (改1.8.6)
	11 環境への配慮	1) 「国等による環境物品等の調達の推進等に関する法律」（グリーン購入法）に規定される特定調達品「公共工事」等は下記による。また、判断基準を満たすことを確認する。 (1.4.1(1)) ・照明制御システム　・変圧器　・下塗用塗料（重防食）　・ 2) 本工事の建物屋内で使用する揮発性有機化合物を放散する建築材料等は、設計図書に規定する所要の品質及び性能を有するものとし、次のとおりとする。 (1.4.1(2)) ① JIS又はJASのF☆☆☆☆規格品 ② 建築基準法施行令第20条の7第4項による国土交通大臣認定品 ③ 下記表示のあるJAS規格品 a. 非ホルムアルデヒド系接着剤使用 b. 接着剤等不使用 c. 非ホルムアルデヒド系接着剤及びホルムアルデヒドを放散しない材料使用 d. ホルムアルデヒドを放散しない塗料等使用 e. 非ホルムアルデヒド系接着剤及びホルムアルデヒドを放散しない塗料使用 f. 非ホルムアルデヒド系接着剤及びホルムアルデヒドを放散しない塗料等使用
一般共通事項	⑫ 機材の品質等	1) 本工事に使用する機材等は、設計図書に定める品質及び性能を有する新品とする。ただし、仮設に使用する機材は、新品に限らない。 (1.4.2(1)) 2) 下表に示す機材等の製造者等は次の①から⑥までの事項を満たすものとし、この証明となる資料又は外部機関が発行する評価の書面を提出して、監督員の承諾を受ける。ただし、製造者等が「建築材料・設備機材等品質性能評価事業 設備機材等評価名簿（最新年版）」（（一社）公共建築協会）等に記載されているものは、証明となる資料等の提出を省略することができる。 ①品質及び性能に関する試験データが整備されていること。 ②生産施設及び品質の管理が適切に行われていること。 ③安定的な供給が可能であること。 ④法令等で定める許可、認可、認定又は免許等を取得していること。 ⑤製造又は施工の実績があり、その信頼性があること。 ⑥販売、保守等の営業体制が整えられていること。 機材名称：ＬＥＤ照明器具（一般屋内用に限る）
	⑬ 工事の創意工夫等	受注者は、工事施工において、自ら立案実施した創意工夫や工事特性に関する項目、又は地域社会への貢献として評価できる項目に関する事項について、工事完了時までに所定の様式により提出することができる。 (1.5.6)
	14 化学物質の濃度測定	建築物の室内空気中の濃度測定を　・行う　・行わない (1.5.7) 測定時期、測定対象化学物質、測定方法、測定対象室、測定箇所数等は図示による。
	15 中間検査	中間検査の実施　・無　・有（時期　・天井下地完了時　・　　） (1.6.2)
	⑯ 完成図	原図及び製本（等倍 １ 部、Ａ３縮小 ２ 部）提出する。 (1.7.2)
	17 保全に関する資料	保全に関する資料は次のとおり、 ２ 部提出する。 (1.7.3) ①建築物等の利用に関する説明書※ ②機器取扱説明書(主要機器一覧表とも) ③機器性能試験成績書（総合試運転報告書とも） ④官公署届出書類 ※「建築物等の利用に関する説明書」作成の手引き 手引きのダウンロード http://www.mlit.go.jp/gobuild/kijun_kentikubuturiyou_tebiki.htm
	18 足場類	内部及び外部足場の種別は、図示による。防護シート等の養生は図示による。 (改2.2.2)
	19 仮設間仕切･扉	設置箇所、種別及び塗装仕上げは、図示による。 (改2.2.3)
	20 仮設備	仮設備を　・設ける（図示による）　・設けない (改2.14.1)
	㉑ 工事用電力等	⊙既存施設に電力量計等を設けて使用できる（有償）　・発電機又は北陸電力引込み等 (改2.2.4)
	22 監督員事務所等	1) 監督員事務所を　※ 設けない　・設ける[・１号（10㎡程度）　・２号(20㎡程度)] (2.1.1(4)) 2) 監督員事務所に設ける備品等 ・保護帽　・墜落制止用器具　・長靴　・合羽　・机　・椅子 ・懐中電灯　・書棚　・黒板　・寒暖計　・　・ 3) 設計図を工事監理用に製本（等倍 １ 部、Ａ３縮小 ２ 部）し、監督員事務所等に置く。

章	項目	特記事項
● 一般共通事項	23 快適トイレ（快適トイレ実施要領に基づく）	・設置する　・設置しない（別途工事で設置等） ※ 監督員へ提案・協議し、快適トイレを設置することができる 快適トイレを設置した場合は、設計変更の対象とし、「快適トイレ実施要領」により費用を計上する。
	㉔ 工事現場の表示板	工事現場には、下記表示板を設置する。　（記入例） (2.1.1(5)) 上段の地色は白色　文字は青色 工事名 工期　自　年　月　日～至　年　月　日 発注者　輪島市教育委員会生涯学習課 下段の地色は青色　文字は白色 設計　（建築・設備委託業者名を記入） 監理　（建築・設備委託業者名を記入） 施工　建築　（施工業者名を記入） 電気　（施工業者名を記入） 機械　（施工業者名を記入） この工事は、週休２日に取り組んでいます 60cm～75cm　90cm 設計及び監理の欄は、実施設計及び工事監理が委託発注された場合。 工事名は、各工事とも共通な名称とし、各文字は角ゴシック体とする。
	25 埋め戻し土	※ 根切り土の中の良質土（ただし、管の周囲は山砂）　・山砂 (2.2.1)
一般共通事項	26 建設発生土の処理	・現場内で処理 ・構内指示の場所に堆積　・構内指示の場所に敷き均し ・場外搬出適正処理　（「再生資源利用促進計画書及び実施書」を監督員に提出のこと。） ※ 指定（想定）搬出先　受入場所： 受入時間帯：　時　分～　時　分 仮置き等：
	㉗ 塗装	次の金属露出配管（亜鉛めっき面を含む）は、塗装を行う。 (2.7.1) ⊙屋外　⊙屋内（⊙居室　・機械室　・　　）
	28 はつり	1) 放射線透過検査を　・行う　※ 行わない（但し、鉄筋探査は行う。） (改2.11.2) 2) 配管貫通部の穴開けは、ダイヤモンドカッターとし、場所・口径は図示による。 (改2.11.3) 3) 溝はつり深さは、図示による。 (改2.11.4) 4) 防水箇所の貫通処理方法は図示による。 (改2.11.5)
	29 あと施工アンカー	1) 埋込み配管等の探査の範囲及び方法は、図示による。 (改2.12.3) 2) 施工後確認試験（引張試験）を　・行う（　箇所）　・行わない
	30 県内産材料	石川県建設工事標準請負契約約款（以下「請負契約約款」という。）第６条の２第７項により、調達する工事材料は石川県産とするように努めることについて、工事着手前に使用材料確認願いを提出する。
	31 材料検査	請負契約約款第１３条第２項に定める監督員の検査を受けて使用する工事材料は次のとおり。 ・受変電機器　・自家発電装置　・照明器具類　・配電盤類　・避雷針 ・通信機器　・構内交換機器　・接地材料　・　・
	㉜ 工事写真等の記録	1) 国土交通省大臣官房官庁営繕部監修「営繕工事写真撮影要領（令和３年改定）」による。 2) 請負契約約款第１４条第３項に定める工事写真は次のとおり。 ・地中埋設配管部　・機器の基礎及びアンカーボルト埋設部　・塗装工程 ・接地極埋設部　・天井、トレンチ内の隠ぺい箇所　・躯体内隠ぺい部 3) 区分による規格、枚数、部数は次による。 区分：着工前　大きさ(mm)：100×148程度　撮影枚数：監督員の指示による　部数：１部　備考：工事期間中は現場事務所に整理保管し、 区分：工事中　大きさ(mm)：85×115程度　撮影枚数：監督員の指示による　部数：１部　備考：工事完成時に提出する。 区分：完成時　大きさ(mm)：100×148程度　撮影枚数：監督員の指示による　部数：１部　備考：Ａ４用紙に整理したもの 4) 完成写真の撮影は、次による。　・建築写真撮影業者　※ 建築写真撮影業者以外 5) 写真はＡ４版用紙に順序よく貼付又は印刷し、説明事項を記入して提出する。 6) 中間検査又は監督員の指示により、手直しを命じられた工事は、手直し前、中、後が判断できる写真を撮影し、報告書に添付し提出する。
	33 部分払いの対象工事材料	請負契約約款第３７条第１項に定める部分払の対象とする工事材料は次のとおり。 ・機器　・盤　・配管、配線　・
	㉞ 火災保険等	請負契約約款第４９条に定める火災保険等は次のとおり。（加入期間は着工日より引渡日まで） ※ 組立保険　・建設工事保険

最終改訂　Ｒ７．４．１

工事名	番号
門前地区体育施設災害復旧工事	Ｅ－０１
図面名：工事仕様書（電気設備）　３枚組	縮尺：――
設計：株式会社MAC建築研究所　管理建築士／一級建築士登録 第334732号 中村 健	

章	項目	特記事項

一般共通事項

㉟ 耐震施工

次に示す事項を除き、すべて独立行政法人建築研究所監修の「建築設備耐震設計・施工指針２０１４年版」による。 (2-2.1.13(2)～(4))

1）機器の設計用標準水平震度及び耐震クラスは図示による。図示がなければ次による。

設置場所	耐震安全性の分類（重要機器、一般機器共通）	
	特定の施設	一般の施設
	・ 耐震クラスＳ	・ 耐震クラスＡ
上層階、屋上及び塔屋	２．０	１．５ ＜２．０＞
中間階	１．５	１．０ ＜１．５＞
一階及び地下階	１．０ （１．５）	１．０

注1 設置場所の区分は、機器等を支持する床部分により適用し、天井面（上階床）より支持する機器等は直上階を適用する。

注2 上層階は、２～６階建の場合は最上階、７～９階建の場合は上層２階、10～12階建の場合は上層３階、13階建以上の場合は上層４階とする。

注3 （ ）内の値は水槽類（受水槽、高置水槽、消火関係水槽、オイルタンク等）、＜ ＞内の値は防振支持の機器（防振材・防振装置を介して設置される機器）に適用する。

2）地域係数は１．０とする。

3）設計用鉛直地震力は、設計用水平地震力の１／２とし水平地震力と同時に働くものとする。

4）１ｋＮ以下の軽微な機器（標準仕様書の適用を受けるものは除く）においても耐震を考慮し据付け又は取付けを行うものとするが、前記指針の方法によらなくてもよい。

36 電気工事士

500kW以上の自家用電気工作物においては第一種電気工事士により施工を行うように努める。

㊲ 電線本数・管路等

分電盤、制御盤、端子盤等の二次側以降の配線経路、電線太さ、電線本数、管径等は機能を優先し、図面と多少相違しても差し支えない。ただし、相違する場合は監督員の承諾を受ける。また、機械室の露出配線は、金属管にて施工し、全長にわたって接地線を設ける。

㊳ 名札の義務

請負金額１０，０００千円以上の元請工事の現場代理人及び主任（監理）技術者は顔写真付き名札を常時着用する。下記の寸法等は、参考であり、社員証等に替えることができる。

㊴ 退職金共済制度

受注者は建設業退職金共済制度に加入し、本工事の掛金収納書を工事請負契約締結後１ヵ月以内に監督員を通じて発注者に提出する。また、現場事務所に適用標識（シール）を掲示する。

㊵ 過積載等の防止

1)積載重量制限を超えて土砂等を積み込まず、また積み込ませない。

2)さし枠装着車、不表示車等に土砂等を積み込まず、また積み込ませない。

3)過積載車両、さし枠装着車、不表示車等から土砂等の引き渡しを受ける等、過積載を助長しないようにする。

4)取引関係のあるダンプカー事業車が過積載を行い、又はさし枠装着車、不表示車等を土砂等運搬に使用している場合は、早急に不正状態を解消する措置を講ずる。

5)建設発生土の処理及び資材の購入に当たって、下請事業者及び骨材納入業者の利益を不当に害することのないようにする。

6)「土砂等を運搬する大型自動車による交通事故の防止等に関する特別措置法」（昭和４２年８月２日法律第１３１号。以下「法」という。）の目的に鑑み、法第１２条に規定する団体等の設立状況を踏まえ、同団体等への加入者の使用を促進する。

7) 1)から6)につき、元請建設業者は下請建設業者を十分指導する。

41 景観への配慮

本工事は、石川県公共事業景観形成ガイドラインに基づく下記の事業であり、景観に配慮した施工に努める。 ・ 重点事業 ・ 一般事業

㊷ 総合評価方式における技術提案

「石川県建設工事総合評価方式試行要領」に基づく、「技術提案」がある場合は、提案内容を本工事において確実に履行し、「技術提案履行状況報告書」を監督員に提出の上、履行状況の確認を受ける。履行にあたり疑義が生じた場合は、速やかに監督員と協議する。

㊸ 電子納品

※ 行う（「電子納品仕様書」による。） ・ 行わない

電子納品仕様書

１ 電子納品とは、出来形管理資料や工事写真等の工事完成図書を電子データで納品するものである。

ここでいう電子データとは、下表に示す各種電子納品要領等で定めるフォーマットに基づいて作成されたものを指す。

名称
営繕工事電子納品要領（令和３年改定）
官庁営繕事業に係る電子納品運用ガイドライン【営繕工事編】（令和４年改定）

基準・要領類のダウンロード http://www.mlit.go.jp/gobuild/gobuild_tk2_000017.html

２ 工事関係書類の最終成果品を、従来の紙での納品と別にＣＤ－Ｒ、ＤＶＤ－Ｒ又はＢＤ－Ｒで１部納品する。

３ 工事着手時には、事前協議チェックシートを用いて事前協議を行うものとする。工事関係書類の内、電子データで提出するものは、事前協議にて決定する。

㊹ 公共事業労務費調査の協力

受注者は、当該工事が発注者の実施する公共事業労務費調査の対象工事となった場合には、次の各号に掲げる協力をしなければならない。工期経過後においても同様とする。

① 調査票等に必要事項を正確に記入し、発注者に提出する等必要な協力をする。

② 調査票等を提出した事業所が、事後に発注者が行う調査・指導の対象になった場合には、その実施に協力する。

③ 正確な調査票等の提出が行えるよう、労働基準法等に従い就業規則を作成すると共に賃金台帳を調整・保存する等、日頃より使用している現場労働者の賃金時間管理を適切に行う。

④ 下請負に付する場合には、当該下請工事受注者（当該下請工事の一部に係る二次以降の下請負人を含む）が前各号と同様の義務を負う旨を定める。

㊺ 事故の補償

受注者は、雇用者等の業務に関して生じた負傷、疾病、死亡及びその他の事故に対して責任をもって適正な補償をしなければならない。（法定外の労災保険を含む）

電力設備

１ 照明用ポール

内蔵する開閉器 ※ なし（取付板のみ） ・ 配線用遮断器 ・ カットアウトスイッチ (1.4.2(14))

２ 分電盤等

1）キャビネット材質、仕上げ ・ 鋼板製指定色塗装 ・ 鋼板製溶融亜鉛めっき ・ ステンレス鋼板製指定色塗装 ・ (1.7.3)

2）電力量計 ・ 検定付 ・ 無検定 (1.7.6)

３ 電気自動車用充電装置

・ 急速充電装置 ・ 普通充電装置（定格電圧 ・ 100V ・ 200V） (1.14.1)

４ 電線の接続

・ 高圧ケーブルの端末処理を行う場合は、被覆の伸縮対策を施す。 (2.1.1)

５ 配管引込部

地盤変位への対応 ※ 小規模 ・ 中規模 ・ 大規模 (2.1.13(5))

６ 導入線

長さ１ｍ以上の通線しない配管には 1.2mm以上の樹脂被覆鉄線を挿入する。 (2.2.9(3))

７ 管の埋設深さ

埋設深さは原則として、構内道路、高圧ケーブル、幹線ケーブルは（・ 60cm ・ cm）、その他は（・ 30cm ・ cm）とする。 (2.12.2)

８ 標識シート等

1）地中配線に標識シート（倍折）を敷設する。 (2.12.4)

2）埋設標（・ コンクリート製 ・ 樹脂製 ・ 鉄製）・ 要（図示箇所） ・ 不要 (2.12.5)

９ 雷保護接地極

・ 板状 ・ 垂直 ・ 水平 ・ 環状 ・ 網状 ・ 構造体利用 (2.17.4)

10 施工の試験

1）構造体利用等の接地極における接地抵抗測定の時期及び回数（ ） (2.18.2)

2）一般照明の照度測定を ・ 行う（改修は対象室の改修前後） ・ 行わない (改2.1.1)

受変電設備

１ キュービクル式配電盤等

1）キャビネット材質、仕上げ及び電力量計は、電力設備の分電盤等による。 (1.1.3) (1.1.5)

2）温度上昇性能試験を ・ 行う ※ 行わない (1.9.1)

２ 交流遮断器

操作方式 ・ 手動ばね操作方式 ・ 電気操作方式 (1.1.6(1))

３ 高圧進相コンデンサ等

1）進相コンデンサ絶縁方式 ・ 油入 ・ モールド ・ ガス（ＳＦ6を除く） (1.1.6(3))

2）直列リアクトル絶縁方式 ・ 油入 ・ モールド (1.1.6(4))

電力貯蔵設備

１ 交流無停電電源装置

・ 常時インバータ給電方式 ・ ラインインタラクティブ方式 ・ 常時商用給電方式 (2.2.1)

停電補償時間 分 (2.2.7)

２ 電力平準化用蓄電装置

1）機能（電力平準機能、電力補償機能及び放電停止機能）は図示による。 (2.3.1(2))

2）蓄電池 ※ リチウム二次電池 ・ 鉛蓄電池 ・ (2.3.5(1))

3）蓄電池の容量、期待寿命、充放電回数及び放電時間は図示による。 (2.3.5(2))

発電設備

１ ディーゼル発電装置

運転時間 時間 (1.1.1(5))

２ 太陽光発電装置

1）自立運転を ・ 行う ・ 行わない (1.7.1(3))

2）太陽電池アレイの公称出力は、図示による。 (1.7.2(2))

３ その他

1）燃料油の種別及び配管等材料は、図示による。 (1.1.7.1)(1.1.8)

2）系統連系を ・ する ・ しない (1.4.1(ｴ))等

通信・情報設備

１ 端子盤等

キャビネット材質及び仕上げは、電力設備の分電盤等による。 (1.4.2)

２ 機器仕様

詳細機器仕様は、図示による。 (1.5.1)等

３ 標識シート等

標識シート等は、電力設備の標識シート等による。 (2.11.3) (2.11.4)

４ テレビ共同受信設備

受信調査を ・ 行う（ チャンネル） ・ 行わない (2.19.3)

中央監視制御設備

１ 警報盤

信号の伝送方式は、図示による。 (1.2.1)

２ 記録装置

印字方式は、図示による。 (1.4.4)

その他

１ 接地極

接地極の材料は下記による。なお接地棒EB(14φ)の長さは 1,500mm以上とし、10φは、W＝30 L＝900mm以上、14φはW＝40 L＝1,200mm以上 としてもよい。

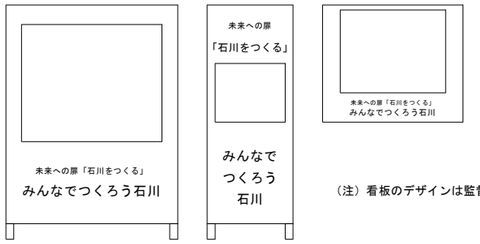
接地の種類		記号	接地抵抗値	接地極
・	共同接地	EA EB EC ED	Ω以下	・ＥＢ（14φ）×３連－ 組
				・ＥＰ－900 ×１
・	共同接地	EA EC ED	Ω以下	・ＥＢ（14φ）×３連－ 組
				・ＥＰ－900 ×１
・	Ａ 種	EA	10 Ω以下	・ＥＢ（14φ）×３連－ ２ 組
				・ＥＰ－900 ×１
・	Ｂ 種	EB	Ω以下	・ＥＢ（14φ）×３連－ ２ 組
				・ＥＰ－900 ×１
・	Ｃ 種	EC	10 Ω以下	・ＥＢ（14φ）×３連－ 組
				・ＥＰ－900 ×１
・	Ｄ 種	ED	100 Ω以下	ＥＢ（10φ）×１（Ｌ＝1,000mm）
・	Ｄ種 ELCB用	ED ELCB	100 Ω以下	ＥＢ（10φ）×１（Ｌ＝1,000mm）
・	高圧避雷器	ELH	10 Ω以下	・ＥＢ（14φ）×３連－ ２ 組
				・ＥＰ－900 ×１
・	低圧避雷器	ELL	10 Ω以下	・ＥＢ（14φ）×３連－ ２ 組
				・ＥＰ－900 ×１
・	雷保護設備	EL	50 Ω以下	・ＥＢ（14φ）×２連－ ２ 組
				・ＥＰ－600 ×２
・	構造体接地			
・	交換機用	Et	Ω以下	ＥＢ（14φ）×３連－ 組
・	通信用	EAt	10 Ω以下	・ＥＢ（14φ）×３連－ ２ 組
				・ＥＰ－900 ×１
・	通信用	EDt EDa	100 Ω以下	ＥＢ（10φ）×１（Ｌ＝1,000mm）
・	測定用	E0		ＥＢ（10φ）×１（Ｌ＝1,000mm）

（別表－１）他工事との取り合い

	工事内容		電気	機械	建築	備考
開口部	はり、床、壁の貫通部（ＲＣ造）	補強筋			●	建築図面に図示
		スリーブ、仮枠、穴埋共	●			Ｓ造は建築
	埋込形分電盤、端子盤、プルボックス	補強筋			●	建築図面に図示
		仮枠	●			
	天井、壁ボード類の軽量鉄骨下地補強（埋込形照明器具用）	下地補強			●	建築図面に図示
		ボード類切込み	●			
軽量鉄骨へのボックス取付金具及びその取付			●			
既成間仕切りへの位置ボックス及びその取付					●	
発電機、配電盤及び制御盤等の基礎					●	建築図面に図示
避雷針、ＴＶアンテナの屋上コンクリート基礎（自立型の場合）					●	建築図面に図示
配管ピット及びふた					●	
床、壁、天井の点検口					●	建築図面に図示
自動扉、電動シャッター、防火ドア等制御盤の一次側配管配線			●			※１
実験台付属コンセント等への配管配線及び配線接続（直接続のみ）			●			
機械設備機器付属の制御盤への電源供給の配管配線			●			一次側
機械設備機器付属の制御盤以降の配管配線（接地共）				●		二次側
制御盤と動力盤間の電源供給及び操作回路の渡り配管配線			●			
機械設備機器と付属操作スイッチとの渡り配管配線			●			天吊FCU、換気扇等

※１ 二次側配線、配管及びシャッター、防火ドア、自動扉は建築工事

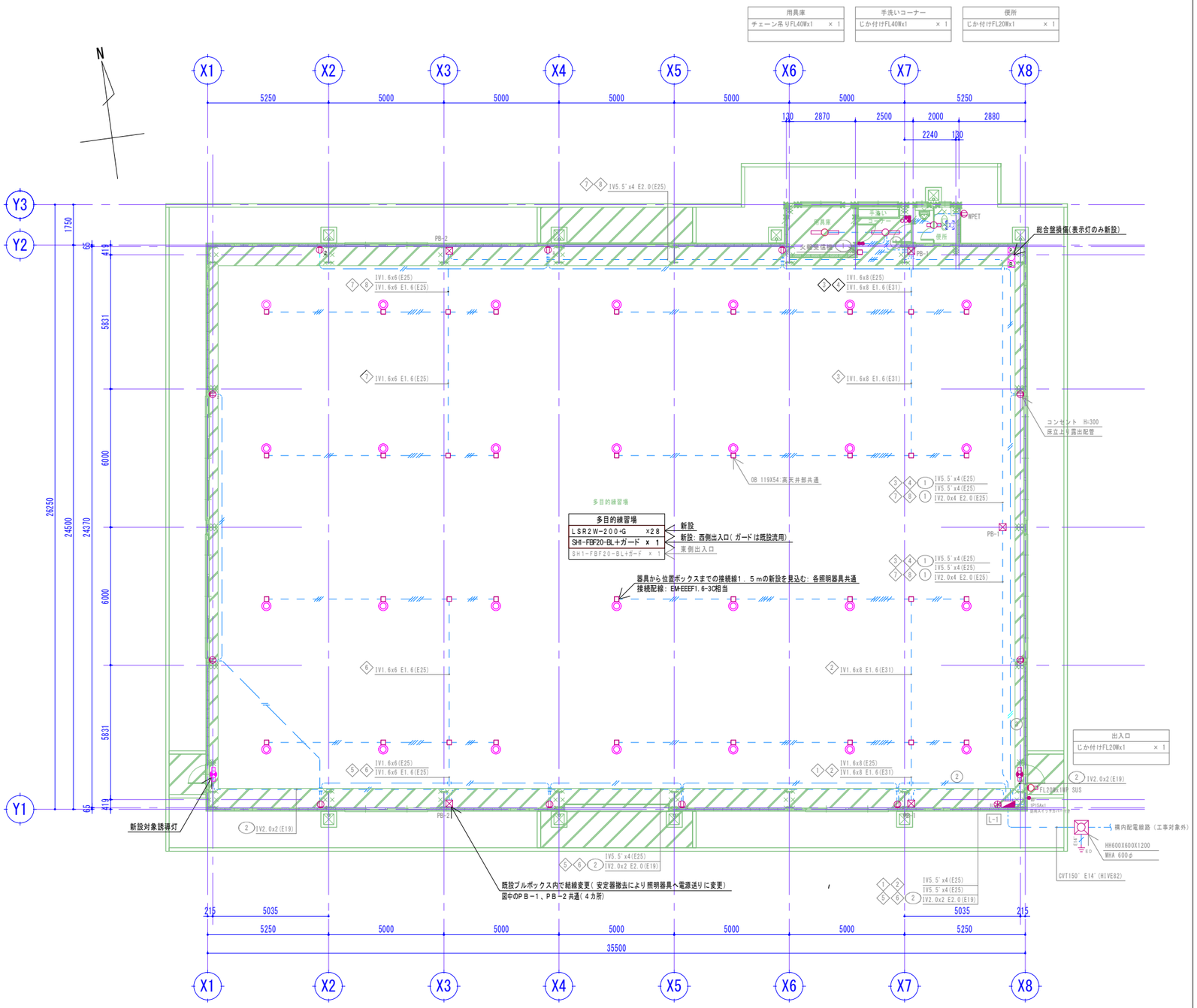
工事名	番号
門前地区体育施設災害復旧工事	Ｅ－０２
図面名：工事仕様書（電気設備） ２／３	縮尺：――
設計：株式会社MAC建築研究所 管理建築士／一級建築士登録 第334732号 中村 健	

章	項　　目	特　　記　　事　　項
● そ の 他	①いしかわ週休 ２日工事	工事現場において週休２日に取り組む「いしかわ週休２日工事」（以下、「週休２日工事」という。）の適用については、次のとおりとする。 なお、週休２日の工事の定義（様式）等については、石川県土木部監理課技術管理室ＨＰの「いしかわ週休２日工事　実施要領」を参照すること。 （１）当初設計において、週単位の週休２日にかかる補正係数を乗じている。 （２）受注者は、工事現場に週休２日に取り組むことを記載した工事看板を設置すること。 （３）受注者は、現場着手前に休日取得［計画］表を作成し、監督員に提出・共有すること。 （４）受注者は、工程に大幅な変更が生じた場合は休日取得［計画］表を修正し、監督員に提出・共有すること。 （５）受注者は、工期最終日までに、休日取得［実績］表を記入し、監督員に提出すること。 （６）分離発注工事の場合に、各発注工事単位で、現場事務所での作業を含めて１日を通して現場作業が無い状態も「現場閉所」とみなす。 （７）発注者は、現場閉所の達成状況を確認し、週単位の週休２日に満たない場合は月単位の週休２日（４週８休相当）の補正に減額するものとし、月単位の週休２日（４週８休相当）に満たない場合は、補正分を減額するものとする。 なお、週休２日の確保が確認できなかった場合であっても、工事成績評定で減点評価は行わない。
	２ 余裕期間制度 試行工事	１）適用 ・　対象 ※　対象外 ２）余裕期間制度対象工事の内容 （１）本工事は、円滑な工事施工体制の確保を図るため、全体工期の範囲内で受注者が工事の着手及び完成日を設定することができる工事であり、建設工事に係る余裕期間制度（フレックス方式）試行要領に基づき実施するものとする。 （２）受注者は、契約締結日から着工日の期限までの間で、休日を除く任意の日を着工日として設定することができる。 （３）受注者は、完成日の期限までの間で、休日を除く任意の日を完成日として設定することができる。 （４）工期は受注者が任意で設定した着工及び完成日を記載する。 （５）受注者は、契約時に現場代理人及び主任技術者選任届を発注者に提出しなければならない。 （６）受注者は、着工日までの余裕期間内に工事（工場製作、測量、資材の搬入、仮設物や現場事務所の設置等の準備工を含む。）に着手してはならない。ただし、現場に搬入しない資機材の準備及び労働者の手配は、この限りでない。 （７）受注者は、余裕期間の間は、現場代理人及び主任（監理）技術者の配置を要しない。 （８）受注者は、着工日までに施工計画書を提出するものとする。 （９）余裕期間制度の適用により増加する費用は、受注者の負担とする。 （１０）その他、この特記仕様書に定めのないことについては、建設工事に係る余裕期間制度（フレックス方式）試行要領によるものとする。 （着工日の期限）　契約締結日から起算して◯ヶ月以内
	３ イメージアップ 看板	・　設置する ・　設置しない（別途工事で設置等） ※　監督員へ提案・協議し、設置することができる（設置費は受注者負担とする） 【参考図】 野立型（大）　H1400×W1100 野立型（小）　H1400×W550 壁掛型　H750×W900  （注）看板のデザインは監督員に確認すること
	４ 情報共有 システム	石川県建設工事情報共有システム実施要領（営繕工事編）に基づく。 https://www.pref.ishikawa.lg.jp/eizen/kijun/kijun.html ・　利用する（発注者指定型） ※　現場着手前に発注者と協議し、利用することができる（施工者希望型）

章	項　　目	特　　記　　事　　項

工事名 門前地区体育施設災害復旧工事	番号 Ｅ－０３
図面名 工事仕様書（電気設備）　３／３	縮尺 ――
設　計 株式会社MA C 建築研究所 管理建築士／一級建築士登録 第334732号 中村　健	

輪島市　建設部　まちづくり推進課　電気３



門前多目的体育館　１階平面図（改修後）

凡例

記号	名称	摘要	備考	記号	名称	摘要	備考
	電灯分電盤				壁付けコンセント	2P15Ax2	
					防水コンセント	2P15Ax1 ロック式 キャップ付き	
	高天井用照明	LED高天井用照明器具					
	天井付け蛍光灯照明	FL40Wx1灯			プルボックス	サイズは図中に記載、WPは防水型を示す。	
	天井付け蛍光灯照明	FL20Wx1灯			位置ボックス		
	壁付け蛍光灯照明	FL20Wx1灯			ハンドホール		
	避難口誘導灯	BL級 蓄電池内蔵					
					換気扇		別途機械設備工事
	埋込スイッチ	タンブラスイッチ 1P15Ax1					
	パイロットランプ				火災報知設備 総合盤	P型2級発信機、ベル、表示灯収容	
	リモコンスイッチ	2線式 傍記は回路数を示す			露出型		

特記無き配管配線は下記に示す(既設)

	IV1.6x2	E1.6(E19)
	IV1.6x4	E1.6(E25)
	IV1.6x6	E1.6(E25)
	IV2.0x2	(E19)
	VVF1.6-2C	
	VVF1.6-2Cx2	

プルボックス

PB-1	300X300X200
PB-2	200X200X100

注　記

1．太線で示す機器及び配線を本工事する。
2．細線で示す機器及び配線は既存のままとする。
3．配線を新設する場合は、配線凡例に倣いＥＭ電線、ＥＭケーブルを使用する。

電灯分電盤　Ｌ－１　鋼板製　屋内壁掛型（既存のまま）

1φ3W
200/100V 60Hz

備考	負荷名称	負荷容量	開閉器	電圧	回路番号
	火災報知設備	100	MCCB2P 50/20A	100V	1

回路番号	電圧	開閉器	負荷容量	負荷名称	備考
2	100V	MCCB2P 50/20A	60	誘導灯	

ELCB3P
100/100A

備考	負荷名称	負荷容量	開閉器	電圧	回路番号
	東側照明練習場手前	448	MCCB2P 50/20A	200V	1
	東側照明練習場中央	448	MCCB2P 50/20A	200V	3
	西側照明練習場手前	336	MCCB2P 50/20A	200V	5
	西側照明練習場手前	336	MCCB2P 50/20A	200V	7
	用具庫・便所照明	180	MCCB2P 50/20A	100V	1
	練習場コンセント	500	MCCB2P 50/20A	100V	3
	リモコントランス	50	MCCB2P 50/20A	100V	5

回路番号	電圧	開閉器	負荷容量	負荷名称	備考
2	200V	MCCB2P 50/20A	448	東側照明練習場中央	
4	200V	MCCB2P 50/20A	448	東側照明練習場奥	
6	200V	MCCB2P 50/20A	336	西側照明練習場中央	
8	200V	MCCB2P 50/20A	336	西側照明練習場奥	
2	100V	MCCB2P 50/20A	600	練習場コンセント	
4	100V	MCCB2P 50/20A		予備	
6	100V	MCCB2P 50/20A		予備	

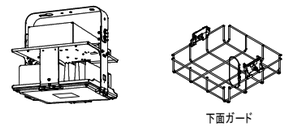
盤内機器
MCCB3P3E 100AF/100AT x 1
MCCB2P2E 50AF/20AT x16
リモコントランス x 1
リモコンリレー ▲ x 8
リモコンスイッチ 8L(盤面取付) x 1

ET

照明器具姿図

LSR2W-200+ガード	LED高天井用器具 マルチハロゲン灯400形器具相当 防球ガード共	SH1-FBF20-BL	LED避難口誘導灯(片面型) 防球ガード共

公共施設型番 LSR2W-200
パナソニック NYK00116相当品

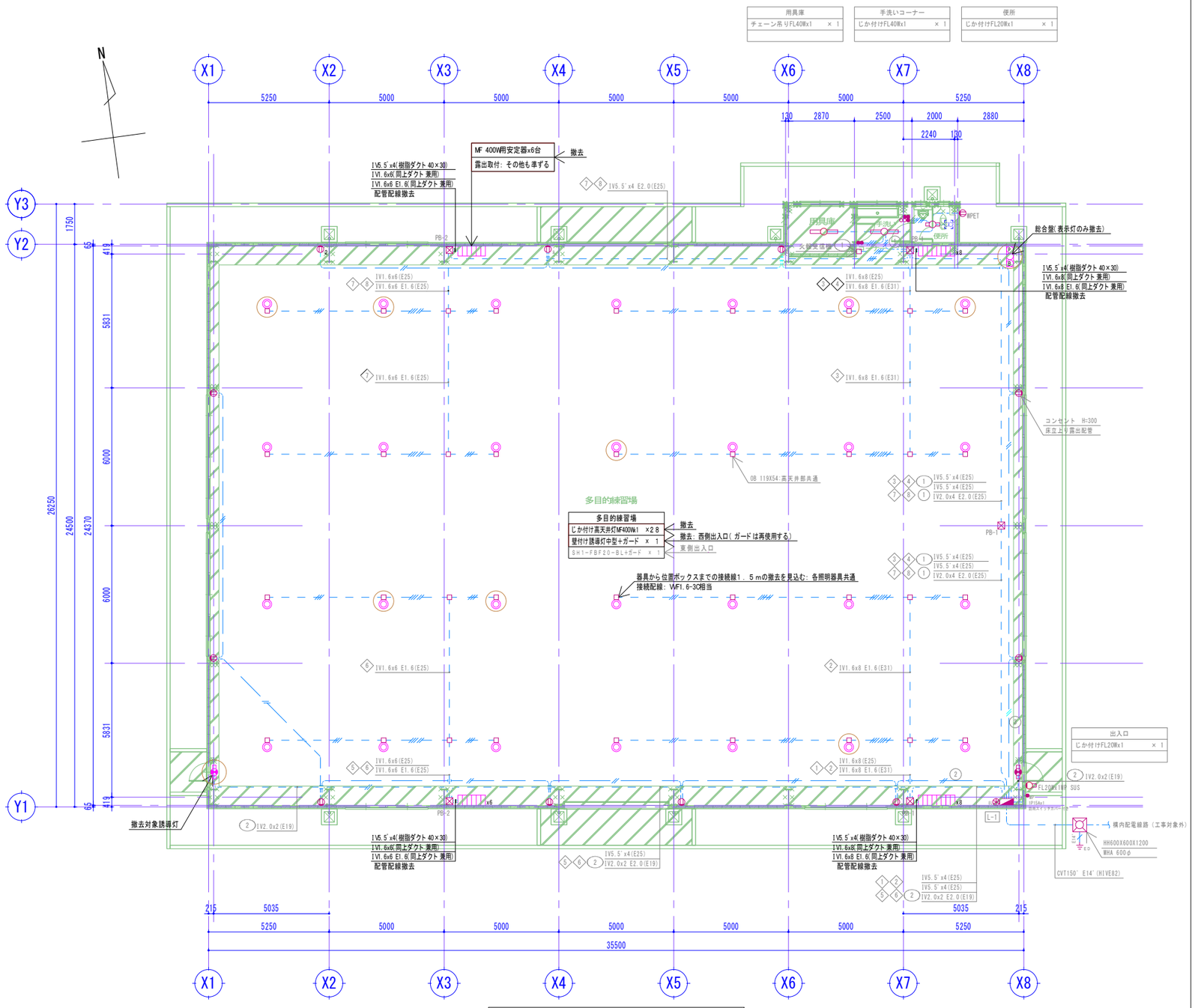


光束21300lm、消費電力112W、電圧100~242V
昼白色、5000K、Ra70、広角タイプ、直付型
光束維持時間60000時間(光束維持率85%)、電源内蔵型
本体: アルミ、パネル: ポリカーボネート(透明)、アーム: 亜鉛鋼板
約5～100%連続調光、側面・下面ガード、落下防止ワイヤー付

公共施設型番 SH1-FBF20-BL

蓄電池内蔵形
防球ガードは既設流用

株式会社MAC建築研究所 管理建築士／一級建築士登録 第334732号 中村 健	■製作年月日/DATE 2025.09	■担当/CHECK D.SATO	■製図/DRAWER D.SATO	■特記事項	■工事名称/CONSTRUCTION-TITLE 輪島市門前総合運動公園災害復旧工事（門前多目的体育館）	■図面名称/DRAWING-TITLE 門前多目的体育館　電灯設備・火災報知設備平面図（改修後）	■縮尺/SCALE 1/100（A1） 1/200（A3）	■図番/No. E－04



門前多目的体育館　１階平面図（改修前）

凡例

記号	名称	摘要	備考	記号	名称	摘要	備考
	電灯分電盤			①2	壁付けコンセント	2P15Ax2	
				①WPE	防水コンセント	2P15Ax1 ロック式 キャップ付き	
	高天井用照明	HID 安定器別置型 HID安定器x数量	安定器はレースウエイ支持				
	天井付け蛍光灯照明	FL40Wx1灯			プルボックス	サイズは図中に記載、WPは防水型を示す。	
	天井付け蛍光灯照明	FL20Wx1灯			位置ボックス		
	壁付け蛍光灯照明	FL20Wx1灯			ハンドホール		
	避難口誘導灯	FL20Wx1灯、BL級 蓄電池内蔵					
					換気扇		別途機械設備工事
	埋込スイッチ	タンブラスイッチ 1P15Ax1					
	パイロットランプ			P	火災報知設備 総合盤	P型2級発信機、ベル、表示灯収容	
	リモコンスイッチ	2線式 傍記は回路数を示す		B	露出型		

特記無き配管配線は下記に示す

	1V1.6x2 E1.6(E19)
	1V1.6x4 E1.6(E25)
	1V1.6x6 E1.6(E25)
	1V2.0x2 (E19)
	VVF1.6-2C
	VVF1.6-2Cx2

プルボックス

PB-1	300X300X200
PB-2	200X200X100

注　記

1．太線で示す機器及び配線を撤去する。

2．細線で示す機器及び配線は既存のままとする。

3．図中へ◯で囲った器具は目視及び点灯確認による損傷・不具合を示す。

電灯分電盤　L－1　鋼板製　屋内壁掛型（既存のまま）

1φ3W
200/100V 60Hz

備考	負荷名称	負荷容量	開閉器	電圧	回路番号
	火災報知設備	100	MCCB2P 50/20A	100V	1

回路番号	電圧	開閉器	負荷容量	負荷名称	備考
2	100V	MCCB2P 50/20A	60	誘導灯	

ELCB3P
100/100A

備考	負荷名称	負荷容量	開閉器	電圧	回路番号
	東側照明練習場手前	2,000	MCCB2P 50/20A	200V	1
	東側照明練習場中央	2,000	MCCB2P 50/20A	200V	3
	西側照明練習場手前	1,500	MCCB2P 50/20A	200V	5
	西側照明練習場手前	1,500	MCCB2P 50/20A	200V	7
	用具庫・便所照明	180	MCCB2P 50/20A	100V	1
	練習場コンセント	500	MCCB2P 50/20A	100V	3
	リモコントランス	50	MCCB2P 50/20A	100V	5

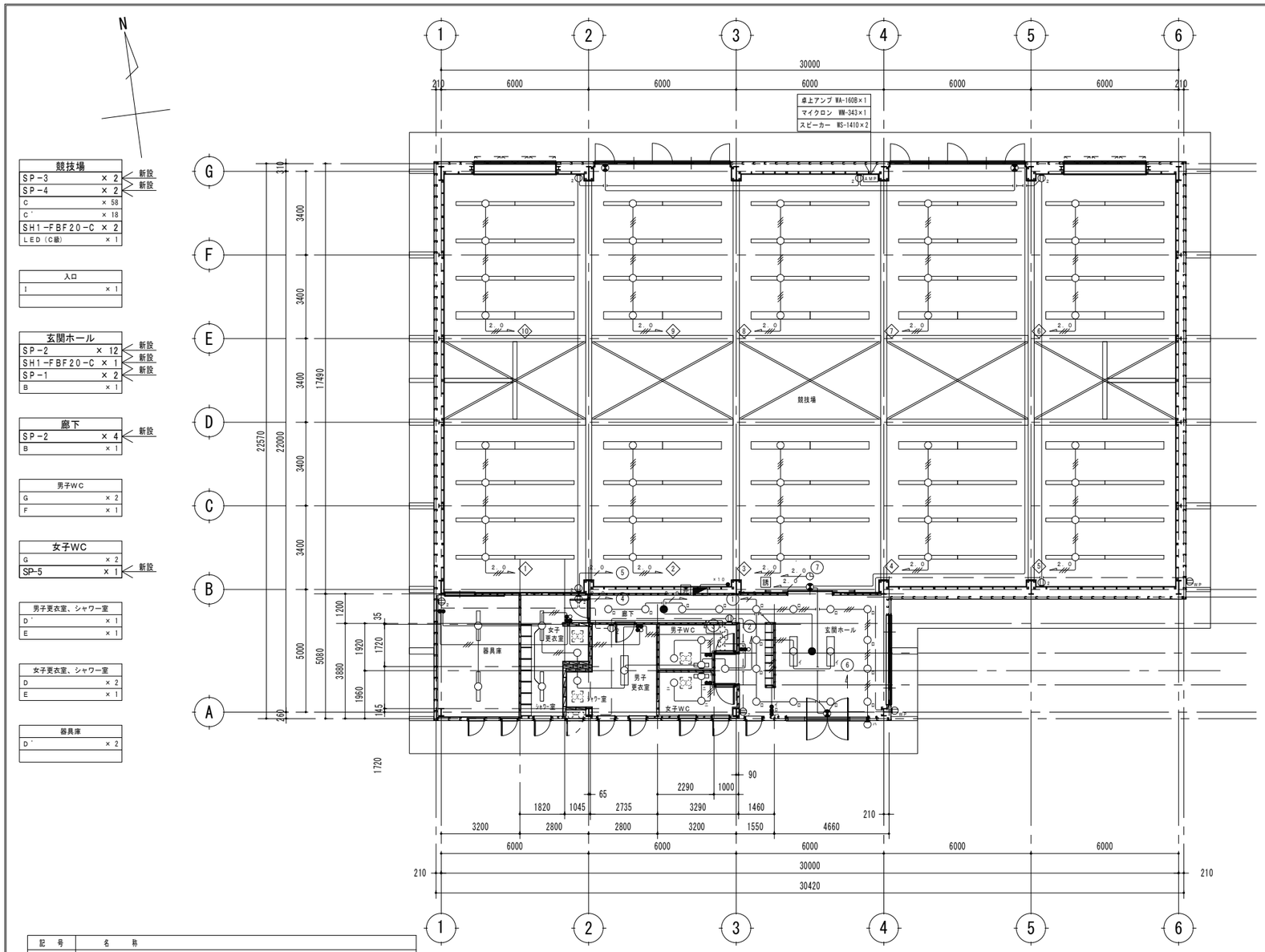
回路番号	電圧	開閉器	負荷容量	負荷名称	備考
2	200V	MCCB2P 50/20A	2,000	東側照明練習場中央	
4	200V	MCCB2P 50/20A	2,000	東側照明練習場奥	
6	200V	MCCB2P 50/20A	1,500	西側照明練習場中央	
8	200V	MCCB2P 50/20A	1,500	西側照明練習場奥	
2	100V	MCCB2P 50/20A	600	練習場コンセント	
4	100V	MCCB2P 50/20A		予備	
6	100V	MCCB2P 50/20A		予備	

盤内機器
MCCB3P3E 100AF/100AT x 1
MCCB2P2E 50AF/20AT x16
リモコントランス x 1
リモコンリレー ▲ x 8
リモコンスイッチ 8L(盤面取付) x 1

ET

株式会社MAC建築研究所 管理建築士／一級建築士登録 第334732号 中村 健	■製作年月日/DATE 2025.09	■担当/CHECK D.SATO	■製図/DRAWER D.SATO	■特記事項	■工事名称/CONSTRUCTION-TITLE 輪島市門前総合運動公園災害復旧工事（門前多目的体育館）

■図面名称/DRAWING-TITLE 門前多目的体育館　電灯設備・火災報知設備平面図（改修前）	■縮尺/SCALE 1/100 (A1) 1/200 (A3)	■図番/No. E－05



競技場	
SP-3	× 2 新設
SP-4	× 2 新設
C	× 58
C'	× 18
SH1-FBF20-C	× 2
LED(C級)	× 1

入口	
I	× 1

玄関ホール	
SP-2	× 12 新設
SH1-FBF20-C	× 1 新設
SP-1	× 2 新設
B	× 1

廊下	
SP-2	× 4 新設
B	× 1

男子WC	
G	× 2
F	× 1

女子WC	
G	× 2
SP-5	× 1 新設

男子更衣室、シャワー室	
D'	× 1
E	× 1

女子更衣室、シャワー室	
D	× 2
E	× 1

器具庫	
D'	× 2

門前町立武道館　平面図（改修後）

記　号	名　　称
A	避難口誘導灯　FL20W×1(中型・片面型) バッテリー内臓
B	埋込非常照明　非常用電球　40W×1 バッテリー内臓
C	埋込型下面解放　FL110W×1
C	埋込型下面解放　FL110W×2
D	直付V型　FL40W×1
D	直付V型　FL40W×2
E	防水型シーリングライト　IL40W×1(WP) ガラスグローブ(乳白) アルミ(ホワイトブロンズ仕上)
F	ミラーライト　FL20W×1(プルスイッチ付) アクリルカバー(前面乳白・下面透明)
G	ツイン2蛍光灯ダウンライト　27WツインE2×1　反射板・アルミ(銀色鏡面仕上) 枠ホワイト
H	デザインアクリルタイプ深枠埋込型　FL40W×2 枠アルミ(銀色仕上) パッフルパネルアクリル(プリズム)
I	防水型ウォールライト　FL20W×1(WP)(カバーアクリル(乳白))

凡例

記　号	名　　称	摘　　要	備　　考	記　号	名　　称	摘　　要	備　　考
	電灯分電盤			●	埋込スイッチ	タンブラスイッチ　1P15A×1	
				○	パイロットランプ		
	天井付け蛍光灯照明	FL110W×2灯、LED照明　ボックスなし					
	天井付け蛍光灯照明	FL110W×1灯、LED照明　ボックスなし		⦶2	壁付けコンセント	2P15A×2	
	天井付け蛍光灯照明	FL40W×2灯、LED照明		⦶WP	防水コンセント	2P15A×2　E極付、ET付き	
	天井付け蛍光灯照明	FL40W×1灯					
	壁付け蛍光灯照明	FL20W×1灯、LED照明		□	位置ボックス		
	ダウンライト	FL27W×1灯、LED照明			換気扇		
	壁付け蛍光灯照明	FL20W×1灯					
	避難口誘導灯	C級　蓄電池内蔵					
●	非常照明	FL40W×1灯　蓄電池内蔵					

特記無き配管配線は下記に示す(既設)

———	VVF 1.6-2C
———	VVF 1.6-3C
———	VVF 1.6-4C
———	VVF 1.6-2C+3C
——— 2.0	VVF 2.0-2C
——— 2.0	VVF 2.0-3C
———	IV 2.0×2 (E19)

注　記

1．太線で示す機器及び配線を新設する。

2．細線で示す機器及び配線は既存のままとする。

3．配線を新設する場合は、配線凡例に倣いEM電線、EMケーブルを使用する。

電灯分電盤　鋼板製　埋込屋内壁掛型　（既存のまま）

1φ3W
200/100V 60Hz

備　考	負荷名称	負荷容量	開閉器	電圧	回路番号
	誘導灯(競技場)	20	MCCB2P 50/20A	100V	誘

回路番号	電圧	開閉器	負荷容量	負荷名称	備　考
非	100V	MCCB2P 50/20A	10	非常灯(競技場)	

ELCB3P
225/125A

備　考	負荷名称	負荷容量	開閉器	電圧	回路番号
	照明(競技場)	938	MCCB2P 50/20A	200V	1
	照明(競技場)	689	MCCB2P 50/20A	200V	3
	照明(競技場)	938	MCCB2P 50/20A	200V	5
	照明(競技場)	938	MCCB2P 50/20A	200V	7
	照明(競技場)	938	MCCB2P 50/20A	200V	9
	予備	-	MCCB2P 50/20A	200V	3
	照明(玄関ホール等)	258	MCCB2P 50/20A	100V	1
	換気扇	400	MCCB2P 50/20A	100V	3
	コンセント(競技場)	500	MCCB2P 50/20A	100V	5
	時計(競技場)	50	MCCB2P 50/20A	100V	7
	予備	-	MCCB2P 50/20A	100V	3

回路番号	電圧	開閉器	負荷容量	負荷名称	備　考
2	200V	MCCB2P 50/20A	814.4	照明(競技場)	
4	200V	MCCB2P 50/20A	938	照明(競技場)	
6	200V	MCCB2P 50/20A	938	照明(競技場)	
8	200V	MCCB2P 50/20A	938	照明(競技場)	
10	200V	MCCB2P 50/20A	938	照明(競技場)	
3	200V	MCCB2P 50/20A	-	予備	
2	100V	MCCB2P 50/20A	505	照明(女子WC等)	
4	100V	MCCB2P 50/20A	500	コンセント(女子更衣室等)	
6	100V	MCCB2P 50/20A	200	コンセント(外壁)	
3	100V	MCCB2P 50/20A		予備	
3	100V	MCCB2P 50/20A		予備	

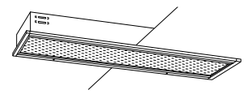
ET

盤内機器
MCCB3P3E　225AF/125AT　x 1
MCCB2P2E　　50AF/20AT　x12
MCCB2P1E　　50AF/20AT　x10

照明器具姿図

SP-1	LDL40×2　直管LED用器具　リニューアル用　プリズムパネル	SP-2	一般タイプ　ダウンライト　100形

パナソニック　XFL326PSJLE9相当品



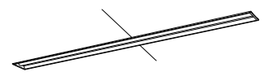
適合ランプ: 直管LEDランプ　3800Lm
定格出力型、電圧100～242V
ランプ素材: ガラス管、Ra:84
光束維持時間: 40000時間(光束維持率85%)
枠・反射板: 鋼板(高反射白色粉体塗装)
パネル: アクリル(プリズム)
埋込R300×1257　埋込高121

パナソニック　XND1069SLLE9相当品

LED内蔵<ワンコア(ひと粒)タイプ>、電源ユニット内蔵、一般光色タイプ
3000K、Ra85、拡散タイプ
光源遮光角15度、光束維持時間4000時間(光束維持率85%)
器具光束: 9851m、消費電力: 7W、電圧: 100～242V
反射板(上部): プラスチック(ホワイト)
反射板(下部): 鋼板(銀色鏡面仕上)
枠: 鋼板(ホワイトつや消し仕上)、埋込穴φ150

SP-3	LED110形　埋込型　下面開放　W190　(FL110W×1灯相当)	SP-4	LED110形　埋込型　下面開放　W300　(FL110W×2灯相当)

パナソニック　埋込XLX850RENCLE9(連結加工)相当品



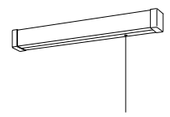
2連結器具対応
一般タイプ、5000lmタイプ
消費電力32.2W、定格出力型、電圧100～242V
本体: 鋼板(高反射白色粉体塗装)
ライトバー(カバー): ポリカーボネート(乳白)
光源寿命40000時間(光束維持率85%)
昼白色(5000K)、Ra83
電源装置はライトバー側に内蔵

パナソニック　埋込XLX800VENCLE2(連結加工)相当品

2連結器具対応
一般タイプ、10000lmタイプ
消費電力62.5W、定格出力型、電圧100～242V
本体: 鋼板(高反射白色粉体塗装)
ライトバー(カバー): ポリカーボネート(乳白)
光源寿命40000時間(光束維持率85%)
昼白色(5000K)、Ra83
電源装置はライトバー側に内蔵

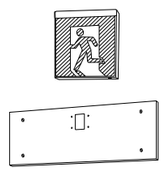
SP-5	LEDブラケット　20形直管蛍光灯1灯器具相当	SH1-FBF20-C	LED避難口誘導灯(片面型)　＋　リニューアルプレート(中型誘導灯対応)

パナソニック　LGB85038LE1相当品



昼白色(5000K)、Ra83
器具光束1100lm、消費電力12W、電圧100V
壁直付型
プルスイッチ付、拡散タイプ
カバー: プラスチック(乳白)
W=580　H=65　出しろ64

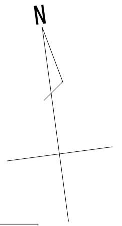
公共施設型番　SH1-FBF20-C
パナソニック　FK21747C相当品



蓄電池内蔵形

株式会社MAC建築研究所
管理建築士／一級建築士登録 第334732号 中村　健

■製作年月日/DATE	■担当/CHECK	■製図/DRAWER	■特記事項	■工事名称/CONSTRUCTION-TITLE	■図面名称/DRAWING-TITLE	■縮尺/SCALE	■図番/No.
2025.09	D.SATO	D.SATO		輪島市門前総合運動公園災害復旧工事（門前武道館）	門前武道館　電灯設備・火災報知設備平面図（改修後）	1/100 (A1) 1/200 (A3)	E－06



競技場		
C	× 2	撤去
C'	× 2	撤去
C	× 58	
C'	× 18	
A	× 2	撤去
LED（C級）	× 1	

入口	
I	× 1

玄関ホール		
G	× 12	撤去
A	× 1	撤去
H	× 2	撤去
B	× 1	

廊下	
G	× 4
B	× 1

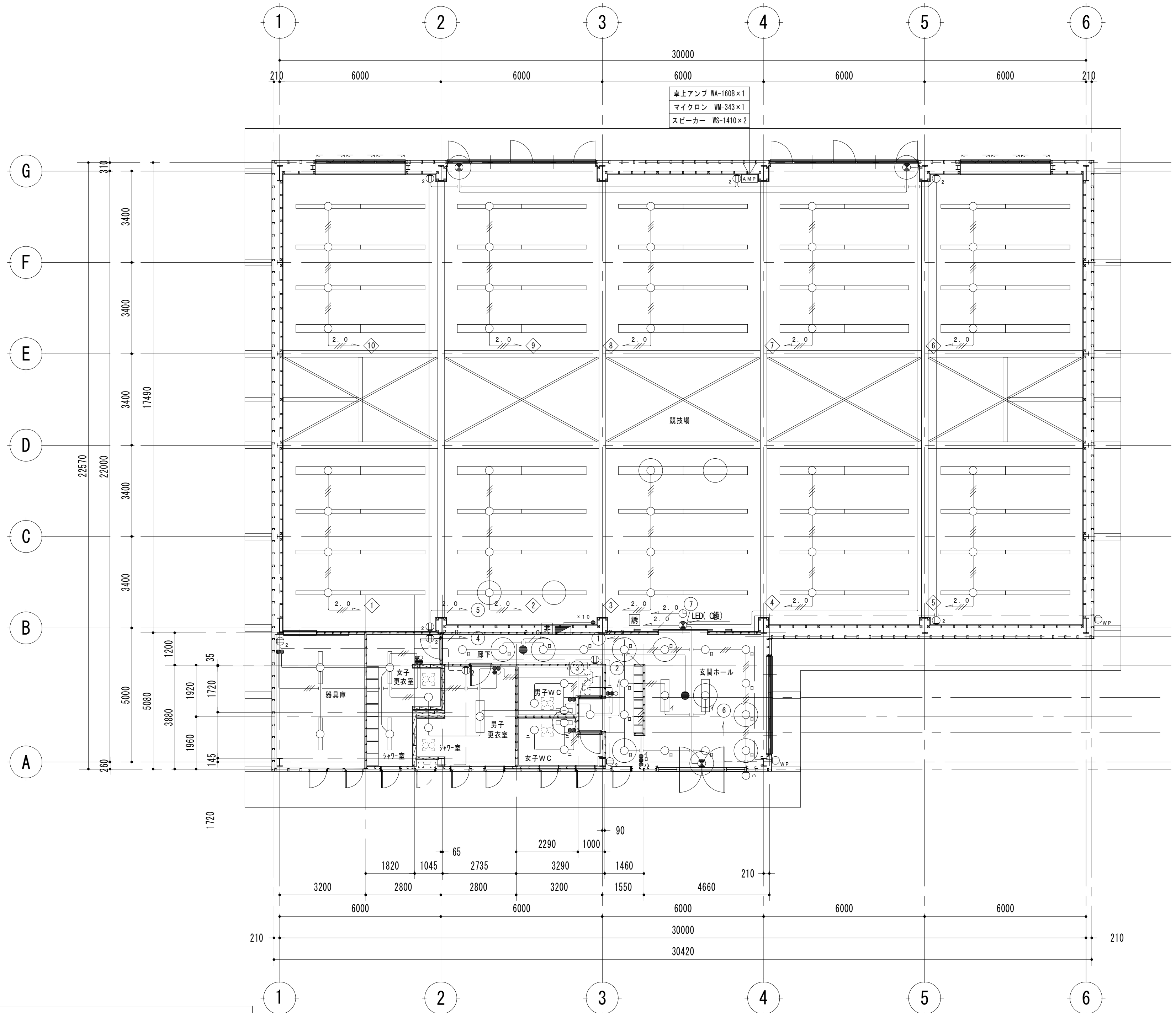
男子WC	
G	× 2
F	× 1

女子WC		
G	× 2	
F	× 1	撤去

男子更衣室、シャワー室	
D'	× 1
E	× 1

女子更衣室、シャワー室	
D	× 2
E	× 1

器具庫	
D'	× 2



門前武道館　平面図（改修前）

記号	名称
A	避難口誘導灯　FL20W×1（中型・片面型）バッテリー内臓
B	埋込非常照明　非常用電球　40W×1 バッテリー内臓
C	埋込型下面解放　FL110W×1
C'	埋込型下面解放　FL110W×2
D	直付V型　FL40W×1
D'	直付V型　FL40W×2
E	防水型シーリングライト　IL40W×1（WP）ガラスグローブ（乳白）アルミ（ホワイトブロンズ仕上）
F	ミラーライト　FL20W×1（プルスイッチ付）アクリルカバー（前面乳白・下面透明）
G	ツイン2蛍光灯ダウンライト　27Wツイン2×1　反射板・アルミ（銀色鏡面仕上）枠ホワイト
H	デザインアクリルタイプ深枠埋込型　FL40W×2 枠アルミ（銀色仕上）バッフル付パネルアクリル（プリズム）
I	防水型ウォールライト　FL20W×1（WP）（カバーアクリル（乳白））

凡例

記号	名称	摘要	備考	記号	名称	摘要	備考
◢	電灯分電盤			●	埋込スイッチ	タンブラスイッチ　1P15A x 1	
				○	パイロットランプ		
	天井付け蛍光灯照明	FL110Wx2灯　ボックスなし					
	天井付け蛍光灯照明	FL110Wx1灯　ボックスなし		⦶2	壁付けコンセント	2P15A x2	
	天井付け蛍光灯照明	FL40Wx2灯		⦶WP	防水コンセント	2P15A x2　E極付、ET付き	
	天井付け蛍光灯照明	FL40Wx1灯					
	壁付け蛍光灯照明	FL20Wx1灯		□	位置ボックス		
○	ダウンライト	FL27Wx1灯			換気扇		
◐	壁付け蛍光灯照明	FL20Wx1灯					
⧗	避難口誘導灯	FL20Wx1灯　蓄電池内蔵					
●	非常照明	FL40Wx1灯　蓄電池内蔵					

特記無き配管配線は下記に示す

記号	配線
———	VVF 1.6−2C
—///—	VVF 1.6−3C
—////—	VVF 1.6−4C
—/////—	VVF 1.6−2C+3C
—/— 2.0	VVF 2.0−2C
—//— 2.0	VVF 2.0−3C
— —	IV 2.0x2（E19）

注　記

1．太線で示す機器及び配線を撤去する。

2．細線で示す機器及び配線は既存のままとする。

3．図中へ○で囲った器具は目視及び点灯確認による損傷・不具合を示す。

電灯分電盤　鋼板製　埋込屋内壁掛型　（既存のまま）

1φ3W
200/100V 60Hz

備考	負荷名称	負荷容量	開閉器	電圧	回路番号	回路番号	電圧	開閉器	負荷容量	負荷名称	備考
	誘導灯（競技場）	20	MCCB2P 50/20A	100V	誘	非	100V	MCCB2P 50/20A	10	非常灯（競技場）	

ELCB3P
225/125A

備考	負荷名称	負荷容量	開閉器	電圧	回路番号	回路番号	電圧	開閉器	負荷容量	負荷名称	備考
	照明（競技場）	938	MCCB2P 50/20A	200V	◇1	◇2	200V	MCCB2P 50/20A	938	照明（競技場）	
	照明（競技場）	938	MCCB2P 50/20A	200V	◇3	◇4	200V	MCCB2P 50/20A	938	照明（競技場）	
	照明（競技場）	938	MCCB2P 50/20A	200V	◇5	◇6	200V	MCCB2P 50/20A	938	照明（競技場）	
	照明（競技場）	938	MCCB2P 50/20A	200V	◇7	◇8	200V	MCCB2P 50/20A	938	照明（競技場）	
	照明（競技場）	938	MCCB2P 50/20A	200V	◇9	◇10	200V	MCCB2P 50/20A	938	照明（競技場）	
	予備	−	MCCB2P 50/20A	200V	◇ヨ	◇ヨ	200V	MCCB2P 50/20A	−	予備	
	照明（玄関ホール等）	500	MCCB2P 50/20A	100V	①	②	100V	MCCB2P 50/20A	505	照明（女子WC等）	
	換気扇	400	MCCB2P 50/20A	100V	③	④	100V	MCCB2P 50/20A	500	コンセント（女子更衣室等）	
	コンセント（競技場）	500	MCCB2P 50/20A	100V	⑤	⑥	100V	MCCB2P 50/20A	200	コンセント（外壁）	
	時計（競技場）	50	MCCB2P 50/20A	100V	⑦	ヨ	100V	MCCB2P 50/20A		予備	
	予備	−	MCCB2P 50/20A	100V	ヨ	ヨ	100V	MCCB2P 50/20A		予備	

ET
◎

盤内機器
MCCB3P3E　225AF/125AT　x 1
MCCB2P2E　50AF/20AT　x12
MCCB2P1E　50AF/20AT　x10

株式会社MAC建築研究所 管理建築士／一級建築士登録 第334732号 中村 健	■製作年月日/DATE	■担当/CHECK	■製図/DRAWER	■特記事項	■工事名称/CONSTRUCTION-TITLE	■図面名称/DRAWING-TITLE	■縮尺/SCALE	■図番/No.
	2025.09	D.SATO	D.SATO		輪島市門前総合運動公園災害復旧工事（門前武道館）	門前武道館　電灯設備平面図（改修前）	1/100（A1） 1/200（A3）	E−07

工　事　仕　様　書　（機械設備）

Ⅰ．工事概要

1．工事名称　門前地区体育施設災害復旧工事

2．工事場所

3．完成期日　令和　　年　　月　　日　（余裕期間制度試行工事適用の場合は、左記を完成日の期限とする。）
指定部分　・無　・有（指定期日：令和　　年　　月　　日）　対象部分（　　）
概成工期　・無　・有（令和　　年　　月　　日）　(1.2.1(6))

4．建物概要

建物名称	構造	階数	延面積（㎡）	消防令別表第一	備考
		階建(地階　階.塔屋　階)			

5．別契約の関連工事
・建築工事　・電気設備工事　・給排水衛生設備工事　・空気調和設備工事　・構内交換設備工事
・昇降機設備工事　・自家発電設備工事　・厨房機器設備工事　・屋外付帯工事　・植栽工事
・　・　・

6．工事内容
武道管の復旧設備工事
多目的体育館の復旧設備工事
健民体育館の復旧設備工事　別途工事

Ⅱ．工事仕様
1．一般仕様
1）図面及び特記仕様に記載されていない事項は、すべて国土交通省大臣官房官庁営繕部監修の「公共建築工事標準仕様書（機械設備工事編）令和４年版」（以下、「標準仕様書」という。）及び「公共建築設備工事標準図（機械設備工事編）令和４年版」（以下、「標準図」という。）及び「公共建築改修工事標準仕様書（機械設備工事編）令和４年版」（以下「改修標準仕様書」という。）による。
2）電気設備工事及び建築工事を本工事に含む場合は、電気設備工事及び建築工事はそれぞれの標準仕様書・改修標準仕様書を適用する。

2．特記仕様
章は●印の付いたものを、特記事項で選択する項目は・印に○印の付いたものを適用する。
⊙印の付かない場合は、※印の付いたものを適用する。
⊙印と※印の付いた場合は、共に適用する。

章	項目	特記事項
●一般事項	① 工事実績情報	請負金額５，０００千円以上の工事は工事実績情報登録を行う。 (1.1.4)
	② 施工体制台帳の作成等	下請負に付する場合は、施工体制台帳を作成し、現場に備え付ける。また、施工体系図を工事関係者及び公衆が見やすい場所に掲げる。 (1.1.5(3))
	3 他工事との取り合い	スリーブ、箱入れなど他工事との取り合いは、別表－１によるものとし、施工に支障をきたさない時期までに、必要な位置、大きさ等を明示し、監督員と打ち合せる。 (1.1.7)
	④ 工事の記録等	工事総合進捗表、工事日誌、工事出面報告書、打合せ記録、工事箇所図及び現況写真等を記載した工事報告書を毎月１５日及び月末ごとに提出する。 (1.2.4)
	⑤ 施工条件	・新築工事　⊙改修工事（・執務並行改修　・全館無人改修） (1.3.3) ・工事用車両の駐車場所等は図示による。 (改1.3.3) ・
	⑥ 発生材の処理等	・引渡しを要するもの（・　） (1.3.9(2)) ・特別管理産業廃棄物（・廃石綿（エルボ保温、パッキン）　・　） ・現場で再利用を図るもの（・　） ⊙再資源化を図るもの（・コンクリート　・アスファルト　・木材 ・　）
	⑦ 再使用機材	⊙取外し後再使用するものは図示による。 (改1.4.3)

章	項目	特記事項
●一般事項	8 事前調査	石綿含有分析調査を　・行う（図示　　箇所）　・行わない (改1.5.2)
	9 養生	1）既存部分の養生範囲は、図示による。 (改3.1.1) 2）養生の方法及び固定された備品・ロッカー等の移動は、図示による。 (改3.2.1)
	⑩ 撤去等	1）回収を要する機器及び配管の内容物　・冷媒　・吸収液　・廃油 (改4.1.1(3)) 2）石綿の撤去は、図示による。 (改4.1.2(イ)) 3）機器の撤去跡の壁面等の補修は、図示による。 (改4.2.4)
	⑪ 環境への配慮	1）「国等による環境物品等の調達の推進等に関する法律」（グリーン購入法）に規定される特定調達品「公共工事」等は下記による。また、判断基準を満たすことを確認する。 (1.4.1(1)) ・吸収冷温水機　・氷蓄熱式空調機器　・送風機　・ポンプ ・ガスエンジンヒートポンプ式空気調和機　・下塗用塗料（重防食） ・大便器　・自動洗浄装置及びその組込み小便器　・自動水栓 2）本工事の建物屋内で使用する揮発性有機化合物を放散する建築材料等は、設計図書に規定する所要の品質及び性能を有するものとし、次のとおりとする。 (1.4.1(2)) ① JIS又はJASのF☆☆☆☆規格品 ② 建築基準法施行令第20条の7第4項による国土交通大臣認定品 ③ 下記表示のあるJAS規格品 a. 非ホルムアルデヒド系接着剤使用 b. 接着剤等不使用 c. 非ホルムアルデヒド系接着剤及びホルムアルデヒドを放散しない材料使用 d. ホルムアルデヒドを放散しない塗料等使用 e. 非ホルムアルデヒド系接着剤及びホルムアルデヒドを放散しない塗料使用 f. 非ホルムアルデヒド系接着剤及びホルムアルデヒドを放散しない塗料等使用
	⑫ 機材の品質等	1）本工事に使用する機材等は、設計図書に定める品質及び性能を有する新品とする。ただし、仮設に使用する機材は新品に限らない。 (1.4.2(1)) 2）機器類の能力、容量等は図示された数値以上とする。 3）電動機出力、燃料消費量、圧力損失は、原則として図示された数値以下とする。 4）下表に示す機材等の製造者等は次の①から⑥までの事項を満たすものとし、この証明となる資料又は外部機関が発行する評価の書面を提出して、監督員の承諾を受ける。ただし、製造者等が「建築材料・設備機材等品質性能評価事業 設備機材等評価名簿（最新年版）」（（一社）公共建築協会）等に記載されているものは、証明となる資料等の提出を省略することができる。 ①品質及び性能に関する試験データが整備されていること。 ②生産施設及び品質の管理が適切に行われていること。 ③安定的な供給が可能であること。 ④法令等で定める許可、認可、認定又は免許等を取得していること。 ⑤製造又は施工の実績があり、その信頼性があること。 ⑥販売、保守等の営業体制が整えられていること。

機材名称			
ボイラー	空気調和機	ポンプ類	タンク
温水発生機	空気清浄装置	ダクト付属品	消火装置
冷凍機	全熱交換器	自動制御	厨房機器
冷却塔	送風機類	衛生器具ユニット	鋳鉄製ふた

章	項目	特記事項
●一般事項	13 一級技能士の適用	・配管(建築配管)　・建築板金(ダクト製作及び取付け) (1.5.2(1)) ・熱絶縁施工(保温保冷工事)　・厨房設備施工（厨房機器据付け及び整備） ・冷凍空気調和機器施工(冷凍機、パッケージ形空気調和機据付け、整備及び冷媒配管)
	14 工事の創意工夫等	受注者は、工事施工において、自ら立案実施した創意工夫や工事特性に関する項目、又は地域社会への貢献として評価できる項目に関する事項について、工事完了時までに所定の様式により提出することができる。 (1.5.7)
	15 化学物質の濃度測定	建築物の室内空気中の濃度測定を　・行う　・行わない (1.5.8) 測定時期、測定対象化学物質、測定方法、測定対象室、測定箇所数等は図示による。
	16 中間検査	中間検査の実施　・無　・有（時期　・天井下地完了時　・　） (1.6.2)
	17 完成図	原図及び製本（等倍 １ 部、Ａ３縮小 ２ 部）提出する。 (1.7.2)
	18 保全に関する資料	保全に関する資料は次のとおり、 ２ 部提出する。 (1.7.3) ①建築物等の利用に関する説明書※ ②機器取扱説明書(主要機器一覧表とも) ③機器性能試験成績書（総合試運転調整報告書とも） ④官公署届出書類 ※「建築物等の利用に関する説明書」作成の手引き 手引きのダウンロード http://www.mlit.go.jp/gobuild/kijun_kentikubuturiyou_tebiki.htm
	19 足場類	内部及び外部足場の種別は、図示による。防護シート等の養生は図示による。 (改2.2.1)
	⑳ 工事用水等	⊙既存施設に量水器等を設けて使用できる（有償）　・水道局引込み等 (改2.2.2)
	21 仮設間仕切・扉	設置箇所、種別及び塗装仕上げは、図示による。 (改2.2.3)
●共通事項	1 総合試運転調整	下記の項目の測定報告書(測定箇所は監督員の指示による）を提出する。 (1.3.3) ・風量調整　・水量調整　・室内外空気の温湿度の測定 ・室内気流及びじんあいの測定　・騒音の測定　・振動の測定 ・飲料水の水質測定（・11項目　箇所　・16項目　箇所） ・雑用水の水質測定（建築物環境衛生管理基準による。）

章	項目	特記事項
●共通事項	2 配管等	1）仕切弁はJIS又はJV（・5K　・10K（水道直結等の図示部分））とする。 (2.2.1) 2）絶縁継手の取付け箇所は、図示による。 (2.2.12) 3）建物導入部の変位吸収方法は次による。ただし、排水及び通気配管を除く。 (2.4.1(3)) 標準図（・(a)フレキシブルジョイント　・(b)　・(c)　）による。(2.5.7(1)) 4）呼び径60Su以下のステンレス鋼管は、（・プレス　・拡管　・　）接合とする。 5）ポリエチレン管の接合方法は、（・電気融着　・メカニカル）とする。 (2.5.10(2)) 6）溶接部の非破壊検査を　・行う　・行わない (2.5.15.12(ウ)) 7）地中埋設標の設置箇所は、図示による。 (2.7.1(8)) 8）埋設表示用テープ（倍折）を土被り150㎜程度の深さに埋設する。 (2.7.1(9)) 9）埋設深さは、図示が無い場合、車両道路(・60cm　・　)、 (2.7.2) その他(・30cm　・　）以上とする。
	3 防凍保温	屋外露出部(給水管、消火管、膨張管、冷温水管、弁類を含む)は 防凍保温を行い、保温材の厚さは配管の呼び径25㎜以下のものは50㎜以上、それ以外は40㎜以上とする。 (3.1.6)
	4 塗装	下記の亜鉛めっきを施した露出ダクト及び露出配管は、塗装を行わない。 (3.2.1.1) ⊙機械室（エレベーター機械室）　⊙電気室（自家発室）　⊙倉庫　・
	5 吊り及び支持金物の防錆	多湿トレンチ内等の吊り金物、支持金物類は溶融亜鉛めっき処理又はステンレス鋼製とする。 (3.2.2.1)
	6 監督員事務所等	1）監督員事務所を　※ 設けない　・設ける[・１号（10㎡程度）　・２号(20㎡程度）]
		2）監督員事務所に設ける備品等 (4.1.1(イ)) ・保護帽　・墜落制止用器具　・長靴　・合羽　・机　・椅子 ・懐中電灯　・書棚　・黒板　・寒暖計　・　・
		3）設計図を工事監理用に製本（等倍 １ 部、Ａ３縮小 ２ 部）し、監督員事務所等に置く。
	7 快適トイレ（快適トイレ実施要領に基づく）	・快適トイレを設置する　・快適トイレを設置しない（別途工事で設置等） ※ 監督員へ提案・協議し、快適トイレを設置することができる 快適トイレを設置した場合は、設計変更の対象とし、「快適トイレ実施要領」により費用を計上する。
	⑧ 工事現場の表示板	工事現場には、下記表示板を設置する。　（記入例） (4.1.1(ウ)) 上段の地色は白色　文字は青色 下段の地色は青色　文字は白色 工事名 工期　自　年　月　日～至　年　月　日 発注者　輪島市教育委員会生涯学習課 設計　（建築・設備委託業者名を記入） 監理　（建築・設備委託業者名を記入） 施工　建築　（施工業者名を記入） 電気　（施工業者名を記入） 機械　（施工業者名を記入） この工事は、週休２日に取り組んでいます 60cm～75cm　90cm 設計及び監理の欄は、実施設計及び工事監理が委託発注された場合。 工事名は、各工事とも共通な名称とし、各文字は角ゴシック体とする。
	9 埋め戻し土	※ 根切り土の中の良質土（ただし、管の周囲は山砂）　・山砂 (4.2.1(オ))
	10 建設発生土の処理	・現場内で処理 (4.2.1(カ)) ・構内指示の場所に堆積　・構内指示の場所に敷き均し ・場外搬出適正処理　（「再生資源利用促進計画書及び実施書」を監督員に提出のこと。） ※ 指定（想定）搬出先　受入場所： 受入時間帯：　時　分～　時　分 仮置き等：
	11 はつり	1）放射線透過検査を　・行う　※ 行わない（但し、鉄筋探査は行う。） (改4.1.2) 2）配管貫通部の穴開けは、ダイヤモンドカッターとし、場所・口径は図示による。 (改4.1.3) 3）既設基礎の解体、撤去後の床補修は、図示による。 (改4.1.5)
	12 あと施工アンカー	1）埋込み配管等の探査の範囲及び方法は、図示による。 (改5.2.1) 2）施工後確認試験（引張試験）を　・行う（　箇所）　・行わない (改5.2.3)
	13 県内産材料	石川県建設工事標準請負契約約款（以下「請負契約約款」という。）第６条の２第７項により、調達する工事材料は石川県産とするように努めることについて、工事着手前に使用材料確認願いを提出する。
	14 材料検査	請負契約約款第１３条第２項に定める監督員の検査を受けて使用する工事材料は次のとおり。 ・熱源機器　・空調機器　・ポンプ類　・ダクト及び付属品　・衛生器具 ・タンク類　・消火機器　・合併処理槽　・厨房機器　・ ・　・
	⑮ 工事写真等の記録	1）国土交通省大臣官房官庁営繕部監修「営繕工事写真撮影要領（令和３年改定）」による。

最終改訂　Ｒ７．４．１

工事名	番号
門前地区体育施設災害復旧工事	M-01
図面名　工事仕様書（機械設備）　３枚組	縮尺　――
設計　輪島市教育委員会	

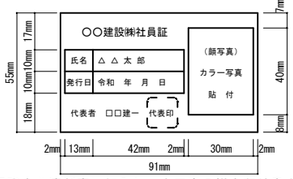
章	項目	特記事項
●共通事項		2) 請負契約約款第１４条第３項に定める工事写真は次のとおり。 ・ 地中埋設配管部　・ 機器の基礎及びアンカーボルト埋設部　・ 塗装工程 ・ 保温工程　・ 天井、トレンチ内の隠ぺい箇所　・ 躯体スリーブ 3) 区分による規格、枚数、部数は次による。

区分	大きさ(mm)	撮影枚数	部数	備考
着工前	100×148程度	監督員の指示による	１部	工事期間中は現場事務所に整理保管し、
工中中	85×115程度	監督員の指示による	１部	工事完成時に提出する。
完成時	100×148程度	監督員の指示による	１部	Ａ４用紙に整理したもの

章	項目	特記事項
		4) 完成写真の撮影は、次による。　・ 建築写真撮影業者　※ 建築写真撮影業者以外 5) 写真はＡ４用紙に順序よく貼付又は印刷し、説明事項を記入して提出する。 6) 中間検査又は監督員の指示により、手直しを命じられた工事は、手直し前、中、後が判断できる写真を撮影し、報告書に添付し提出する。
	16 部分払いの対象工事材料	請負契約約款第３７条第１項に定める部分払の対象とする工事材料は次のとおり。 ・ 機器　・ 器具　・ 配管　・
	17 火災保険等	請負契約約款第４９条に定める火災保険等は次のとおり。（加入期間は着工日より引渡日まで） ※ 組立保険　・ 建設工事保険
	18 耐震施工	次に示す事項を除き、すべて独立行政法人建築研究所監修の「建築設備耐震設計・施工指針２０１４年版」による。 (3-2.1.1(5)) 1) 機器の設計用標準水平震度及び耐震クラスは図示による。図示がなければ次による。

設置場所	耐震安全性の分類（重要機器、一般機器共通）	
	特定の施設	一般の施設
	・ 耐震クラスＳ	・ 耐震クラスＡ
上層階、屋上及び塔屋	２．０	１．５ ＜２．０＞
中間階	１．５	１．０ ＜１．５＞
一階及び地下階	１．０ （１．５）	１．０

章	項目	特記事項
		注1 設置場所の区分は、機器等を支持する床部分により適用し、天井面（上階床）より支持する機器等は直上階を適用する。 注2 上層階は、２～６階建の場合は最上階、７～９階建の場合は上層２階、10～12階建の場合は上層３階、13階建以上の場合は上層４階とする。 注3 （ ）内の値は水槽類（受水槽、高置水槽、消火関係水槽、オイルタンク等）、＜ ＞内の値は防振支持の機器（防振材・防振装置を介して設置される機器）に適用する。 2) 地域係数は１．０とする。 3) 設計用鉛直地震力は、設計用水平地震力の１／２とし水平地震力と同時に働くものとする。 4) １ｋＮ以下の軽微な機器（標準仕様書の適用を受けるものは除く）においても耐震を考慮し据付け又は取付けを行うものとするが、前記指針の方法によらなくてもよい。
	19 名札の義務	請負金額１０，０００千円以上の元請工事の現場代理人及び主任（監理）技術者は顔写真付き名札を常時着用する。下記の寸法等は、参考であり、社員証等に替えることができる。



章	項目	特記事項
	⑳ 退職金共済制度	受注者は建設業退職金共済制度に加入し、本工事の掛金収納書を工事請負契約締結後１ヵ月以内に監督員を通じて発注者に提出する。また、現場事務所に適用標識（シール）を掲示する。
	㉑ 過積載等の防止	1)積載重量制限を超えて土砂等を積み込まず、また積み込ませない。 2)さし枠装着車、不表示車等に土砂等を積み込まず、また積み込ませない。 3)過積載車両、さし枠装着車、不表示車等から土砂等の引き渡しを受ける等、過積載を助長しないようにする。 4)取引関係のあるダンプカー事業車が過積載を行い、又はさし枠装着車、不表示車等を土砂等運搬に使用している場合は、早急に不正状態を解消する措置を講ずる。 5)建設発生土の処理及び資材の購入に当たって、下請事業者及び骨材納入業者の利益を不当に害することのないようにする。 6)「土砂等を運搬する大型自動車による交通事故の防止等に関する特別措置法」（昭和４２年８月２日法律第１３１号。以下「法」という。）の目的に鑑み、法第１２条に規定する団体等の設立状況を踏まえ、同団体等への加入者の使用を促進する。 7) 1)から6)につき、元請建設業者は下請建設業者を十分指導する。
	22 景観への配慮	本工事は、石川県公共事業景観形成ガイドラインに基づく下記の事業であり、景観に配慮した施工に努める。　・ 重点事業　・ 一般事業
	23 総合評価方式における技術提案	「石川県建設工事総合評価方式試行要領」に基づく、「技術提案」がある場合は、提案内容を本工事において確実に履行し、「技術提案履行状況報告書」を監督員に提出の上、履行状況の確認を受ける。履行にあたり疑義が生じた場合は、速やかに監督員と協議する。
	24 電子納品	※ 行う（「電子納品仕様書」による。）　・ 行わない 電子納品仕様書 1 電子納品とは、出来形管理資料や工事写真等の工事完成図書を電子データで納品するものである。 ここでいう電子データとは、下表に示す各種電子納品要領等で定めるフォーマットに基づいて作成されたものを指す。

名称
営繕工事電子納品要領（令和３年改定）
官庁営繕事業に係る電子納品運用ガイドライン【営繕工事編】（令和４年改定）

基準・要領類のダウンロード　http://www.mlit.go.jp/gobuild/gobuild_tk2_000017.html

章	項目	特記事項
●共通事項		2 工事関係書類の最終成果品を、従来の紙での納品と別にＣＤ－Ｒ、ＤＶＤ－Ｒ又はＢＤ－Ｒで１部納品する。 3 工事着手時には、事前協議チェックシートを用いて事前協議を行うものとする。 工事関係書類の内、電子データで提出するものは、事前協議にて決定する。
	25 公共事業労務費調査の協力	受注者は、当該工事が発注者の実施する公共事業労務費調査の対象工事となった場合には、次の各号に掲げる協力をしなければならない。工期経過後においても同様とする。 ① 調査票等に必要事項を正確に記入し、発注者に提出する等必要な協力をする。 ② 調査票等を提出した事業所が、事後に発注者が行う調査・指導の対象になった場合には、その実施に協力する。 ③ 正確な調査票等の提出が行えるよう、労働基準法等に従い就業規則を作成すると共に賃金台帳を調整・保存する等、日頃より使用している現場労働者の賃金時間管理を適切に行う。 ④ 下請負に付する場合には、当該下請工事受注者（当該下請工事の一部に係る二次以降の下請負人を含む）が前各号と同様の義務を負う旨を定める。
	26 事故の補償	受注者は、雇用者等の業務に関して生じた負傷、疾病、死亡及びその他の事故に対して責任をもって適正な補償をしなければならない。（法定外の労災保険を含む）
○空気調和設備	1 煙道	ばい煙濃度計取付座、ばいじん量測定口、伸縮継手及び掃除口は図示による。 (1.1.2)
	2 冷媒	パッケージ形空気調和機等の冷媒の種類は、図示による。 (1.7.5.15)
	3 ダクト	1) 低圧ダクト　・ アングルフランジ工法　・ スパイラルダクト (1.14.3.1～2) ・ コーナーボルト工法（ ・ 共板フランジ　・ スライドオンフランジ ） 2) 高圧ダクトの適用範囲は図示による。 3) 厨房用長方形排気ダクトの板厚は、標準仕様書の１ランク厚いものを使用する。 (1.14.3.5)
	4 チャンバー	消音内貼りを施すチャンバーは、図示による。 (1.14.6.(1))
	5 風量測定口	取り付け位置は、図示による。 (2.2.5.5)
	6 基礎	防振基礎は、図示による。 (2.1.1(3))
	7 配管材料	1) 冷温水管　・ 配管用炭素鋼鋼管(白)　・ (2-2.1.2.1) 2) 冷却水管　・ ポリ粉体ライニング鋼管(PB)　・ 3) 蒸気管　給気管　・ 圧力配管用炭素鋼鋼管(黒)　※ 配管用炭素鋼鋼管(黒) (2-2.1.2.2) 還管　※ 圧力配管用炭素鋼鋼管(黒)　・ 4) 油管　屋内　・ 配管用炭素鋼鋼管(黒) 地中　・ ポリエチレン被覆鋼管(PLS(PE1H)) 屋外露出、暗渠　・ 硬質塩化ビニル被覆鋼管(PLV) 5) 冷媒配管　※ 断熱材被覆銅管　・ 銅管 (2-2.1.2.4) 6) 空調用ドレン管　・ 配管用炭素鋼鋼管(白) (2-2.1.2.6) ・ 硬質ポリ塩化ビニル管(VP)(屋内露出を除く) 7) 膨張管、空気抜き管及び膨張タンクよりボイラーへの給水管は配管用炭素鋼鋼管(白)とする。
	8 伸縮管継手	鋼管用伸縮管継手の種類は図示による。 (2-2.2.7.1)
	9 瞬間流量計	・ 着脱形　・ 固定形　を設ける。 (2-2.3.8)
	10 保温	1) 還りダクト（ＲＡダクト）の保温範囲は図示による。 (2-3.1.4) 2) 外気取入れダクト（ＯＡダクト）の保温範囲は図示による。 3) 外壁１ｍ以内のダクト及び多湿箇所（図示の範囲）のダクトは保温（25mm厚）を行う。 4) 膨張タンクよりボイラーへの補給水管の保温は、温水管の項による。 5) 建物内の空気抜き管の保温は、温水管の項による。 6) 冷媒管の保温外装は次表による。

屋内露出	・ 合成樹脂製カバー	・ 保温化粧ケース
屋外露出	・ ステンレス鋼板	・ 保温化粧ケース

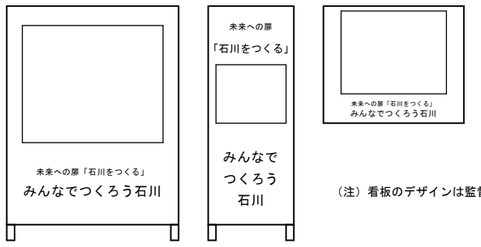
章	項目	特記事項
	11 冷媒(フロン類)の回収	1) 業務用冷凍空調機器等（エアコンディショナー、冷蔵機器、冷凍機器等）で「フロン排出抑制法」の対象となっている機器 (改2.4.3) ・ 「第一種フロン類充填回収業者登録通知書」の写しを提出する。 ・ 「フロン類引取証明書」を提出する。 2) 家庭用のエアコン等で「家電リサイクル法」の対象となっている機器 ・ 「特定家庭用機器廃棄物管理票(家電リサクル券)」の写しを提出する。
○自動制御設備	1 システム構成	図示による。 (1.1.1(2))
	2 電源装置	無停電電源装置は、図示による。 (1.4.2.9) (1.5.1)(2.3.1)
	3 電気計装用配線	原則、配線はＥＭケーブル等とし、天井隠ぺい部は、図示がなければケーブル配線とする。
●給排水衛生設備	① 水栓	水抜栓を使用する系統の水栓は、固定こま式とする。台所流し用水栓は泡沫式とする。 (1.1.6)
	2 量水器	1) ・ 親メーター（ ・ 貸与品　・ 買取 ）　・ 子メーター（ ・ 買取　・　 ） (2-2.2.16) 2) 量水器桝　・ 水道事業者指定品（ ・ 貸与品　・ 買取 ）　・ 標準図 ＭＣ形 (1.8.4)
	3 汚水用水中ポンプ	水中ケーブルの長さは、図示による。 (1.2.7)
	4 タンクの保温	ステンレス鋼板製タンクの保温を　・ 行う　・ 行わない (1.4.2.4)(1.4.2.5)

章	項目	特記事項
●給排水衛生設備	5 緊急遮断弁装置	受水槽、高架水槽に設ける緊急遮断弁装置は、図示による。 (2-2.2.22)
	⑥ 配管材料	① 給水管　一般　⊙ ポリ粉体ライニング鋼管(PB)　・ ステンレス鋼鋼管 (2-2.1.2.5) ・ 厨房、浴室等のシンダー内配管はポリ粉体ライニング鋼管(PD) 地中　・ ポリ粉体ライニング鋼管(PD)　・ ステンレス鋼鋼管 ・ 水道用硬質ポリ塩化ビニル管(HIVP)　・ 水道用ポリエチレン管 引込管（直結部分）は水道事業者指定のものとし、図示による。加入負担金は別途 2) 給湯管（膨張管及び補給水タンクよりボイラーなどへの補給水管を含む。） ・ 銅管（壁又は床埋設は、被覆銅管又は保温付被覆銅管としてもよい。） ・ ステンレス鋼鋼管　・ 耐熱性塩化ビニルライニング鋼管 3) 消火管　一般　・ 配管用炭素鋼鋼管(白) 地中　・ 消火用硬質塩化ビニル外面被覆鋼管(VS) ④ 排水管　屋内　⊙ 硬質ポリ塩化ビニル管(VP)　・ 耐火二層管(VP) (2-2.1.2.6) ・ リサイクル発泡三層管(RF-VP)　・ 耐火二層管(RF-VP) 屋外　・ 硬質ポリ塩化ビニル管(VP) 圧送　・ 硬質ポリ塩化ビニル管(VP)　・ 水配管用亜鉛めっき鋼管 ⑤ 通気管　⊙ 硬質ポリ塩化ビニル管(VP)　・ 耐火二層管(VP) ・ リサイクル発泡三層管(RF-VP)　・ 耐火二層管(RF-VP)
	7 洗面器等の排水管	洗面器及び手洗器に直結する排水管は、器具トラップより１サイズアップとする。 (2-2.4.8)
	8 満水試験継手	取付け位置は、図示による。 (2-2.9.4)
○ガス設備	1 配管材料	1) 屋内　・ 配管用炭素鋼鋼管(白) (2.1.1)(3.1.1) 2) 地中　・ ポリエチレン被覆鋼管(PLS(PE1H))　・ ガス用ポリエチレン管 3) 屋外露出、暗渠　・ 硬質塩化ビニル被覆鋼管(PLV)　・ 配管用炭素鋼鋼管(白)
	2 メーター	・ 親メーター（ ・ 貸与品　・　 ）　・ 子メーター（ ・ 買取　・　 ） (2.1.7)(3.1.3.4)
	3 ガス漏れ警報器	・ 本工事（図示による）　・ 別途工事 (2.1.3)(3.1.3.6)
	4 その他	ガス遮断装置、漏洩検知装置、電気防食措置、ボンベの転倒防止措置は、図示による。
○浄化槽設備	1 配管材料等	1) マンホールふた　・ ボルトロック式　・ メーカー標準ロック式 (2.1.27) 2) 管材や弁類は、図示による。 (2.1.30)
	2 山留め	山留め壁　・ 要（図示による。）　・ 不要 (2.2.1(ウ))
	3 維持管理	工事引渡後６ヶ月間は受注者が維持管理を行い、７条検査を受検し、その報告を行う。 (2.2.2)

（別表－１）他工事との取り合い

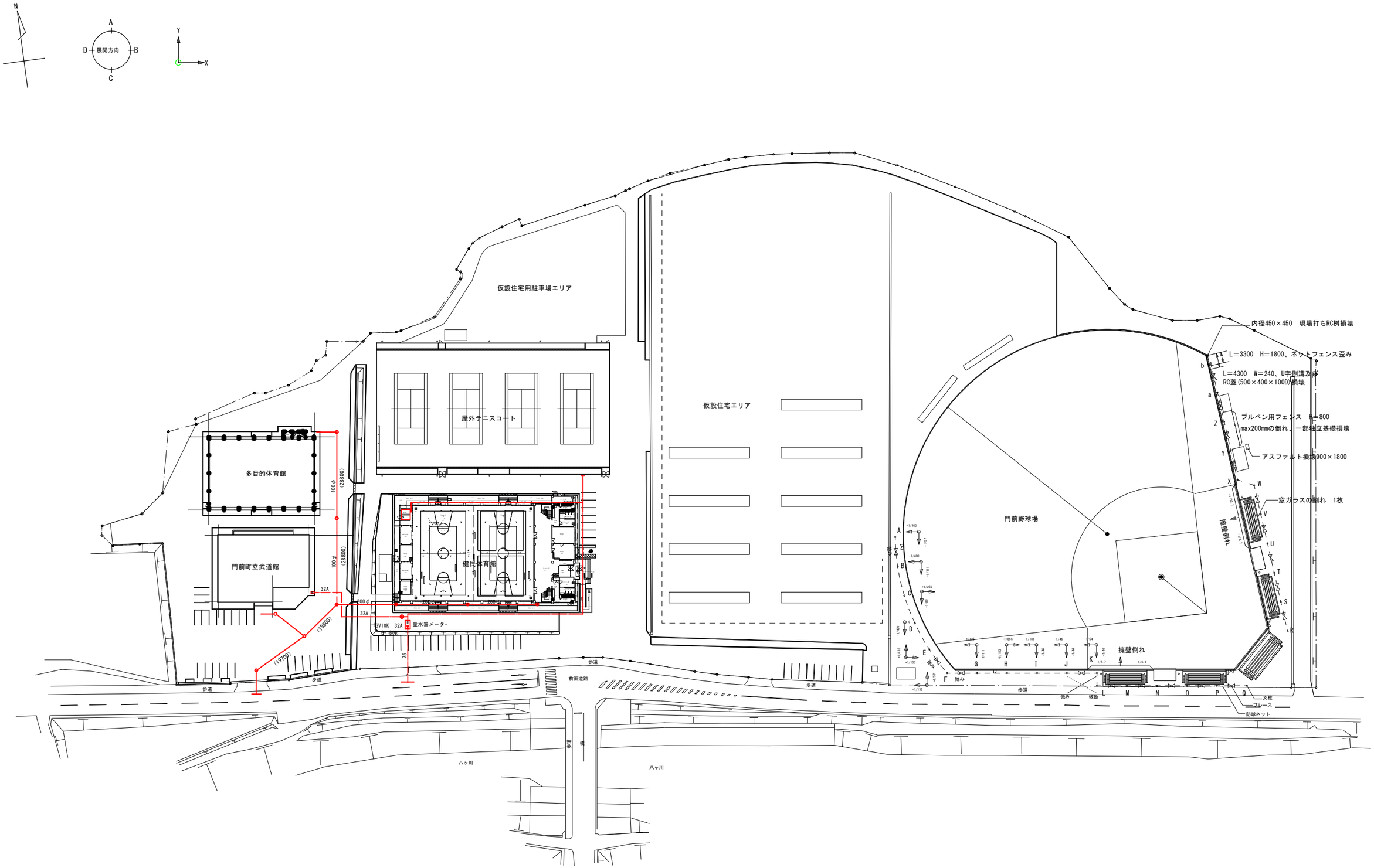
工事内容			機械	電気	建築	備考
開口部	はり、床、壁の貫通部（ＲＣ造）	スリーブ、仮枠、穴埋共	●			Ｓ造は建築
		補強筋			●	建築図面に図示
	天井、壁の切り込み	ボード類切込み	●			
		下地補強			●	建築図面に図示
外部取付ガラリ（ダクト、チャンバの接続用フランジを含む）					●	建築図面に図示
レンジフードファン、フード（取付枠共）及び流し台（排水トラップ共）					●	
洗面所、手洗所等の大型鏡、はめ込型洗面器用カウンター及び身障者用手すり					●	
下流し、足洗い場及び玄関の排水			●			
床、天井、壁の点検口及び床下水槽のマンホール蓋					●	建築図面に図示
屋内外設備（受水槽、ポンプ等）の基礎					●	建築図面に図示
屋上設備の基礎					●	建築図面に図示
地下油タンク室等のコンクリート工事					●	建築図面に図示
油サービスタンクの防油堤					●	
ボイラーの煙突及びプロパンボンベ庫（既製のものは機械）					●	
実験台(陶器製流し、化学水栓、ガス栓及びコンセント共付属品を含む)					●	
実験台への配管及び配管接続			●			
電気配線	機器付属の制御盤以降の配管配線（接地共）		●			二次側
	機器付属の制御盤への電源供給の配管配線			●		一次側
	制御盤と動力盤間の電源供給及び操作回路の渡り配管配線			●		
	機器と付属操作スイッチとの渡り配管配線			●		

工事名	番号
門前地区体育施設災害復旧工事	M-02
図面名　工事仕様書（機械設備）　２／３	縮尺　―――
設計　輪島市教育委員会	

章	項　　目	特　　記　　事　　項
●その他	① いしかわ週休２日工事	工事現場において週休２日に取り組む「いしかわ週休２日工事」（以下、「週休２日工事」という。）の適用については、次のとおりとする。 なお、週休２日の工事の定義(様式)等については、石川県土木部監理課技術管理室ＨＰの「いしかわ週休２日工事　実施要領」を参照すること。 （１）当初設計において、週単位の週休２日にかかる補正係数を乗じている。 （２）受注者は、工事現場に週休２日に取り組むことを記載した工事看板を設置すること。 （３）受注者は、現場着手前に休日取得［計画］表を作成し、監督員に提出・共有すること。 （４）受注者は、工程に大幅な変更が生じた場合は休日取得［計画］表を修正し、監督員に提出・共有すること。 （５）受注者は、工期最終日までに、休日取得［実績］表を記入し、監督員に提出すること。 （６）分離発注工事の場合に、各発注工事単位で、現場事務所での作業を含めて１日を通して現場作業が無い状態も「現場閉所」とみなす。 （７）発注者は、現場閉所の達成状況を確認し、週単位の週休２日に満たない場合は、月単位の週休２日（４週８休相当）の補正に減額するものとし、月単位の週休２日（４週８休相当）に満たない場合は、補正分を減額するものとする。 なお、週休２日の確保が確認できなかった場合であっても、工事成績評定で減点評価は行わない。
	２ 余裕期間制度試行工事	１）適用 ・　対象 ※　対象外 ２）余裕期間制度対象工事の内容 （１）本工事は、円滑な工事施工体制の確保を図るため、全体工期の範囲内で受注者が工事の着手及び完成日を設定することができる工事であり、建設工事に係る余裕期間制度（フレックス方式）試行要領に基づき実施するものとする。 （２）受注者は、契約締結日から着工日の期限までの間で、休日を除く任意の日を着工日として設定することができる。 （３）受注者は、完成日の期限までの間で、休日を除く任意の日を完成日として設定することができる。 （４）工期は受注者が任意で設定した着工及び完成日を記載する。 （５）受注者は、契約時に現場代理人及び主任技術者選任届を発注者に提出しなければならない。 （６）受注者は、着工日までの余裕期間内に工事（工場製作、測量、資材の搬入、仮設物や現場事務所の設置等の準備工を含む。）に着手してはならない。ただし、現場に搬入しない資機材の準備及び労働者の手配は、この限りでない。 （７）受注者は、余裕期間の間は、現場代理人及び主任（監理）技術者の配置を要しない。 （８）受注者は、着工日までに施工計画書を提出するものとする。 （９）余裕期間制度の適用により増加する費用は、受注者の負担とする。 （１０）その他、この特記仕様書に定めのないことについては、建設工事に係る余裕期間制度（フレックス方式）試行要領によるものとする。 （着工日の期限）　契約締結日から起算して〇ヶ月以内
	３ イメージアップ看板	・　設置する ・　設置しない（別途工事で設置等） ※　監督員へ提案・協議し、設置することができる（設置費は受注者負担とする） 【参考図】 野立型（大）　H1400×W1100 野立型（小）　H1400×W550 壁掛型　H750×W900  （注）看板のデザインは監督員に確認すること
	４ 情報共有システム	石川県建設工事情報共有システム実施要領（営繕工事編）に基づく。 https://www.pref.ishikawa.lg.jp/eizen/kijun/kijun.html ・　利用する（発注者指定型） ※　現場着手前に発注者と協議し、利用することができる（施工者希望型）

章	項　　目	特　　記　　事　　項

工事名	番号
門前地区体育施設災害復旧工事	M-03
図面名　工事仕様書（機械設備）　３／３	縮尺　――
設　計　輪島市教育総務課	



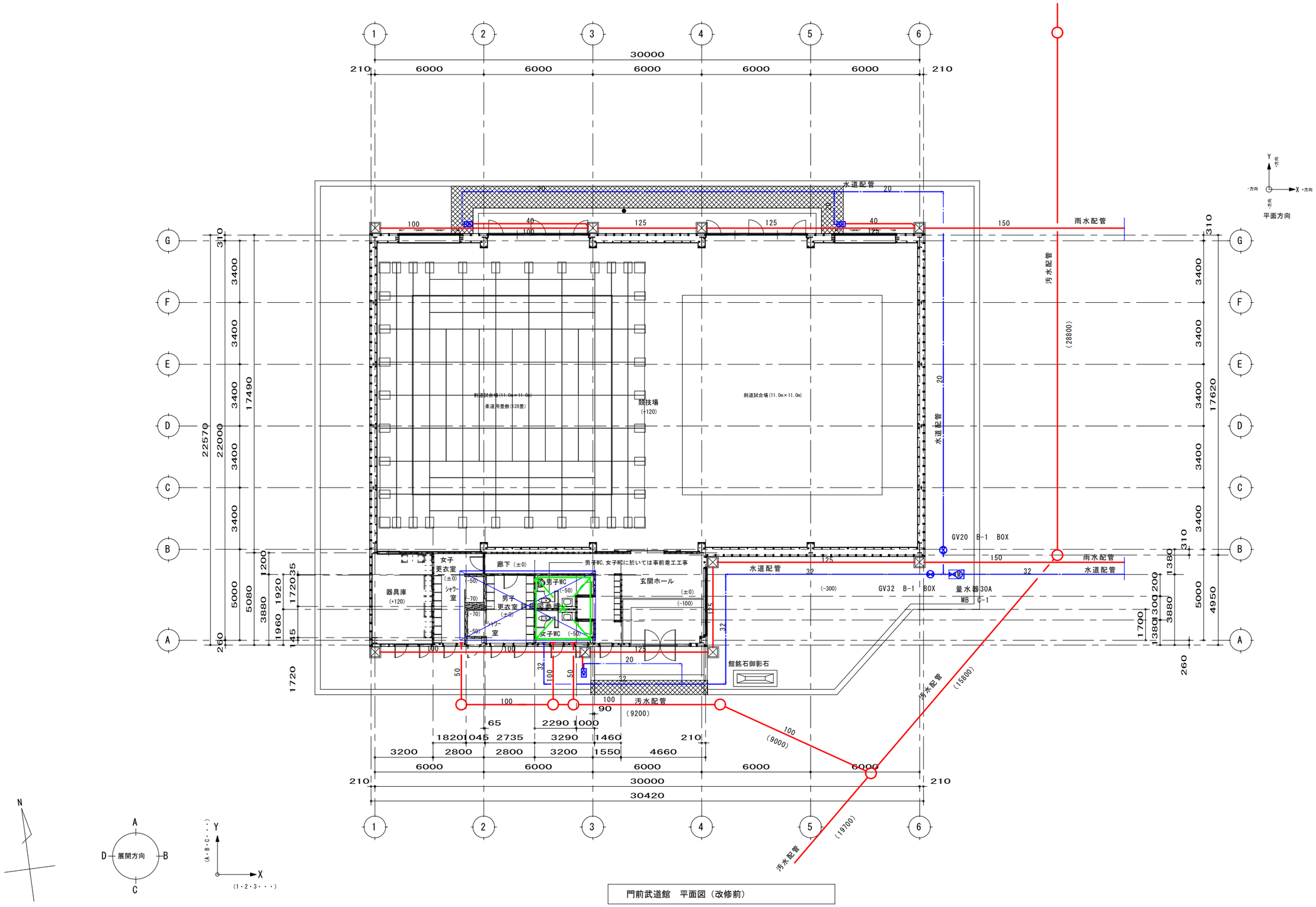
株式会社　ＭＡＣ　建築研究所 管理建築士／一級建築士登録 第334732号 中村　健	■製作年月日/DATE 2025.09	■担当/CHECK D.SATO	■製図/DRAWER D.SATO	■特記事項 輪島市より受領した配置図は、敷地形状・建物配置共に、現状と かなりの相違があるため、航空写真を基に再作成している。	■工事名称/CONSTRUCTION-TITLE 門前地区体育施設災害復旧工事	■図面名称/DRAWING-TITLE 配置図（改修前）	■縮尺/SCALE 1/600 (A1) 1/1200 (A3)	■図番/No. M －04

衛生器具

衛生器具名	形式 設計当時品番	付属品 現況	付属品 改修後	健民体育館 男子水飲場	健民体育館 男子トイレ	健民体育館 男子更衣室	健民体育館 女子水飲場	健民体育館 女子トイレ	健民体育館 女子更衣室	健民体育館 事務室	健民体育館 機械室	武道館 男子トイレ	武道館 男子更衣室	武道館 女子トイレ	武道館 PS	武道館 女子更衣室	多目的体育館 手洗場	多目的体育館 男女トイレ	台数	備考
和風大便器	C75	TV152NB　T82A32	既存のままとする		2			2						1					5	
洋風大便器	不明		取外し　再取付け		1			1				1						1	4	
身障者用大便器	C-48	TS140VB、TU141VS、TS40L、T52S32R、TC254Z,T53WN75	取外し　再取付け		1			1											2	
小便器	U-307C	T61B13,T621-16	取外し　再取付け		5							1						1	7	
洗面器	L-230	T205、T4A、T6P	取外し　再取付け									1		1					2	
手洗器	L-5B	T205、T4A、TS126AS	取外し　再取付け								1								1	
掃除流し	SK22A	SK22A　T23AE19	取外し　再取付け	1			1												2	
化粧鏡	TS119A3-3																			
シャワーセット	TBS13Z		取外し　再取付け			3			3				1			1			8	
胴長横水栓	T23B13		取外し　再取付け	4		3	4		3	1							3		18	
自在水栓	T130AR13		取外し　再取付け																	
万能ホーム水栓	T200-13		取外し　再取付け																	
給湯器	不明	32号　PS設置型　撤去.処分	32号　壁掛形高効率タイプ 耐塩害使用 ガス消費量 LPG 最大58.7ｋｗ（4.19ｋｇ/ｈ） LPG用　使用圧力 0.3～1.0MPa　排気カバー 1φ100V 75w リモコン×2												1				1	
天井扇	中間ファン	倉庫. シャワー室×2 WC×2	既存のままとする																5	

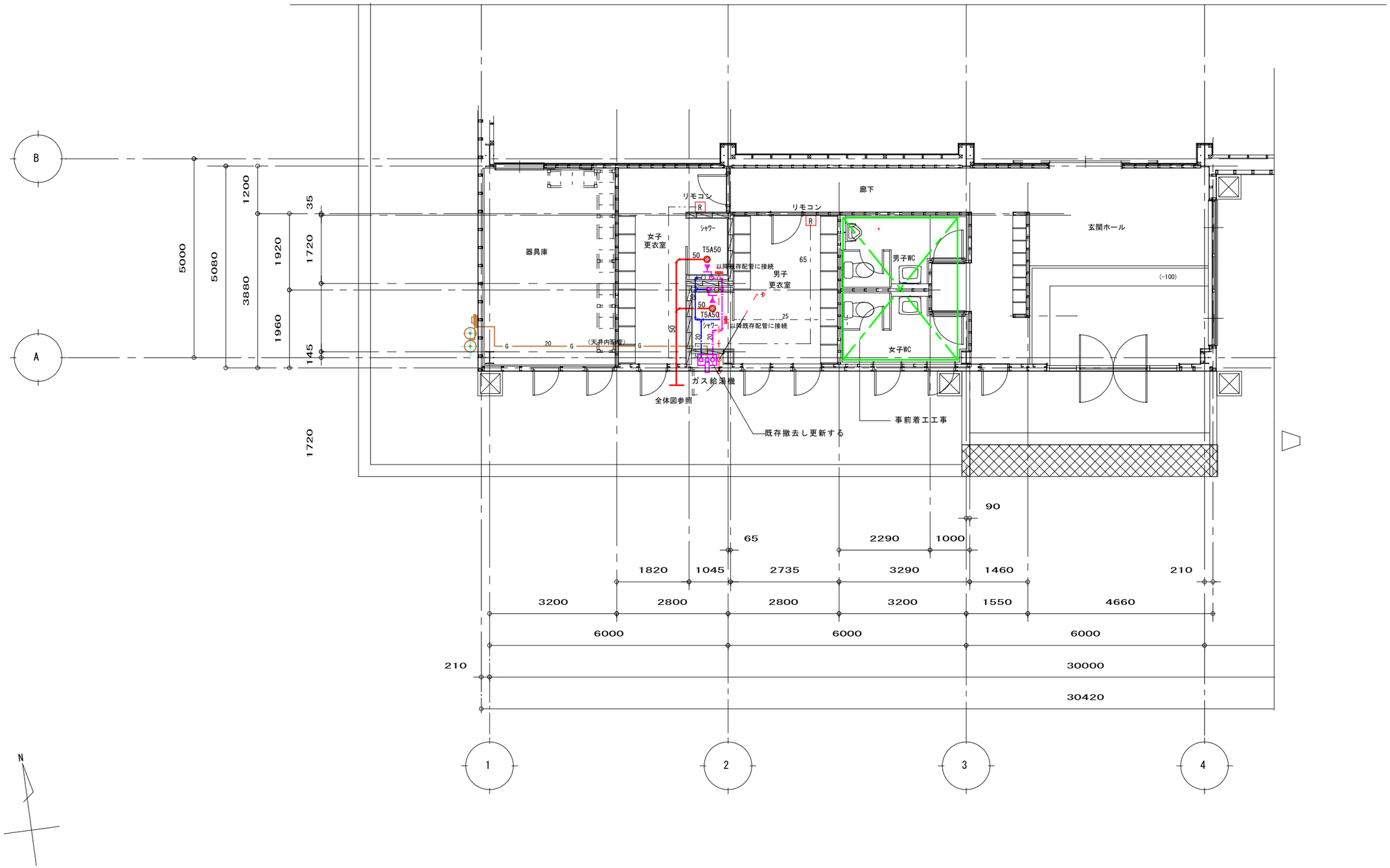
配管材料(衛生設備)　＊継手弁類全てコア内蔵型製品使用のこと　印は該当項目)

用途	配管材料	記号	一般部	埋設部	被覆	備考
給水管	水道用亜鉛鋼管	SGP	○	○		
	硬質ポリ塩化ビニル管	JIS K6742VP				
排水通気管	硬質ポリ塩化ビニル管	JIS K6742VP	○	○		屋内 屋外
	排水鋳鉄管	ＣＩＰ				
	配管用炭素鋼鋼管	JIS G 3452SGP				
	排水用鉛管	ＬＰ	○			
消火管	配管用炭素鋼鋼管	JIS G 3452SGP	○			
プロパンガス	配管用炭素鋼鋼管	JIS G 3452SGP	○			
給油管	配管用炭素鋼鋼管	JIS G 3452	○			

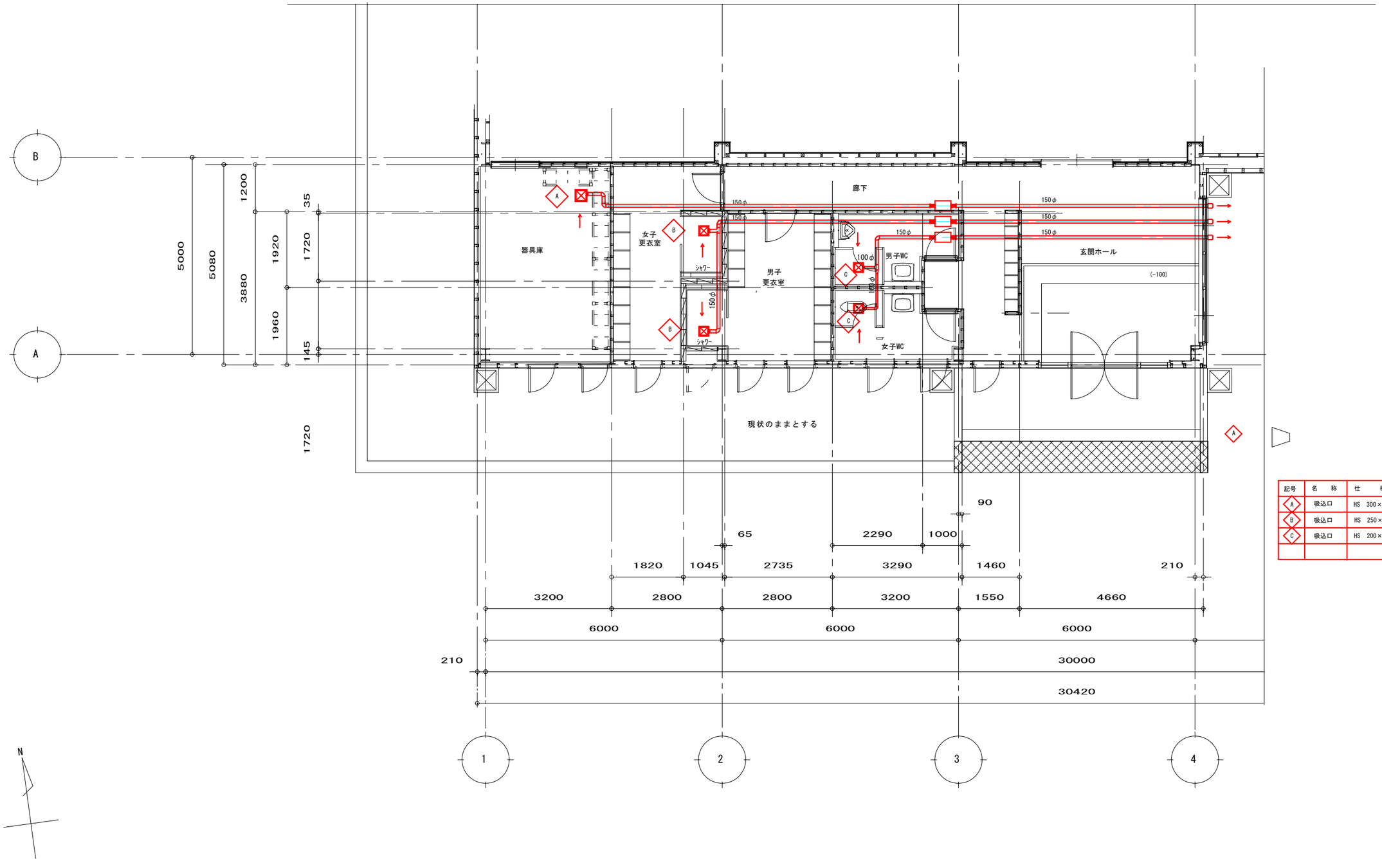


門前武道館　平面図（改修前）

株式会社 MAC 建築研究所 管理建築士／一級建築士登録 第334732号 中村 健	■製作年月日/DATE 2025.09	■担当/CHECK D.SATO	■製図/DRAWER D.SATO	■特記事項	■工事名称/CONSTRUCTION-TITLE 輪島市門前総合運動公園災害復旧工事（門前武道館）	■図面名称/DRAWING-TITLE 門前町立武道館　改修前外構給排水設備図	■縮尺/SCALE 1/100（A1） 1/200（A3）	■図番/No. M —16



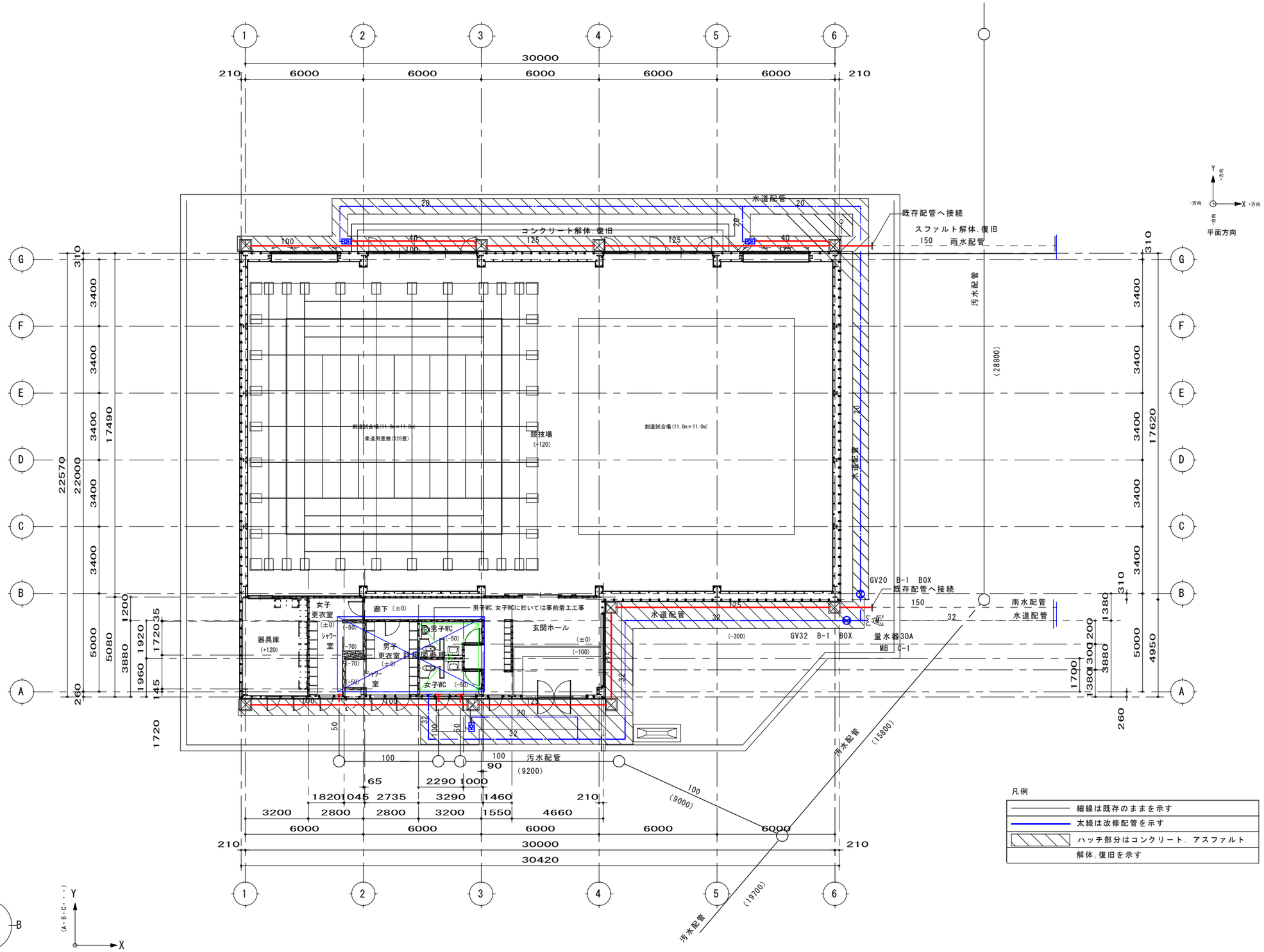
株式会社 MAC 建築研究所 管理建築士／一級建築士登録 第334732号 中村 健	■製作年月日/DATE 2025.09	■担当/CHECK D.SATO	■製図/DRAWER D.SATO	■特記事項	■工事名称/CONSTRUCTION-TITLE 輪島市門前総合運動公園災害復旧工事（門前武道館）	■図面名称/DRAWING-TITLE 門前武道館　改修前給排水.衛生設備詳細図	■縮尺/SCALE 1/50（A1） 1/100（A3）	■図番/No. M ― 17



記号	名　称	仕　様	ボックス	風量	数量
A	吸込口	HS 300×300	BOX 500×500×300	260CMH	1
B	吸込口	HS 250×250	BOX 450×450×300	180CMH	2
C	吸込口	HS 200×200	BOX 400×400×300	130CMH	2

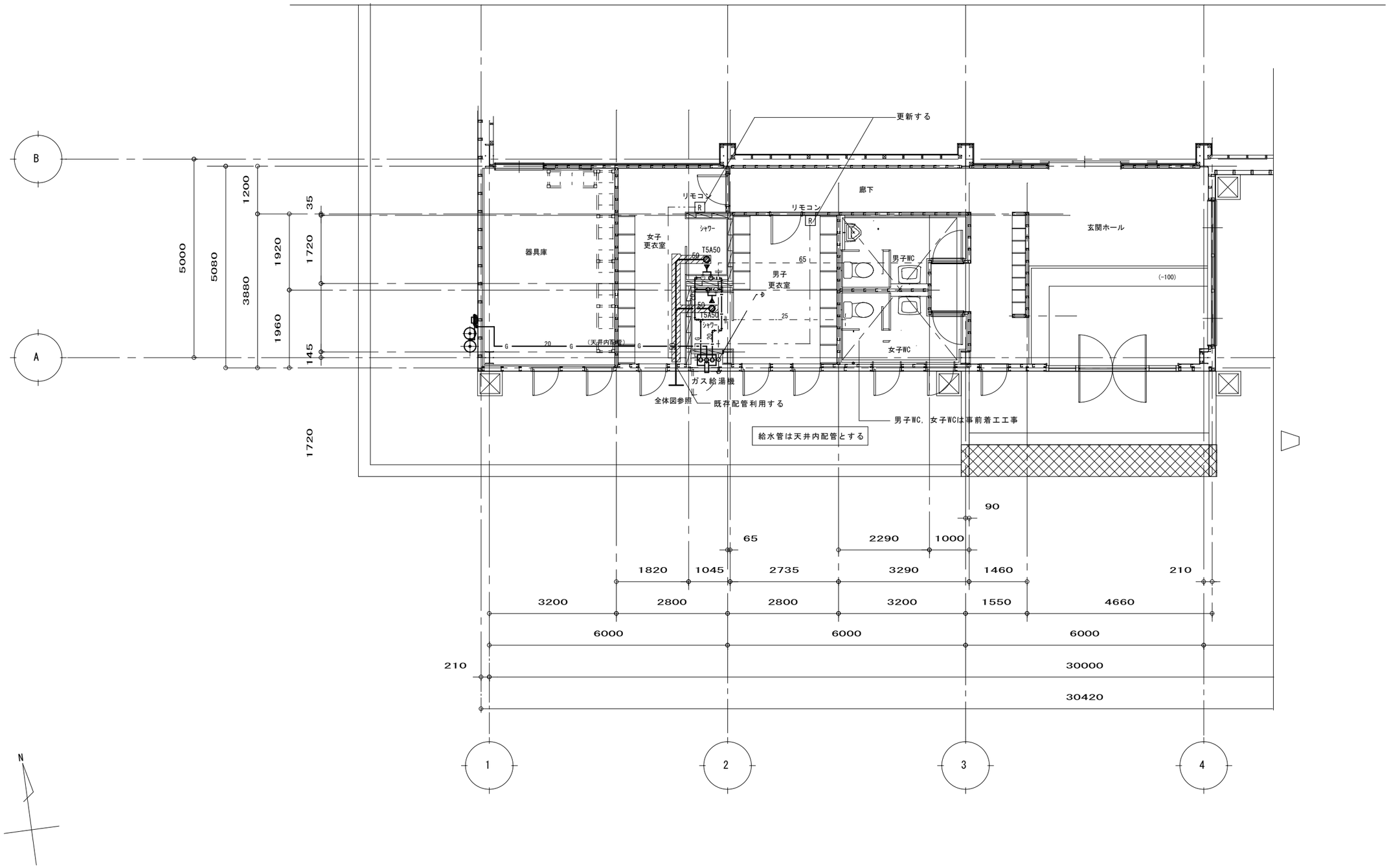
株式会社　MAC 建築研究所
管理建築士／一級建築士登録 第334732号 中村 健

■製作年月日/DATE	■担当/CHECK	■製図/DRAWER	■特記事項	■工事名称/CONSTRUCTION-TITLE	■図面名称/DRAWING-TITLE	■縮尺/SCALE	■図番/No.
2025.09	D.SATO	D.SATO		輪島市門前総合運動公園災害復旧工事（門前武道館）	門前武道館　改修前換気設備詳細図	1/50（A1） 1/100（A3）	M ― 18

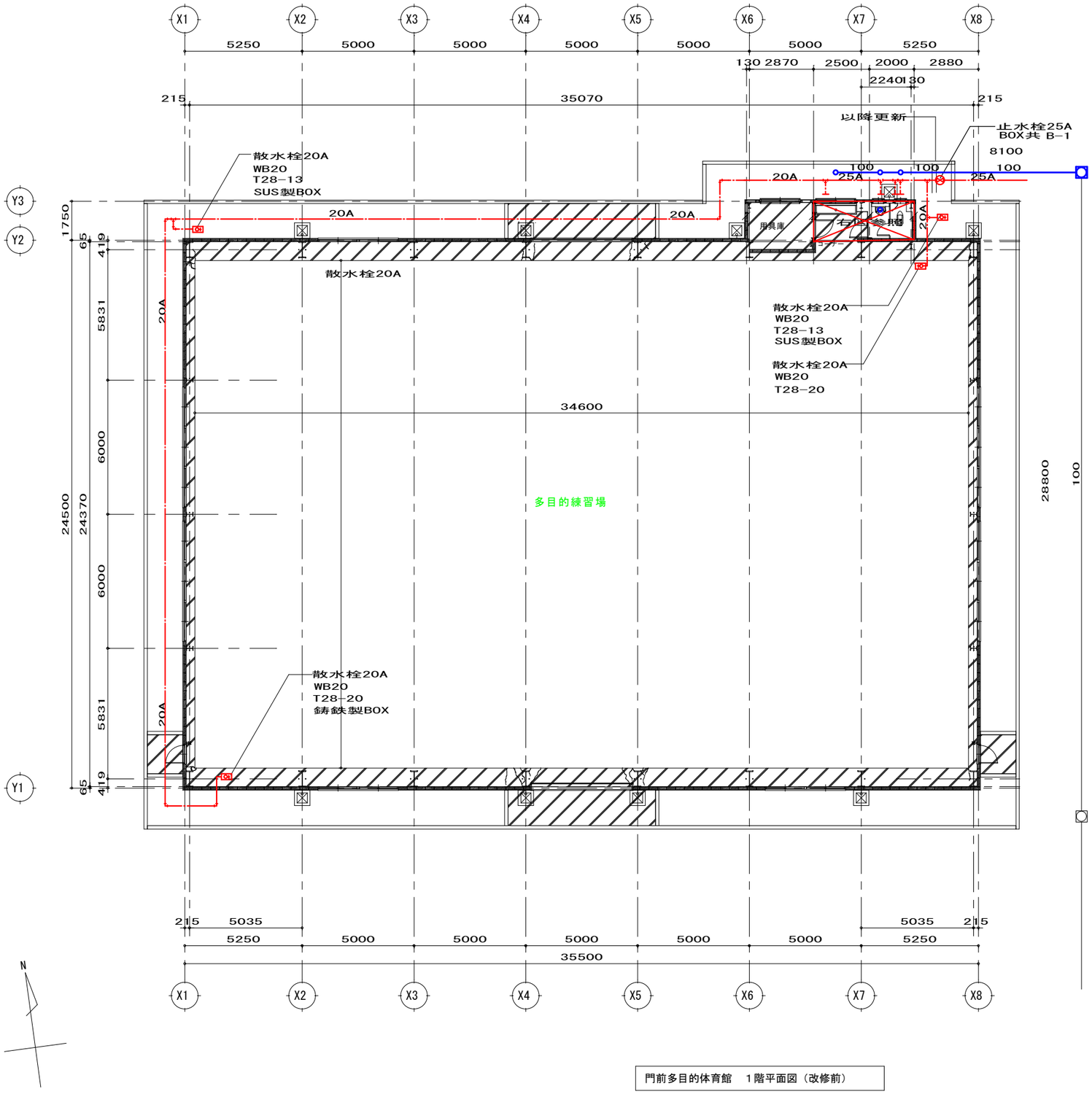


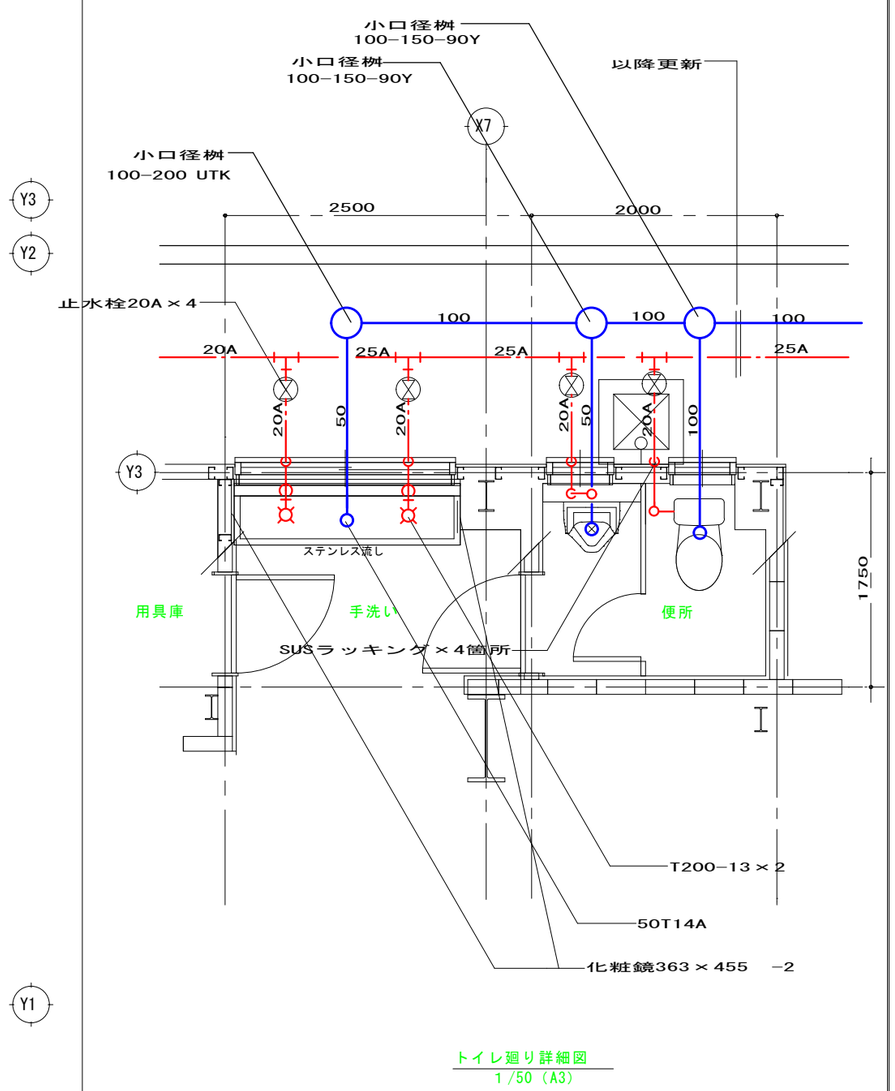
門前町武道館　平面図（改修前）

株式会社 MAC 建築研究所 管理建築士／一級建築士登録 第334732号 中村 健	■製作年月日/DATE 2025.09	■担当/CHECK D.SATO	■製図/DRAWER D.SATO	■特記事項	■工事名称/CONSTRUCTION-TITLE 輪島市門前総合運動公園災害復旧工事（門前武道館）	■図面名称/DRAWING-TITLE 門前武道館　外構給排水設備図	■縮尺/SCALE 1/100 (A1) 1/200 (A3)	■図番/No. M — 19



株式会社 MAC 建築研究所 管理建築士／一級建築士登録 第334732号 中村 健	■製作年月日/DATE 2025.09	■担当/CHECK D.SATO	■製図/DRAWER D.SATO	■特記事項	■工事名称/CONSTRUCTION-TITLE 輪島市門前総合運動公園災害復旧工事（門前武道館）	■図面名称/DRAWING-TITLE 門前武道館　改修後給排水.衛生設備詳細図	■縮尺/SCALE 1/50（A1） 1/100（A3）	■図番/No. M —21





トイレ廻り詳細図
1/50 (A3)

凡例

太線は改修配管を示す

細線は既存のままを示す

門前多目的体育館　1階平面図（改修前）

株式会社 MAC 建築研究所 管理建築士／一級建築士登録 第334732号 中村 健	■製作年月日/DATE 2025.09	■担当/CHECK D.SATO	■製図/DRAWER D.SATO	■特記事項	■工事名称/CONSTRUCTION-TITLE 輪島市門前総合運動公園災害復旧工事（門前多目的体育館）	■図面名称/DRAWING-TITLE 門前多目的体育館　1階平面図（改修後） 給排水衛生設備図	■縮尺/SCALE 1/100 (A1) 1/200 (A3)	■図番/No. M — 21